

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第3・4・5次調査

2014. 3

佐 久 市

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第3・4・5次調査

2014. 3

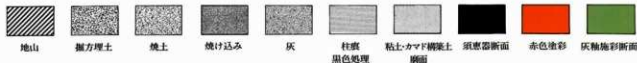
佐 久 市
佐久市教育委員会

例 言

1. 本書は佐久市に所在する西近津遺跡群西近津遺跡の第3・4・5次発掘調査報告書である。
2. 調査は第3次が市道S1-94号線改良工事、第4次が市道S1-101号線舗装工事、第5次がS-103号線改良工事に伴う記録保存調査として佐久市教育委員会が実施した。
3. 遺跡名及び所在地
西近津遺跡Ⅲ (NTⅢ) 佐久市長土呂1741-1外
西近津遺跡Ⅳ (NTⅣ) 佐久市長土呂1796-1B外
西近津遺跡Ⅴ (NTⅤ) 佐久市長土呂1183-7外
4. 調査期間及び面積
発掘調査
西近津遺跡Ⅲ 平成18年6月12日～平成18年9月20日
西近津遺跡Ⅳ 平成19年10月11日～平成20年2月28日
平成20年8月17日～平成20年12月19日
西近津遺跡Ⅴ 平成19年11月12日～平成20年1月8日
開発面積
西近津遺跡Ⅲ 850㎡ 西近津遺跡Ⅳ 1,950㎡ 西近津遺跡Ⅴ 785㎡
調査面積
西近津遺跡Ⅲ 680㎡ 西近津遺跡Ⅳ 1,510㎡ 西近津遺跡Ⅴ 580㎡
5. 本書で扱っている座標は世界測地系である。(西近津遺跡Ⅲのみ旧測地系)
6. 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの発掘調査・整理・報告書編集は佐々木宗昭・林 幸彦、西近津遺跡Ⅴは富沢一明が担当した。
7. 本遺跡の出土遺物自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社、パレオ・ラボに委託した。
8. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址－H 竪穴状遺構－T a 掘立柱建物址－F 古墳址－O T 土坑－D 溝状遺構－M ビット－Pである。
2. 挿図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。挿図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水糸標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたが、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 挿図中のスクリントーンは、以下のことを示す。



目次

例言・凡例・目次

第I章 発掘調査の経緯

第1節 経過と周辺遺跡	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査日誌	2
第4節 基本層序	2
第5節 検出遺構・遺物の概要	2

第II章 西近津遺跡Ⅲ

第1節 竪穴住居址	5
第2節 掘立柱建物址	35
第3節 土坑	37
第4節 溝状遺構	38
第5節 ビット	39
第6節 遺構外出土遺物	41

第III章 西近津遺跡Ⅳ

第1節 竪穴住居址	47
第2節 竪穴状遺構	115
第3節 掘立柱建物址	115
第4節 土坑	117
第5節 溝状遺構	134
第6節 ビット	144
第7節 遺構外出土遺物	151

第IV章 西近津遺跡Ⅴ

第1節 竪穴住居址	157
第2節 掘立柱建物址	175
第3節 土坑	181
第4節 溝状遺構	182
第5節 古墳跡	186
第6節 ビット	186
第7節 遺構外出土遺物	186

第V章 まとめ	186
---------	-----

付篇

図版

第1章 発掘調査の経緯

第1節 経過と周辺遺跡

西近津遺跡群は、佐久・小諸両市境を南西に流下する湧玉川左岸の田切り台地上に立地し、標高は700～713mを測る。台地の南・東側は、浅い低地で周防畑遺跡群と画されている。近津神社西からJR小海線に至る大きな遺跡群で、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺構や遺物が多く知られている。鷲林城跡が西端にある。

今回の調査地点に近接した長野県埋蔵文化財センターが行った中部横断自動車道に関わる発掘調査では、200軒を超える弥生時代後期、古墳時代、奈良・平安時代等の竪穴住居址をはじめ、国内最大級の弥生時代後期の住居址や古代銅印「銚子私印」が発見され注目を集めている。

付近の集合住宅建築工事に先立つ発掘調査では、弥生時代後期～平安時代の遺構が数多く検出されている。特に、西近津遺跡Ⅳに接する西近津遺跡Ⅶでは弥生後期～平安時代の竪穴住居址と共に縄文時代後期の敷石住居址や土坑と多量の遺物が発見されている。

佐久市の行う市道改良工事に伴い、平成18年度に西近津遺跡Ⅲ、平成19年度に西近津遺跡Ⅳ・Ⅴ、平成20年度に西近津遺跡Ⅳの記録保存調査を実施した。



第1図 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ位置図(1:25,000)



第2図 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ位置図(1:10,000)

第2節 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 三石昌彦(平成18年度) 木内 清(平成19年度～21年5月)
土屋盛夫(平成21年5月～25年度)

事務局

社会教育部長 柳澤義春(18・19年度) 内藤孝徳(20～21年6月) 工藤秀康(21年7月～22年度)
伊藤明弘(23・24年度) 矢野光宏(25年度)

社会教育部次長 山崎明敏(19年度) 柳澤本樹(20年度) 金沢英人(21年4～6月) 藤巻 浩(23年度)

文化財課長 中山 悟(18年度～19年6月) 森角吉晴(19年7月～22年度)

吉澤 隆(23・24年度) 三石宗一(25年度)

文化財係長 高柳正人(18年度) 三石宗一(19～24年度) 比田井清美(25年度)

文化財調査係 林 幸彦(20～23年度) 須藤隆司(22年度～) 小林眞寿(22年度～)

専門員 羽毛田卓也(22～24年度) 富沢一明(23年度～) 上原 学(23年度～)

文化財調査係 林 幸彦(～19年度) 並木節子(19～24年度) 富沢一明(～22年度) 上原 学(～22年度)
神津 格(18年度～21年9月) 井出泰章(21年10月～23年9月) 神津和明(23年10月～)
出澤 力(～23年6月) 久保浩一郎(24年度～)

嘱託 林 幸彦(24・25年度)

(1) 調査体制

調査担当 林 幸彦 富沢一明 佐々木 宗昭 調査主任 森泉かよ子 調査副主任 堺 益子

調査員 赤羽根充江 浅沼勝男 浅沼ノブ江 阿部和人 安藤孝司 磯貝律子 市川明子 市川光吉
井出孝子 岩崎重子 岩松茂年 碓氷知子 白田絢佳 白田真杉 岡村千代美 小幡弘子 加藤ひろ美
柏木義雄 狩野小百合 菊池喜重 神津和子 神津千春 小林節子 小林妙子 小林百合子 小林千勝
小林よしみ 斉藤恵李 佐藤瑞希 里見理生 澤井知春 清水澄生 清水律子 副島充子 大工原達江
田中ひさ子 土屋邦子 土屋武士 中山清美 萩原宮子 橋詰勝子 橋詰信子 花里佐恵子 林美智子
林まゆみ 比田井久美子 日向昭次 広瀬梨恵子 細谷秀子 堀籠保子 森泉こずえ 横尾敏雄
柳沢孝子 柳澤 武 山元有美子 依田三男 依田美穂

第3節 調査日誌

平成18年6月12日～平成18年9月20日 西近津遺跡Ⅲ発掘調査。

平成19年10月11日～平成20年2月28日 西近津遺跡Ⅳ発掘調査。

平成19年11月12日～平成20年1月8日 西近津遺跡Ⅴ発掘調査。

平成20年8月17日～平成20年12月19日 西近津遺跡Ⅳ発掘調査。

整理作業 平成20年1月21日～3月28日・4月7日～4月18日・12月9日～21年3月31日、

平成21年4月2日～4月17日、平成22年4月1日～4月20日・8月23日～10月20日・

12月21日～23年1月20日、平成23年8月22日～11月20日、平成24年4月23日～6月20日

平成25年4月15日～5月20日、平成26年3月 報告書発行をもって調査終了。

第4節 基本層序

調査区ほぼ全面が現道路下で、10～30cmが道路構築土であった。西近津遺跡ⅢはⅡ層耕作土直下が浅間火山流堆積層の漸移層となる地点が多い。西近津遺跡Ⅳ・Ⅴは道路の影響が少なく、遺構掘り込み面のⅤ層が見られる地点がある。遺構確認は一層の上面では困難で、浅間火山軽石流堆積層上部で行った地点が多い。

第5節 検出遺構・遺物の概要

西近津遺跡Ⅲ

遺構 竪穴住居址27軒(古墳中期1軒・後期5軒、奈良・平安17軒、不明4軒)、土坑(土坑墓含む)13基、溝状遺構2本、ピット113個

遺物 弥生後期土器(箱清水式)、土師器、須恵器、鉄製品(紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鏃・砥石・磨石・敲石等)、獣骨、炭化種実。

西近津遺跡Ⅳ

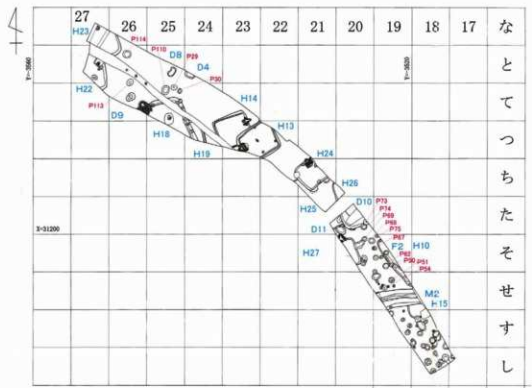
遺構 竪穴住居址52軒(弥生後期22軒、古墳後期9軒、奈良・平安14軒、不明7軒)、竪穴状遺構1棟、掘立柱建物址5棟、土坑46基、溝状遺構15本、ピット187個

遺物 縄文中期後半・後期初頭・前葉・中葉土器、弥生後期土器(箱清水式)、土師器、須恵器、鉄製品(鉄鏃・紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鏃・砥石・磨石・敲石等)、玉類等、人骨、獣骨、炭化種実。

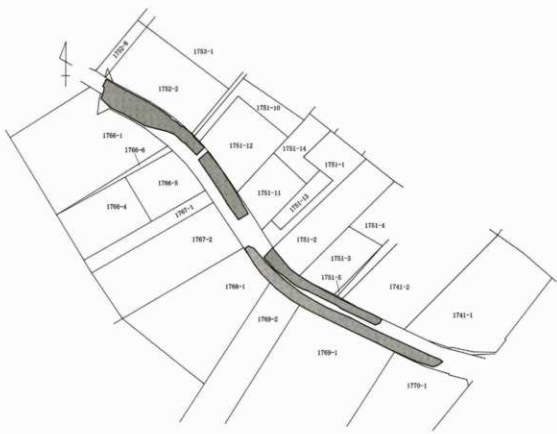
西近津遺跡Ⅴ

遺構 竪穴住居址19軒(弥生時代後期3軒、古墳時代中期1軒・後期9軒、奈良・平安時代6軒)、土坑(土坑墓・粘土採掘坑含む)10基、溝状遺構7本、古墳址1基、ピット88個

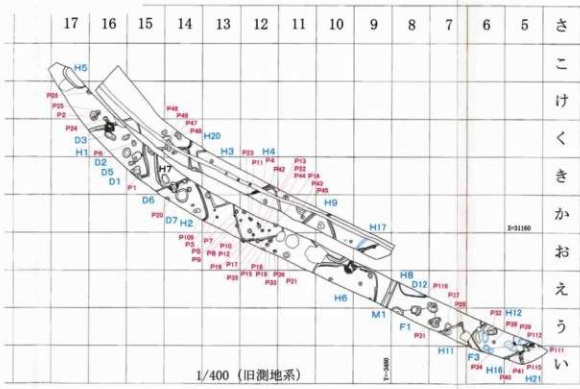
遺物 縄文後期中葉土器、弥生後期土器、土師器、須恵器、土製品(紡錘車等)、鉄製品(紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鏃・砥石・磨石・敲石等)、獣骨、



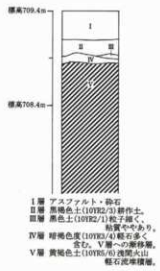
西近津遺跡Ⅲ位置図 1/5000



西近津遺跡調査対象地 (1:1,000)



西近津遺跡Ⅲ 調査全体図



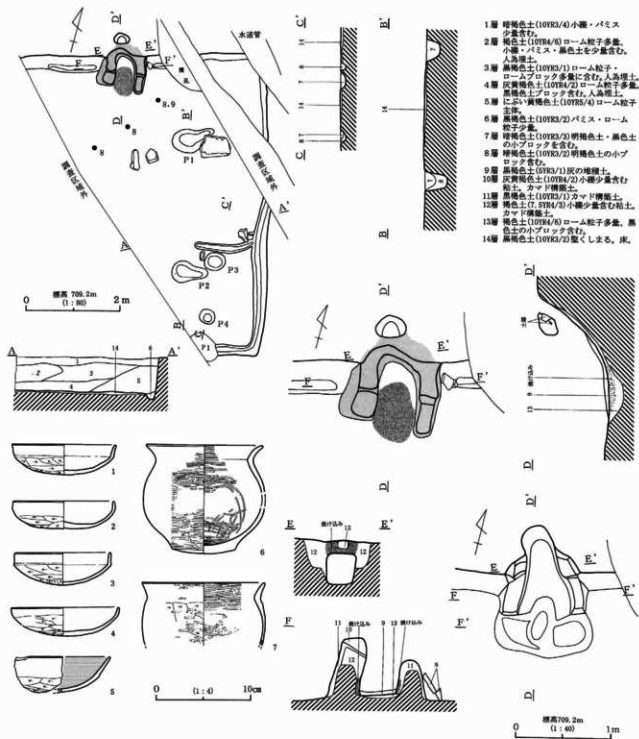
Ⅰ層 アスファルト・砕石
Ⅱ層 赤褐色土(10152/2)耕作土、
赤土(10182/1)灰土層、
III層 赤褐色土(10182/1)灰土層、
IV層 赤褐色土(10182/1)灰土層、
V層 赤褐色土(10182/1)灰土層、
砕石混成層。

第Ⅱ章 西近津遺跡Ⅲ

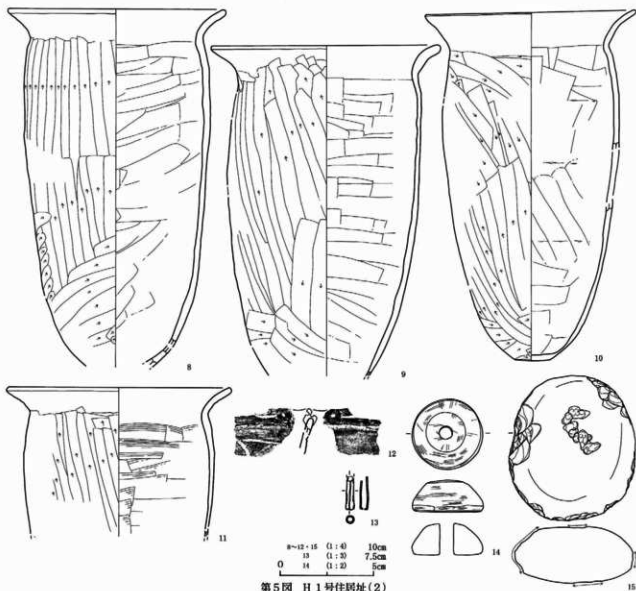
第1節 竪穴住居址

(1) H1号住居址

き・く-15-16、け-15Grにあり、D1~D3、P1、P6に切られる。カマドは北壁中央に地山削



第4図 H1号住居址(1)



第5図 H1号住居址(2)

第1表 H1号住居址出土遺物観察表

No.	種別	数量	形状・寸法	材質	用途	出土地	備考		
1	土師器	甕	11.0	-	3.2	ナデ・ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	完全実例	カマド
2	土師器	甕	11.0	-	2.9	ナデ・ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
3	土師器	甕	10.2	-	3.4	ナデ・ヨコナデ	底部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
4	土師器	甕	11.4	-	3.1	ナデ・ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	完全実例	カマドノジ No.3
5	土師器	甕	-	-	-	ナガキ→底部	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
6	土師器	鉢	12.4	10.7	11.5	12.5×4	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
7	土師器	鉢	13.0	-	<6.7>	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
8	土師器	甕	23.1	-	<37.8>	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
9	土師器	甕	24.4	-	<35.0>	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
10	土師器	甕	22.4	3.6	37.1	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
11	土師器	甕	23.8	-	<15.7>	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラナデ	ほぼ実例	カマドノジ No.3
12	破片	破片	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	ほぼ実例	カマドノジ No.3
13	鉄器	針	<2.6>	<0.7>	<0.5>	<0.5>	鉄製の針	ほぼ実例	カマドノジ No.3
14	鉄器	釘	長さ3.7	幅0.2	1.7	33.03	鉄製の釘	ほぼ実例	カマドノジ No.3
15	銅器	銅片	15.3	13.3	5.8	1653.37	銅製の銅片	ほぼ実例	カマドノジ No.3

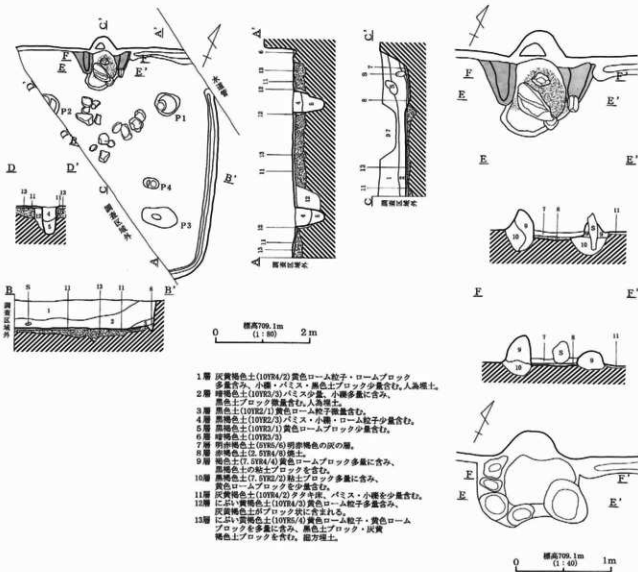
り出して、粘土・褐色土・黒褐色土で構築されている。P1周辺床面上に散乱する熔結凝灰岩・安山岩はカマド構築に使用されたものであろうか。ピットは4個検出され、主柱穴P1・P2の柱穴間は280cmを測る。覆土2～5層は人為埋土。床は堅く締まる。東壁下・カマド脇には壁溝が巡る。P3・P4とP3脇の溝は、間仕切りの基礎であろう。遺物は、土師器1～11、縄文後期土器12、器種不明鉄器

13、滑石の紡錘車14、敲石15がある。環は須恵器環蓋模倣で内面黒色処理5、須恵器坯身模倣の1・3、半球状の2・4が、甕は口縁部に最大径があり底部突出せず胴が長い8~11、6・7は鉢。2~4がカマド内、14がカマド左袖部、9・10がカマド前床面から出土。覆土内からウシのツノと見られる破片出土。

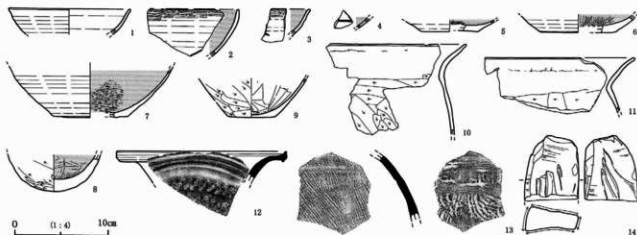
本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。

(2) H 2号住居址

か-13・14、き-14・15GrにありD7・P20に切られ、H7を切る。カマドは北壁中央に、褐色土・黒褐色土と礫で構築されている。P1・P2間床面上に散乱する面取軽石・熔結凝灰岩・安山岩もカマド構築材の一部とみられる。支柱穴P1・P2およびP1・P3の柱穴間は240cmを測る。床は堅く平坦。カマド東から南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層は人為埋土。遺物は土師器1~11、須恵器甕12・13、砥石14がある。土師器環2~6は内面黒色処理、坯5・6の底部は回転糸切りされる。3・4は墨書。7の鉢は、内面黒色処理で底部回転糸切り後手持ちヘラケズリされる。口縁部に最大径がある甕10・11は混入遺物である。本址はこれらの遺物とH7を切る重複関係より9世紀後半以降に位置づけられる。



第6図 H2号住居址(1)



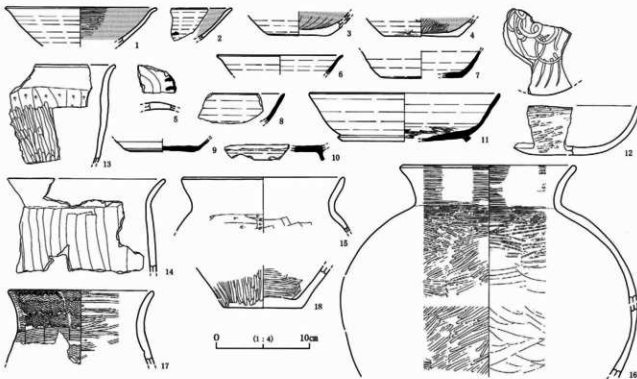
第7図 H2号住居址(2)

第2表 H2号住居址出土遺物観察表

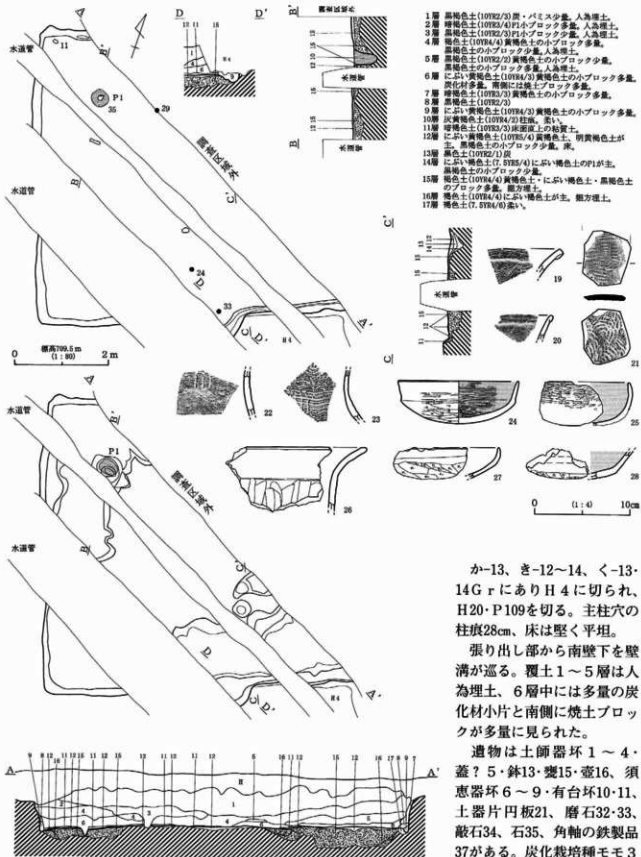
(cm)

No.	種別	形状	法 量			成 形・装 飾・文 様		出 土 層	備 考	出 土 品 名
			口径(径)	底径(径)	器高(高)	内 部	外 部			
1	土師器	鉢	(13)	-	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	白粉美濃		カマド
2	土師器	鉢	-	-	-	ヒガキ→黒色処理	ロクロナデ→ロクロナデガキ半黒色処理	白粉美濃		カマド
3	土師器	鉢	-	-	-	ヒガキ→黒色処理	ロクロナデ	黒片美濃		フツ上
4	土師器	鉢	-	-	-	ヒガキ→黒色処理	ロクロナデ	黒片美濃		黒粉美濃
5	土師器	鉢	(8.2)	-	<1.3>	ヒガキ→黒色処理	ロクロナデ→黒粉美濃	白粉美濃		1区
6	土師器	鉢	-	(8.2)	<1.8>	ヒガキ→黒色処理	ロクロナデ→黒粉美濃	白粉美濃		フツ上
7	土師器	鉢	-	(8.0)	<5.4>	ヒガキ→黒色処理	ロクロナデ	白粉美濃		カマド H2 1区・2区・ホリ方
8	土師器	鉢	-	-	<3.8>	ヘラケズリ→黒色処理	ヘラケズリ	白粉美濃		1区
9	土師器	鉢	-	5.1	<4.2>	ナデ	黒粉→ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	白粉美濃		1区
10	土師器	蓋	-	-	-	口縁部ヨコナデ→黒粉ナデ	口縁部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	白粉美濃		1区、カマド
11	土師器	蓋	-	-	-	口縁部ヨコナデ→黒粉ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→黒粉ヘラケズリ	白粉美濃		カマド
12	銅甲冑	鍔	(18.0)	-	<3.4>	ヨコナデ、白粉粉付物	ヨコナデ→黒粉漆文	白粉美濃		1区
13	銅甲冑	鍔	-	-	-	出→黒粉→ヨコナデ	タタキ目→ヨコナデ	白粉美濃		1区
14	破石		<6.9>	<5.6>	<2.2>	<139.88>	下部欠損、底面斜4、正面に幅の広い溝あり。			1区

(3) H3号住居址



第8図 H3号住居址(1)

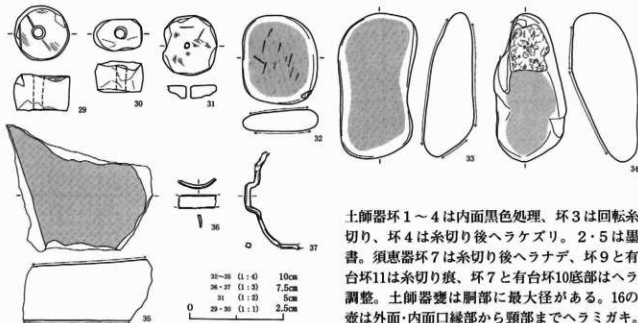


第9図 H3号住居址(2)

か-13、き-12-14、く-13-14G rにありH4に切られ、H20・P109を切る。支柱穴の柱痕28cm、床は堅く平坦。

張り出し部から南壁下を壁溝が巡る。覆土1~5層は人為埋土、6層中には多量の炭化材小片と南側に焼土ブロックが多量に見られた。

遺物は土師器環1~4・蓋?5・鉢13・甕15・壺16、須恵器環6~9・有台环10-11、土器片円板21、磨石32-33、敲石34、石35、角軸の鉄製品37がある。炭化栽培種モモ3個、イネ1個、マメ科3個が床面II・III・IV区から出土。



第10図 H3号住居址(3)

土師器環1~4は内面黒色処理、環3は回転系切り、環4は糸切り後ヘラケズリ。2・5は黒書。須恵器環7は糸切り後ヘラナデ、環9と有台環11は糸切り痕、環7と有台環10底部はヘラ調整。土師器甕は胴部に最大径がある。16の甕は外面・内面口縁部から頸部までヘラミガキ。14・26の土師器甕、放射状・螺旋暗文の環12、土師器環24・25・27・28、弥生時代後期土器、36の銅釘、29~31の石製模造品は混入遺物である。

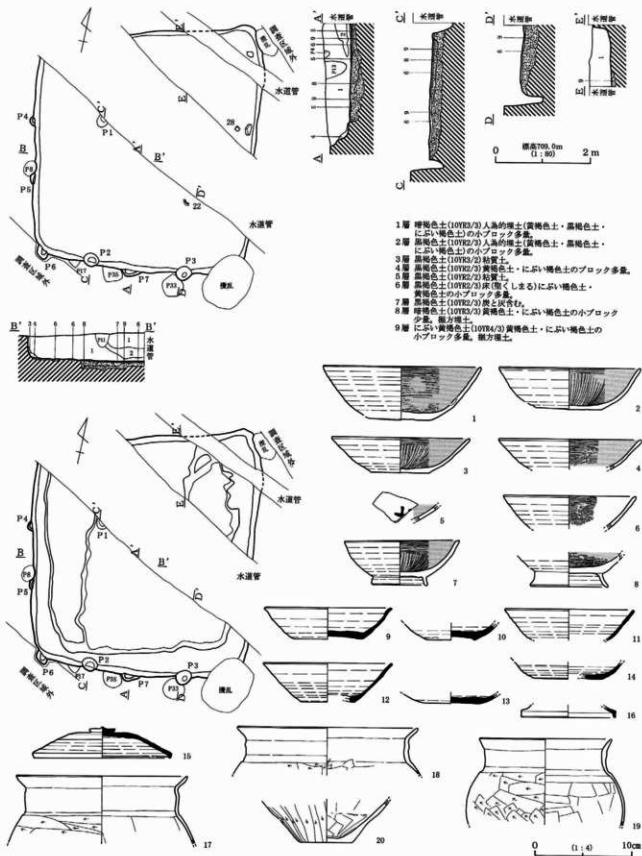
本址はこれらの遺物と9世紀前半のH4に切られる重複関係より8世紀後半に位置づけられる。

第3表 H3号住居址出土土物観察表

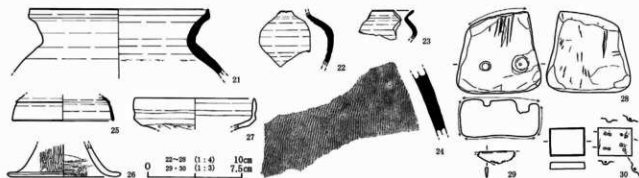
(cm)

H3		法量		内面		外面		用途・用途・文様		状況・保存状況・内面	
No.	種別	数量	口縁径(幅)	底径(幅)	最大径	最大径	最大径	形状・用途・文様	形状・用途・文様	状況	出土位置
1	土師器 鉢	(16.0)	-	4.1	足ガキ-黒色処理	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
2	土師器 鉢	-	6.7	<2.5>	足ガキ-黒色処理	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
4	土師器 鉢	-	(8.0)	<1.5>	足ガキ-黒色処理	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
5	土師器 甕?	-	-	-	足ガキ-黒色処理	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
6	須恵器 鉢	(13.4)	-	<2.1>	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
7	須恵器 鉢	-	(8.5)	<2.0>	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
8	須恵器 鉢	-	-	-	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
9	須恵器 鉢	-	(7.6)	<1.4>	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
10	須恵器 有台鉢	-	-	-	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
11	須恵器 有台鉢	(20.3)	(14.2)	5.1	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ	口コナデ
12	土師器 鉢	-	-	-	足ガキ-黒書	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ
13	土師器 鉢	-	-	-	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ
14	土師器 甕	-	-	-	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ
15	土師器 甕	(17.4)	-	<5.8>	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ
16	土師器 甕	(18.7)	-	<22.6>	口縁部から胴上半足ガキ、胴部足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ
17	弥生 甕	(15.4)	-	<8.0>	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ
18	弥生 甕	-	8.4	<4.7>	ハケナデ	ハケナデ	ハケナデ	ハケナデ	ハケナデ	ハケナデ	ハケナデ
19	弥生 甕	内面 足ガキ、外面 螺旋暗文状、折り返し口縁、口内面平直取り。	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	弥生 甕	内面 足ガキ、外面 螺旋暗文状、折り返し口縁。	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	須恵器 土師器(内面)	方形縁部部分、斜行・斜線部。長さ5.5cm幅24.5cm厚2.06cm。内面 当て瓦片、外面 タタキ目。	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	弥生 甕	内面 足ガキ、外面 螺旋暗文状・放射状文(4連立)。	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23	弥生 甕	内面 足ガキ、外面 螺旋暗文状・放射状文(4連立)。	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	土師器 鉢	(12.0)	-	4.5	足ガキ-黒色処理	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ
25	土師器 鉢	-	-	-	足ガキ-黒色処理	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ	足ガキ
26	土師器 鉢	-	-	-	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ	口縁部コナデ-胴部ヘラナデ
27	土師器 鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ
28	土師器 鉢	-	-	-	足ガキ-黒色処理	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ	口縁部コナデ-胴部ヘラケズリ
29	瓦	溝石	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径
30	白土	溝石	1.4	1.4	0.9	<3.49>	丸縁 0.25~0.3、一般穴縁、正部に4角。	丸縁 0.25~0.3、一般穴縁、正部に4角。	丸縁 0.25~0.3、一般穴縁、正部に4角。	丸縁 0.25~0.3、一般穴縁、正部に4角。	丸縁 0.25~0.3、一般穴縁、正部に4角。
31	石製模造品	溝石	0.8	1.2	0.8	<1.43>	丸縁 0.2~0.3、一般穴縁。	丸縁 0.2~0.3、一般穴縁。	丸縁 0.2~0.3、一般穴縁。	丸縁 0.2~0.3、一般穴縁。	丸縁 0.2~0.3、一般穴縁。
32	石製模造品	溝石	3.1	2.9	0.6	<10.59>	丸縁 0.25、裏面一部穴縁。	丸縁 0.25、裏面一部穴縁。	丸縁 0.25、裏面一部穴縁。	丸縁 0.25、裏面一部穴縁。	丸縁 0.25、裏面一部穴縁。
33	磨石	磨石	9.3	7.9	2.3	316.97	正部にすり目、正部に磨面あり。	正部にすり目、正部に磨面あり。	正部にすり目、正部に磨面あり。	正部にすり目、正部に磨面あり。	正部にすり目、正部に磨面あり。
33	磨石(磨面付)	磨石	15.4	8.4	5.1	984.34	正部・下側にすり目、形状から磨石の可能性あり。	正部・下側にすり目、形状から磨石の可能性あり。	正部・下側にすり目、形状から磨石の可能性あり。	正部・下側にすり目、形状から磨石の可能性あり。	正部・下側にすり目、形状から磨石の可能性あり。
34	磨石	磨石	<15.6>	<7.5>	<6.8>	<100.02>	一般穴縁、正部に磨面した磨石とナデあり。	一般穴縁、正部に磨面した磨石とナデあり。	一般穴縁、正部に磨面した磨石とナデあり。	一般穴縁、正部に磨面した磨石とナデあり。	一般穴縁、正部に磨面した磨石とナデあり。
35	磨石	磨石	<13.3>	<15.3>	<6.4>	<1822.24>	磨面あり(磨面部のみ)、全面丸縁、正部に磨面あり。	磨面あり(磨面部のみ)、全面丸縁、正部に磨面あり。	磨面あり(磨面部のみ)、全面丸縁、正部に磨面あり。	磨面あり(磨面部のみ)、全面丸縁、正部に磨面あり。	磨面あり(磨面部のみ)、全面丸縁、正部に磨面あり。
36	銅釘	銅釘	<3.0>	<1.0>	<0.2>	<3.09>	筒状あり。	筒状あり。	筒状あり。	筒状あり。	筒状あり。
37	内輪	銅釘	幅1.4長さ3.0	<0.4>	<0.6>	<6.46>	上下穴縁、磨石状に磨面する一輪あり?	上下穴縁、磨石状に磨面する一輪あり?	上下穴縁、磨石状に磨面する一輪あり?	上下穴縁、磨石状に磨面する一輪あり?	上下穴縁、磨石状に磨面する一輪あり?

(4) H4号住居址



第11圖 H4号住居址(1)



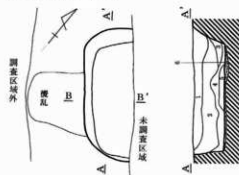
第12図 H4号住居址(2)

第4表 H4号住居址出土遺物観察表

No.	種別	数量	寸法(単位)		観察者	出 所	発 見 地		観察者	備 考	
			縦	横			層	位置		品名	品目
1	土師器	壺	(16.7)	6.5	5.7	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
2	土師器	壺	(14.8)	6.9	4.4	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
3	土師器	壺	(14.6)	6.2	3.7	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
4	土師器	壺	(15.0)	-	<3.0>	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
5	土師器	壺	-	-	-	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
6	土師器	壺	(13.4)	-	<3.0>	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
7	土師器	壺	(2.1)	5.8	4.4	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
8	土師器	壺	-	8.1	<3.0>	北西側一帯の遺物	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
9	土師器	壺	(13.4)	(7.2)	3.3	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
10	土師器	壺	-	(5.1)	<1.0>	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
11	土師器	壺	(13.4)	-	<3.0>	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
12	土師器	壺	(13.3)	(5.2)	4.1	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
13	土師器	壺	-	(6.0)	<1.2>	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
14	土師器	壺	-	(7.4)	<1.0>	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
15	土師器	壺	(14.4)	2.7	3.4	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
16	土師器	壺	(10.5)	-	<1.0>	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
17	土師器	壺	(18.2)	-	<3.0>	須恵器コップ	須恵器コップ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
18	土師器	壺	(19.2)	-	<3.0>	須恵器コップ	須恵器コップ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
19	土師器	壺	(15.5)	-	<3.0>	須恵器コップ	須恵器コップ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
20	土師器	壺	-	5.5	6.7	ヘラナデ	ヘラナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
21	土師器	壺	(19.2)	-	<4.0>	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
22	土師器	壺	-	-	-	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
23	土師器	壺	-	-	-	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
24	土師器	壺	-	-	-	須恵器コップ	須恵器コップ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
25	土師器	壺	(10.7)	-	<2.7>	ウツロナデ	ウツロナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
26	土師器	壺	-	(12.0)	<1.0>	ヘラナデ	ヘラナデ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
27	土師器	壺	(13.0)	(13.0)	<1.5>	コップ	コップ	遺物出ヘラナデ	須恵器 須恵器	須恵器	須恵器
No.	種別	数量	縦	横	寸法	出 所	発 見 地	観察者	備 考	品名	品目
28	須恵器	壺	6.6	8.9	4.0	44.1.15	北西側一帯の遺物	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器
29	須恵器	壺	<3.0>	<2.7>	<3.0>	44.1.15	北西側一帯の遺物	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器
30	須恵器	壺	2.2	2.7	0.5	8.01	北西側一帯の遺物	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器

お-12-13、か-11-13、き-12G rにありP4・P7~P17・P22・P23・P35・P42に切れ、H3を切る。長方形に配置の主柱穴P1・P2の柱穴間は300cm、P2・P3の柱穴間は200cmを測る。P2・P3は、西壁・南壁のP4~P7同様壁柱穴である。床は堅く平坦。カマドは調査範囲で、検出されない。覆土1・2層は人為埋土。遺物は土師器壺・碗・甕、須恵器壺・蓋・甕・壺、砥石28、刀子29、銅製品帯金具の巡方30がある。土師器壺1~5は内面黒色処理、2・3は底部手持ヘラケズリ、1は糸切り後底部周辺ヘラケズリ。5は墨書。6は内面黒色処理されない。内面黒色処理の土師器碗7・8は糸切り後高台貼付。須恵器壺9・10・12・13は底部糸切り、14はヘラ切り後ヘラナデ、15の須恵器蓋つまみは扁平な擬宝珠。17~19は「コ」字口縁の武蔵甕。25~27は混入遺物。

(5) H5号住居址



第13図 H5号住居址

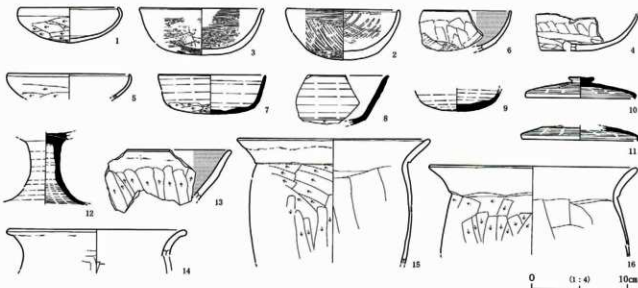
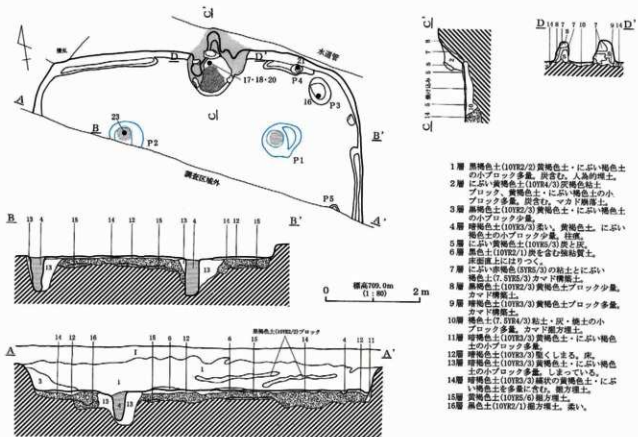
け-こ-17G rにあり、カマド・柱穴等調査範囲では検出されない。床は平坦だが軟弱である。遺物

- 1層 黒褐色土(10YR2/3)小礫・パミス(0.5~1cm大)少量。黄色ロームブロック散在。
- 2層 暗褐色土(10YR3/3)小礫・黄色ローム粒子・パミス少量含む。
- 3層 土に白い黄褐色土(10YR4/3)黄色ローム粒子多量含む。人為埋土。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2)黄色ロームブロック・パミス含む。人為埋土。
- 5層 褐色土(10YR4/6)黄色ローム粒子・黄色ロームブロック多量含む。褐色土ブロックを含む。人為埋土。
- 6層 褐色土(10YR4/4)

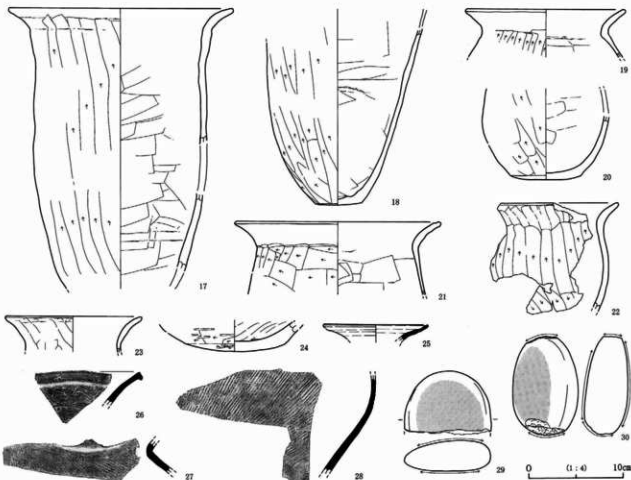
は、弥生時代後期の壺・甕、土師器甕・坏、須恵器甕・坏等いずれも小片が出土したのみであり、時期等不明である。

(6) H 6号住居址

え・お-9~11Grにあり、H9を切る。カマドは北壁中央に、粘土と面取軽石・熔結凝灰岩等で構築される。ピットは、径30cmの柱痕が確認されたP1・P2の主柱穴等5個検出された。P1・P2の柱穴間は320cm、床は堅く平坦。北壁下、東壁下に壁溝が巡る。覆土1層は人為埋土。遺物は、土師器・須恵



第14図 H 6号住居址(1)



第15図 H 6号住居址(2)
第5表 H 6号住居址出土遺物観察表

No.	H6	品名	口径(φ)	高さ	底径(φ)	底形状	内径	外径	形状・数量・文様	成立地・埋納層・寸法
1	土師器	鉢	10.6	-	3.7	丸こぼれフタ	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
2	土師器	鉢	(12.1)	-	5.4	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
3	土師器	鉢	(13.3)	-	4.9	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
4	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
5	土師器	鉢	(13.1)	(13.3)	<2.6>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
6	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
7	土師器	鉢	(11.6)	9.4	4.2	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
8	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
9	土師器	鉢	-	-	<2.5>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
10	土師器	鉢	11.6	つぼみ縁 2.7	2.2	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
11	土師器	鉢	12.0	-	<1.5>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
12	土師器	鉢	-	-	<7.8>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
13	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
14	土師器	鉢	(19.2)	-	<4.7>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
15	土師器	鉢	20.4	-	<13.6>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
16	土師器	鉢	22.0	-	<9.5>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
17	土師器	鉢	(23.9)	-	<29.7>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
18	土師器	鉢	-	5.0	<20.8>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
19	土師器	鉢	(17.2)	-	<5.0>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
20	土師器	鉢	-	(7.4)	<9.6>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
21	土師器	鉢	22.0	-	<7.8>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
22	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
23	土師器	鉢	(14.4)	-	<3.8>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
24	土師器	鉢	-	10.6	<3.2>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
25	土師器	鉢	(11.2)	-	<3.0>	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
26	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
27	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
28	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
29	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2
30	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	完全実器 1区 1区 区 P2

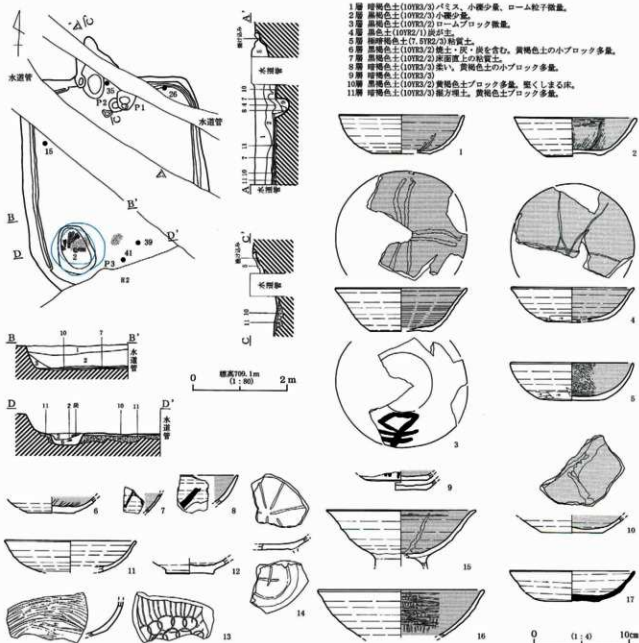
器、磨石29、敲石30がある。カマド内およびカマド袖部からイノシシの第2/5中手骨/中足骨、ニホンジカの中手骨/中足骨ほ破片、獣類四肢骨の焼骨、獣類部位不明破片の焼骨と非焼骨が検出された。

1~6の半球状土師器杯は、6が内面黒色処理される。須恵器杯7は手持ちヘラケズリ、8は回転ヘラケズリ、9は坏蓋かもしれない。10・11はかえりのない坏蓋で、10には擬宝珠つまみが貼付される。13は土師器鉢？ 12は須恵器高盤か？ 土師器甕は口縁部に最大径を持つ「く」字口縁の武蔵甕15・16・21、口縁部に最大径を持ちやや器内の厚い17、小型の胴の短い19・20・22がある。

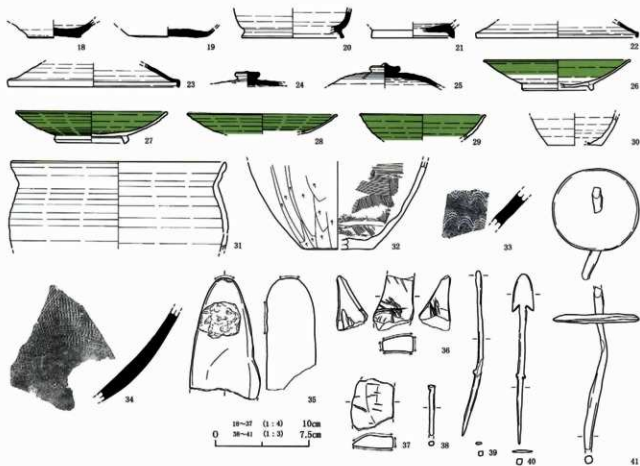
本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代1期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(7)H7号住居址

きく-14・15Grにあり、H2・P49に切られる。北壁西寄りのカマドは、原形を留めない。ピット



第16図 H7号住居址(1)



第17図 H7号住居址(2)

第6表 H7号住居址出土遺物観察表(1)

No.	H7	品名	数量	重量	長さ	産地・材質・文様		出土層・埋蔵層	調査区
						産地	材質・文様		
1	土師器	鉢	(13.5)	65.7	4.1	ロクロナデ-ミガキ-黒文(十字)-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	白粉土層	1区 埋蔵 P1
2	土師器	鉢	12.8	5.8	4.2	ロクロナデ-ミガキ-黒文(十字)-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	No.1
3	土師器	鉢	(14.0)	(6.4)	4.6	ロクロナデ-黒文(十字)-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	白粉土層 埋蔵層	1区 1区埋 1区
4	土師器	鉢	(12.9)	6.3	3.7	ロクロナデ-黒文-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	1区 埋蔵
5	土師器	鉢	12.9	(6.9)	4.0	ロクロナデ-ミガキ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵 P1 H0区
6	土師器	鉢	-	5.2	<1.7>	ミガキ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	赤土層
7	土師器	鉢	-	-	-	ミガキ-黒色成泥	ロクロナデ	赤土層	埋蔵層
8	土師器	鉢	-	-	-	ミガキ-黒色成泥	ロクロナデ	赤土層	埋蔵層
9	土師器	鉢	-	6.5	<1.0>	ロクロナデ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
10	土師器	鉢	-	(6.4)	<2.0>	ロクロナデ-黒文(十字)-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	白粉土層	1区
11	土師器	鉢	(14.0)	(7.0)	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	白粉土層	1区
12	土師器	鉢	-	5.0	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
13	土師器	鉢	-	-	-	ミガキ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
14	土師器	鉢	-	-	-	ナデ, 黒色成泥(赤土層)	ロクロナデ, 黒色成泥, ヘラズリ	完全赤土層	埋蔵層
15	土師器	鉢	(15.8)	-	<6.1>	ロクロナデ-黒文(十字)-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
16	土師器	鉢	(16.4)	-	<5.1>	ミガキ-黒色成泥	ロクロナデ	完全赤土層	埋蔵層
17	土師器	鉢	(13.1)	6.8	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	1区
18	土師器	鉢	-	(5.8)	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
19	土師器	鉢	-	(6.3)	<1.1>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
20	土師器	鉢	-	(10.9)	<3.2>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
21	土師器	鉢	-	(8.8)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
22	土師器	鉢	(17.3)	-	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全赤土層	埋蔵層
23	土師器	鉢	(18.3)	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全赤土層	埋蔵層
24	土師器	鉢	-	2.6	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
25	土師器	鉢	-	3.2	<0.8>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
26	土師器	鉢	(15.6)	(7.6)	3.3	ロクロナデ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
27	土師器	鉢	(16.0)	(7.8)	3.3	ロクロナデ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
28	土師器	鉢	(16.0)	-	<2.1>	ロクロナデ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
29	土師器	鉢	(13.4)	-	<2.0>	ロクロナデ-黒色成泥	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
30	土師器	鉢	-	(5.7)	<3.3>	ロクロナデ	ロクロナデ-黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
31	土師器	鉢	(22.8)	-	<9.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全赤土層	埋蔵層
32	土師器	鉢	-	(7.6)	<9.3>	黒色成泥	黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
33	土師器	鉢	内面 ヲコナデ, 外面 ヲコナデ-黒色成泥	-	-	黒色成泥	黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層
34	土師器	鉢	内面 ヲコナデ, 外面 ヲコナデ	-	-	黒色成泥	黒色成泥	完全赤土層	埋蔵層

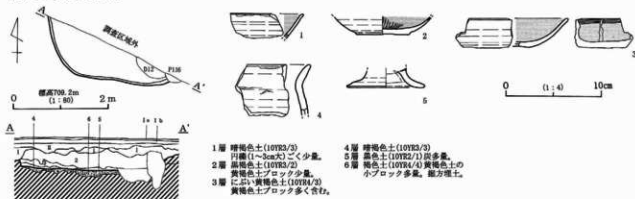
H 7号住居址出土遺物観察表(2)

(cm)

No.	品名	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	形状	出土地層
35	礫石		<12.8>	<7.5>	<5.2>	<661.61>	下部穴溝。上端部と正面に磨行痕。	No.6
36	礫石		<5.8>	<4.3>	<3.2>	<69.03>	上下穴溝。底面磨4。正面と内面に朱痕。	
37	礫石		<5.4>	<4.5>	<1.6>	<44.04>	上下穴溝。底面磨3。正面に朱痕。	Ⅰ区
38	角釘	鉄	<4.0>	<0.5>	<0.5>	<2.37>	下部穴溝。	Ⅱ区 ホリ方
39	鉄線	鉄	13.0	<0.6>	0.4	<8.19>	長頸有棘鎌形造込内丸。	Ⅲ区 No.3
40	鉄線	鉄	13.4	1.5	0.5	11.80	長頸有棘鎌形造込内丸。	カマド
41	新羅銅	鉄	<12.8>	円径6.8 幅<0.7>	円径0.5 幅<0.6>	<63.56>	輪上下穴溝。	Ⅲ区 No.4

は3個検出。P1覆土は炭が主、P3内に焼土や灰、多量の炭化材が検出された。他の覆土中には焼土・炭等みられない。床は堅く平坦。北壁下、東壁・西壁下に壁溝が巡る。遺物は、土師器碗2がP3、敲石35がカマド内、灰釉陶器皿26が北東床隅、鉄線39・紡錘車41がP3東脇の床面から、土師器碗15が西壁床面から出土。炭化栽培種イネ89個・コムギ1個・マメ科(?)1個がカマド内、イネ17個・アワ1個・アズキ類1個・草本のホタルイ属2個がP1、コムギ10個が第16図3の土師器内から検出された。土師器等は、底部にヘラ成形・調整痕の4・5、底部回転糸切りの1~3・6・9~12。1~4・10に十字状暗文、1~10が内面黒色処理。碗14は内面黒色処理され十字暗文の15と底部にヘラ記号「十」、6条の放射状の暗文。須恵器環17~19と20・21の有台環は、底部回転糸切り。須恵器環蓋は、擬宝珠のつまみ24・25、22・23は返りを有さない。30~32は土師器ロクロ甕、灰釉陶器は皿26~28、碗29。鉄器は紡錘車41、角釘38、長頸有棘鎌身箭筒造込両丸の鉄線39、長頸有棘鎌身柳葉形造込両丸の鉄線40。石器は礫石26・37、敲石35。本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅵ期-9世紀後半に位置づけられる。

(8) H 8号住居址



第18図 H 8号住居址

第7表 H 8号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	品名	形状	口径(φ)	底径(φ)	高さ(φ)	重量	成形・調整・文様		検出位置
							内面	外面	
1	土師器	環	-	-	-	-	三方キー黒色処理	ロクロナデ	破片実測 口辺に検付痕
2	土師器	環	-	(5.6)	<2.0>	-	三方キー黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り	破片実測 口辺に検付痕
3	土師器	環	-	-	-	-	縦文(→黒色処理)	ロクロナデ・底部回転糸切り	破片実測
4	土師器	甕	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測
5	土師器	台付甕	-	(8.2)	<2.1>	-	ロクロナデの枠組コナデ	ロクロナデ	完全実測

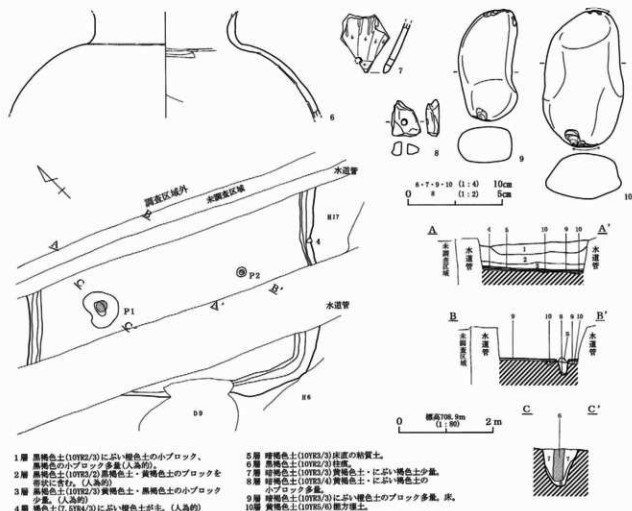
え-8Grにあり、D20-P116に切られる。大半が調査区域外にありカマド・柱穴等検出されない。床は堅く平坦。床面直上の覆土5層中に炭が多量に見られた。遺物は、土師器環1~3、1・2は内面黒色処理され、2・3は底部回転糸切り、4はロクロ甕、5はロクロ甕の台部とみられる。少ない遺物であるが、10世紀前半に位置づけられよう。

(9) H 9号住居址

お-9~11Gr、か-10・11Grにあり、H6・H17に切られる。カマドは調査範囲には検出されなかった。ピットは2個検出され、主



第19図 H 9号住居址(1)



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)に白い褐色土の小ブロック、黒褐色土の小ブロック多量(人爲的)
- 2層 黒褐色土(10YR2/2)黒褐色土・黄褐色土のブロックを母体に含む。(人爲的)
- 3層 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土・黒褐色土の小ブロック少量。(人爲的)
- 4層 褐色土(7.5YR4/3)に白い褐色土が生。(人爲的)
- 5層 暗褐色土(10YR3/3)床底の粘質土。
- 6層 暗褐色土(10YR2/3)柱礎。
- 7層 暗褐色土(10YR2/3)黄褐色土・に白い褐色土少量。
- 8層 暗褐色土(10YR2/4)黄褐色土・に白い褐色土の小ブロック多量。
- 9層 暗褐色土(10YR3/3)に白い褐色土のブロック多量。床。
- 10層 黄褐色土(10YR5/6)脆片埋土。

第20図 H9号住居址(2)

第8表 H9号住居址出土遺物観察表

H9		法 量		内 容		成 形・装 飾・文 飾		測定値(測尺寸)	出土位置
No.	種別	口径(径)	底径(径)	高さ(径)	内 容	外 形	装 飾	測 量	出土位置
1	土師器	坏	(12.0)	-	4.4	ミガキ→黒色処理	ナデヘラケズリ→ミガキ	白釉施装	ホリ方 覆土
2	土師器	坏	(11.2)	-	<2.9>	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	白釉施装	WG区 西壁
3	土師器	坏	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測 黒書あり	E 検出處
4	土師器	鉢	-	-	<6.8>	ミガキ→黒文(十字)→黒色処理	ヘラケズリ→ミガキ	白釉施装	No.1
5	土師器	蓋	-	-	(4.8)	ナデ	胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	白釉施装	E-ベルト
6	土師器	壺	-	-	<11.2>	口縁部ココナデ→胴部ヘラナデ	磨滅(卵形不揃)	白釉施装 内面黒書 外壁磨滅	P1-E区 H17N床 西区
7	土師器	甕?	-	-	-	ミガキ	ヘラケズリ	破片実測 胴下部に成層前穿孔の穴あり	覆土
No.	種 別	資 材	最大径	最大径	最大径	重量	注 意	測 量	出土位置
8	石製滑石	滑石	1.9	1.5	0.7	2.34	孔径0.3、中央に穿孔。穴縁部分不揃。		WG区
9	敲石		11.9	6.3	3.7	420.67	上下端部に敲打痕。		ホリ方 WG区
10	敲石		14.5	8.7	4.8	823.10	上下端部に敲打痕。		No.2

柱穴P1からは径20cmの柱痕が確認された。P2は主柱穴P1とは規則的な位置にないが、礎石を思わせる礫が覆土上部から検出された。床は堅く平坦。南壁から東壁下、西壁下に壁溝が巡る。南壁に張り出し部がみられた。覆土1~4層は人為埋土。床面下の掘方は、僅かにP2周辺に認められた。

遺物は、土師器、石製模造品、敲石がある。1の半球状坏は内面黒色処理され、外面ヘラケズリ後ヘラミガキされる。口縁部と底部の境にある坏2は、内外面黒色処理される。4の鉢は、半球状で内面黒色処理される。7は内面ヘラミガキされ甕であろう。胴下部に焼成前の穿孔がある。他に5の甕、6の大型の壺がある。黒書「下」があるロクロナデの坏は検出面出土で混入品である。

9・10の敲石の上下端部には、敲打痕が認められる。8の滑石模造品は、径0.3cmの穿孔が見られる。

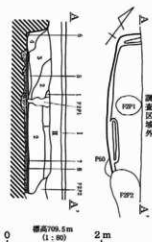
本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられよう。

(10) H10号住居址

そ-19Grにあり、F2に切られP50を切る。カマド・支柱穴等は調査範囲には検出されなかった。床は堅く平坦、床下掘方は浅い。西壁と北壁下の一部に壁溝が見られた。

本址の所産時期を同う遺物は、検出されなかった。

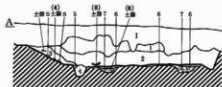
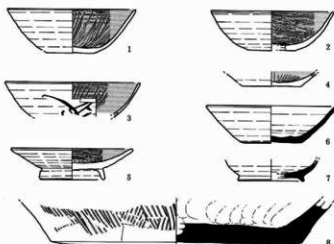
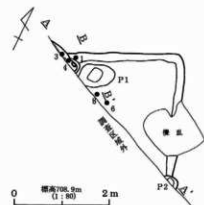
- 1層 暗褐色土(10YR3/2)堅くしまる、小ブロック少量。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土の小ブロック少量。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土の小ブロック少量。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土の小ブロック少量。
- 5層 暗褐色土(10YR3/2)黄褐色土の小ブロック少量。
- 6層 暗褐色土(10YR3/2)濃い、黄褐色土。
- 7層 黒褐色土(10YR2/2)堅くしまる、灰。
- 8層 褐色土(10YR4/4)に、黄褐色土、灰白色が主。東方埋土。



第21図 H10号住居址

(11) H11号住居址

う-6・7Grにあり、P27・P28を切る。北壁のカマドは、大半が調査区域外に伸びる。ピットピットは、2個検出された。床は堅く平坦、覆土2層は人為埋土。遺物は、土師器杯1・2・4、皿5、杯か碗の3、須恵器杯6・有台杯7・甕8がある。1・2・4~7は底部回転糸切り、1~3・4は内面黒色処理、3は墨書される。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅴ期-9世紀前半に位置づけられる。



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)小礫(0.2~1cm)自然。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土・に、褐色土の小ブロック多量。人為的。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)灰・粘土を多く含む。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2)濃い。
- 5層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土が多量。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土・に、褐色土の小ブロック多量。床。
- 7層 暗褐色土(10YR3/2)堅くしまる、暗褐色土の小ブロック多量。

第22図 H11号住居址

第9表 H11号住居址出土遺物観察表

(cm)

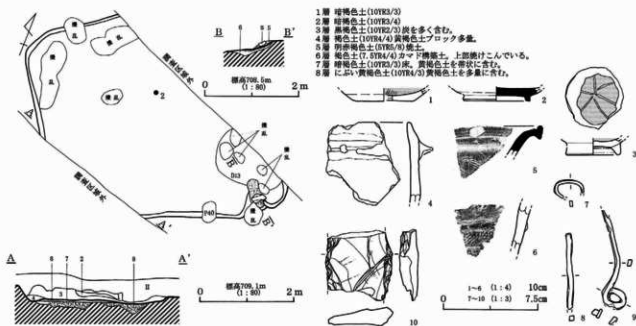
No.	種別	形状	法 壁			内 面		外 面		測定値(内径×高さ)	備 考	出土位置
			口径(φ)	底径(φ)	高さ(φ)	内 面	外 面					
1	土師器	杯	(13.6)	5.2	4.6	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り		完全実測	No.4		
2	土師器	杯	(13.0)	(5.0)	4.2	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り		回転実測		カマド	
3	土師器	杯	(14.3)	-	<3.7>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ		回転実測		床	
4	土師器	杯	-	6.2	<1.6>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り		完全実測	No.5		
5	土師器	皿	13.0	7.0	3.3	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付		完全実測		カマド内	
6	須恵器	杯	(13.8)	(6.5)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り		回転実測		床	No.1
7	須恵器	有台杯	-	(7.1)	<2.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付		回転実測		カマド	カクラン
8	須恵器	甕	-	(26.6)	<5.0>	当て貫通→ヨコナデ	胴部タタキ目。底部ナデ		回転実測			No.2

(12) H12号住居址

いー5・6Grにあり、D13・P40に切られ、H16・H21・F3・P32・P38・P39を切る。南壁東寄りのカマドは、原形を留めない。床は柔らかく気味で南側は少し下がる。東に傾斜する道路下にあり深く掘乱されていた。埋納されたウマ骨が検出されたD13との重複関係の把握は困難を極めた。

遺物は、土師器環1、碗3、須恵器有台環2、羽釜4、須恵器甕5、鉄器の角釘8・轡9・不明7がある。1・2は内面黒色処理される。縄文土器後期後葉深鉢6・打製石斧10は混入遺物である。床表面から炭化した栽培種のスモモ1個、覆土・床面からニホンジカの左上顎第2門歯片・左腕骨・左尺骨・腰椎・椎骨・左脛骨、ウマの左上顎第3門歯・後肢骨の左基節骨・左末節骨、イノシシの可能性のある小型サイズの左上腕骨遠位端片、焼骨の獣類骨が検出された。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。



第23図 H12号住居址

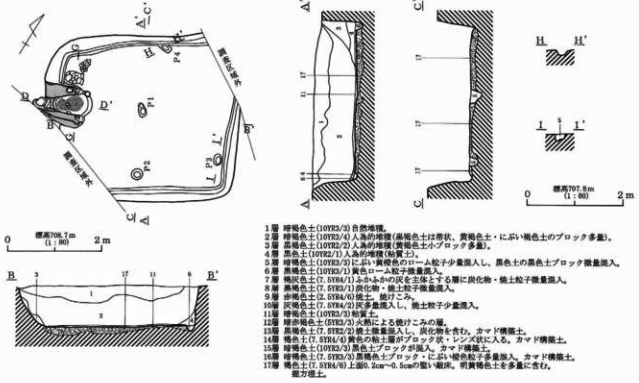
第10表 H12号住居址出土遺物観察表

(cm)

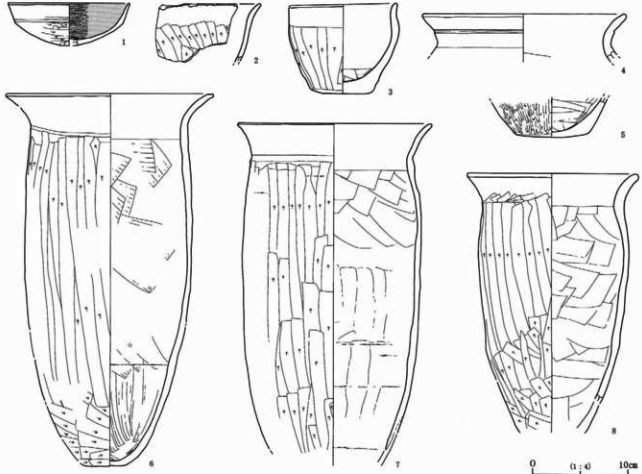
H12		法				内容		形状・調査・文様		検定	備考	出土位置	
No.	種別	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)									
1	土師器	環	-	(6.4)	<1.4>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部3段糸切り			完全実測		床E区	
2	須恵器	有台環	-	7.1	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付			完全実測	磨料	No.1	
3	土師器	碗	-	(5.8)	<1.8>	ミガキ→削磨→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付			完全実測		覆土	
4	土師器	羽釜	-	-	-	ナデヘラナデ	ナデ・ヨコナデ→髹貼付			破片実測		床E区	
5	須恵器	甕	-	-	-	ヨコナデ	髹漆液状文			断面実測	内面	床E	
6	縄文土器	深鉢	同埋配地下に縄文瓦。中期後葉。							断面実測	内面	自然釉付層	
7	不明	鉄	<1.4>	<2.4>	<0.6>	<2.82>						一部欠損。	床E 奥
8	角釘	鉄	<6.0>	<0.4>	<0.5>	<5.20>						下部欠損。	床E
9	轡?	鉄	<7.8>	<2.1>	<0.75>	<10.11>						上部欠損。	フク土
10	打製石斧		<5.6>	<5.3>	<1.4>	<46.16>						上下欠損。	床面 E

(13) H13号住居址

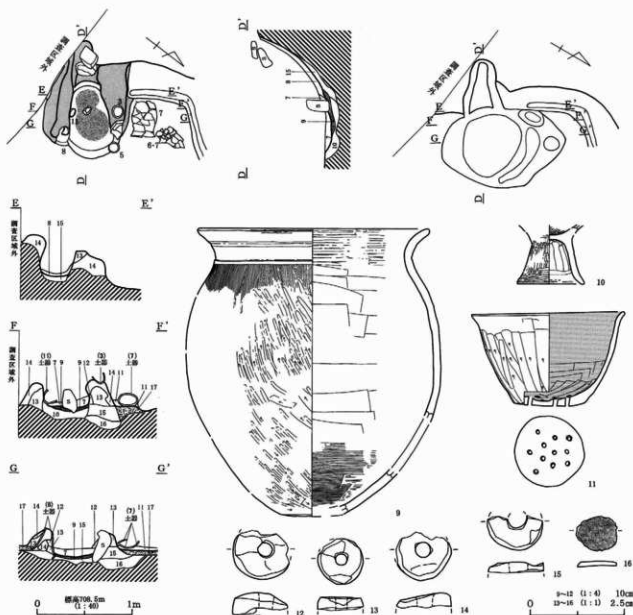
フ22-23Grにあり、H14を切る。カマドは西壁北寄りに、粘土と面取軽石・面取り熔結凝灰岩等で構築される。熔結凝灰岩の支脚石がみられた。不規則な配置のピットが4個検出された。床は堅くほぼ平坦である。東壁・西壁・南壁・北壁下に壁溝が巡る。覆土2~4層は人為埋土。壁残高は深く南



- 1層 埴埴色土(10YR2/3)自然増殖。
- 2層 埴埴色土(10YR2/4)人為的埴埴(黒褐色土は即状、黄褐色土に多い褐色土のブロック多量)。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2)人為的埴埴(黄褐色土小ブロック多量)。
- 4層 黒色土(10YR2/1)人為的埴埴(粘質土)。
- 5層 埴埴色土(10YR2/3)に多い黄褐色のローム粒子少量混入し、黒色土の黒色土ブロック少量混入。
- 6層 黒褐色土(10YR3/1)黄色ローム粒子少量混入。
- 7層 褐色土(7.5YR4/1)ふかふかの灰を主体とする層に炭化物・粘土粒子少量混入。
- 8層 黒褐色土(7.5YR2/1)炭化物・粘土粒子少量混入。
- 9層 赤褐色土(2.5YR4/6)焼土。焼付こみ。
- 10層 灰褐色土(7.5YR4/2)灰多量混入し、粘土粒子少量混入。
- 11層 埴埴色土(10YR2/3)粘質土。
- 12層 赤褐色土(5YR2/3)火焼による焼けこみの層。
- 13層 黒褐色土(7.5YR2/2)粘土少量混入し、炭化物を含む。カマド構築土。
- 14層 褐色土(7.5YR4/4)黄色の粘土層がブロック状・レンズ状に入る。カマド構築土。
- 15層 埴埴色土(10YR2/3)黒色土ブロックが混入。カマド構築土。
- 16層 埴埴色土(7.5YR3/3)黒褐色土ブロック・に多い褐色土粒子少量混入。カマド構築土。
- 17層 褐色土(7.5YR4/6)上面0.2cm-0.5cmの堅い層状。明黄褐色土を多量に含む。膠方硬土。



第24図 H13号住居址(1)



第25図 H13号住居址(2)

第11表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm)

H13		位置			内容		形状・材質・文様		保存状態	出土地
No.	種別	数量	口徑(高)	底径(高)	長さ	内径	外径	厚	備考	
1	土師器	罎	(12.6)	(11.4)	4.5	ミガキ一貫色灰泥	口縁部コナダ一帯部ヘラケズリ	0.8	完全実測	Ⅱ区 No.1
2	土師器	罎?	-	-	-	ミコナダ一貫色灰泥	口縁部コナダ一帯部ヘラケズリ(一貫色灰泥)	0.8	完全実測	Ⅱ区 No.2
3	土師器	鉢	11.5	6.4	9.6	ヘラナダ一帯部から下部コナダ	底部ヘラケズリ一帯部ヘラケズリ一帯部コナダ	0.8	完全実測 (内部付着物あり)	No.4
4	土師器	罎	(21.5)	-	<5.1>	口縁部コナダ一帯部ヘラナダ	コナダ	0.8	完全実測	Ⅱ区 No.3
5	土師器	罎	-	7.7	<4.2>	ヘラナダ	胴部と底部ヘラケズリ後ミガキ	0.8	完全実測	No.3
6	土師器	罎	(22.0)	4.3	39.7	胴部と底部ヘラケズリ一帯部コナダ	口縁部コナダ一帯部ヘラケズリ一帯部ヘラケズリ	0.8	完全実測	Ⅰ区 No.1 Ⅱ区 カマド No.1
7	土師器	罎	20.5	-	<36.4>	胴部ヘラナダ一帯部コナダ	口縁部コナダ一帯部ヘラケズリ	0.8	完全実測	Ⅱ区 No.1 No.2
8	土師器	罎	18.0	-	<27.6>	胴部ヘラナダ一帯部コナダ	口縁部コナダ一帯部ヘラケズリ	0.8	完全実測	No.5
9	土師器	罎	(24.6)	(6.7)	30.4	胴部と底部ヘラケズリ一帯部コナダ	胴部と底部ヘラケズリ一帯部ヘラケズリ一帯部コナダ一帯部ミガキ	0.8	完全実測	Ⅱ区 No.1 Ⅱ区 No.2 Ⅱ区 No.3
10	土師器	片持物	-	(7.6)	<6.3>	ミガキ、胴部ナダ一帯部コナダ後ミガキ	胴部ナダ一帯部コナダ後ミガキ	0.8	完全実測	Ⅱ区 No.1
11	土師器	片持物	16.1	7.3	10.0	ヘラナダ一帯部コナダ後ミガキ	口縁部コナダ一帯部ヘラケズリ一帯部コナダ一帯部ミガキ	0.8	完全実測	No.5
No.	種別	数量	最大径	最小径	厚	形状	備考	出土地		
12	灰土	-	<1.2>	<1.2>	<0.35>	黒色灰泥			Ⅱ区	
13	白土	-	<1.3>	<1.5>	<0.6>		上部一貫色灰泥		Ⅱ区	
14	白土	-	<1.3>	<1.5>	<0.66>		上部一貫色灰泥		Ⅱ区	
15	白土	滑石	<0.8>	<1.4>	<0.52>		上部一貫色灰泥		Ⅱ区	
16	土師器片	土師器	4.0	3.5	0.3		口縁部コナダ一帯部		Ⅱ区	

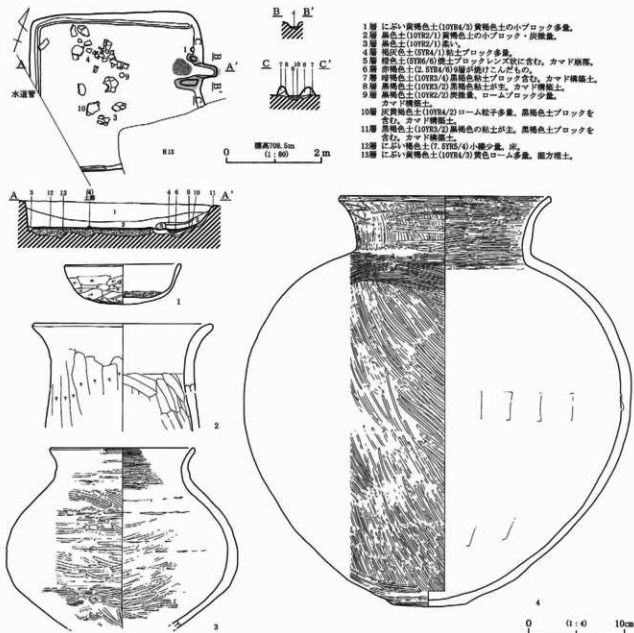
壁で最深90cmを測る。

遺物は、土師器環1、鉢2・3、甕4～8、壺9、台坏甕10、瓶11、土製品16、滑石製白玉12～15がある。1は須恵器坏蓋模倣で内面黒色処理される。6～8の甕は、口縁部に最大径があり底部突出せず縦に長くヘラケズリされ胴が長い。9の壺は外面ヘラミガキされる。11の瓶は多孔で内面黒色処理される。2の鉢は内面黒色処理され、瓶かもしれない。12の土製品は、壺胴部片再利用の土器片円板で、敲打痕が認められる。

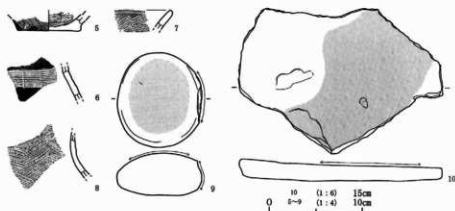
11がカマド内、3・5がカマド右袖部、8がカマド左袖部、6・7がカマド右脇の床面、白玉15がカマド内、13・14が床面から出土した。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(14) H14号住居址



第26図 H14号住居址(1)



第27図 H14号住居址(2)

つ-23・24、て-23Grにあり、H13に切られる。東壁北寄りのカマドは、ほとんど原形を留めない。煙道部立ち上がり側面部と火床付近がよく焼け込んでいる。粘土・暗褐色土と礫で構築されていたようである。

床は堅く平坦である。

第12表 H14号住居址出土遺物観察表

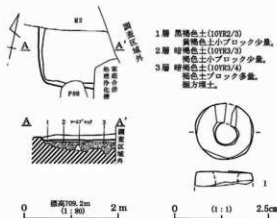
H14		注 意		形状・質感・文様		指定図	消す寸>丸座・			
No.	種別	口径(径)	底径(径)	高さ(径)	内 部	外 部	備 考	出土位置		
1	土師器	環	12.4	-	4.3	口縁部ヨコナデ→みこみ部ミガキ	口縁部ヨコナデ→口縁下部から底面ヘラケズリ	完全実測	No.9	
2	土師器	壺	(19.2)	-	<11.4>	胴部ナデ→口縁部ヨコナデ	胴部ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	目録実測	Ⅱ区	
3	土師器	壺	(15.5)	-	<19.4>	ミガキ	ミガキ	目録実測	Ⅱ区 No.4	
4	土師器	壺	22.5	7.9	43.6	胴部ヘラナデ→口縁部ミガキ	ミガキ	完全実測	Ⅰ区 Ⅱ区 No.1No.2 No.3	
5	弥生土器	壺	-	6.8	<2.2>	ミガキ	胴部ハゲキ、底部ナデ	完全実測	Ⅰ区 ②③	
6	弥生土器	壺	内面 ミガキ→赤色塗布。外面 ミガキ→赤色塗布 磨蝕痕状文。						検出	Ⅱ区
7	弥生土器	壺	内面 ミガキ。外面 磨蝕痕状文。						検出	Ⅱ区ホリ方
8	弥生土器	壺	内面 ミガキ。外面 磨蝕痕状文。						検出	Ⅰ区
No.	種 類	材 質	最大径	最大厚	重 量	所 属	出 土 位置			
9	磨石		9.9	8.8	4.5	560.50	破れあり(正面中央部)。正面にすり肌、右側に磨打痕。	No.8		
10	台石		23.4	32.8	3.2	3330.00	破れあり(正面一部焼化)。正面に使用面。	No.7		

南壁中央から西壁・北壁下を壁溝が巡る。1の環がカマド左脇壁面、3と4の壺が床面中央付近に集中していた。9・10の石器も床面中央から出土した。

遺物は土師器環・壺・石器と混入遺物の弥生時代後期土器が出土した。1は半球状のよくヘラケズリされる環、2は口径と胴部径が等しそうな壺、3・4は内面口縁部と外面がヘラミガキされる壺である。9は側面に敲打痕が見られる磨石、10は安定の良い台石である。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。

重複関係のある本址より後出するH13号住居址と大きな時間差はないと思われる。



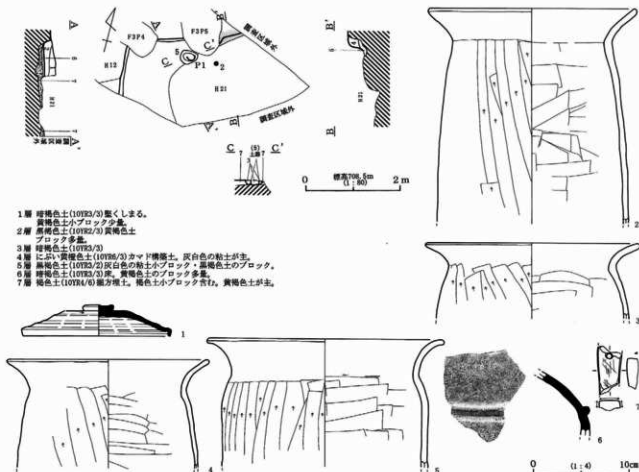
(15) H15号住居址

す・せ-18・19Grにあり、M2・P88に切られる。床面は平坦だが軟弱である。カマド・ピット等調査範囲では、検出されない。遺物は、1の径1.5cm厚さ0.4cmの滑石製白玉と土師器小片が出土した。

時期など詳細は不明である。

第28図 H15号住居址

(16) H16号住居址



第29図 H16号住居址

第13表 H16号住居址出土遺物観察表

H16		法 量				成 形・ 装 飾・ 文 様		測定値(残存径×丸底・)	
No.	種別	口径(径)	底径(径)	器高(径)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	須恵器 蓋	(16.2)	つまみ	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ→つまみ 貼付	完全実測	I区	
2	土師器 甕	(22.0)	-	<22.8>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	目転実測	I区 No.6 H21覆土・ホリ方	
3	土師器 甕	(22.6)	-	<8.1>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	目転実測	I区	
4	土師器 甕	(21.5)	-	<11.6>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	目転実測	I区 H21	
5	土師器 甕	(25.0)	-	<13.6>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	目転実測	No.10	
6	須恵器 (四耳壺)	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目→隆帯貼付	新玉実測	ホリ方	
No.	種 類	材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 属	出 土 位 置	
7	礎石	-	<5.1>	<2.5>	<1.2>	<18.99>	孔径0.55, 上下→裏面欠損。縦帯数3。正面に彫彫。	I区	

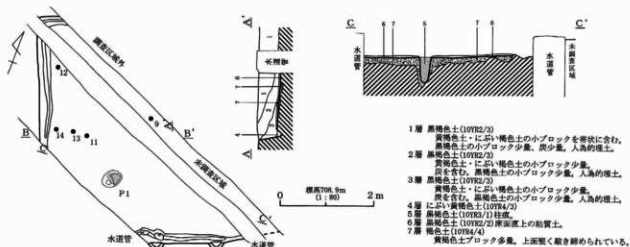
い-5Grにあり、H12・F2に切られる。北壁中央のカマドは、F3号掘立柱建物址に壊されほとんど原形を留めず、僅かに構築土の灰白色粘土が北壁に残存する。床は堅い。ピットはカマド前に1個有り、5の甕が検出された。

遺物は1の須恵器蓋、2～5の口縁部に最大径を持ち胴部長く外面縦にヘラケズリされる土師器甕、須恵器四耳壺6、7の1孔ある礎石が出土した。

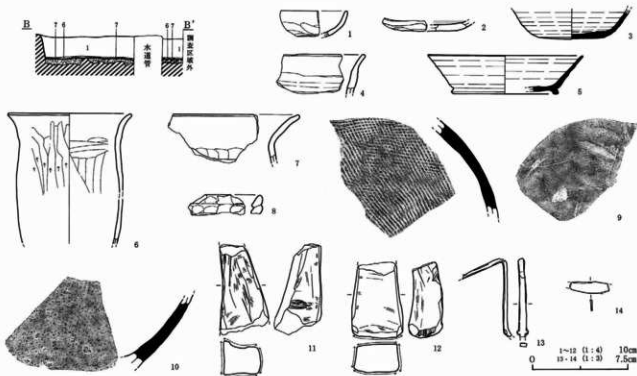
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005型原)奈良・平安時代1期-8世紀第1四半期に位置づけられよう。

(17) H17号住居址

お-9・10、か-10Grにあり、H9を切る。ピットは2個検出され、支柱穴P1からは径20cmの柱



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)
黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロックを散在に含む。
黄褐色土の小ブロック少量、炭少量、人為的堆土。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2)
黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロック少量。
炭を含む。黄褐色土の小ブロック少量、人為的堆土。
- 3層 黄褐色土(10YR2/3)
黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロック少量。
炭を含む。黄褐色土の小ブロック少量、人為的堆土。
- 4層 にぶい黄褐色土(10YR4/2)
- 5層 黒褐色土(10YR2/1)柱状。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2)床面直上の粘質土。
- 7層 黄褐色土(10YR4/4)



第30図 H17号住居址

第14表 H17号住居址出土遺物観察表

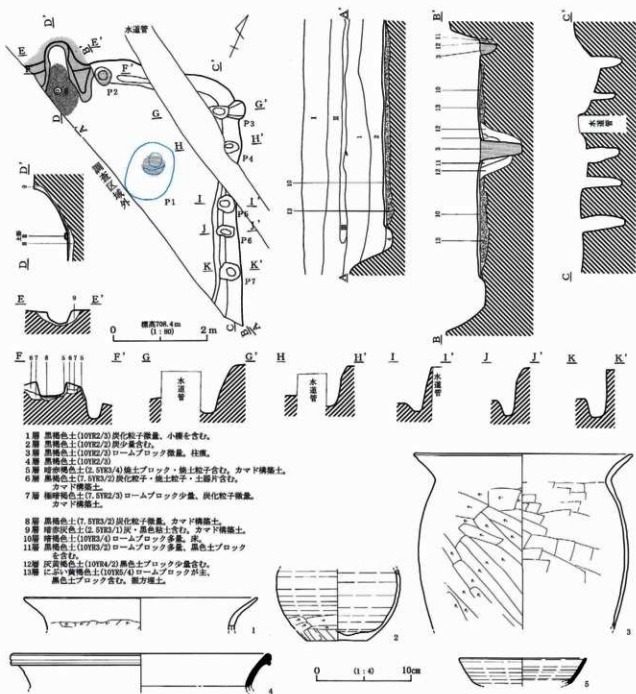
H17		造 型				内 面		外 面		指定器()内は存続<>内蔵・
No.	類別	形状	口径(㎝)	底径(㎝)	底厚(㎝)	口縁	底面	口縁部	底面	備考
1	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	フク土
2	土師器	鉢	-	-	-	ミガキ→黄褐色土	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部手持ちヘラケズリ	破片実測	フク土
3	土師器	鉢	-	(7.0)	<3.2>	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部手持ちヘラケズリ	破片実測	黒区
4	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	破片実測	黒区
5	土師器	甗付鉢	(16.4)	(11.1)	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部回転ヘラケズリ→再付貼付	破片実測	黒区
6	土師器	甗	(13.0)	-	<13.8>	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	N区 H9汚漬
7	土師器	甗	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	M区
8	土師器	手づね	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	破片実測	黒区
9	土師器	甗	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	破片実測	No.5
10	土師器	甗	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	破片実測	外面自然粘付層
No.	類別	材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所 出		出土位置	
11	磁石		<9.6>	<5.2>	<4.0>	<213.57>	上下欠損。磁面数4。正裏と内面に象眼と磨痕。		No.3	
12	磁石		<8.1>	<5.4>	<3.5>	<223.42>	上部欠損。磁面数5。底部右側と左側面に象眼。		No.4	
13	黄銅器?	金属製品	柄付土釘	<約9.3>	<0.9>	<0.3>	<6.28>	上下欠損。		No.2
14	刀子	金属製		<3.1>	<0.9>	<0.7>	<1.59>	両端欠損。		No.1

痕が確認された。南壁のP2・P3は壁柱穴であろう。カマドは調査範囲では確認されていない。床は堅く敷き締められており平坦。南壁下・西壁下に壁溝が巡る。覆土1～3層は人為埋土。

遺物は土師器環1・鉢・甕、須恵器環・有台環・甕、手捏土器、石器、鉄器がある。1は半球状の土師器環、2・3の底部は手持ちヘラケズリ、5は底部回転ヘラケズリ後高台貼付、6・7は口縁部に最大径がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005型原)奈良・平安時代I期- 8世紀第1四半期に位置づけられよう。

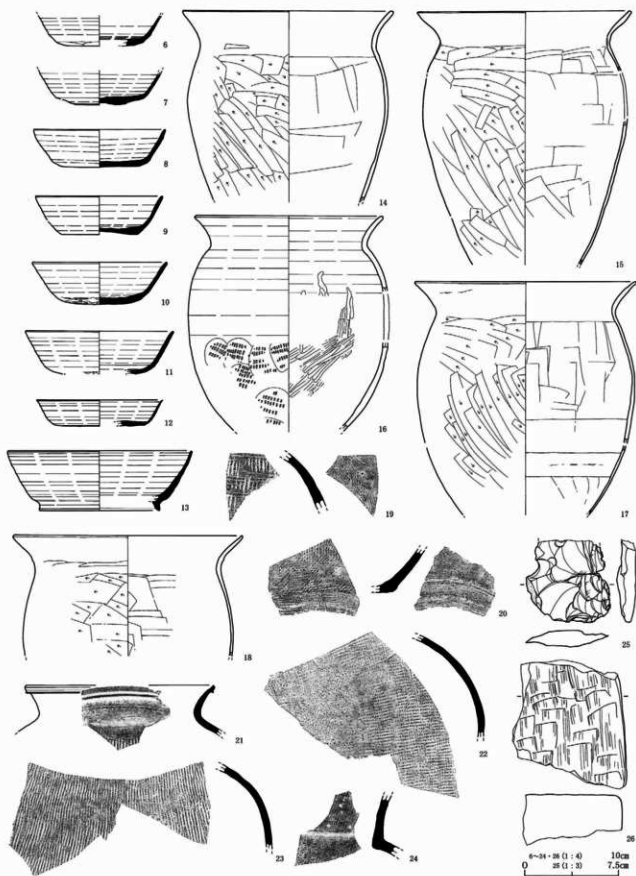
(18) H18号住居址



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)炭化粒子微量、小礫を含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2)炭少量含む。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック微量、柱状。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3)
- 5層 暗赤褐色土(2.5YR3/4)焼土ブロック・焼土粒子含む。カマド構築土。
- 6層 黒褐色土(7.5YR3/2)炭化粒子・焼土粒子・土器片含む。カマド構築土。
- 7層 暗赤褐色土(7.5YR2/3)ロームブロック少量、炭化粒子微量。カマド構築土。

- 8層 黒褐色土(7.5YR3/2)炭化粒子微量。カマド構築土。
- 9層 暗赤褐色土(2.5YR3/1)炭・黒色粘土含む。カマド構築土。
- 10層 暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック多量。炭。
- 11層 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック多量、黒色土ブロックを含む。
- 12層 灰黒褐色土(10YR4/2)黒色土ブロック少量含む。
- 13層 にこ・黄褐色土(10YR6/4)ロームブロックが主、黒色土ブロック含む。裏方埋土。

第31図 H18号住居址(1)



第32图 H18号住居址(2)

第15表 H18号住居出土遺物観察表

(cm)

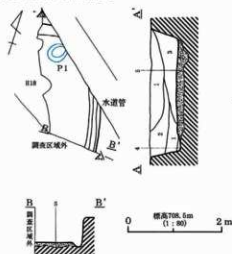
H18		位置		形状・数量・文様		検出状況(内/外壁・土位置)		
No.	種別	口径(内)	底径(内)	内径	外径	備考	出土位置	
1	土師器 甕	(24.8)	-	<3.5>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	自然実測 壁と床 -間隙	カマド内 て25 cm
2	土師器 ロクロ甕	-	6.4	<7.7>	ロクロナデ	ロクロナデ-底部と底部内周ナデ-胴下部手持ちヘラケズリ	完全実測 底部の 内周に取っ手あり	カマド内 カマド壁 側
3	土師器 甕	(23.0)	-	<18.8>	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	自然実測	カマド内 カマド壁 側
4	須恵器 甕	(27.6)	-	<4.2>	ヨコナデ	ヨコナデ	自然実測 敷土入り	カマド内
5	須恵器 持手鉢	(13.4)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ-ヘラナデ(=裏面付)	自然実測	1区
6	須恵器 鉢	-	(9.1)	<3.2>	ロクロナデ	ロクロナデ-底部ヘラナデ	自然実測	カマド内
7	須恵器 鉢	-	5.6	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ-底部ヘラナデ	自然実測	カマド内
8	須恵器 鉢	13.8	8.4	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ-底部内周ヘラナデ	完全実測	No.1
9	須恵器 鉢	(13.3)	8.0	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ-底部手持ちヘラケズリ	完全実測 内面に 穴だすき痕	1区 カマド内
10	須恵器 鉢	(14.2)	(9.0)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ-底部手持ちヘラケズリ	自然実測	1区
11	須恵器 鉢	(15.6)	(9.6)	4.8	ロクロナデ	ロクロナデ-底部手持ちヘラケズリ	自然実測	1区 て25
12	須恵器 鉢	(13.2)	(9.4)	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ-底部回転ヘラケズリ	自然実測	1区
13	須恵器 有台鉢	(19.4)	(12.6)	6.3	ロクロナデ	ロクロナデ-有台付	自然実測 内外壁 に自然取っ手	1区
14	土師器 甕	22.3	-	<10.3>	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	完全実測 口縁上 部に取っ手付孔か と見られる穴が あり	カマド内 赤土 層
15	土師器 甕	(22.8)	-	<16.9>	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	完全実測	1区 カマド内 赤 土層
16	土師器 ロクロ甕	(20.0)	-	<12.8>	ロクロナデ-胴下部三ガキ	ロクロナデ-胴下部タタキ(椅子)	自然実測	1区 カマド内 カ マド内
17	土師器 甕	(23.5)	-	<14.7>	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ-ヨコナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	自然実測	カマド内
18	土師器 甕	(24.2)	-	<12.8>	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラケズリ	自然実測	カマド内
19	須恵器 甕	-	-	-	当て瓦	タタキ目	自然実測	1区
20	須恵器 甕	-	-	-	当て瓦	タタキ目	自然実測	1区
21	須恵器 甕	(20.0)	-	<5.4>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ-胴部タタキ目	自然実測	P1
22	須恵器 甕	-	-	-	当て瓦	タタキ目	自然実測 外壁に 自然取っ手	1区
23	須恵器 甕	-	-	-	当て瓦	タタキ目	自然実測 外壁に 自然取っ手	1区
24	須恵器 甕	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	自然実測 自然焼 付	フク土

つ-24、57、て-25Grにあり、H19を切る。カマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、径40cm前後の柱痕が確認されたP1の主柱穴等7個検出された。P2～P7は壁柱穴でP2はカマド右脇、P3～P7は東壁に60～120cmの間を開けて並ぶ。P2の柱径25cm。床は強く敲き締められていて平坦。カマド脇から東壁下に壁溝が巡る。

遺物は、土師器・須恵器、磁石?26、混入遺物の打製石斧25がある。須恵器杯の底部は、12は回転ヘラケズリ、9～11は手持ちヘラケズリ、8は回転ヘラ切り後ヘラナデ、6・7はヘラナデ調整される。5・7は有台である。土師器甕は口縁部に最大径を持つ「く」字口縁の武蔵甕3・14・15・17・18、2・16のロクロ甕がある。

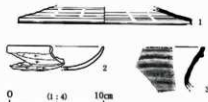
本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代1期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(19) H19号住居址



第33図 H19号住居址

- 1層 黄褐色土(10YR2/3)ロームブロック多量。黒色土ブロックを含む。人為的埋土。
- 2層 黄色土(10YR/4)黒色土・ローム粒子多量を含む。人為的埋土。
- 3層 黄褐色土(10YR/3)黒色土多量。ロームブロックを含む。人為的埋土。
- 4層 黄褐色土(10YR/2)人為的埋土。
- 5層 黄褐色土(10YR/4)黄褐色土ブロック含む。黒方埋土。



つ-24Grにあり、H18に切られる。床は強く敲き締められていて平坦。東壁下に壁溝が巡る。カマドは調査範囲には、見られない。床下からP1が検出された。覆土1～3層は人為埋土。

遺物は、2の半球状の土師器杯、1の須恵器蓋、3の須恵器甕がある。

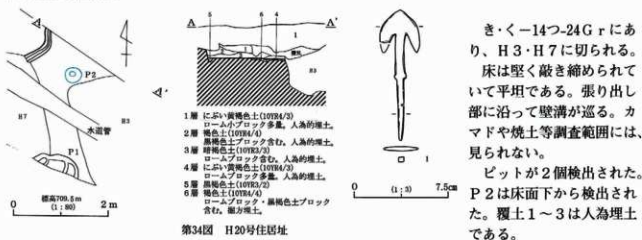
少ない出土遺物で時期詳細は不明。本址は、H18に切られており8世紀第1四半期以前の所産ではある。

第16表 H19号住居址出土遺物観察表

(cm)

H19		造 建			成 形 ・ 質 類 ・ 文 様		推定機()埋存機<>丸蓋・	
No.	種別	規格	口径(径)	底径(径)	取高(厚)	内 面	外 面	推定機()埋存機<>丸蓋・ 出土地層
1	須臾器	壺	(18.2)	-	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ+天井部回転ヘラケズリ	自然実測 外面 自然焼付層
2	土師器	坏	-	-	-	みこみ部ナデ+口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ+底部ヘラケズリ	破片実測
3	須臾器	罐?	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ+焼締焼付	断面実測

(20) H20号住居址



第34図 H20号住居址

出土遺物は、鉄器の他には内面黒色処理され外稜持つ土師器坏小片のみである。1は短頸有棘鎌身三角形造込両丸の鉄鎌である。

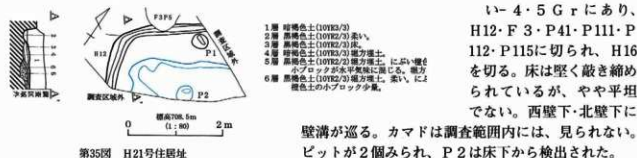
本址の詳細は不明であるが、時期的には8世紀第4四半期のH3号住居址より先行する。

第17表 H20号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	品 種	材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 属	出土位置
1	鉄鎌	鉄	10.2	3.1	<0.5>	<15.27>	左脚部欠損。	覆土

(21) H21号住居址

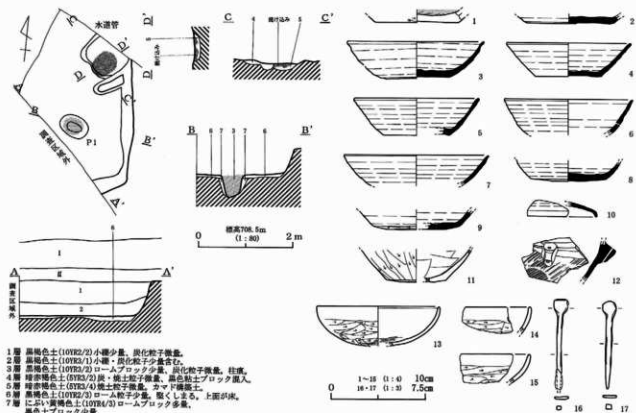


第35図 H21号住居址

遺物は、弥生時代後期甕・壺、土師器坏・甕の小片が検出された。本址は、9世紀後半のH12号住居址より先行し、8世紀第1四半期のH16号住居址より後出する。

(22) H22号住居址

い-4・5Grにあり、H16を切る。床は強く敲き締められていて平坦である。カマドは東壁に火床の焼け込みと見られる焼土が残存する。ビットは、径40cm前後の柱痕が確認されたP1の主柱穴が検出された。遺物は、土師器坏・甕、須臾器坏・蓋・四耳壺、鉄器角釘?16-17、混入遺物と見られる13



- 1層 黒褐色土(10T2/2)小礫少量、炭化粒子微量。
 2層 黒褐色土(10T2/1)小礫・炭化粒子少量含む。
 3層 黒褐色土(10T2/2)ロームブロック少量、炭化粒子微量、柱痕。
 4層 暗赤褐色土(5T2/2)灰・焼土粒子微量、黒色粘土ブロック散入。
 5層 暗赤褐色土(5T2/4)焼土粒子微量、コマツ保土。
 6層 黒褐色土(10T2/2)ローム粒子少量、腐くしる。上面の灰。
 7層 白っぽい黄褐色土(10T2/3)ロームブロック多量、黒色土ブロック少量。

第36図 H22号住居址

第18表 H22号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形状	口径(φ)	高さ(φ)	底径(φ)	底厚(φ)	内径	成形・製法・文様	取付部(1/4倍縮く)	内面	外面	出土位置
1	土師器	鉢	-	(4.7)	<1.3>	-	口沿半一黒色処理	無部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
2	土師器	鉢	-	(8.6)	<1.1>	-	口沿ナデ	口沿ナデ→底部回転ヘラ切り	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
3	土師器	鉢	(14.4)	6.6	4.0	0.7	口沿ナデ	口沿ナデ→底部回転ヘラ切り	口縁実蓋	内面火だすき	No.1	出土位置
4	土師器	鉢	(13.0)	(7.0)	3.6	0.7	口沿ナデ	口沿ナデ→底部回転ヘラ切り	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
5	土師器	鉢	(13.2)	(7.0)	3.9	0.7	口沿ナデ	口沿ナデ→底部回転ヘラ切り	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
6	土師器	鉢	(13.4)	-	<3.6>	-	口沿ナデ	口沿ナデ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
7	土師器	鉢	(15.3)	-	<3.3>	-	口沿ナデ	口沿ナデ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
8	土師器	鉢	-	(7.8)	<2.2>	-	口沿ナデ	口沿ナデ→底部回転ヘラ切り	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
9	土師器	鉢	-	(9.0)	<2.1>	-	口沿ナデ	口沿ナデ→底部回転ヘラ切り	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
10	土師器	蓋	-	-	-	-	口沿ナデ	口縁ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
11	土師器	蓋	-	(6.2)	<1.5>	-	ヘラケズリ	口縁ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
12	土師器	四角形	-	-	-	-	当て同様	タテ目一線彫刻付→線彫付	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
13	土師器	鉢	(13.0)	-	<1.2>	-	口縁部コナデ→口沿ヘラナデ	口縁部コナデ→口沿ヘラケズリ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
14	土師器	鉢	-	-	-	-	コナデ	口縁部コナデ→ヘラケズリ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
15	土師器	鉢	-	-	-	-	コナデ	口縁部コナデ→ヘラケズリ	口縁実蓋	内面火だすき	黒土	出土位置
16	角打?	鉄	<7.1>	<1.1>	<0.4>	<4.81>	下部欠損。				黒土	出土位置
17	角打?	鉄	6.8	1.0	0.5	4.41	ほぼ同様。				黒土	出土位置

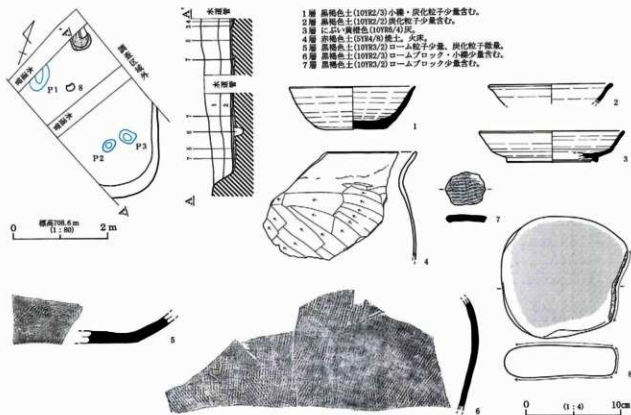
～15の土師器がある。1の土師器は底部ヘラケズリ、須恵器の底部は、6は回転糸切り後手持ちヘラケズリ、2～5・8は回転ヘラ切りされる。

本址は小林真寿の編年(2005型原)奈良・平安時代Ⅳ期-8世紀第4四半期に位置づけられる。

(23) H23号住居址

と・な-26・27Grにあり、H22に切られる。床は強く敲き締められていて平坦である。北側調査区域境の窪みに焼土と灰が残存している。カマドの火床と見られる。ピットは3個確認され、P1・P3が主柱穴であろうか。P2は床下から検出された。

遺物は、土師器甕、須恵器環・甕、7の土製品須恵器土器片円板、8の敲石がある。4の口径と胴



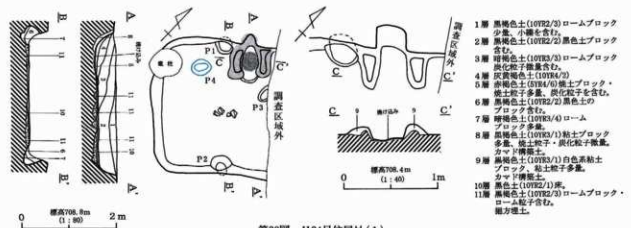
第37回 H23号住居址

第19表 H23号住居址出土遺物観察表

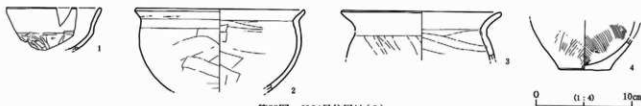
H23		位置			形状・製作・文様		出土状況・保存状況		
No.	種類	面積	口径(長)	底径(短)	内径	外径	備考	所在	
1	須恵器	深	13.3	7.6	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ-底部回転へう切り後ナデ	完全未滅	1区 南リカ
2	須恵器	深	(13.2)	-	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全未滅 外面に 大穴すき	1区 南
3	須恵器	有台杯	(15.3)	(9.5)	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ-底部回転へう巻きナデ	完全未滅	1区 南
4	土師器	壺	-	-	-	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ	完全未滅	1区 南
5	須恵器	壺	-	-	-	当て丸縁-ナデ	胴部タタキ目、底部ナデ	完全未滅	1区 南
6	須恵器	壺	-	-	-	当て丸縁-ヨコナデ	タタキ目	完全未滅	1区 南
7	須恵器	土器(7176)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底径4.3 口径15.5 厚み0.8					完全未滅	1区 南
No.	層	土層	層	層	層	層	層	層	出土位置
B	表層	12.9	13.3	3.4	1042.91	1区南にすり面、2区南に削り面。			No.1

部径がほぼ等しい土師器武蔵甕、1の須恵器杯・3の須恵器有台杯の底部は、回転へう切りと回転へうラズリが見える。本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良-平安時代IV期-8世紀第2四半期に位置づけられよう。

(24) H24号住居址



第38回 H24号住居址(1)



第39図 H24号住居址(2)

第20表 H24号住居址出土遺物観察表

(cm)

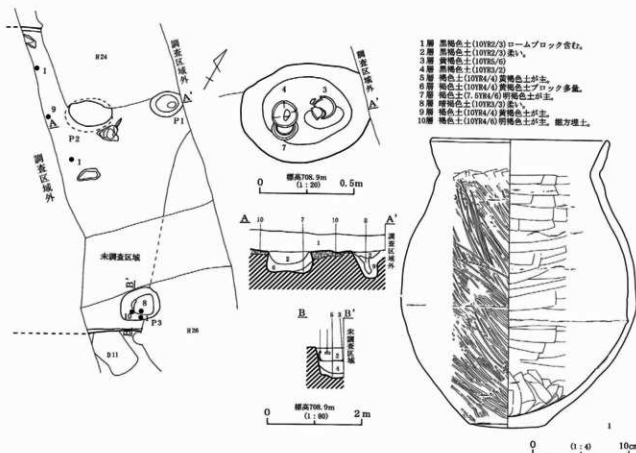
H24		土質		形状・調査・文様		指定遺物(国守継くつ丸座)	備考	出土位置
No.	場所	口径(径)	底径(径)	高さ(深)	内容	外観		
1	土師器 鉢	-	-	-	ミガキ一帯色出注	口縁部コナデ一帯部ヘラナデヘラミガキ	破片実測	I区
2	土師器 鉢	(18.0)	-	<8.8>	胴部ヘラナデ一帯部ヨコナデ	胴部ナデ一帯部ヨコナデ	完全実測	I区 No.1
3	土師器 鉢	16.9	-	<5.2>	胴部ヘラナデ一帯部ヨコナデ	胴部ナデ一帯部ヨコナデ	完全実測	I区 II区 No.1 No.2
4	土師器 鉢	-	(5.4)	<5.3>	ハケ目の残るヘラナデ	胴部ハケ目の残るヘラナデ、胴部ハケ目の残るヘラナデ	図説実測	I区 カクラン

ち-21・22Grにあり、H25を切る。カマドは北壁に粘土等で構築された地山削出の袖部・火床・煙道が残存する。ピットは4個検出された。支柱穴のP1・P2は、内側に傾斜する壁柱穴である。P4は床下から検出された。床は堅く敷き締められていて平坦。

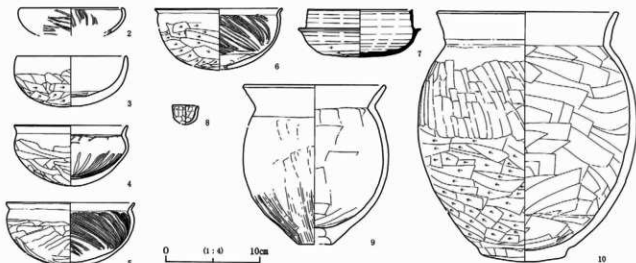
遺物は、1の土師器須恵器環蓋模倣の坏、2の土師器鉢、3・4の土師器甕がある。これらの遺物から、本址は小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代IV期-8世紀第2四半期に位置づけられよう。

(25) H25号住居址

た-20・21、ち-21・22Grにあり、H24・H26に切られる。カマドは調査範囲内には、見られない。ピットが3個検出された。柱痕状の8層が見られたP1は支柱穴であろう。3・4の土師器坏と7の須恵器坏が出土した。P2は断面がフラスコ状で深さ44cm。1の土師器壺・8の手捏土器・10の土師器



第40図 H25号住居址(1)



第41図 H25号住居址(2)

第21表 H25号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	品名	口径(径)	底径(径)	高さ(径)	内 面	外 面	発見場所・調査区	保存番号
1	土師器 甕	11.6	-	30.8	口縁部ヨコナデ-胴から底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ後ミガキ・底部ミガキ	完全発掘	No.1 No.3 No.9
2	土師器 鉢	11.0	-	<2.8>	底文	ミガキ	完全発掘	甕土
3	土師器 鉢	11.7	-	5.4	かこみ部ヘラナデ-口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ-底部ヘラケズリヘラナデ	完全発掘	No.6
4	土師器 鉢	11.0	-	6.4	胴部ナデ-口縁部ヨコナデ-底文	口縁部ヨコナデ-胴部から底部ヘラナデ	完全発掘	No.4
5	土師器 鉢	13.5	-	6.7	底文	口縁部ヨコナデ-胴部から底部ヘラナデ	完全発掘	甕土
6	土師器 鉢	13.4	-	6.5	かこみ部ヘラナデ-口縁部ヨコナデ-底文	口縁部ヨコナデ-底部ヘラケズリ	完全発掘	甕土
7	須恵器 鉢	11.2	-	5.3	口コナデ	口コナデ-胴部回転ヘラケズリ	完全発掘	No.5
8	土師器 土師器	2.8	(2.5)	-	口縁部ヨコナデナデ	口縁部ヨコナデナデ	目録発掘	No.7
9	土師器 小布壺	15.2	(3.6)	16.8	口縁部ヨコナデ-胴部ヘラナデ-底部ヘラナデ	胴部ナデ-口縁部ヨコナデ-胴下半/口縁の積層ナデ・底部ナデ	完全発掘	No.2
10	土師器 甕	19.3	8.5	26.5	胴から底部ヘラナデ-口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ-胴下半と底部ヘラケズリ-胴上半ヘラナデ	完全発掘	No.8

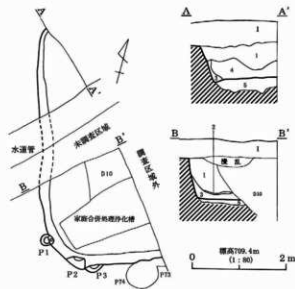
甕が検出されたP3は南壁近くにあり深さ64cmを測る。床は堅く敷き締められていて平坦である。50cm内外の礫3個が床面上にみられた。遺物は土師器・甕・壺・手捏土器・須恵器がある。2~6の土師器は半球状で口縁部が短く外反する4、内斜する5・6、内湾する2・3がある。10の甕は胴部に最大径を持ち胴部は丸みを帯び、外面ヘラケズリされる。1の壺外面はヘラミガキされる。7の須恵器は口径11cmで、扁平な体部から長くほぼ直立に立ち上がり、端部は中央が窪む。外面体部から底部回転ヘラケズリされる。本址はこれらの遺物より、5世紀後半に位置づけられよう。

(26) H26号住居址

た・ち-20・21Grにあり、H25を切り、D10・P73・74に切られる。カマドは調査範囲内には、見られない。壁柱穴が3個検出された。

床面は平坦だが軟弱である。

遺物は、土師器・甕が図示できた。本址の詳細は不明だが、本址が切る5世紀後半のH25よりは、後出する。



- 1層 暗褐色土(10193/3)
- 2層 黄褐色土小ブロック少量。
- 3層 褐色土(10192/1) 灰。
- 4層 黄褐色土(10192/3) 灰・黄褐色土小ブロック少量含む。
- 5層 褐色土(10194/6) 黄褐色土ブロック多量。



第42図 H26号住居址

第22表 H26号住居址出土土物観察表

(cm)

H26		法 量			形 形・調査・文書		測定値(1)埋存深<>丸底・	
No.	種別	口径(径)	底径(径)	底高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器 坏	-	-	<2.0>	ヨコナデ→織文	ヨコナデ→底部ヘラクスリ	破片実測	E-WK
2	土師器 壺	-	7.2	<2.0>	ミガキ	胴部と底部ヘラクスリ後ミガキ	完全実測	E区

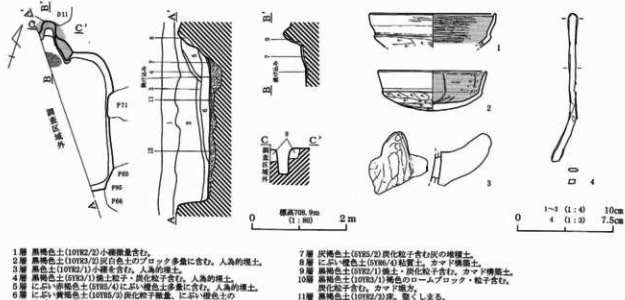
(H27) H27号住居址

そ-20Grにあり、D11・P73・74に切られる。カマドは北壁に粘土等で構築された袖部・火床・煙道の一部が残存する。ピットは調査範囲内では見られなかった。

床は堅く敷き縮められていて平坦である。

遺物は土師器坏・把手、鉄器がある。須恵器坏蓋模倣の坏1・2は、内面黒色処理される。3は瓶の把手であろうか。4は関が明確でないが、長頸有茎鐵身鑿筋造込両丸の鉄鏝である。

本址は小林真寿の編年(2005型原)古墳時代Ⅲ期-6世紀中葉~7世紀初頭に位置づけられようか。



第43図 H27号住居址

第23表 H27号住居址出土土物観察表

(cm)

H27		法 量			形 形・調査・文書		測定値(1)埋存深<>丸底・		
No.	種別	口径(径)	底径(径)	底高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	土師器 坏	(13.4)	(12.3)	<3.6>	ミガキ→黄褐色処理	胴部ヨコナデ→底部ヘラクスリ→敷ミガキ	白紙実測	壺土	
2	土師器 坏	(11.4)	(10.5)	4.2	ミガキ→黄褐色処理	底部ヘラクスリ→胴部ヨコナデ	白紙実測	壺土	
3	土師器 把手	-	-	-	ミガキ	ナデ	破片実測	壺土	
No.	種 類	材	最大径	最大厚	重量	所 見		出土位置	
4	鐵	鉄	11.7	0.7	0.5	<10.05>	一部欠損。磨部不明。		壺土

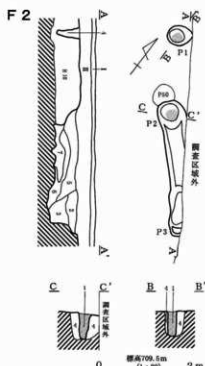
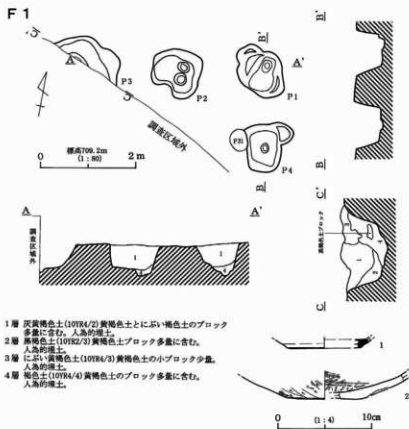
第 2 節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

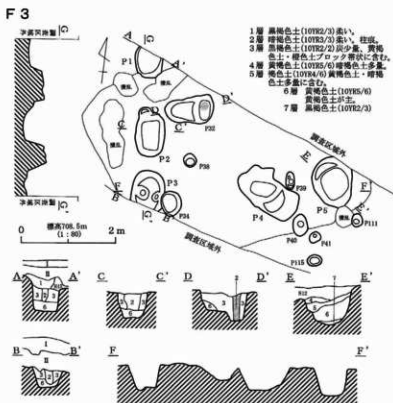
う-7・8Grにあり、P31に切られる。大半が調査区域外にある。形態は側柱式が考えられる。南北軸方位はN-10°-W。南北柱間1.6東西柱間1.8mと2.2mを測る。柱穴の平面形は不整形であるが方形が基調、穴底に柱を固定したかのような径20~28cmの小穴がすべての柱穴に認められた。長辺1m前後で深さは60~80cm。遺物は1の底部ヘラナデされる土師器坏、2の土師器壺がある。他に小片で弥生時代後期土器、須恵器、土師器、灰釉陶器があるが、これらの遺物での年代決定は困難である。

(2) F2号掘立柱建物址

せ-そ-19Grで検出され、H10を切りP50に切られる。大半が調査区域外にあり、形態等不明。深さ56cmのP2と深さ60cmのP3が布掘状に連結される。径20cmの柱痕がP1とP2で確認された。



- 1層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土のブロック多量。柱礎。
- 2層 黄褐色土(10YR2/3)黄褐色土の小ブロック少量。
- 3層 褐色土(10YR4/4)黄褐色土にぶい黄褐色土の小ブロック多量。
- 4層 黄褐色土(10YR2/2)
- 5層 ぶい黄褐色土(10YR4/3)にぶい黄褐色土の小ブロック多量。人為的埋土。
- 6層 褐色土(10YR4/4)にぶい黄褐色土が主。人為的埋土。
- 7層 黄褐色土(10YR2/3)にぶい黄褐色土の小ブロック多量。人為的埋土。



第44図 掘立柱建物址

出土遺物皆無で、重複するH10も時期不明であり、本址の時期も不明である。

(3) F3号掘立柱建物址

いー5・6Grで検出されH12・D13・P34に切れH21を切る。大半が調査区域外にあるが形態は側柱式が考えられる。南北柱間1.6mと1.2m東西柱間2.4mと1.6mを測る。柱穴の平面形は不整形であるが楕円形が基調。

長辺1m～1.3mで深さは40～80cmを測る。

遺物は、小片で弥生時代後期土器、須恵器、土師器、灰釉陶器がある。これらの遺物

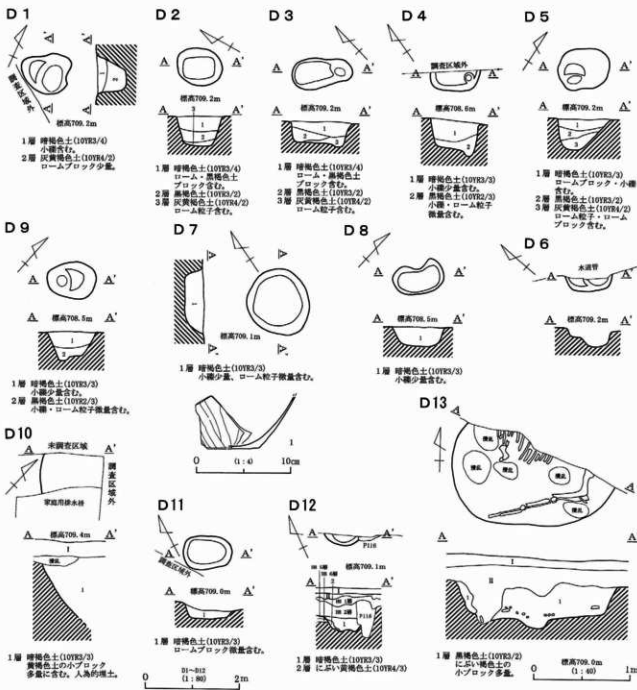
での年代決定は困難である。重複関係は、本址より後出のH12が9世紀後半、本址より先行のH21・H16が8世紀第1四半期であり、本址は8世紀第1四半期から9世紀後半と漠然と位置づけられる。

第3節 土坑

D1号土坑 き-15Grで検出されH1を切る。長軸長106cm短軸長90cm壁高は60cm長軸方位はN-90°-E。平面形楕円形、断面逆梯形。土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明である。

D2号土坑 く-15Grで検出され、H1を切る。長軸長93cm短軸長80cm壁高59cm長軸方位はN-25°-W。平面楕円形、断面逆梯形。弥生後期土器片・土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明である。

D3号土坑 く-16Grで検出され、H1を切る。長軸長128cm短軸長65cm壁高55cm長軸方位はN-55°-W。平面楕円形、断面テラス持つ逆梯形。土師器や須恵器小片出土したが、時期は不明である。



第45図 土坑

D4号土坑 と-24Grで検出され、検出長軸長52cm短軸長20cm壁高59.5cm、長軸方位はN-55°-W。平面長方形、断面逆梯形底面東寄りに小ピット1基。土師器環・須恵器小片出土したが、時期は不明。
D5号土坑 き-15Grで検出され、長軸長112cm短軸長82cm壁高81.5cm、長軸方位はN-55°-W。平面円形、断面逆梯形底面東寄りに小ピット1基。土師器環・須恵器小片出土したが、時期は不明。
D6号土坑 く-15Grで検出され、検出長軸長95cm短軸長37cm壁高42cm、長軸方位はN-44°-W。平面楕円形、断面テラスを持つ逆梯形。土師器環・甕小片出土したが、時期は不明。
D7号土坑 か-14Grで検出されH2を切る。長軸長73cm短軸長64cm壁高34cm、長軸方位はN-35°-E。平面円形、断面逆梯形。1の土師器甕等小片出土したが、H2との関係もあり時期は決めかねない。
D8号土坑 と-25Grで検出、長軸長55cm短軸長31cm壁高40cm、長軸方位はN-32°-E。平面楕円形、断面逆梯形。土師器環・須恵器環小片出土したが、時期は不明。
D9号土坑 て-26Grで検出、長軸長52cm短軸長40cm壁高64cm、長軸方位N-42°-E。平面楕円形、断面テラスを持つ逆梯形。弥生後期土器片・土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明。

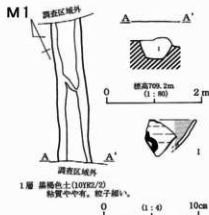
D10号土坑 た-20Grで検出され、H26を切る。覆土人為埋土。汚水浸透対策保護のため検出範囲限定。壁高120cm以上、土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明。
D11号土坑 た-20Grで検出され、H25・H27を切る。長軸長53cm短軸長36cm壁高34cm、長軸方位はN-66°-W。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物皆無で時期は不明。H27(6C中葉~7C初頭)以降。

D12号土坑 え-8Grで検出されH8・P116に切られる。検出長軸長76cm短軸長22cm壁高34cm、平面楕円形断面凹凸ある逆梯形。時期は重複関係から10世紀前半以前。

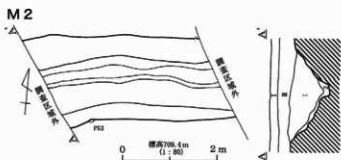
D13号土坑 う-5Grで検出され、H12・H16・F2を切る。検出長軸長85cm短軸長44cm壁高25cm、長軸方位はN-86°-E。平面楕円形、断面中央に小ピット持つ逆梯形。底面に接して木曾馬クラスの中型ウマのほぼ全身が埋納されていた。頭部・背部は調査区外にある。重複関係から9世紀後半より後出。

第4節 溝状遺構

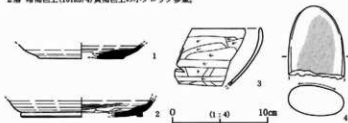
M1号溝状遺構 う・え-20Grで検出南北調査区域外に伸びる。幅60~70cm、深さ15~28cm、北から南に傾斜する。断面は逆梯形、10cm段差が見られる。遺物は土師器墨書の環・甕、須恵器環の小片が出土したが、本址の時期比定の根拠とはならない。



第46図 M1号溝状遺構



1層 暗褐色土(10YR2/2)暗褐色土の小ブロック少量。
 2層 暗褐色土(10YR2/4)暗褐色土の小ブロック多量。



第47図 M2号溝状遺構

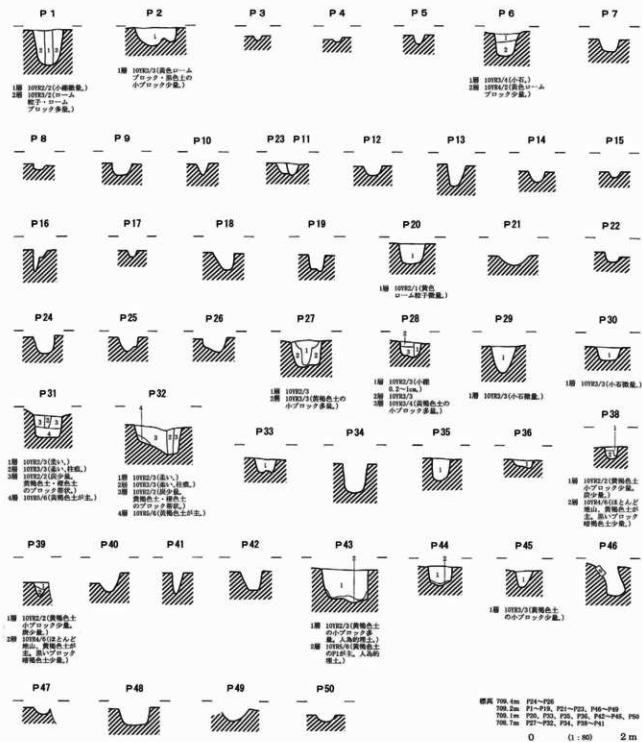
第24表 M1号・M2号溝状遺構出土遺物観察表

M1-M2		法 量		形 質・文 様		測定値(坑内径)< > 出土位置		
No.	種類	口径(長)	底径(短)	断面	外面	備 考	出土位置	
1	土師器 環	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測 墨書あり	M1 覆土層	
1	須恵器 環	-	(底)9	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底面凹へう切り	M2 埋込層	
2	須恵器 有台鉢	-	(14.4)	<2.1>	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→底面凹へう切り、高台貼付	M2 埋込層	
3	土師器 鉢	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→縁部ヘラナデ	M2 下層	
No.	種 類	材	最大径	最大厚	重量	所 属	出土位置	
4	磨石		<7.8>	<6.0>	<3.1>	<203.55>	下層交雑、正面にすり面。	M2

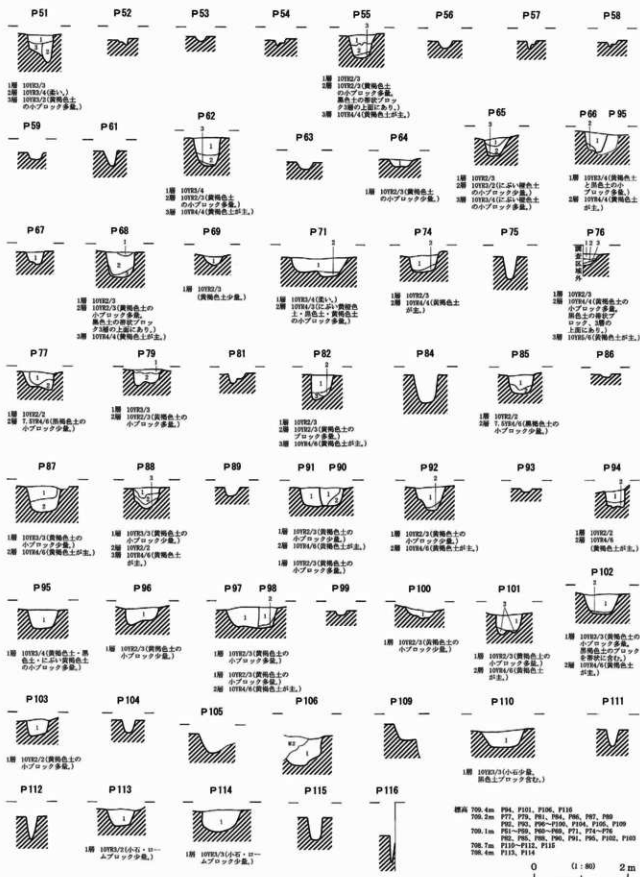
M2号溝状遺構 セー18・19Grで検出され、東西の調査区域外に伸びる。H15に切られ、P106を切る。幅1.8m～2m深さ0.77m断面はほぼ「V」字形である。東から西へごく緩く傾斜する。流水の痕跡はない。遺物は8世紀代の土師器鉢3・須恵器環1・有台環2、磨石4がある。

第5節 ビット

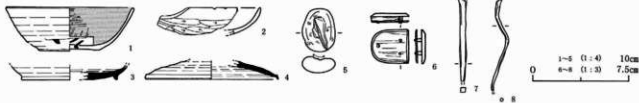
ビットは113基が検出されM2とF2の周辺とH4周辺に集中している。大概が柱穴だとみられる



第48図 ビット断面図(1)



第49図 ビット断面図(2)



第50図 ビット出土遺物

第25表 ビット出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	口径(径)	底径(幅)	器高(寸)	内 面	外 面	所 属	出土位置
1	土師器	罎	(13.5)	6.4	4.7	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測 あり	P32覆土
2	土師器	罎	-	-	-	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→体部ヘラケズリ	部分実測	P65覆土
3	須恵器	有台杯	-	(10.0)	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	P74覆土
4	須恵器	罎	(14.2)	-	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	P74覆土
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 属	出土位置	
5	磨石	磨石	4.6	3.5	1.8	15.44	全体にすり。正面に稜線。	P36覆土	
6	銅製帯金具 蛇尾	銅	3.0	2.7	0.8	23.07	ほぼ円形。	P61覆土	
7	角釘	鉄	<6.7>	<0.6>	<0.4>	<5.35>	上下尖頭。	P87覆土	
8	鉄軸	鉄	<7.3>	<0.3>	<0.25>	<1.17>	上下尖頭。	P97覆土	

が、明確な建物址とは捉えられなかった。図示できた遺物は、P32から1の底部回転糸切りの土師器罎、P65から2のヘラケズリされる土師器罎、P74から回転ヘラケズリ調整ある須恵器有台杯・蓋、P36から5の磨石、P61から6の銅製帯金具蛇尾、P87から7の鉄釘、P97から65の鉄角軸がある。

第6節 遺構外出土遺物

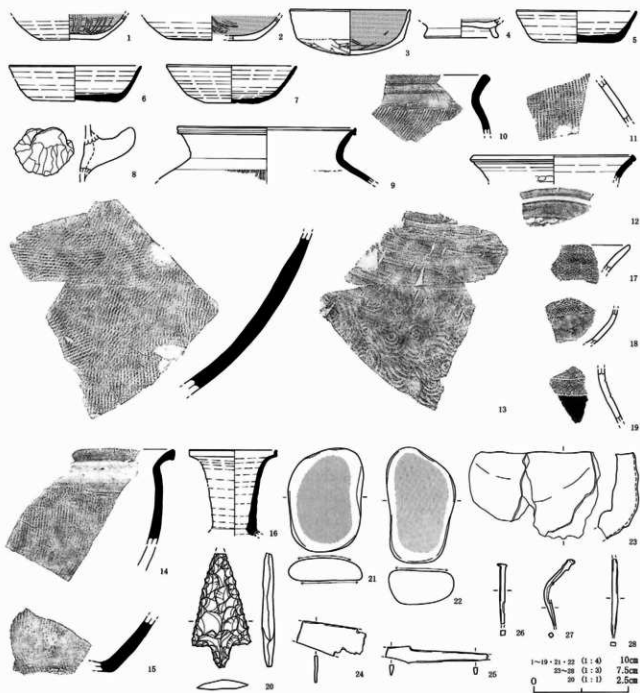
弥生時代後期、土師器・須恵器、石器、鉄器が出土した。

1～3は、内面黒色処理される土師器罎、1は底部回転糸切り、2はヘラナデ調整、3は須恵器罎蓋模倣罎である。4は底部回転糸切り後高台貼付で内面黒色処理される土師器罎。5～7は須恵器罎で、底部ヘラ切り・手持ちヘラケズリがみえる。9～14・15は須恵器甕、広口で短い口縁部を持つ鉢型の14、大型の13・15、頸部が括れ、口縁部が比較的短い9・10・12がある。16は、口縁部有段の長頸壺

第26表 遺構外出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	口径(径)	底径(幅)	器高(寸)	内 面	外 面	所 属	出土位置
1	土師器	罎	-	(6.0)	<2.7>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	外9
2	土師器	罎	-	(9.0)	<2.5>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部ナデ	回転実測	C-26
3	土師器	罎	(12.8)	-	4.9	中央部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ→ミガキ→黒色処理	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	C-27
4	土師器	罎	-	(7.0)	<2.0>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→高台貼付	回転実測	外-12
5	須恵器	罎	(12.9)	(8.2)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラナデ	回転実測 外側に 穴状すきぎ	C-26
6	須恵器	罎	(14.0)	8.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ	完全実測 内外面に 穴状すきぎ	外-25
7	須恵器	罎	(13.6)	(5.7)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	回転実測	C-26
8	土師器	有子	-	-	-	-	ヘラナデ	回転実測	C-24
9	須恵器	甕	(19.0)	-	<6.0>	ヨコナデ	頸部タタキ目→口縁部ヨコナデ	回転実測	C-26
12	須恵器	甕	(17.6)	-	<3.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→口縁部に沈線を通す。頸部ナデ	回転実測	外-23
13	須恵器	甕	-	-	-	口縁縁	タタキ目	回転実測	外9
15	須恵器	甕	-	-	-	ヨコナデ	頸部タタキ目→底部内面手持ちヘラケズリ→底ナデ	回転実測	外-12
16	須恵器	長頸壺	(9.3)	-	<9.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測 内外面に 自然磨り目	外-12
10	須恵器	甕	内径 口縁部ヨコナデ→頸部ヨコナデ→黒色処理ヨコナデ。外径 口縁部ヨコナデ→頸部タタキ目。					後測	外-24
11	須恵器	甕	内径 ヨコナデ。外径 タタキ目→自然磨り目。					部分実測	外-25
14	須恵器	甕	内径 口縁部ヨコナデ→頸部ヨコナデ→ヘラナデ。外径 口縁部ヨコナデ→頸部タタキ目。					部分実測	Z区
17	須恵土師	甕	内径 ミガキ。外径 黒色処理タタキ目。					後測	外-23
18	須恵土師	甕	内径 ミガキ。外径 黒色処理タタキ目。					後測	外-23
19	須恵土師	甕	内径 ハラナデ。外径 ミガキ→中央部黒色処理ヘラケズリナデ。					後測	外-25
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 属	出土位置	
20	石鏡		<3.0>	1.6	0.3	<1.34>	先端尖頭。	外10	
21	磨石		11.0	8.0	2.4	36.85	正面にすり目。	外-23	
22	磨石		12.3	7.4	3.6	56.74	正面にすり目。	外-23	
23	釘頭?		<6.7>	<10.5>	<2.8>	<285.50>	上部部を口縁とする短筒状? 底部に磨り目。	外-23	
24	釘?	鉄	<5.5>	<2.4>	<0.25>	<5.70>	両面尖頭。	外19	
25	刀子		<8.1>	1.4	0.4	<9.89>	両面尖頭。	外11	
26	角釘	鉄	<4.7>	0.7	0.4	<3.36>	下部尖頭。	外-23	
27	角釘	鉄	<5.3>	0.8	<0.3>	<2.43>	一部尖頭。	C-26	
28	角釘?	鉄	<6.0>	<0.4>	<0.4>	<3.50>	上下尖頭。	後測	



第51図 遺構外出土遺物

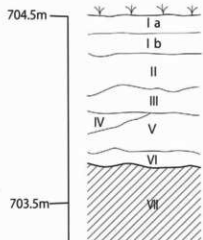
である。23は垣塙であろうか、表面に砂礫が付着する。

石器は、磨石21・22、石鎌20があり、鉄器は24の鎌とみられるもの、刀子25、角釘26・27等がある。これらは、遺構確認時に出土し、遺構に帰属できなかったものである。

第27表 竪穴住居址一覧表

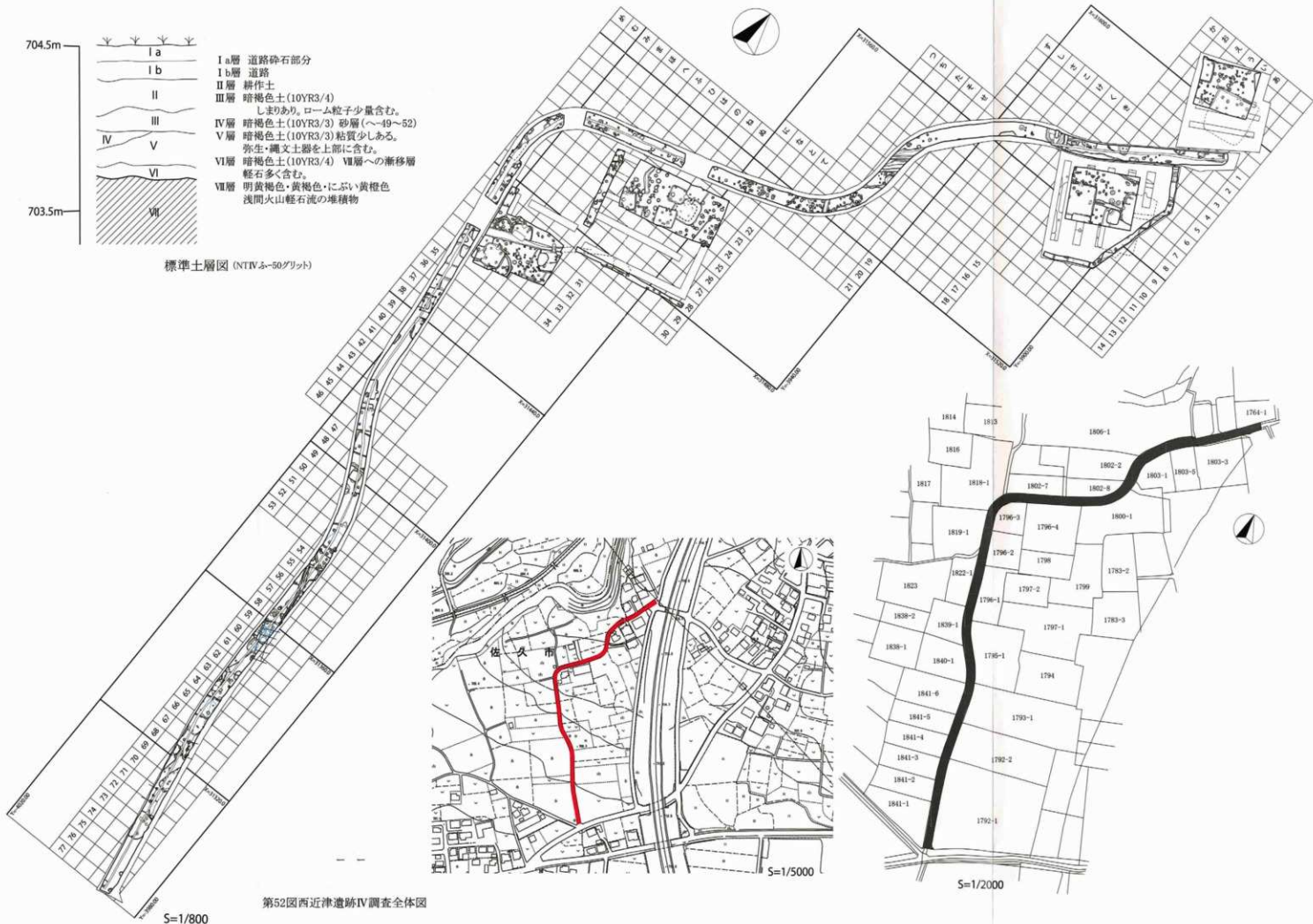
(保存庫) <横出線> (cm)

遺跡名	出土位置	平 面 図					主要方位 (掘削方位)	カマド (形)	竪穴関係 長径 × 短径 × 深さ	備考 遺構・時期 等
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長	総長				
H1	き・く-14 き・く-16	竪丸方形(南北軸長644) (474) (78) - (570) 77					N-13°-W	カマド 北壁中央	P1 90×50×35 P2 76×45×52 P3 46×38 ×11 P4 34×32×12	D1~D3・P1・P6に切 られ。P24を切る。
H2	か-13-14 き-14-15	竪丸方形(南北軸長486) (358) (54) - (372) 63					N-24°-W	北壁中央	P1 54×50×60 P2 <48>×<24>×59 P3 76×44×70 P4 34×22×23	D7・P20に切られ。 H7を切る。
H3	か-13 -12-13-14 く-13-14	長方形(南北軸長624) (90) (646.0) 616 - 58					N-19°-W	-	P1 柱礎28 76×<44>×53	H4に切られ。H20と P109を切る。南壁に 突出し部。
H4	お-12-13 か-11-13 き-12	竪丸方形(512) (268) (350) (410) (482) 46					N-13°-W	-	P1 <22>×22×44 P2 32×38×33 P3 34× 32×41 P4 16×12×10 P5 22×8×7 P6 28×20×7 P7 40×12×16	P4・P7~P17・P22・ P23・P35・P24に切ら れ。H3を切る。
H5	け-こ-17	竪丸方形? (南北軸長286) (88) (60) 252 - 69					N-40°-W	-	-	
H6	え-お-9 10-11	竪丸方形? (東西軸長690) 610 - (102) (315) 43					N-8°-E	北壁中央	P1 柱礎30 84×74×75 P2 柱礎30 <45>× 70×66 P3 56×44×32 P4 24×20×X P5 <14>×<10>×<10>	H9を切る。
H7	き・く-14 15	竪丸方形 (310) (40) (345) (240) 48					N-5°-W	北壁西寄り	P1 <38>×40×8 P2 30×<18>×13 P3 106×76×23	H2・P49に切られる。
H8	え-8	竪丸方形? - (216) (118) - 11					-	-	-	D20・P116に切られ る。
H9	お-9-10-11 か-10-11	竪丸方形? (東西軸長612) - (376) (148) (400) 67					N-45°-W	-	P1 78×60×78 P2 22×19×30	H6・H17に切られる。 南壁に突出し部。
H10	そ-19	方形? (44) - (282) - 36					-	-	-	F2に切られ。P50を 切る。
H11	う-6-7	竪丸方形? (250) - - (270) 36					N-25°-W	北壁	P1 74×48×25 P2 36×<16>×7	P27・P28を切る。
H12	い-う-5-6	竪丸方形(南北軸長436) (210) (300) (200) (30) 17					S-25°-E	南壁東寄り	-	D13・P40に切られ。 H16・H21・F3・P32・ P38・P39を切る。
H13	つ-22-23	方形(東西軸長406) (310) (230) (140) (180) 90					S-30°-W	西壁北寄り	P1 30×16×15 P2 24×22×18 P3 24×16 ×11 P4 26×18×12	H14を切る。
H14	つ-23-24 て-23	方形(東西軸長376) 346 (90) (120) (188) 58					N-70°-E	東壁北寄り	-	H13に切られる。
H15	ず・せ-18 19	方形? - <100> <120> - 13					-	-	-	M2・P88に切られる。
H16	い-5	方形? (174) - (64) - 36					N-15°-W	北壁中央	-	H12・H21・P40に切ら れる。
H17	お-9-10 か-10	方形? - (204) (224) - 48					-	-	P1 40×30×60 P2 54×34×60 P3 (20)×32 ×(5)	H9を切る。
H18	つ-24-25 て-25	竪丸方形? (460) - - (480) 72					N-20°-W	北壁	P1 124×96×97 P2~P7 は壁柱間。床面から の深さP2がF41 P3がF26 P4がF13 P5がF22 P6がF25 P7がF37	H19を切る。壁柱穴。
H19	つ-24	方形 (120) - - (230) 57					N-20°-W	-	P1 <40>×34×26	H18に切られる。
H20	き・く-14	? - - - 20					-	-	P1 <104>×<34>×50 P2 36×30×15	H3・H7に切られる。
H21	い-4-5	竪丸方形? (180) - (100) - 26					N-23°-W	-	-	H12・F3・P41・P111・ P112・P115に切られ。 H16を切る。
H22	て-と-27	竪丸方形? - (60) - (260) 61					N-80°-E	東壁	P1 60×44×53	H23を切る。
H23	と・お-26 27	竪丸方形? - (90) - (160) 42					N-20°-W	北壁	P1 <40>×<40>×34 P2 32×22×20 P3 34×30×27	H22に切られる。
H24	ち-21-22	竪丸方形 (230) (224) 268 - 45					N-40°-W	北壁	P1 36×26×17 P2 46×22×13 P3 <30>× <20>×<17> P4 42×36×23	H25を切る。
H25	た-20-21 ち-21-22	方形? (南北軸長660) (44) (104) - - 30					N-30°-W	-	P1 <68>×52×56 P2 92×56×44 P3 <84>×68×64	H24・H26に切られる。
H26	た-ち-20- 21	竪丸方形? - (188) 500 - 86					N-15°-W	-	P1~P3壁柱。住居址上端からの深さP1 51 P2 44 F3 16	H25を切る。D10・ P73・P74に切られる。
H27	そ-20	竪丸方形? (110) (50) - 270 63					N-20°-W	北壁	-	D11・P65・P66・P95 に切られる。



- Ia層 道路砕石部分
- Ib層 道路
- II層 耕作土
- III層 暗褐色土(10YR3/4)
- IV層 暗褐色土(10YR3/3) 砂層(〜49〜52) しまりあり、ローム粒子少量含む。
- V層 暗褐色土(10YR3/3) 粘質少しある。 赤生・縄文土器を上部に含む。
- VI層 暗褐色土(10YR3/4) VII層への漸移層 軽石多く含む。
- VII層 明黄褐色・黄褐色にふい、黄橙色 浅間火山軽石流の堆積物

標準土層図 (NTIVふ-50グリット)



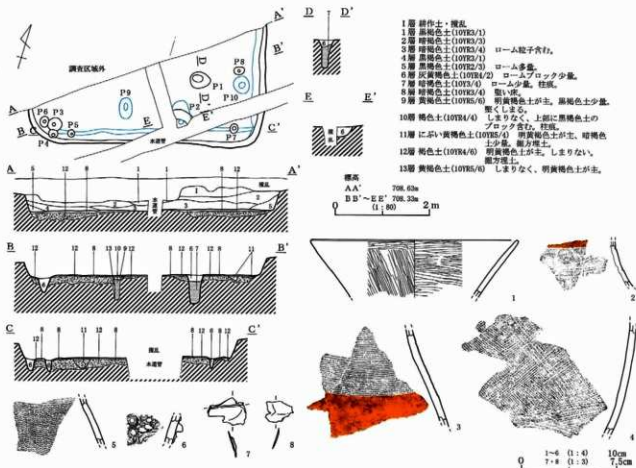
第52図西近津遺跡IV調査全体図

第3章 西近津遺跡IV

第1節 竪穴住居址

(1) H1号住居址

お・か-4Grにある。ピットは10個検出された。東西に長い長径30cm短径20cmを測る五平状の柱痕が確認されたP1は支柱穴とみられる。P10は床下から検出され、南北に長い長径30cm短径12cmを測る五平状の柱痕が確認された。P2は出入口施設であろうか。敷き床の床面は堅く平坦である。



第53図 H1号住居址

第30表 H1号住居址出土遺物観察表

(cm-g)

H1		遺物				測定値(<=)残存値<>丸底・			
No.	種類	口径(長)	底径(幅)	厚さ(深)	内面	外面	備考	出土位置	
1	弥生土器	甕	(22.0)	-	<6.1>	ヘラミガキ		No.2	
2	弥生土器	甕	内面 ナガ。外面 ヘラ指線縦文→ヘラ指線縦文→赤色塗彩			ヘラミガキ		後期	
3	弥生土器	甕	内面 ナガ。外面 縦線縦文→赤色塗彩					後期	
4	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 縦線縦文					No.1	
5	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 縦線縦文→横線縦文					後期	
6	縄文土器	深鉢	B字粘付文から瓦状の形み残存。					後期	
No.	種類	素材	最大径	最大厚	最大厚	重量	所	見	出土位置
7	不明	鉄	大<3.0>	<2.1>	<0.25>	<1.80>	2片が貼りついている。同一個体か?		後土
8	不明	鉄	小<2.1>	<1.6>	<1.0>	<0.55>	2片が貼りついている。同一個体か?		後土

遺物は無彩の甕(1)、赤彩の甕(2・3)、甕(4・5)の弥生土器、不明鉄器、本址に伴わない縄文時代後期前葉の堀之内2式深鉢片がある。栽培種の炭化したモモが3個検出された。内1個に種子がみ

られた。1・4が床面から出土した。

2の壺頸部にはヘラ描横走文の区画内にヘラ描斜走文、3の壺頸部には櫛描横走文が施文される。3の甕には櫛描波状文が、4の甕には櫛描斜走文が雑な格子目状に施文される。

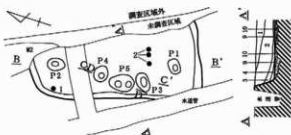
本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(2) H 2号住居址

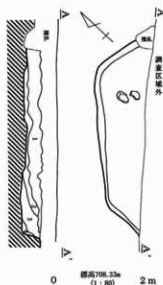
さ・し-7・8 Grにある。底面は凸凹し、敲き締まった状態ではなく、平面形も方形・円形状ではない。竪穴住居址として扱ったが他の用途を考慮しなければならない。出土遺物は、縄文時代後期前葉の堀之内2式深鉢片1点のみである。本址の時期等不明である。

(3) H 3号住居址

き-4・5 GrにありM2に切られる。ピットは5個検出された。



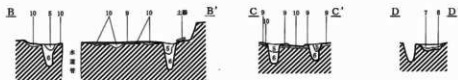
P1・P2は主柱穴とみられる。P3・P4・P5は南壁下にあり出入り口の施設であろう。敲き床の床面は堅く平坦で



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)
- 2層 黒褐色土(10YR4/2) ローム少量
- 3層 黒褐色土(10YR4/1) シルト質土ブロック 黒褐色土ブロック含む
- 4層 褐色土(10YR4/4) ローム少量

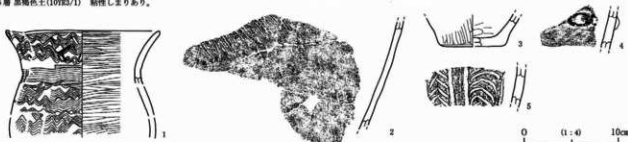


第54図 H 2号住居址



- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土のP1ブロック少量
- 2層 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土と黒褐色土の小ブロック多量
- 3層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質しまりあり、灰白色の軽石少量
- 4層 黒褐色土(10YR2/2)
- 5層 黒褐色土(10YR2/1) 粘性しまりあり

- 6層 暗褐色土(10YR2/3) しまりない
- 7層 におい黄褐色土(10YR4/3) ローム多量
- 8層 におい黄褐色土(10YR4/2) ローム少量
- 9層 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム含む、堅い砂
- 10層 褐色土(10YR4/4) ローム土、硬方土



第55図 H 3号住居址

第31表 H 3号住居址出土遺物観察表

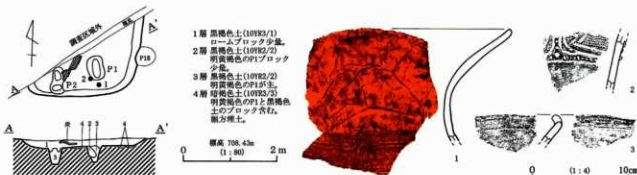
H3		法		成形・調査・文様		指定遺物(預り済) > 9.15		
No.	種別	口徑(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生土器	16.3	-	<11.4>	ヘラミガキ	櫛形波状文・櫛形横走文	完全実用	No.2 乙
2	弥生土器	空	(7.0)	<3.4>	ヘラナデ	ヘラミガキ	印籠実用	層土
3	弥生土器	壺			ヘラミガキ	櫛形波状文	弥生後期	No.3-4-5
4	縄文土器	深鉢			横位庄痕跡付隆帯		後期前半	Ⅱ区層土
5	縄文土器	深鉢			緑色の沈線、短沈線文・斑状沈線		中期後半	Ⅱ区層土

ある。遺物は壺(3)、甕(1・2)の弥生土器、本址に伴わない縄文時代中期後半・後期前半の深鉢片がある。1は櫛描波状文の後櫛描縹状文、2は櫛描斜走文が施文される。

本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(4) H 4号住居址

う-2GrにありP18に切られる。ピットは3個検出された。P1・P2は主柱穴とみられる。全体に床面は平坦、P1・P2間は特に堅く敲き締められている。1層には幅12cm長さ60cmの板状の炭



第56図 H 4号住居址

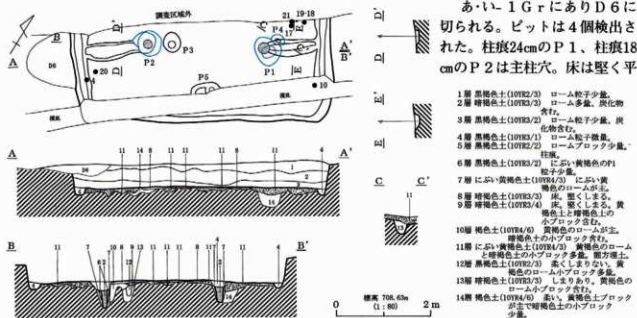
第32表 H 4号住居址出土遺物観察表

No.	種別	形状	成形・調整・文様	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	櫛描T字文。赤色塗彩		弥生後期箱清水
2	縄文土器	深鉢	横位刻み隆線の円形匙付文から上方に斜み隆線。2条の沈線。縄文LR。	堀之内1	No.3
3	縄文土器	深鉢	□線刻み内	堀之内1	覆土

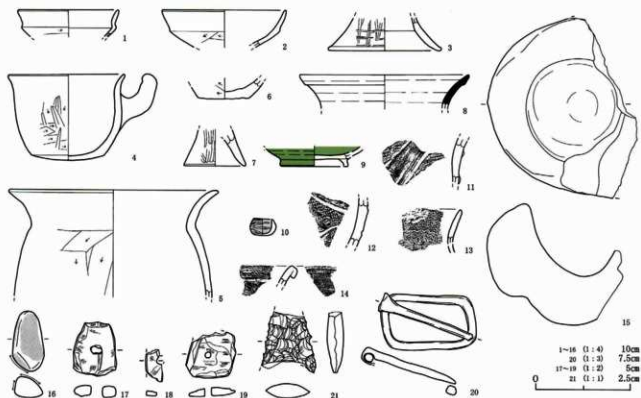
(cm・g)

化材がみられた。遺物は、1の赤色塗彩され頸部に櫛描T字文の壺、本址に伴わない縄文時代後期前葉堀之内1式の深鉢片がある。本址は、少ない出土遺物であるが弥生時代後期箱清水期に位置づけよう。

(5) H 5号住居址



第57図 H 5号住居址(1)



第58図 H5号住居(2)

第33表 H5号住居址出土遺物調査表

(cm・g)

No.	種別	器種	口径(径)	底径(幅)	高さ(厚)	内面	外面	指定遺物() 保存庫<>丸底・	出土位置
1	土師器	環	(10.6)	-	<2.9>	ヨコナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区 Ⅱ区
2	土師器	環	(13.0)	-	<4.0>	ヨコナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区Ⅱ区
3	土師器	高環	-	(12.0)	<3.5>	ヨコナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅰ区ホリ方
4	土師器	把手付鉢	12.3	7.5	9.1	ヨコナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区 No.6
5	土師器	甕	(21.1)	-	<11.3>	口辺部ヨコナデ	ヘラケズリ→口辺部ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区Ⅱ区
6	土師器	甕	-	5.4	<2.1>	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区Ⅱ区
7	土師器	台付甕	-	(6.4)	<3.8>	ヨコナデ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区Ⅱ区
8	土師器	甕	(18.0)	-	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区Ⅱ区
9	灰陶器	碗	-	(7.0)	<2.1>	ロクロナデ、反胎輪軸	ロクロナデ→底部回転糸切り→両台粘付→反胎輪軸	回転実測	Ⅱ区Ⅱ区
10	ヒナツシ	鉢	2.0	2.0	1.8	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	完全実測	No.5
11	縄文土器	深鉢	隆起部文下をなぞる沈線。縄文LR。					中期後葉	Ⅱ区Ⅱ区
12	縄文土器	深鉢	沈線部に縄文LR。					中期後葉	Ⅱ区Ⅱ区
13	弥生土器	甕	ヘラミガキ。帯描波状文→帯描波状文。					後期弥生水	Ⅱ区Ⅱ区
14	弥生土器	甕	ヘラミガキ。折り返し口縁部に帯描波状文。帯描波状文。					後期弥生水	Ⅱ区Ⅱ区
No.	種別	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所	具	出土位置
15	凹石		<19.0>	<15.8>	高さ<13.5>	<2740>	凹窪(11.0)、凹深<7.7>。右側欠損。		Ⅱ区Ⅱ区
16	磨石		6.3	3.3	2.3	64.66	正面・側面にすり面。		Ⅱ区Ⅱ区
17	石製模造品	滑石	2.9	2.2	0.6	7.16	孔径 0.4±0.3併合体欠。		No.3
18	石製模造品	滑石	<1.7>	<0.9>	<0.25>	<0.59>	孔径 推定(0.4)。左側に外欠損。		No.1
19	石製模造品	滑石	<2.4>	<2.6>	<0.5>	<4.29>	孔径0.3。上部欠損。		No.2
20	板瓦	鉄	7.7	4.5	1.3	52.08			Ⅱ区Ⅱ区
21	石鏝	黒曜石	<1.5>	<1.4>	0.4	<0.96>	先端・基部欠損。		No.4

壇。東壁・西壁下を壁溝が巡る。P1とP2から東壁と西壁に間仕切り溝が伸びる。P6は出入り口施設であろうか。2・3層中には炭化物が確認された。

遺物は土師器須恵器环蓋模倣の環1・2、高環3、把手付鉢4、甕5・6、台付鉢7?、内面黒色処

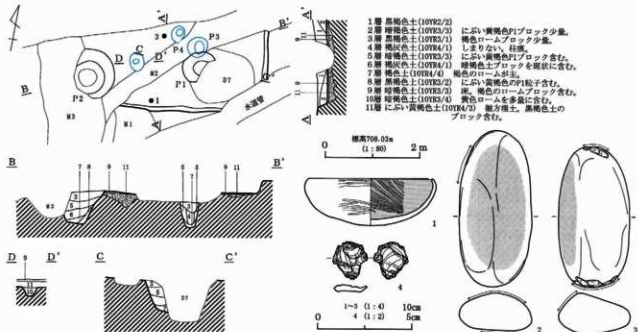
理されるミニチュア鉢、須恵器甕8、鉄製品鉾具20、滑石模造品17~19、凹石15、磨石16、混入遺物の灰釉陶器碗9、石鏃21、縄文中期後葉深鉢片、弥生後期甕片が出土した。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(6) H 6号住居址

く・け-5・6Grにあり、M1・M2・M3・D7に切られる。ピットは5個検出された。P1・P2が主柱穴とみられる。径20cmの柱痕が確認されたP3は、P1より古い。P4・P5は掘方で検出された。全体に床面は堅く平坦。

遺物は、半球状の内面黒色処理される土師器環1、磨面を持つ敲石2・3、2次加工のある剥片が出土した。本址の時期は、出土遺物少量で不明と言わざるを得ない。



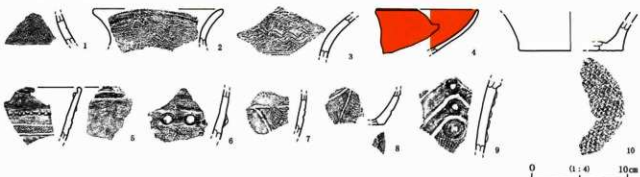
第59図 H 6号住居址

第34表 H 6号住居址出土遺物観察表

(cm-g)

H6		法量		内面		成形・調整・文様		外面		備考	
No.	類別	口径(径)	底径(径)	最大径	最大厚	重量	形状	表面	形状	出土位置	出土位置
1	土師器 環	11.2	-	5.0			壁かむへうミガキ→黒色処理	へうミガキ	泥	穴土裏側	No.2
2	磨-敲石		最大径	最大径	最大厚	重量					出土位置
3	磨-敲石		16.5	7.7	4.1	810.91	左側に細かな。正面にすり面。				No.3
4	二次加工のある剥片		14.9	7.4	4.5	764.09	上下端部に鋭き打痕。正面にすり面。				No.1
			2.0	1.8	0.4	1.28	正面に二次加工。				I区黒土

(7) H 7号住居址

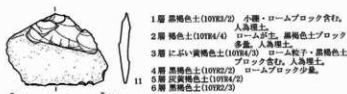


第60図 H 7号住居址(1)

第35表 H7号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	形状	文様・調整	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	内面 ナデ、外面 ヘラ描横走文内にヘラ描斜走文。	後期	覆土
2	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。	後期	覆土
3	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描斜走文。	後期	覆土
4	弥生土器	鉢	内面 ヘラミガキ→赤色塗彩。外面 ヘラミガキ→赤色塗彩。	後期	覆土
5	縄文土器	深鉢	口縁下に横刻羽状隆線 平行沈線間に縄文L状突起。内面 口縁に沿う2条の沈線。	縄文内2	覆土
6	縄文土器	深鉢	横刻羽状隆線。	後期初頭～前半	覆土
7	縄文土器	深鉢	沈線区部内に縄文L。	称名寺?	覆土
8	縄文土器	深鉢	縦刻・斜色の沈線。縄文L。割代器。	称名寺?	覆土
9	縄文土器	深鉢	3個のボタン状突起彫刻から左右に斜位に垂下する沈線。縄文L状突起。	縄文内1	覆土
10	縄文土器	深鉢	割代器。2本縄2本溝り。底部縁部にL以外の縦管2本縄2溝り。	後期前半	覆土
11	スレイバー				出土位置

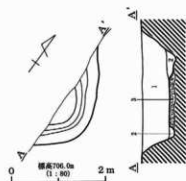


め-26~28Grにあり、H8・P148に切られ、D8を切る。ピットは2個検出され、主柱穴P1とP2の柱間は3m。床は堅く平坦で掘方はみられなかった。西壁下に壁溝が検出された。覆土1~3層は人為埋土である。遺物は壺(1)、甕(2・3)、鉢(4)の弥生土器、本址に伴わない縄文時代後期初頭・前葉・前半の深鉢片、削器がある。1はヘラ描横走文内に横位羽状のヘラ描斜走文、2・3には櫛描波状文が施文される。4は内外面赤色塗彩。

本址は、弥生時代後期稍清水期に位置づけられる。

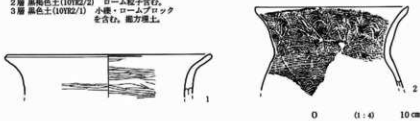
(8) H8号住居址

め-27Grにあり、H7を切る。床は堅く平坦である。東壁・南壁下に壁溝が検出された。



第62図 H8号住居址

調査範囲内では、カマド・柱穴等検出されなかった。遺物は唯一1の土師器甕が図示できた。2の弥生時代後期の甕は、H7に帰属するものとみられる。本址の時期等不明である。



第36表 H8号住居址出土遺物観察表

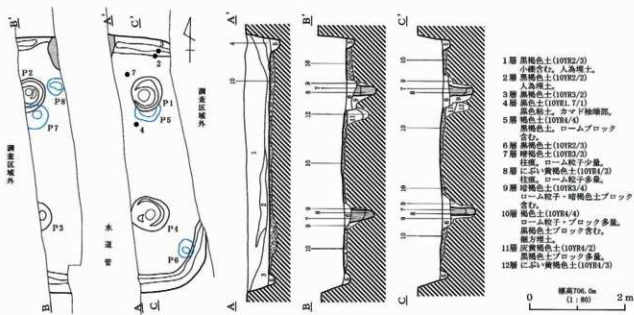
(cm・g)

No.	種別	形状	法	文様・調整	文様	備考	出土位置
1	土師器	甕	(22.0)	<4.5>	ヘラミガキ	口辺部コナデ→ヘラミガキ?	後期
2	弥生土器	甕					H7

(9) H9号住居址

む・め-29-30Grにあり、H10を切る。カマドは北壁中央にあり、黒色粘土で構築された袖部分が確認された。ピットは6個検出された。柱痕20~25cmの主柱穴P1~P4は、梁行き・桁行き共に240cmを測る。P5・P7は位置的にP1・P2の古い主柱穴であろう。床は堅く平坦。カマド両脇・東壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層は人為埋土。

遺物は土師器杯18、甕6、須恵器杯1~4、鉢5、壺7、甕8、蓋9がある。縄文時代中期後葉・後期堀之内1式・堀之内2式の土器片・26の使用痕ある剥片は、混入遺物である。1の底部は内面黒色

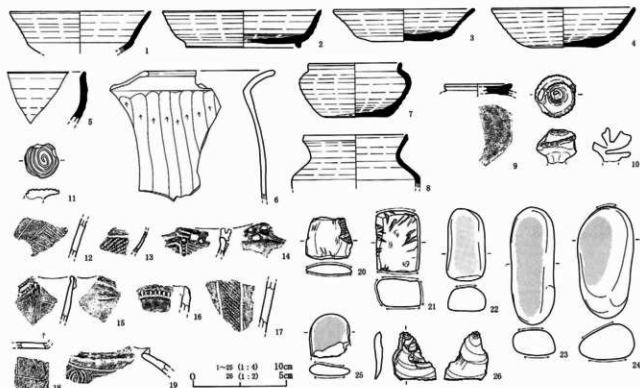


第63図 H9号住居址(1)

第37表 H9号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H9		法 量		成 形・装 飾・文 様		測定値()	検出層	
No.	種別	口径(φ)	底径(φ)	底高(高)	内 面	外 面	出 土 位 置	
1	須恵器 杯	(15.0)	(11.4)	<4.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	堀之内1 I区層土	
2	須恵器 杯	16.7	12.0	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切欠ヘラケズリ→高台付付	完全実用 No.1	
3	須恵器 杯	(15.0)	(10.2)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切欠し履し手持ちヘラナデ	図録実用 No.2	
4	須恵器 杯	15.3	8.2	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実用 No.4	
5	須恵器 鉢	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	図録実用 II区層土	
6	土師器 甕	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	図録実用 II区層土	
7	須恵器 壺	(10.0)	(7.0)	5.7	ロクロナデ	ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ	図録実用 No.3	
8	須恵器 壺	(11.0)	-	<5.6>	ロクロナデ。自然釉付着	ロクロナデ。自然釉付着	図録実用 II区層土	
9	須恵器 蓋	-	(7.0)	<1.3>	ロクロナデ。水堀痕あり	ロクロナデ→面状つまみ付付	図録実用 I区層土	
10	縄文土器 深鉢	把手。頂部と左右から唇孔。らせん状の刻み痕。右の唇孔縁どる刻み痕。					堀之内2 II区層土	
11	縄文土器 深鉢	小把手。淵縁状沈線。					堀之内2 II区層土	
12	縄文土器 深鉢	縄文LRを光線する平行沈線から斜色の6本の沈線。					堀之内2 II区層土	
13	縄文土器 ミニチュア土器?	横位沈線。縄文LR光線。					堀之内2 II区層土	
14	縄文土器 深鉢	口縁部内折。内孔えお付突起。口唇部と内孔間下に円形刻突。円形刻突から刻み痕等となる沈線。その端部に集合沈線。					堀之内1 II区層土	
15	縄文土器 深鉢	口縁部内折。淵縁部の刻突も付付から口縁に沿って刻み痕等。三角文の沈線。					堀之内2 II区層土	
16	縄文土器 深鉢	淵縁部が縁下下きなる沈線。					堀之内1 II区層土	
17	縄文土器 深鉢	縁下する沈線間に地文残存。					堀之内1 II区層土	
18	土師器 杯	内面ヘラキキ→高色処理。外面 底部手持ちヘラケズリヘラ記号[+]。					II区層土	
19	縄文土器 注口土器	横位沈線下に集合沈線の対照状況。縄文LR。					堀之内1 II区層土	
No.	種 類	材	最大長さ	最大太さ	最大厚さ	重 量	所 属	出 土 位 置
20	砥石		4.5	4.9	1.1	27.80	縦向き2。正面向りに研り状の多層。欠損後も使用か。	I区層土
21	砥石	蚌石	6.5	4.7	2.9	36.68	縦向き数。正面向りに研り状の多層。欠損後も使用か。	II区層土
22	砥石		7.7	4.1	2.6	137.83	正面向りに研り。	II区層土
23	磨石		12.4	4.6	2.8	277.68	正面向りに研り。	II区層土
24	磨・磨石		11.9	5.9	5.0	437.41	正面向りに研り。上端部に磨打痕。	II区層土
25	磨石		<4.6>	<4.3>	<1.4>	<33.07>	被熱あり? (一部赤化)。下部欠損。正面向りに研り。	II区層土
26	使用痕のある剥片	黒曜石	2.5	2.3	0.4	1.66	右端と下端部は使用痕か。	II区層土



第64図 H9号住居址(2)

処理、底部手持ちヘラケズリされ、ヘラ記号「+」がみえる。3・4・7の底部は手持ちヘラケズリされる。7は短頸壺、8は頸部が捩れ口縁部が短い。9の蓋は皿状のつまみを持つ。

本址は、これらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

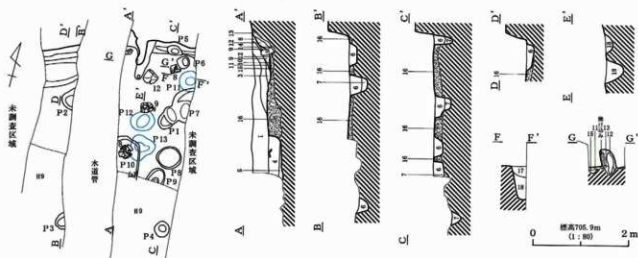
(10) H10号住居址

む-29Grにあり、H9に切られる。カマドは北壁中央にあり、黒色粘土・黒褐色土と礫で構築されている。火床に支脚石が残存する。ピットは13個検出された。主柱穴P1~P4は、桁行き240cm・梁行き220cmを測る。P11~P13は掘方で確認された。床は堅くて平坦である。カマド東の北壁下に壁

第38表 H10号住居址出土遺物観察表

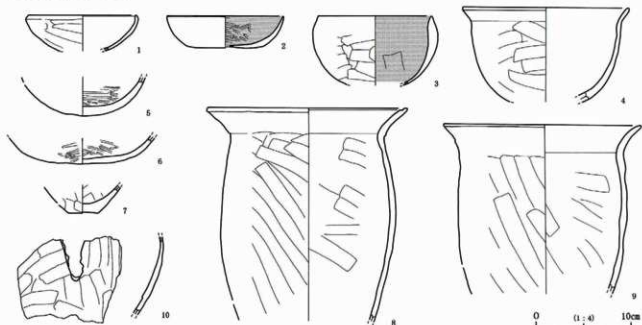
(cm・g)

H10		測 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		指 定 値 () 検 出 数 () 出 土 位 置	
No.	種 別	口径(径)	底径(幅)	底径(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器 環	(11.5)	-	<3.8>	ナデ	ナデヘラケズリ	図録実測	1区覆土
2	土師器 環	(12.4)	(6.0)	<3.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ナデ、底部手持ちヘラケズリ	図録実測	P3
3	土師器 鉢	(12.0)	-	<7.3>	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ→黒色処理	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	図録実測	3区覆土
4	土師器 鉢	(17.5)	-	<10.0>	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	図録実測	3区覆土
5	土師器 鉢	-	-	<4.1>	ヘラミガキ	摩耗している	図録実測	3区覆土
6	土師器 鉢	-	(7.0)	<2.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	図録実測	1区覆土
7	土師器 壺	-	3.2	<3.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	図録実測	内面 有輪物付着 1区覆土
8	土師器 壺	21.3	-	<22.6>	ヘラナデ、口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.4
9	土師器 壺	20.8	-	<17.9>	ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.2
10	土師器 壺	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズリ、焼成後穴状加工あり	図録実測	3区覆土
11	土師器 壺	-	-	<30.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ	図録実測	P1 P2
12	土師器 壺	22.0	-	<28.5>	ハケ目→ヘラナデ、口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→ハケ目ヘラケズリ	完全実測	No.3
13	縄文土器 深鉢	底径径 6.5、弧状沈線、縄文LR、底部 木罨痕?					後期切取	カマド
14	縄文土器 深鉢	口縁部下に微隆起等文、縄文LR。					中期後葉	1区覆土
15	縄文土器 深鉢	口縁部下に微隆起等文、縄文LR。					中期後葉	3区覆土
16	縄文土器 深鉢	弧状口縁、口縁部下に刻み隆線、縄文LR。					後-内2	3区覆土
17	縄文土器 深鉢	輪位の斜み発明、くじの字口縁に最大隆、土師器外底ヘラケズリ。					後期前葉	1区覆土
No.	器 種	器 材	最大径	最大径	最大径	重量	所 属	出土位置
18	磨石		<10.3>	<6.6>	<10.8>	<550.91>	板敷あり? (表面赤化)左側に外欠損、正面にすり傷。	1区ホリ目



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) ぶい黄褐色土ブロック・小礫少量。
 2層 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量。
 3層 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物微量。
 4層 暗褐色土(10YR3/3) 小礫微量。
 5層 黒褐色土(10YR2/3)
 6層 黒褐色土(10YR3/2) ぶい黄褐色土ブロック少量。
 7層 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量。
 8層 暗赤褐色土(5YR3/6) 焼土粒子少量。
 9層 暗赤褐色土(5YR2/3) 炭化物・焼土粒子少量。
 10層 灰褐色土(5YR4/2) 灰が土。

- 11層 赤褐色土(2.5YR4/6) 焼土。
 12層 黒褐色土(5YR2/2) 黒色粘土ブロック多量。焼土粒子少量。
 13層 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘土ブロック多量。炭化物・ローム粒子とブロック少量。
 14層 黒褐色土(10YR2/3) 粘土ブロック微量。
 15層 暗赤褐色土(5YR3/3) 焼土粒子・粘土ブロック微量。
 16層 ぶい黄褐色土(10YR5/3) ぶい黄褐色土ブロック主。
 17層 黒褐色土(10YR3/2) ぶい黄褐色土ブロック少量。
 18層 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量。

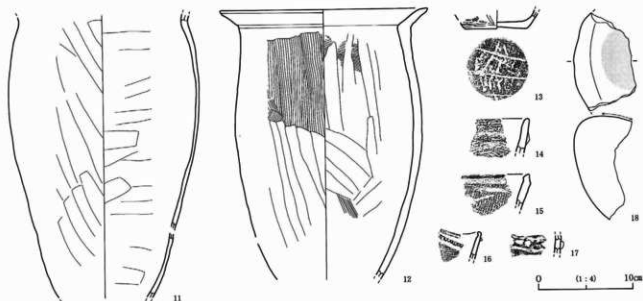


第65図 H10号住居跡(1)

溝が認められた。カマド西側に深さ20cmの掘り込みがみられた。9・12がカマド南側の床面から出土し、8がカマド東床面とP10内出土片が接合、11がP7・P10内出土片が接合した。

遺物は、1・2の土師器坏、3～6の鉢、7～12の甕、18の磨石、本址に伴わない13～17の縄文時代中期後葉～後期前半の深鉢片が出土した。土師器坏は半球状の1、内面黒色処理され底部手持ちヘラケズリの2がある。土師器甕は8・11の武蔵甕と9・12の長い胴部の甕がある。8・9・12は口縁部に最大径を持つ。10の胴部片には、焼成後の穴状の加工が見られる。

本址は、これらの遺物から古墳時代7世紀末に位置づけられる。



第66図 H10号住居跡(2)

(11) H11号住居跡

は-72~74Grにあり、D36に切られる。炉は支柱穴P1・P2間にある。炉は4の壺底部を用いた埋燵²で、25cm程掘りこまれている。壺底部内部に少量の炭粒子が、壺の外周に多量の炭粒子がみられた。炉の掘方正面は被熱で変色していた。ピットは7個検出され、P1~P3の支柱穴から五平状柱痕が確認された。P4は棟持柱、P5~P7は出入口施設と考えられる。P5の柱痕24cmであった。P1とP3の桁行き310cm・P1とP2の梁行き180cm測る。敷き床の床面は堅く平坦で、壁際を除く床面直上に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

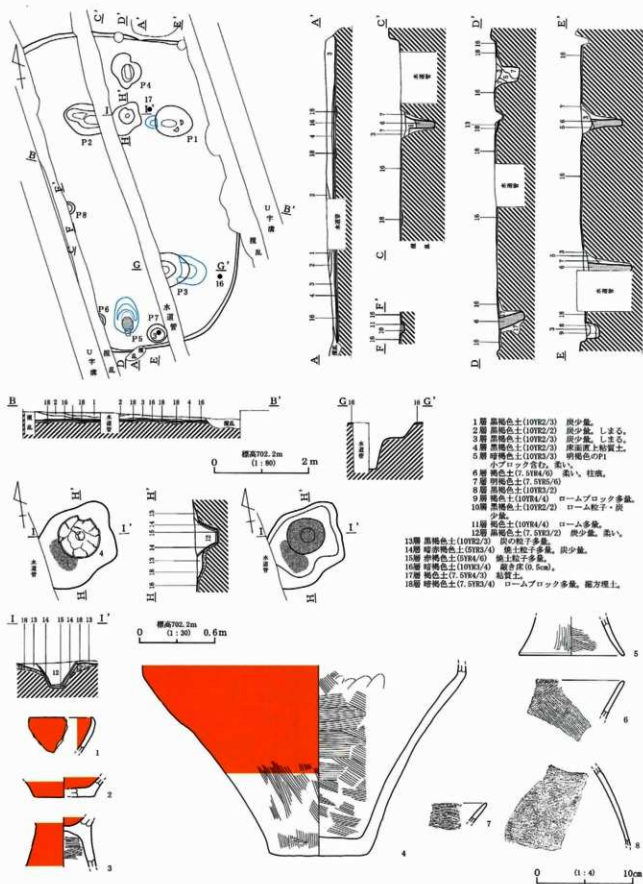
遺物は鉢・壺・甕・高坏の弥生土器、金属製品16、砥石15、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢片がある。1・2は内外面赤色塗彩の鉢、3は赤色塗彩される高坏、4は炉に埋設された胴下部の括れより下まで赤色塗彩の壺、8は無彩の壺、13の赤色塗彩の壺は頸部にへら描斜走文施文される。6~12は櫛描波状文・斜走文・縲状文が施される甕、6の口唇部に刻目がある。5は台付甕であろう。16は白銅製であろう、1孔がみられる。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第39表 H11号住居跡出土遺物観察表

(cm-g)

H11		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定産地()	携 帯 性 < >	出 土 位 置
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	
1	弥生土器	鉢	-	-	<3.7>	へらミガキ→赤色塗彩	へらミガキ→赤色塗彩	破片実測	I区層土
2	弥生土器	鉢	-	(6.2)	<2.1>	へらミガキ→赤色塗彩	へらミガキ→赤色塗彩	回転実測	縄文土
3	弥生土器	高坏	-	-	<5.3>	胴部へらミガキ→赤色塗彩。脚部ハケム	胴部へらミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.4
4	弥生土器	壺	-	10.4	<20.4>	ハケ目	胴部へらミガキ→赤色塗彩。下部ハケ目	完全実測	No.5
5	弥生土器	台付甕	-	(10.8)	<4.1>	ハケ目	へらミガキ	回転実測	縄文土
6	弥生土器	甕	内面	へらミガキ。外面	櫛描斜走文横位羽状。口唇部に刻み目。			後期	II区層土
7	弥生土器	甕	内面	へらミガキ。外面	櫛描波状文。			後期	IV区層土
8	弥生土器	甕	内面	ナツ。外面	櫛描縲状文。横位斜走文。			後期	P5
9	弥生土器	甕	内面	へらミガキ。外面	櫛描波状文。			後期	II区層土
10	弥生土器	甕	内面	へらミガキ。外面	櫛描斜走文→櫛描斜走文を横位羽状。			後期	P2
11	弥生土器	甕	内面	へらミガキ。外面	櫛描縲状文。			後期	II区層土
12	弥生土器	甕	内面	へらミガキ。外面	櫛描斜走文。横位羽状。口唇部内湾気味に立ち上る。			後期	IV区層土
13	弥生土器	甕	内面	ナツ。外面	へら描斜走文・赤色塗彩。			後期	IV区層土
14	縄文土器	深鉢			所携形製土器。横位槽帯。			後期前半	II区層土
No.	器 種	材	最大径	最大幅	最 厚	用 具			出 土 位 置
15	砥石		9.1	5.3	2.5	216.95	扉蓋敷4。上下両面に磨打痕。		縄文土
16	金属製品?	(白銅か?)	<1.9>	<1.5>	<0.3>	<6.37>	穿孔と尖磨あり。下部欠損。		No.2
17	石 器	黒曜石	2.2	1.7	0.4	1.00			No.1

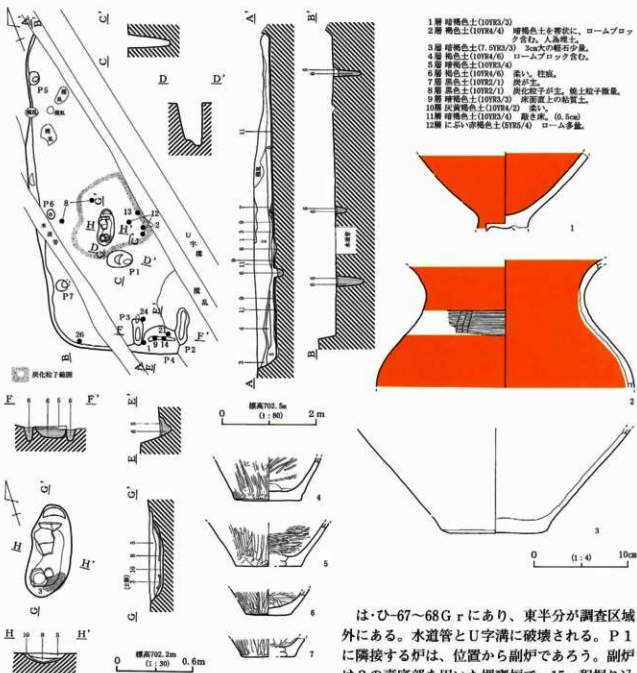


第67図 H11号住居跡(1)



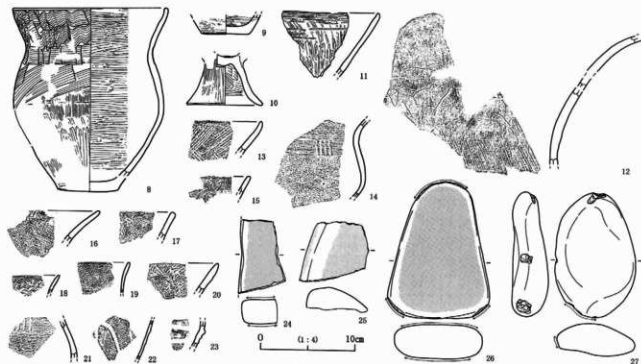
第68図 H11号住居址(2)

(12) H12号住居址



第69図 H12号住居址(1)

は・ひ-67~68Grにあり、東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。P1に隣接するHは、位置から副炉であろう。副炉は3の壺底部を用いた埋甕炉で、15cm程掘り込



第70図 H12号住居址(2)

まれている。さらに赤彩の壺脚部片を敷き詰めてもいる。3の壺付近が被熱で赤変していた。炉の周辺は、粒子状の炭が床面に張り付くようにみられた。

ピットは7個検出され、P1の主柱穴は掘方の形状から五平状の柱が想定される。P2～P4は出入口施設と考えられる。西壁に接するP5や西壁に近接するP6・P7の柱径10～20cmであった。

敷き床の床面は堅く平坦で、H11と同様に壁際を除く床面直上に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

第40表 H12号住居址出土土物観察表

(cm・g)

H12		位置		形状・観察・文様		測定値()残存量<>丸皿・			
No.	層別	縦径	口径(横)	底径(縦)	底径(横)	内径	外径	備考	出土位置
1	弥生土層	高坪	-	-	<8.3>	底部ヘラミガキ→赤色塗彩。胴部ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.14 S区
2	弥生土層	壺	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→縦線状文(口縁止)→赤色塗彩	目録実測 内腹実測	No.11 No.12 S5S
3	弥生土層	壺	-	11.2	<11.2>	胴部・縁料のため判別不能	胴部ヘラミガキ→赤色塗彩。底部ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.2
4	弥生土層	壺	-	7.1	<4.6>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	S区覆土
5	弥生土層	壺	-	7.0	<4.6>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ(横ミガキ)。底部ヘラミガキ	目録実測	S区覆土
6	弥生土層	壺	-	4.9	<2.9>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	S区覆土
7	弥生土層	壺	-	6.0	<2.0>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	目録実測	S区覆土
8	弥生土層	壺	16.5	6.4	19.4	ヘラミガキ	胴部状工によるナデ→胴部縦線状文→口縁部縦線状文と胴部縦線状文→胴部下腹ヘラミガキ	完全実測	No.3 No.4 S区
9	弥生土層	壺	-	5.1	<2.1>	ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ	完全実測	P4
10	弥生土層	有台盤	-	8.0	<5.3>	胴部ヘラミガキ。台部ハケ目→器部コナデ	ヘラミガキ	完全実測	S区覆土
11	弥生土層	鉢	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目録実測	S区覆土
12	弥生土層	壺	内腹口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩。胴部ハケ目。外面ヘラミガキ赤色塗彩。底部ヘラミガキ						
13	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文。						
14	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面口縁部縦線状文。胴部縦線状文→縦線状文						
15	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文。						
16	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文。						
17	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文。						
18	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文。						
19	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文→縦線状文。						
20	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文。						
21	弥生土層	壺	内腹ヘラミガキ。外面縦線状文→横線状文						
22	縄文土層	深鉢	洗滌器内(縄文)穴状。						
23	縄文土層	深鉢	横穴内(分層)をなせる方器。						
No.	層別	縦径	底径	底厚	重量	形状	備考		出土位置
24	礫石	<7.7>	<4.9>	3.8	<174.46>	正面上すり面。左側に穴状。			No.15
25	礫石	<6.4>	<7.3>	3.7	<162.74>	全面滑面。正面上方にすり面。			P4
26	礫石	14.5	10.9	3.7	937.30	正面上すり面。胴部3ヶ所に縦溝。			No.17
27	礫石	13.0	8.5	3.8	530.37	上下端部と左側に縦溝。			No.16

覆土第2層は、人為埋土であった。遺物の出土状態は、主に炉の周辺とP 4内外に集中している。

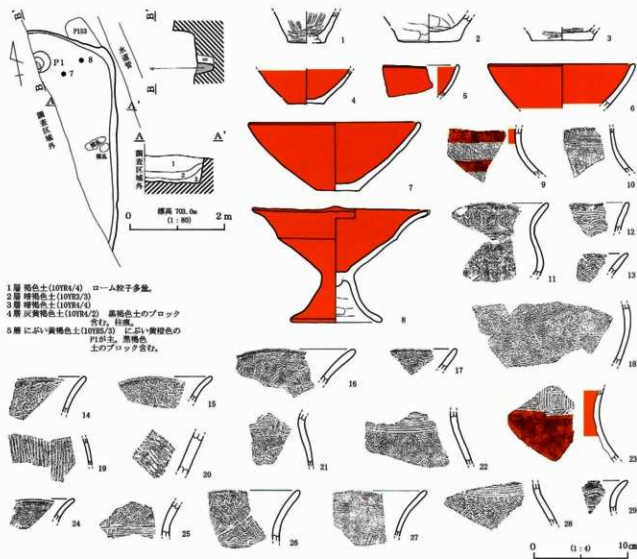
遺物は鉢・壺・甕・高坏の弥生土器、磨石24・25、磨り面持つ敲石26、敲石27、床面出土の炭化したイネ1個、炉内出土獣類の焼骨、本址に伴わない縄文時代後期初頭・前半の深鉢片がある。

11は無彩の鉢、1は赤色塗彩される高坏、3は炉に埋設された壺胴下部、2・12は赤色塗彩される壺で2は胴上部まで赤彩が及ぶ。4～6・8・9・13～21は甕で、内面へラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施文される。8の甕は頭部の櫛描簾状文施文後口縁部に櫛描波状文、胴部に櫛描斜走文が施文される。10の台付甕もある

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(13) H13号住居址

ひ-69GrにありP153に切れ、H16を切る。西半分が調査区域外にある。炉は調査範囲内には見られない。柱痕径20cmのP1は、検出された位置から棟持柱と思われるが、この時期の主柱穴定位置に柱穴が見あたらない。敲き床の床面は堅く平坦で、H11・H12と同じく床下の掘方はほとんど見られない。7の鉢と8の高坏は、P1の東側床面から出土した。



第71図 H13号住居址

遺物は鉢・壺・甕・高坏の弥生土器、縄文時代後期前半の深鉢片がある。

4～7は碗状で赤色塗彩される鉢、8は坏部中に屈曲を持つ赤色塗彩される高坏、9・23の壺は赤色塗彩され、10の壺は無彩である。10・23は簡描T字文、9はヘラ描横走文区画内に段の間隔を開けてヘラ描斜走文が施文される。

1・3・11～19・21～29は甕で、内面ヘラミガキされ外面簡描波状文・斜走文・簾状文が施文される。19の甕は縦位の粗いハケメ調整で胎土が灰色(10YR 8/2)で異質である。東海系の甕であろう。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第41表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H13		法 量			成 形 ・ 装 飾 ・ 文 様		測定値() 残存径 < 外径		
No.	種別	器種	口径(横)	底径(横)	器高(縦)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	弥生土器	鉢	-	(4.0)	<3.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ		甕土
2	弥生土器	鉢	-	(6.6)	<3.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ		甕土
3	弥生土器	鉢	-	(6.4)	<1.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ		甕土
4	弥生土器	鉢	-	3.9	<1.7>	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩		甕土
5	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩		甕土
6	弥生土器	鉢	(15.6)	-	<4.7>	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩		甕土
7	弥生土器	鉢	18.3	4.6	7.2	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩		甕土
8	弥生土器	高坏	18.9	9.7	12.2	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、胴部ヘラミガキ	ヘラミガキ赤色塗彩		甕土
9	弥生土器	甕	内面	胴部までヘラミガキ赤色塗彩、外面	ヘラミガキ	斜走文	段の間隔を開けて簡描波状文。		甕土
10	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描T字文	ヘラミガキ	無彩。		甕土
11	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	口縁部と胴部簡描波状文	無彩。			S区甕土
12	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				甕土
13	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				甕土
14	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				甕土
15	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				甕土
16	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				甕土
17	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				S区甕土
18	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				甕土
19	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	縦位の粗いハケメ調整。				S区甕土
20	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢		東海系? 甕土灰 地味暗色(10YR8/2)
21	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	口縁部と胴部簡描波状文	無彩の簡状文。			後編前半
22	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文	無彩の簡状文。			甕土
23	弥生土器	甕	内面	胴部まで赤色塗彩、外面	胴部T字文	ヘラミガキ、赤色塗彩。			甕土
24	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文	口縁部簡状文。			甕土
25	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文	無彩の簡状文。			甕土
26	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文	無彩の簡状文。			カクラン
27	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				S区甕土
28	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文	無彩の簡状文。			S区甕土
29	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	簡描波状文。				甕土

(14) H14号住居址

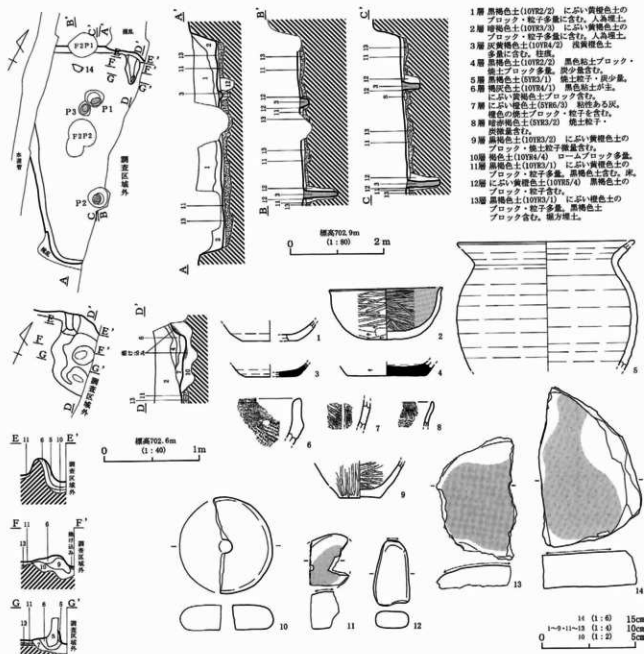
ひ-67-68GrにありF2に切られる。東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。カマドは北壁中央に、褐灰色土・黒色粘土と礫で構築されている。袖は地山削り出しで袖部先端と中程に礫を立てる。

径20cmの柱痕が確認された主柱穴P1・P2の柱穴間、所謂「桁行き」は200cmを測る。P1の西脇に径20cmの柱痕が確認されたP3が検出された。P1とP2の間の床下から水平状態で長辺20cmの平石

第42表 H14号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H14		法 量			成 形 ・ 装 飾 ・ 文 様		測定値() 残存径 < 外径		
No.	種別	器種	口径(横)	底径(横)	器高(縦)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	坏	-	(5.8)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り		後編後半
2	土師器	坏	(12.0)	-	<5.4>	ヘラミガキ、黒色地味	ヘラズリ→ヘラミガキ		後編後半
3	須恵器	鉢	-	(5.4)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り		カクラン
4	須恵器	鉢	-	(8.4)	<1.4>	ロクロナデ	ヘラズリ、底部回転糸切り		後編後半
5	土師器	ロクロナデ	(18.6)	-	<13.7>	ロクロナデ	ロクロナデ		S区F2P3
9	弥生土器	甕	-	4.4	4.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ		甕土
10	鈿師器	甕	5.1	<3.1>	<1.3>				後編後半
6	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢		後編後半
7	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢		後編後半
8	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ、外面	口縁部と胴部簡描波状文	無彩の簡状文。			甕土
No.	器 種	材	最大径	最大径	重量	所 属		出土位置	
11	礫石		<5.5>	<4.1>	<3.9>	周縁欠損、正面が使用部。		甕土	
12	礫石		6.9	3.8	1.8	上縁部に削り付。		後編後半	
13	台石		<12.9>	<8.5>	<2.3>	<314.56> 全周欠損、正面にすり傷。		甕土	
14	台石		25.3	16.5	6.1	3880.00 被熱灰(一部黒化)、正面が使用部。		No.1	



- 1層 黒褐色土(10YR2/2) にぶい黄褐色土のブロック・粒子多量を含む。人糞土。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2) にぶい黄褐色土のブロック・粒子多量を含む。人糞土。
- 3層 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄褐色土多量を含む。柱痕。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2) 黒色粘土ブロック・粘土ブロック多量。灰少量含む。
- 5層 黒褐色土(10YR2/1) 粘土粒子・灰少量。
- 6層 黒褐色土(10YR4/1) 黒色粘土が主。にぶい黄褐色土ブロック含む。
- 7層 にぶい黄褐色土(5YR6/3) 粘性ある灰。褐色の粘土ブロック・粒子を含む。
- 8層 黒褐色土(10YR2/2) 粘土粒子・灰少量含む。
- 9層 黒褐色土(10YR2/2) にぶい黄褐色土のブロック・粘土粒子多量を含む。
- 10層 黒褐色土(10YR4/4) ロームブロック多量。
- 11層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土のブロック・粒子多量。黒褐色土含む。灰。
- 12層 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐色土のブロック・粒子含む。
- 13層 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土のブロック・粒子多量。黒褐色土ブロック含む。灰少量。

第72図 H14号住居址

がみられた。P1の立て替えが行われたのであろうか。床は堅く敷き締められ平坦である。

覆土1・2層は、にぶい黄褐色の地山土が多量に混じった人為埋土。

遺物は土師器1・2・5、須恵器3・4、磨石11、蔽石12、白石13・14、土製紡錘車10、混入遺物の縄文時代中期後葉の深鉢片、弥生時代後期甕片がある。

1の土師器環・3の須恵器環は底部回転糸切り、5は土師器ロクロ甕である。

本址は、これらの遺物より平安時代9世紀代に位置づけられよう。

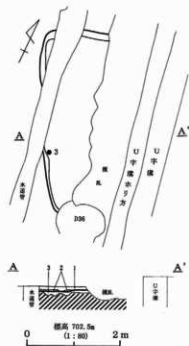
(15) H15号住居址

ひ-71・72GrにありD36に切られる。東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。カマドや柱穴等調査範囲内では、確認されなかった。床面は軟弱で、平坦ではない。

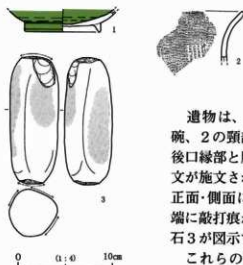
第43表 H15号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H15		法 量				成 形 ・ 装 飾 ・ 文 様		測定値 () 残存値 < > 凡誌・	
No.	種別	器種	口径(横)	底径(横)	器高(縦)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	灰胎陶器	碗	-	(8.0)	<12.4>	口クロナデ、胎輪	口クロナデ、胎輪		は71 覆土
2	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 頸部縞線状文→口縁部-頸部縞線状文。						後期 覆土
No.	器 種	材 質	最大径	最大高	重 量	所 属		出土位置	
3	磨・胎石		13.5	5.0	588.29	上下両面に磨打痕。正面・両側にすり面。		No.1	



- 1層 黄褐色土(101R3/2) 炭化粒子少量。
2層 黄褐色土(101R3/4) ロームブロック多量。
3層 褐色土(101R4/6) 明黄褐色土が混入。



第73図 H15号住居址

遺物は、1の灰胎陶器碗、2の頸部縞線状文の後口縁部と胴部に縞線状文が施文される弥生後期型、正面・側面にすり面、上下端に敲打痕が認められる敲石3が図示できた。

これらの遺物・遺構の状況では、本址時期等詳細は不明と言わざるを得ない。が、1から平安時代であろうか。

(16) H16号住居址

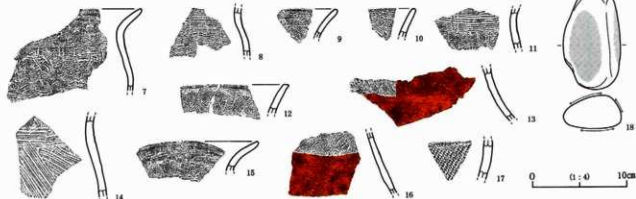
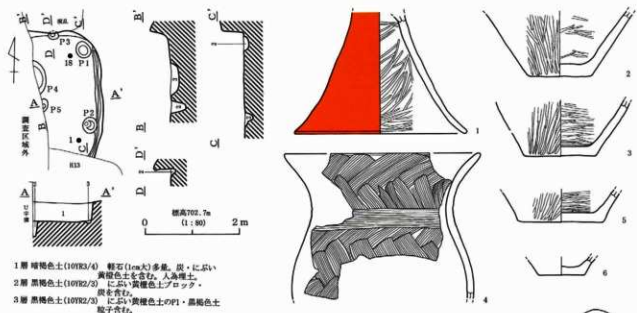
ひ-68GrにありH13・P153に切られる。西半分が調査区域外にある。炉址は調査範囲内では、確認されなかった。床面は平坦で堅く締まっている。覆土第1層は1cm大の軽石を多量に、炭・ぶい黄橙色土を含む人為埋土である。

ピットは5個検出された。この時期の規則的な主柱穴の配置が見られない。P3は壁柱穴で断面はやや内側に傾斜する。P5が掘方深く32cmを測る。東壁下に壁溝が検出された。主柱穴となりそうな

第44表 H16号住居址出土遺物観察表

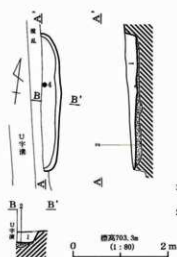
(cm・g)

H16		法 量				成 形 ・ 装 飾 ・ 文 様		測定値 () 残存値 < > 凡誌・		
No.	種別	器種	口径(横)	底径(横)	器高(縦)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	粘土土器	周縁	-	18.3	<12.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ、赤色縞筋	完全実測	No.1	
2	粘土土器	碗	-	16.8	<7.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	部分実測	覆土	
3	粘土土器	碗	-	7.6	<5.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ		覆土	
4	粘土土器	碗	(20.8)	-	<15.3>	ヘラミガキ	口縁-頸部縞線状文の縞線状文→縞線状文		部分実測	
5	粘土土器	碗	-	(9.0)	<3.4>	ヘラミガキ	ヘラミガキ		部分実測	
6	粘土土器	碗	-	4.8	<1.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	部分実測	覆土	
7	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 口縁部-頸部縞線状文→頸部縞線状文。							覆土
8	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 口縁部-頸部縞線状文→頸部縞線状文。							5交覆土
9	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 縞線状文。							部分実測
10	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 縞線状文。							部分実測
11	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 頸部縞線状文→頸部縞線状文。							覆土
12	粘土土器	碗	口縁部磨り。内面ヘラミガキ。外面 縞線状文。							部分実測
13	粘土土器	皿	内面ナデ。外面ヘラミガキ文を横状に施文→赤色縞筋。							覆土
14	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 頸部縞線状文→L線部-頸部縞線状文。							覆土
15	粘土土器	碗	内面ヘラミガキ。外面 縞線状文のナデ→L線部縞線状文→縞線状文							覆土
16	粘土土器	皿	内面ヘラミガキ。外面ヘラミガキ。外面ヘラミガキ文→赤色縞筋。							覆土
17	粘土土器	深鉢	横状縞線状文縞筋							部分実測
No.	器 種	材 質	最大径	最大高	重 量	所 属		出土位置		
18	磨石		10.6	6.1	3.5	正面・両側にすり面		No.2		



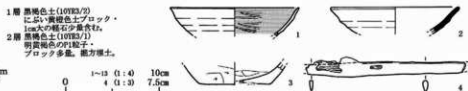
第74図 H16号住居址

P1・P2が東壁に接して配置されている。床は掘方なく平坦で堅い。遺物は壺・甕・高坏の弥生土器、縄文時代中期後葉の深鉢片がある。1は脚部赤色塗彩される高坏、2～12・14・15は甕で、内面ヘラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施文される。4は口縁部・胴部に横位の櫛描斜走文施文後頸部に櫛描簾状文を施す。14は頸部櫛描簾状文後口縁部・胴部に櫛描斜走文を施文する。13・16の壺はヘラ描斜走文後赤色塗彩される。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



(17) H17号住居址

ふ-67 Grにあり、H20を切る。大半が調査区域外にある。コマド・柱穴等調査範囲内では、確認されない。床面は平坦でないが堅く締まる。



第75図 H17号住居址

第45表 H17号住居址出土土遺物観察表

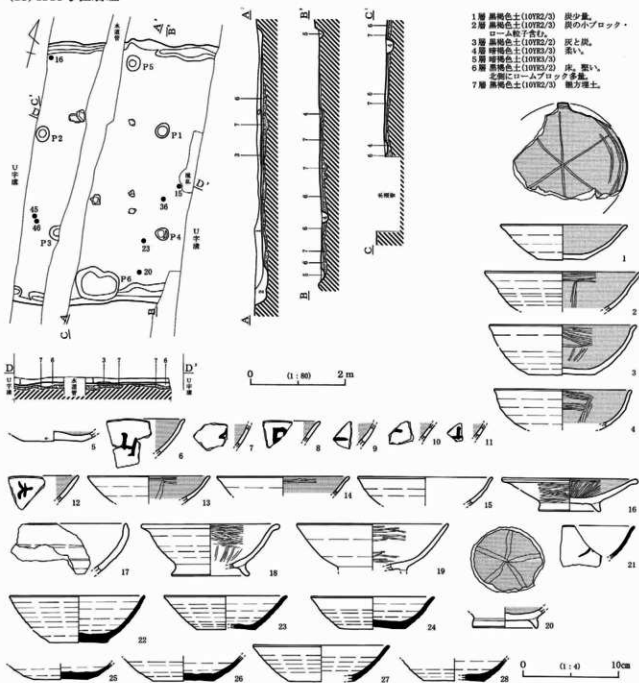
(cm・g)

H17		品名		形状・数量・文様		測定値() 保存箱<>内数	
No.	種類	数量	重量(g)	内容	内容	形状	出土位置
1	土師器 甕	13.6	-	<3.1> ヘラミダナ、黄色彩装	クロコナデ、(溝径約5cm)に外側より厚した蓋あり	白土	出土位置
2	土師器 甕	13.6	-	<2.9> クロコナデ	クロコナデ	白土	出土位置
3	土師器	口クロコ	(7.6)	<2.4> ナデ	白転車切り	白転車表	赤リ方
4	刀子	鉄	<12.7> <1.2> <0.5> <16.87>	内側穴溝、木製付着。			出土位置

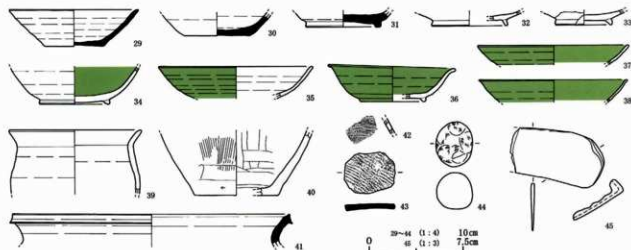
遺物は土師器甕・甕、須恵器甕、金属器がある。1の土師器甕は内面黒色処理される。3は土師器口クロコ甕で底部回転糸切り。4は木質が付着している鉄製の刀子である。

本址は、これらの遺物より平安時代9世紀代に位置づけられよう。

(18) H18号住居址



第76図 H18号住居址(1)



第77図 H18号住居跡(2)

ひ・ふ-64~66G_rにあり、H19・H20・H22・D37を切る。西壁・東壁は調査区域外に伸びる。カマドは調査範囲内では確認できない。ピットは6個検出された。台形状に配されるP1~P4が、支柱穴とみられる。桁行き220cm、梁行き260cm・220cmを測る。P6は出入り口施設の基礎であろう。床は堅く締まり平坦である。北壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層に炭・炭の小ブロック含む。ほぼ中央付近の床面に炭と灰の堆積が見られた。

遺物は土師器坏1~15、土師器皿16、土師器鉢17、土師器碗18~20、土師器甕39・40、須恵器坏21

第46表 H18号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

H18		法 量			内 容		形状・材質・文様		指定遺() 検出層<> 灰底	出土位置
No.	種別	数量	口径(径)	底径(径)	高さ(径)	内 容	外 形	備 考		
1	土師器 坏	(13.3)	5.2	3.7	<4.2>	ヘラミガキ。散文。黒色処理	ロクロナデ。底縁右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
2	土師器 坏	(16.4)	-	<4.2>	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
3	土師器 坏	(15.4)	7.2	5.3	<4.2>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底縁回転糸切り	完全実測	Ⅰ区 Ⅲ区床	D66
4	土師器 床	(14.4)	-	<4.2>	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
5	土師器 床	-	(6.2)	<1.0>	-	ヘラミガキ。黒色処理	手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区覆土	Ⅰ区覆土
6	土師器 床	-	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨縁あり[上]	回転実測	Ⅱ区P5	Ⅱ区P5
7	土師器 床	-	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨縁あり	非実実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
8	土師器 坏	-	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨縁あり	非実実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
9	土師器 坏	-	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨縁あり	非実実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
10	土師器 坏	-	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨縁あり	非実実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
11	土師器 坏	-	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨縁あり	非実実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
12	土師器 坏	-	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨縁あり[大]	非実実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
13	土師器 床	(13.0)	-	<2.2>	-	ヘラミガキ。散文。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
14	土師器 床	(14.0)	-	<1.9>	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
15	土師器 床	(14.2)	-	<3.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No.4	No.4
16	土師器 皿	14.3	(6.4)	3.5	<4.2>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラミガキ。黒色処理。底縁輪台脱付後ヘラミガキ	完全実測 内外 底縁色処理	No.8 Ⅱ-Ⅲ区	No.8 Ⅱ-Ⅲ区
17	土師器 鉢	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
18	土師器 碗	(14.6)	(8.2)	(5.6)	<4.2>	ヘラミガキ	ロクロナデ。底縁回転糸切り。輪台脱付	回転実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
19	土師器 碗	(16.0)	-	<4.9>	-	ヘラミガキ	ロクロナデ。底縁平。輪台脱付	回転実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
20	土師器 碗	-	6.9	<2.2>	-	散文。黒色処理	ロクロナデ。底縁回転糸切り→輪台脱付	完全実測	No.1	No.1
21	須恵器 床	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ。磨縁あり	非実実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
22	須恵器 床	(14.3)	6.2	5.0	<4.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁回転糸切り	完全実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
23	須恵器 坏	(13.0)	(6.2)	(3.7)	<4.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁回転糸切り	回転実測 内外 面火だすき有	No.2 D66	No.2 D66
24	須恵器 坏	(13.0)	(7.0)	3.5	<4.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁右回転糸切り	回転実測 内外 面火だすき有	Ⅱ区床 Ⅰ区 Ⅰ区1層	Ⅱ区床 Ⅰ区 Ⅰ区1層
25	須恵器 坏	-	(5.6)	<1.8>	-	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁回転糸切り	回転実測 内外 面火だすき有	Ⅱ区床	Ⅱ区床
26	須恵器 坏	-	(6.6)	<2.7>	-	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁回転糸切り	回転実測 内外 面火だすき有	Ⅱ区床 D65	Ⅱ区床 D65
27	須恵器 坏	(14.4)	(7.0)	(3.9)	<4.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
28	須恵器 坏	-	(6.4)	<2.5>	-	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土	Ⅱ区覆土
29	須恵器 坏	(13.6)	(6.4)	3.9	<4.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁回転糸切り	回転実測	Ⅱ区床	Ⅱ区床
30	須恵器 坏	-	(7.0)	<2.5>	-	ロクロナデ	ロクロナデ。底縁右回転糸切り	回転実測	Ⅰ区覆土	Ⅰ区覆土

H18号住居址出土物観察表(2)

(cm・g)

No.	品名	材質	口径(内)	底径(内)	高さ(内)	形状・重量・文書		検出層()	保存箱<>寸法
						内径	外径		
31	須恵器	製台石	-	18.0	<1.8>	コロンナ	コロンナ、底面凹陥付、両側縁付	自然実測	出土位置
32	灰釉陶器	甕	-	18.0	<1.6>	コロンナ	コロンナ、両側縁付、両側縁付	自然実測	B区画 D66
33	灰釉陶器	甕	-	18.0	<1.6>	コロンナ	コロンナ、両側縁付、両側縁付	自然実測	B区画
34	灰釉陶器	甕	-	17.0	<4.0>	コロンナ	コロンナ、両側縁付、両側縁付	自然実測	B区画 D66
35	灰釉陶器	甕	(16.4)	-	<3.4>	コロンナ	コロンナ、両側縁付	自然実測	B区画土
36	灰釉陶器	甕	13.5	6.8	3.8	コロンナ	コロンナ、両側縁付	自然実測	B区画 No.3
37	灰釉陶器	甕	(16.0)	-	<2.1>	コロンナ	コロンナ、両側縁付	自然実測	B区画 T65
38	灰釉陶器	甕	(15.6)	-	<2.4>	コロンナ	コロンナ、両側縁付	自然実測	P5
39	土製品	コロンナ	(14.0)	-	<6.9>	コロンナ	コロンナ	自然実測	B区画 D37
40	土製品	コロンナ	-	19.0	<6.8>	ヘラナデ	ハケ目ヘラナデ、ヘラナデ	自然実測	B区画
41	須恵器	甕	(29.2)	-	<3.5>	コロンナ	コロンナ	自然実測	B区画
42	須恵器	甕	内面ナデ、外面 麻油神文下に磨削凹陥付(凹陥式)					自然実測	B区画
43	須恵器	土製鉢	土製鉢、竹筒、割断片、破片、須恵器、直径 5.4 高さ 4.4 厚さ 0.6。					自然実測	B区画
44	磨石	磨石	4.8	3.9	3.9	83.83	全体にすり	自然実測	No.7
45	鎌	鉄	<7.3>	<4.0>	<0.4>	<39.45>	断面に木製片	自然実測	No.6

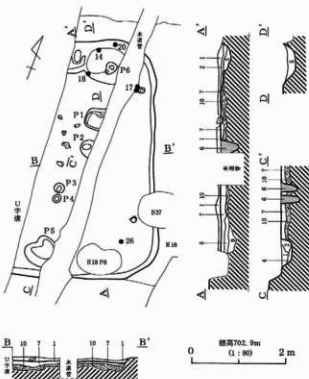
～31、須恵器有台石31、須恵器甕41、灰釉陶器碗32～38、土製品43、44の磨石、鉄器45がある。弥生時代後期土器は、混入遺物である。

土師器杯1～14・17、皿16、碗20は、内面黒色処理される。土師器1・3・18・20、須恵器杯22～30有台石31の底部は回転糸切り。土師器杯6～12は墨書される。6の墨書は「上」、12は「大」と読める。17の鉢は口縁部内湾する。灰釉陶器の軸は潰け掛け、34・36の底部は回転ヘラケズリ、36は体部下端回転ヘラケズリ。39・40は土師器コロンナ甕である。土製品須恵器甕胴部片を加工した楕円形の土器片円板43の側面には、敲打痕がみえる。45は木質が付着する鎌である。混入遺物42は、内面ヘラナデ外面櫛溝横走文下に伊那谷中島式系の櫛溝円弧文施文される。

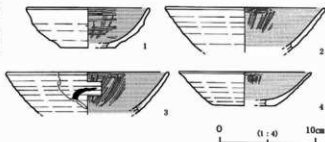
本址は、これらから小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。

(19) H19号住居址

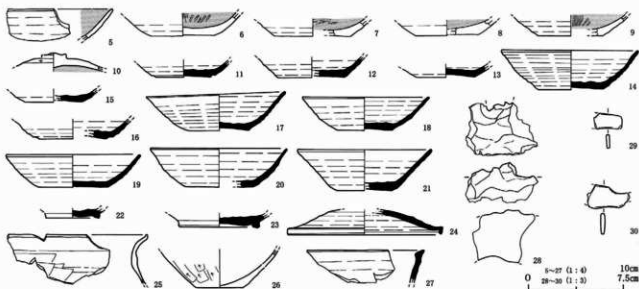
ひ・ふ-64～66Grにあり、H20を切り、H18・D37に切られる。北壁東寄りのカマドは、原形を留めない。住居址西側半分は調査区域外に伸びる。ピットは6個検出された。P1上部には礎石とみられる平石が水平に置かれている。南壁中央のカマドに対峙するP5は、出入り口施設の基礎であろうか。P3・P4は、32cm・40cmの深さである。



- 1層 暗褐色土(10YR2/3) 粘質あり、灰少量。
- 2層 褐色土(10YR2/1) 灰が主、焼土小ブロック多量、灰ブロック少量。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 灰・ローム粒子多量。
- 4層 暗褐色土(10YR2/3)
- 5層 暗褐色赤褐色土(5YR2/3) 灰・焼土・粘土ブロック・明褐色土の小ブロック多量。
- 6層 暗褐色土(10YR2/3) 悪い、柱礎。
- 7層 暗褐色土(10YR2/3) ロームブロック少量、堅くしめる。上部が床面。
- 8層 暗褐色土(10YR3/4) 悪い、灰少量。
- 9層 暗褐色土(10YR3/3) 悪い、灰・灰が主で焼土小ブロック極少量。
- 10層 暗褐色土(10YR2/3) ロームブロック・暗褐色土ブロック多量。須恵器土。



第78図 H19号住居址(1)



第79図 H19号住居址(2)

床面は平坦で堅く締まる。

遺物は土師器環1～9、土師器蓋10、土師器甕25-26、須恵器環11～21、須恵器有台環22-23、須恵器蓋24、須恵器甕28、鉄器29-30が出土した。栽培種のイネが262個Ⅳ区掘方から、モモ1個がカマドから、オオムギが1個とダイズ類?1個が覆土から、獣類の部位不明破片の焼骨が掘方からそれぞれ検出された。イネ・モモ・オオムギ等は、それぞれ炭化していた。

土師器環1～9・蓋10は、内面黒色処理される。土師器環1・4、須恵器環11～21、有台環22-23の底部は回転糸切り。土師器環6は底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ、土師器環8は底部回転糸切り後ヘラナデ、土師器環9は手持ちヘラケズリされる。土師器環3は墨書される。25-26は土師器武蔵甕で、25は「コ」字口縁部を持つ。28の土製品は、鞆の羽口であろう。29の鉄器は刀子である。

第47表 H19号住居址出土遺物観表

(cm・g)

No.	H19	品名	形状	口径(径)	底径(径)	高さ(厚)	内径	外径	重量	産地	備考
1	土師器	環	円	(7.0)	(5.0)	4.3	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 1層
2	土師器	環	円	(16.0)	-	<4.0>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	0.0	完全美	Ⅲ区 1層 Ⅲ区 2層
3	土師器	環	円	(7.0)	-	<4.0>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ、墨書あり	0.0	完全美	Ⅰ区 覆土
4	土師器	環	円	(13.0)	(6.0)	3.6	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 H18区床
5	土師器	環	円	-	-	<3.3>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	0.0	完全美	Ⅲ区 覆土
6	土師器	環	円	(6.0)	(2.0)	<2.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→手持ちヘラケズリ	0.0	完全美	Ⅲ区 覆土
7	土師器	環	円	(8.0)	(1.0)	<1.0>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部ヘラケズリ	0.0	完全美	Ⅲ区 覆土
8	土師器	環	円	(6.0)	(1.0)	<1.0>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→ヘラナデ	0.0	完全美	カマド
9	土師器	環	円	(6.0)	(2.2)	<2.2>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	0.0	完全美	Ⅲ区 1層 (365)
10	土師器	蓋	円	つまみ縁 (2.6)	(1.0)	<1.0>	ヘラミガキ→黒色処理	天井部回転ヘラケズリ→手持ち削付	0.0	完全美	Ⅲ区 覆土
11	須恵器	環	円	(5.0)	(1.0)	<1.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 O65
12	須恵器	環	円	(7.2)	(2.2)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 覆土
13	須恵器	環	円	(6.0)	(1.4)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	カマド
14	須恵器	環	円	14.3	6.8	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	No.2
15	須恵器	環	円	(6.0)	(1.5)	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 覆土
16	須恵器	環	円	(7.0)	(2.1)	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅰ区 覆土
17	須恵器	環	円	14.7	6.3	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 5 カマド
18	須恵器	環	円	13.4	5.8	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 5 カマド
19	須恵器	環	円	(14.0)	(7.2)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 5 カマド
20	須恵器	環	円	(14.0)	(7.4)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	No.1 カマド裏(Ⅰ区)
21	須恵器	環	円	(14.2)	(5.0)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 5 カマド
22	須恵器	有台環	円	5.6	<1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	0.0	完全美	Ⅲ区 5 カマド	
23	須恵器	有台環	円	(8.4)	<1.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→底部削付	0.0	完全美	Ⅲ区 5 カマド	
24	須恵器	甕	円	16.3	-	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→底部削付	0.0	完全美	カマド O66 (365)
25	土師器	甕	円	-	-	<5.2>	口縁部ロクロナデ	口縁部ロクロナデ	0.0	完全美	Ⅰ区 覆土
26	土師器	甕	円	(5.0)	(4.1)	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	0.0	完全美	No.6
27	須恵器	蓋	円	-	-	<3.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	0.0	完全美	カマド H18区
No.	品名	形状	材質	最大径	最大厚	重量	産地	備考			
28	刀子	片	鉄	内径 <2.3>	外径 <1.2>	<44.4>	完全美	Ⅲ区 5 カマド			Ⅲ区 5 カマド
29	不明	片	鉄	<2.3>	<1.1>	<2.11>	完全美	Ⅲ区 5 カマド			Ⅲ区 5 カマド
30	不明	片	鉄	<3.4>	<1.0>	<0.30>	完全美	Ⅲ区 5 カマド			Ⅲ区 5 カマド

本址は、これらの遺物から小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

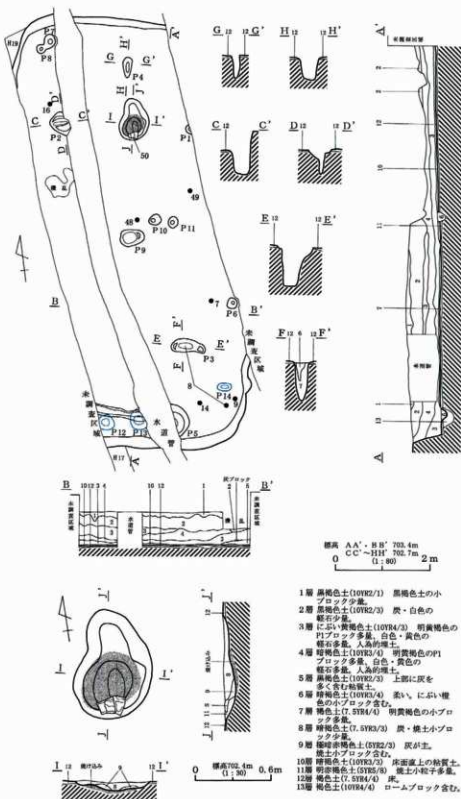
(20) H20号住居址

ウ・ふ-64~67GrにありH17~H19・D37に切られる。炉は主柱穴P1・P2間にある。炉は台石として使用されたとみられる第81図50の礎を炉縁石として用いた地床炉で、北側にテラスを持ち5cm程掘りこまれている。炉底面は被熱で赤変していた。炉内に残存することは、稀な灰が確認された。ピットは7個検出され、P2・P3の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。P4は棟持柱、やはり、五平状の柱が想定される。桁行き4.6m梁行き2.8m。P5・P11・P12は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。壁際を除く床面直上にH11・H12と同様に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

覆土第3・4層は、人為埋土である。

遺物は、甕(1~10・17~30・31~33)・壺(11・12・34~38)・鉢(13)・高坏(14・15)・蓋(16)の弥生土器、磨石47、凹石(48・49)、台石(50)、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢片、内面黒色処理・外面に墨書の上師器片がある。

1~5は甕の底部、



第80図 H20号住居址(1)

6～10・17・19は、櫛描簾状文・櫛描波状文が施文される甕である。口縁部と胴部に波状文が施文された後に頸部に簾状文が施文される。26・28・32には櫛描斜走文が、23・27の口唇部には刻目が、1の内



第81図 H20号住居址(2)

面には炭素吸着がみられる。13の内外面、14・15の坯部内外面、14脚部外面は赤色塗彩される。16は炭素吸着された蓋。34～38は外面赤色塗彩され、頸部の文様にはヘラ描斜走文・櫛描T字文・櫛描波状

第48表 H20号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

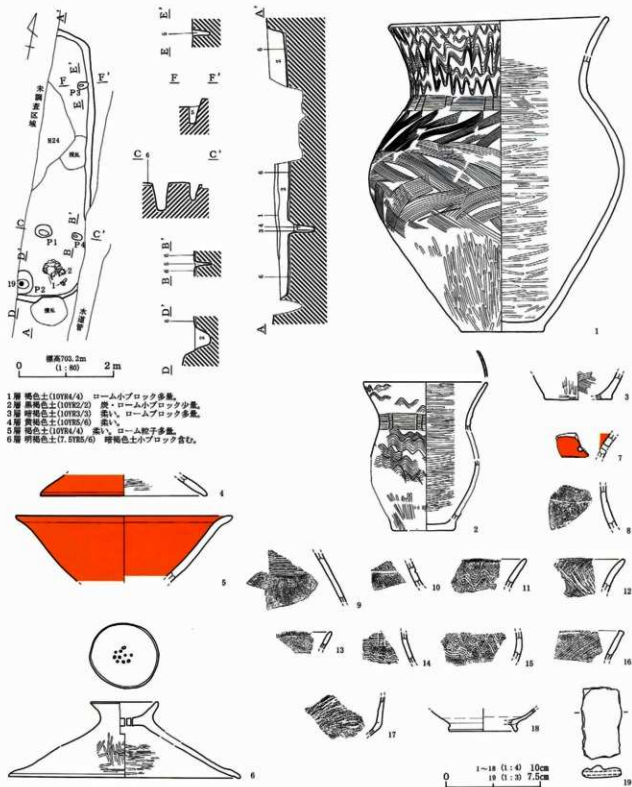
H20		質量			成形・調整・文様		測定値() 残存値 < > 丸座		
No.	種別	器種	口径(法)	底径(測)	器高(測)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	-	(8.5)	<2.5>	ヘラミガキ→炭素吸着	ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区Ⅰ層
2	弥生土器	壺	-	(5.8)	<1.6>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→底部ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区2・3・4層
3	弥生土器	壺	-	(8.6)	<3.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区3層
4	弥生土器	壺	-	(5.0)	<2.2>	ヘラナデ	ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区1層
5	弥生土器	壺	-	(7.0)	<6.0>	ヘラナデ	ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区2層
6	弥生土器	壺	11.2	-	<8.0>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描斜走文	目転実測	Ⅱ区Ⅰ層
7	弥生土器	壺	9.9	4.3	12.4	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描横走文。底部ヘラミガキ	完全実測	No.4
8	弥生土器	壺	(19.0)	-	<17.0>	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描斜走文	完全実測	No.5・7 小66 Ⅱ区3層 Ⅱ区Ⅰ層
9	弥生土器	壺	15.9	5.9	19.5	ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描斜走文。底部ミガキ	完全実測	No.6
10	弥生土器	壺	-	(7.6)	<11.0>	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区Ⅰ層 Ⅱ区2・3・4層
11	弥生土器	甕	-	(9.5)	<2.0>	ナデ。割面	ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区1層
12	弥生土器	甕	-	(6.0)	<2.5>	ヘラナデ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	目転実測	Ⅱ区Ⅰ層
13	弥生土器	鉢	-	5.3	<2.9>	赤色塗彩	赤色塗彩	完全実測	Ⅱ区2・3・4層
14	弥生土器	高坏	-	12.7	<7.9>	坏部 赤色塗彩・割面している。脚部ミガキ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	Ⅱ区Ⅰ層 No.8
15	弥生土器	高坏	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	Ⅱ区3層
16	弥生土器	蓋	5.5	18.7	<7.5>	ヘラミガキ→炭素吸着	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区 No.1
17	弥生土器	壺	櫛描波状文。櫛描斜走文。					後期	Ⅱ区1層
18	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区Ⅰ層
19	弥生土器	壺	櫛描波状文→櫛描斜走文。					後期	Ⅱ区2層
20	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区2層
21	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区Ⅰ層
22	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区5層 Ⅱ区Ⅰ層
23	弥生土器	壺	櫛描波状文→櫛描横走文。口縁部に割目。					後期	Ⅱ区2層
24	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区1層
25	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区E
26	弥生土器	壺	櫛描斜走文→櫛描横走文。					後期	Ⅱ区2・3・4層
27	弥生土器	壺	櫛描波状文。口縁部に割目。					後期	Ⅱ区1層
28	弥生土器	壺	櫛描斜走文。					後期	Ⅱ区Ⅰ層
29	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区Ⅰ層
30	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区3層
31	弥生土器	壺	櫛描波状文。					後期	Ⅱ区3層
32	弥生土器	壺	櫛描斜走文→櫛描横走文。					後期	Ⅱ区Ⅰ層
33	弥生土器	壺	櫛描波状文。折り返し口縁。					後期	Ⅱ区1層
34	弥生土器	壺	頸部に櫛描波状文。外面 赤色塗彩。					後期	Ⅱ区2層
35	弥生土器	壺	頸部に割突を完備するヘラ描斜走文。外面 赤色塗彩。					後期	Ⅱ区Ⅰ層
36	弥生土器	壺	頸部に櫛描斜走文。外面 赤色塗彩。					後期	Ⅱ区Ⅰ層
37	弥生土器	壺	頸部に櫛描T字文。内外面 赤色塗彩。					後期	Ⅱ区3層
38	弥生土器	壺	頸部にヘラ描斜走文を構位羽状に施文。内外面 赤色塗彩。					後期	Ⅱ区 Ⅱ区5層 Ⅱ区3層
39	縄文土器	深鉢	沈積区画内に縄文Ⅰ。					堀之内	Ⅱ区1層
40	縄文土器	深鉢	張状沈積。縄文Ⅰ。					地名等?	Ⅱ区Ⅰ層
41	縄文土器	深鉢	構位沈積下に彫形・張状沈積区画。縄文Ⅰ。					堀之内2	Ⅱ区5層
42	縄文土器	深鉢	口縁部内彫。赤土層割断面。					堀之内	Ⅱ区Ⅰ層
43	縄文土器	深鉢	小突起に彫位の粗い沈積。口縁部に沿って構位沈積。					堀之内1	Ⅱ区Ⅰ層
44	縄文土器	深鉢	器部 木葉部。					堀之内	Ⅱ区5層
45	縄文土器	深鉢	器部より内縁突縁に立ち上る。底径(8.7) 器高 <2.6>。					後期前半	Ⅱ区5層
46	土師器	坏	内面 ヘラミガキ→炭素吸着。外面 磨面。					破片実測	Ⅱ区2層
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	質量	所	具	出土位置
47	磨石		11.0	5.6	3.2	304.24	正面にすり面。		Ⅱ区Ⅰ層
48	凹石		11.5	7.6	3.6	420.40	被熱あり?(一部磨化)上下端部と正面に磨打面。正面にすり面。		No.3
49	凹石		11.0	7.0	4.0	475.57	上端部と正面に磨打面。正面にすり面。		No.2
50	台石		16.0	22.3	4.1	1880.00	正面が使用面。		No.10

文・刺突が充填されたヘラ描銀歯文がある。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(21) H21号住居址

ふ-63・64GrにありH24に切られ、H22・P161・P162を切る。炉は調査範囲内では検出されない。



第82図 H21号住居址

第49表 H21号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

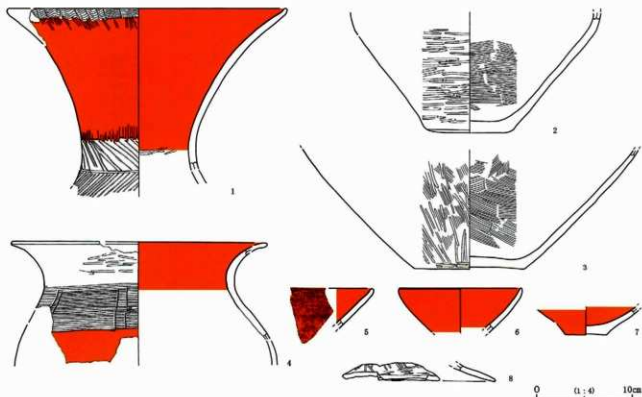
No.	種類	形状	寸法		内面	底面・裏面・文様	内面	底面(裏)	保存状況・材質	
			口径(内)	高さ(内)					保存	材質
1	弥生土器	甕	<27.7>	8.6	32.9	ハケ目→ヘラミガキ	胴部 櫛目状文→胴部 櫛目状文→下部ヘラミガキ	口縁部 櫛目状文	完全実測	No.1 No.3
2	弥生土器	甕	13.1	16.5	15.6	ヘラミガキ	口縁部 櫛目、口縁部 櫛目状文、胴部 櫛目状文	下部ヘラミガキ	完全実測	No.2 9P2
3	弥生土器	甕	-	17.0	<23.0>	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
4	弥生土器	高坏	-	(17.4)	<23.0>	ハケ目	ヘラミガキ→赤色塗彩	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
5	弥生土器	高坏	(24.4)	-	<17.0>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
6	弥生土器	甕	(24.4)	7.0	8.1	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
7	弥生土器	甕	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩、ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
18	灰釉陶器	甕	-	17.0	<25.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
8	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
9	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
10	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
11	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
12	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
13	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
14	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
15	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
16	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
17	土師器	甕	内面ヘラミガキ、外面クズリ	口縁部 櫛目、口縁部 櫛目	口縁部 櫛目	口縁部 櫛目	口縁部 櫛目	口縁部 櫛目	完全実測	9P2 12 15 18
19	不明	蓋	5.8	3.2	縦径10.5	34.12			完全実測	No.4

ピットは4個検出され、P1の支柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。P3・P4は壁柱穴、やはり、五平状の柱が想定される。P2は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。

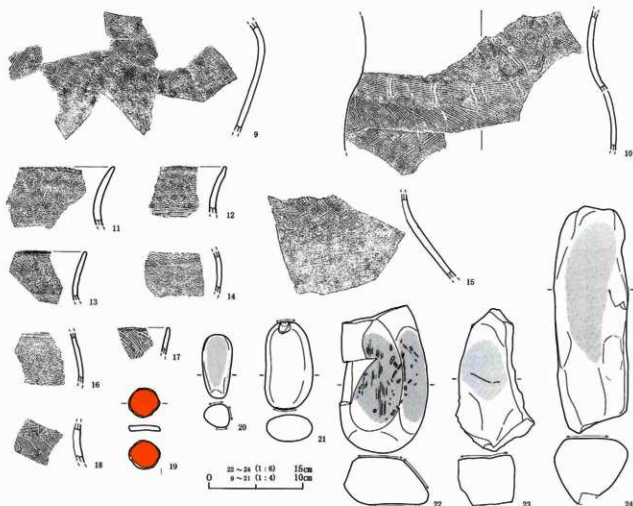
遺物は、甕(1~3・11~17)・壺(7~10)・高坏(4・5)・蓋(6)の弥生土器、鉄器19、本址に浅くない胎土灰白色の土師器東海系の甕(17)、灰釉陶器碗(18)がある。1は胴部櫛目斜走文後頸部櫛目状文後口縁部櫛目状文が、2は口縁部・胴部波状文後頸部櫛目状文が施文される。11~15は櫛目状文が、12~16は櫛目斜走文が施される。6の無彩の蓋は、小孔10個持つ。壺は赤彩7~9、無彩の8がある。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(22) H22号住居址

ひふ-62~64GrにありH18・H21・H24・P161~164・P167に切られる。炉は3カ所から検出された。支柱穴P1・P2間の炉1は、主炉である。炉1は第84図4の深鉢を逆位に置き、第84図2の台石を



第83図 H22号住居址(1)



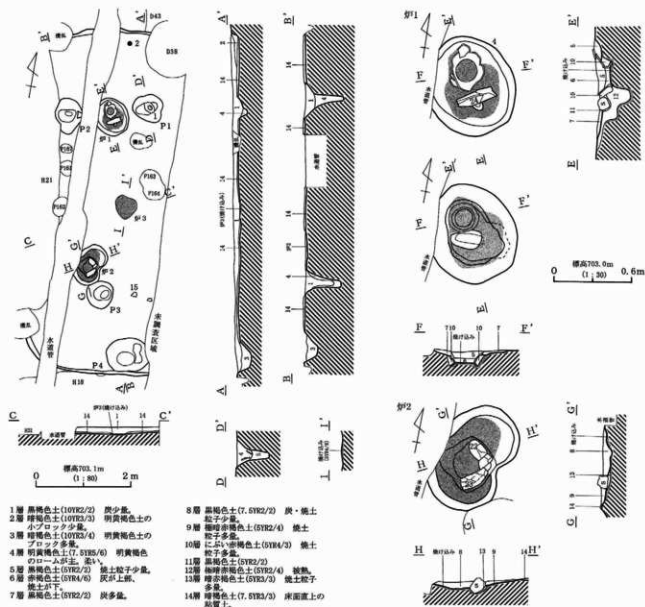
第84図 H22号住居址(2)

第50表 H22号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種類	数量	寸法(縦)	寸法(横)	厚(高さ)	内 容	形状・質感・文様	出 所	測定値() 焼く値< > 丸値・厚
1	弥生土器	破	(29.6)	-	<19.0>	ヘラミガキ→赤色磁彩	口唇部磁彩状文、胴部ヘラミガキ→赤色磁彩	完全灰窯	No.9
2	弥生土器	破	-	8.9	<12.0>	ハケメ	ヘラミガキ	完全灰窯	No.8
3	弥生土器	破	-	(11.6)	<12.7>	ハケメ	ハケメ→ヘラミガキ	完全灰窯	1区 D64 843
4	弥生土器	破鉢	(26.0)	-	<13.3>	口縁部ヘラミガキ→赤色磁彩	胴部磁彩状文、胴部ヘラミガキ→赤色磁彩、口縁部	完全灰窯	No.1・3・4
6	弥生土器	鉢	(11.0)	-	<4.8>	ヘラミガキ→赤色磁彩	ヘラミガキ	白灰灰窯	2区 D64
7	弥生土器	鉢	-	4.2	<3.0>	ヘラミガキ→赤色磁彩	ヘラミガキ→赤色磁彩	完全灰窯	3区 D64
8	弥生土器	破	-	-	<1.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全灰窯	3区 D64
5	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面口縁部磁彩状文→ヘラミガキ→赤色磁彩。					新灰窯	3区 D64
9	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文の磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
10	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面口縁部磁彩状文。胴部磁彩状文。胴部磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
11	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文。磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
12	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文。磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
13	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文。磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
14	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
15	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文。磁彩状文。					新灰窯	No.10
16	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文。磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
17	弥生土器	整	内面ヘラミガキ。外面磁彩状文。磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
18	弥生土器	整	内面磁彩状文。外面磁彩状文。磁彩状文。					新灰窯	3区 D64
19	弥生土器	土器片(内底、片底、鉢の破片(遺棄の赤色磁彩)、蓋付・破破片、蓋 3.3 厚さ 3.6)						新灰窯	No.5
20	磁石	丸	縦大径	横大径	厚	重量			出土位置
21	磁石	丸	6.8	3.2	2.5	72.44	正裏・右側にすり粉。		1区
22	白石	丸	9.3	3.0	2.8	295.25	上下端部一部すり粉。		H20 No.7 H22 No.7
23	砂石	丸	23.6	14.2	7.8	4030.00	磁鉄あり(一部焼いた状態で使用。正裏・右側が使用面)。		No.7
24	砂石	丸	22.7	12.5	8.3	2880.00	正裏に使用面。		No.6
24	砂石	丸	36.0	11.9	<10.7>	<684.0>	正裏一部すり粉。正裏が使用面。		No.5

が縁石にした理髪である。炉底面はよく焼け込んでいる。深鉢内下部に焼土、上部に灰が堆積する。炉縁石から南に炭が多量にみられた。P3の北に接した炉2は、副炉といえよう。8cm掘り込み第84図22・23の白石等3個の礫を用いた「L」形の石囲炉である。炉底面はよく焼け込んでいる。炉3は



第85図 H22号住居址(3)

主軸線上炉1から1.2m南にある地床炉で、5cm程の窪みに焼土が堆積し底面はよく焼け込んでいる。ピットは4個検出され、P1～P3の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。桁行き4m梁行き1.8m。P4は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。

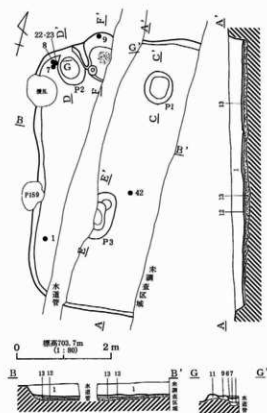
遺物は甕(9・14・16～18)・壺(1～3・5・15)・鉢(6・7)・深鉢(4)・蓋(8)の弥生土器、土製品、磨石(20)、敲石(21)、台石(22～24)、炉1から獣類の下顎骨・炉2内から獣類部位不切片の焼骨がある。

横位羽状の櫛描斜走文が9・10・11の胴部に、17の口縁部に施文される。10は胴部櫛描斜走文・口縁部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が、施される。1の壺は、極短く内弯気味の口縁端部に櫛描波状文・頸部に横位羽状のへら描斜走文を施文、赤色塗彩される。15の無彩壺頸部には、へら描横走沈線内に横位櫛描斜走文が施文される。6・7の鉢は、内外面赤色塗彩。8の蓋は無彩である。19の土製品は、表裏面赤色塗彩の鉢か高坏片を加工した円形の土器片円板で、側面に敲打痕・研磨痕が見える。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

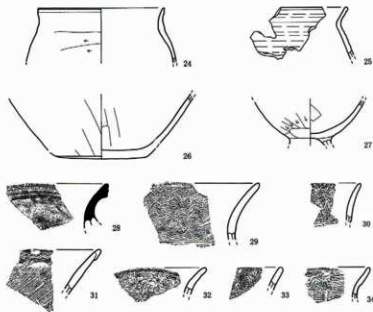
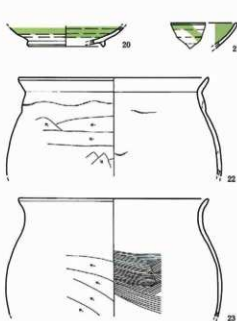
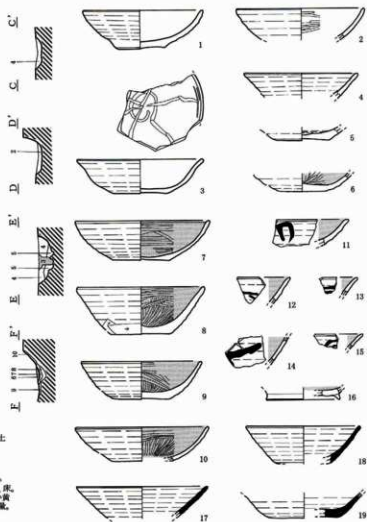
(23) H23号住居址

ひ・ふ-58～60Grにあり、H25・H27・H32・F4を切り、P159に切られる。カマドは、北壁西よりに



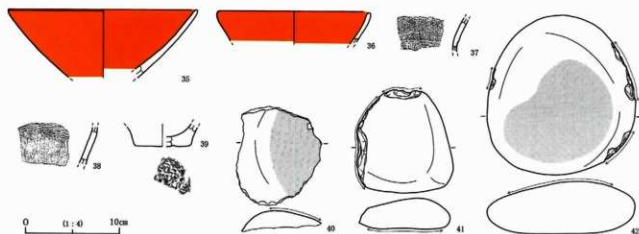
- 1層 暗褐色土(10YR3/3)
- 2層 黒褐色土(5YR2/2) 灰・焼土ブロック含む。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 柱痕。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土ブロック含む。
- 5層 濃い黄褐色土(10YR4/3) 褐色土・黒褐色土ブロック含む。
- 6層 褐色土(10YR4/4) 灰を多量に含む。
- 7層 暗褐色土(7.5YR3/3) 灰・炭のブロック含む。

- 8層 濃い黄褐色土(10YR4/3)
- 9層 暗赤褐色土(5YR2/3) 焼土・磁子、炭屑を含む。
- 10層 灰褐色土(10YR4/2)
- 11層 濃い灰褐色土(10YR4/3)
- 12層 黒褐色土(10YR2/2) 濃い黄褐色土ブロック少量含む。灰。
- 13層 暗褐色土(10YR3/3) 濃い黄褐色土・黒色土ブロック多量。



0 (1:4) 10cm

第86図 H23号住居址(1)



第87図 H23号住居跡(2)

第51表 H23号住居跡出土遺物観察表(1)

(cm・g)

H23		法 量			成形・調整・文様		判定値() 残存率 < > 丸底・		
No.	種別	器種	口径(径)	底径(底)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	杯	12.7	5.4	4.2	ロクロナデ→ナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.6
2	土師器	杯	(13.6)	-	<3.3>	ヘラミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土
3	土師器	杯	(13.4)	(5.4)	3.6	ナデ→縄文施文	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土
4	土師器	杯	12.1	-	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅱ区覆土
5	土師器	杯	-	(6.0)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区覆土
6	土師器	杯	-	5.0	<1.9>	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区覆土 カマド
7	土師器	杯	14.3	6.0	4.2	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	No.3 カマド Ⅱ区
8	土師器	杯	(13.6)	6.2	5.0	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→底部→底部外周ヘラズリ	完全実測	No.1
9	土師器	杯	(12.8)	6.2	4.0	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全実測	No.4
10	土師器	杯	(14.2)	6.4	3.6	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	Ⅱ区 Ⅲ区 Ⅳ区
11	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→磨面あり	破片実測	Ⅱ区覆土
12	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→磨面あり	破片実測	Ⅳ区覆土
13	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→磨面あり	破片実測	Ⅱ区覆土
14	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→磨面あり	破片実測	Ⅳ区覆土
15	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→磨面あり	破片実測	Ⅰ区覆土
16	土師器	碗	-	(7.8)	<1.3>	ヘラミガキ→黒色結理	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台粘付	回転実測	Ⅱ区覆土
17	須恵器	杯	(14.0)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区覆土
18	須恵器	杯	(12.2)	(6.0)	<4.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区覆土
19	須恵器	杯	-	(7.0)	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	Ⅱ区覆土
20	反胎陶器	碗	-	(8.0)	<2.2>	ロクロナデ→反胎施軸	ロクロナデ→切り履し後高台粘付→反胎施軸	破片実測	Ⅱ区覆土
21	反胎陶器	碗	-	-	-	ロクロナデ→反胎施軸	ロクロナデ→反胎施軸	破片実測	Ⅱ区覆土
22	土師器	甕	(20.0)	-	<10.4>	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラズリ	回転実測	No.2 Ⅱ区 カマド
23	土師器	甕	(20.0)	-	<12.6>	ハケメ→ヨコナデ	ヘラズリ→ヨコナデ	回転実測	No.2 Ⅱ区 カマド P2
24	土師器	甕	(13.4)	-	<5.7>	ナデ	ヘラズリ→ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区覆土
25	土師器	ロクロナデ	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	Ⅱ区覆土
26	土師器	羽輪?	-	9.8	<6.4>	ヘラナデ	ヘラナデ	完全実測	Ⅳ区覆土
27	土師器	有台盤	-	-	<4.8>	脚部ヨコナデ 縁部ヘラナデ	ヘラズリ→ヘラナデ	回転実測	Ⅱ区覆土
28	須恵器	甕	-	-	-	-	-	新断面実測	Ⅱ区覆土
35	弥生土器	鉢か高杯	(20.0)	-	<7.1>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	Ⅰ区 Ⅱ区 Ⅲ区 ホリ
36	弥生土器	鉢か高杯	(16.0)	-	<3.5>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	Ⅰ区覆土
29	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 磨面施文→磨面施文状。	-	-	-	-	新断面実測	Ⅱ区覆土
30	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 磨面施文状。口縁部剥離。	-	-	-	-	新断面実測	Ⅱ区ホリ方
31	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面ミガキ。外面 磨面施文状。口縁部剥離。口縁部横位劣状の磨面施文状。	-	-	-	-	新断面実測	Ⅳ区覆土
32	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 磨面施文状。口唇部剥離。	-	-	-	-	新断面実測	Ⅱ区覆土

ある。にぶい黄褐色土の袖部が僅か残存し、袖部芯材を固定したと思われる小ピットが袖部先端に認められる。火床には、灰の堆積が見られる。床面は、堅く平坦である。ピットは、3個検出された。P3に径16cmの柱痕が認められた。カマド西脇のP2内覆土は、炭・焼土ブロックを含む。

遺物は土師器環1～10、土師器皿碗16、土師器杯か碗11～15、土師器甕22～27、須恵器杯17～19、

H23号住居址出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	器種	所 見	備 考				
33	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 縦線状文・口唇部のみ。	断面実測 Ⅰ区覆土				
34	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 縦線状文・口唇部のみ。	断面実測 Ⅱ区覆土				
37	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 縦線状文・口唇部のみ。	断面実測 Ⅱ区覆土				
38	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 縦線状文。	断面実測 Ⅱ区覆土				
39	縄文土器	深鉢	縄文式。2本割2本割り。底径(6.0) 底厚<2.4>。	後期 Ⅱ区ホリ方				
No.	器 種	深 鉢	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出 土 位置
40	磨石		<10.4>	<9.0>	<1.8>	<221.94>	被熱あり(黒化)→被熱被砕破片。全周欠損。正面にすり面。	P1
41	磨・敲石		10.9	10.1	3.3	532.00	被熱あり(一部黒化)上部・左側に敲打痕。裏にすり面。	カマド
42	磨・敲石		16.9	15.6	5.5	1914.51	被熱あり(一部黒化)縁部に敲打痕。正面にすり面。	No.8

須恵器甕28、灰釉陶器碗20・21、40の磨石、磨面を持つ敲石41・42がある。Ⅰ区覆土からウマの右下顎臼歯片が出土した。縄文時代後期・弥生時代後期土器は、混入遺物である。

土師器杯6～19・土師器杯か碗11～15は、内面黒色処理される。土師器1～3・5～7・9・10・16、須恵器杯19の底部は回転糸切り。土師器杯か碗11～15は墨書される。24・25は「コ」字口縁の土師器武蔵甕、25は土師器ワロコ甕である。27は台付きの土師器武蔵甕、26は羽釜かもしれない。

本址は、これから小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅶ期-9世紀後半に位置づけられる。

(24) H24号住居址

ふ-63Grにあり、H21を切る。大半は調査区域外にある。カマド・炉等は調査範囲内では、検出されない。ピットは3個確認され、いずれも壁柱穴である。P3は床下から検出され径12cmの柱痕がみられた。床面は堅く締まり平坦である。壁溝が東壁・南壁下を巡る。

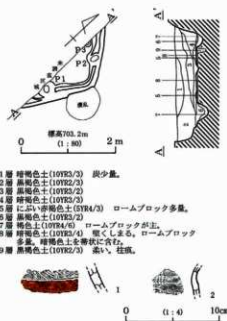
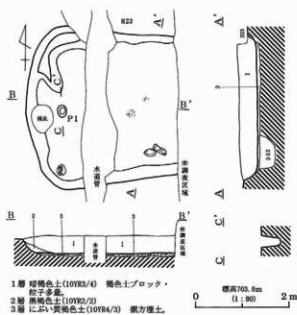
遺物は、横位のヘラ描斜線内にヘラ描斜線文が施文され赤色塗彩される1の壺、口縁部・胴部に楕円状文施文後頸部に楕円状文が施される甕が出土した。重複する弥生時代後期H21に帰属する可能性があり、本址の時期等詳細は不明である。

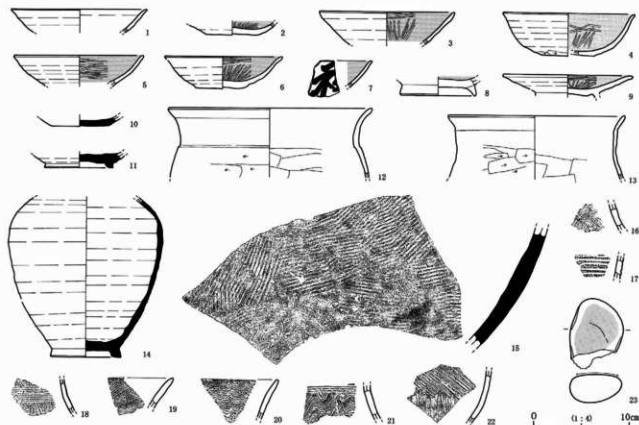
第52表 H24号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	文 様 ・ 装 飾	備 考	出 土 位置
1	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面 縦線状文・楕円状文。	断面実測	覆土
2	弥生土器	壺	内面ナデ。外面ヘラ描斜線内にヘラ描斜線文→赤色塗彩。	断面実測	覆土

(25) H25号住居址





第90図 H25号住居址(2)

第53表 H25号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H25		法 量		成 形・調 整・文 様		既 定 値 (< > 残 存 値 < > 出 土 位 置)		
No.	種 別	口径(長)	底径(幅)	底高(厚)	内 面	外 面	備 考	
1	土師器 杯	(14.2)	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 Ⅰ・Ⅱ区覆土	
2	土師器 杯	-	5.7	<1.4>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測 覆土	
3	土師器 杯	(14.2)	-	<3.5>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転実測 覆土	
4	土師器 杯	(13.8)	(5.6)	(4.5)	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部下縁部手持ちヘラケズリ	回転実測 覆土	
5	土師器 杯	(13.6)	-	<3.3>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	完全実測 Ⅰ区覆土	
6	土師器 杯	(12.4)	5.5	3.4	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部右回転糸切り	完全実測 覆土	
7	土師器 杯か鍋	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。磨面あり	破片実測 覆土	
8	土師器 碗	-	(8.0)	<2.0>	ヘラミガキ。黒色処理	底部回転糸切り→高台貼付	回転実測 覆土	
9	土師器 皿	13.6	-	<2.4>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部右回転糸切り→高台貼付→高台貼付(欠損)	完全実測 覆土	
10	須恵器 杯	-	(6.2)	<1.2>	ロクロナデ	底部右回転糸切り	回転実測 覆土 [区ホリ]方	
11	須恵器 有台杯	-	(7.2)	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部ヘラケズリ→高台貼付	覆土	
12	土師器 鉢	(21.6)	-	<7.3>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測 覆土	
13	土師器 鉢	(18.4)	-	<6.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測 覆土	
14	須恵器 甕	-	7.4	<16.9>	ロクロナデ	回転糸切り→ナデ→高台貼付	完全実測 覆土	
15	須恵器 鉢	内面 ナデ。外面 平行タタキ。						新面実測 覆土
16	弥生土師器 甕	内面 ナデ。外面 ヘラ磨柄子目文。						
17	縄文土師器 深鉢	集合沈積。						後期前半
18	弥生土師器 鉢	内面 ミガキ。外面 口縁部-胴部縦線状波状文→磨指腐状文。						Ⅱ区覆土
19	弥生土師器 鉢	内面 ミガキ。外面 磨指腐状文。						Ⅱ区覆土
20	弥生土師器 鉢	内面 ヘラミガキ。外面 磨指腐状文。						Ⅱ区覆土
21	弥生土師器 鉢	内面 ヘラミガキ。外面 磨指腐状文→磨指腐状文。						覆土
22	弥生土師器 鉢	内面 ヘラミガキ。外面 磨指腐状文→ヘラミガキ。						Ⅱ区覆土
No.	品 名	資 材	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 見	
23	麻石	-	<7.4>	<5.5>	<3.0>	<161.03>	下部欠損。正面にすり肌。	覆土 出土位置

ひ・ふ-64~66Grにあり、H23に切れ、H31・F4を切る。東壁は調査区域外に伸びる。カマドは調査範囲内では確認できない。床面ほぼ中央に2カ所焼土の堆積がみられた。深さ形状から柱穴と思われるピットが1個西壁近くで検出された。北西隅に長さ1.2m幅12~24cm高さ5~14cmのベッド状遺構が確認された。床は平坦で、掘方は浅めである。南壁中央下床面上に25cm・32cm大の礫がみられた。

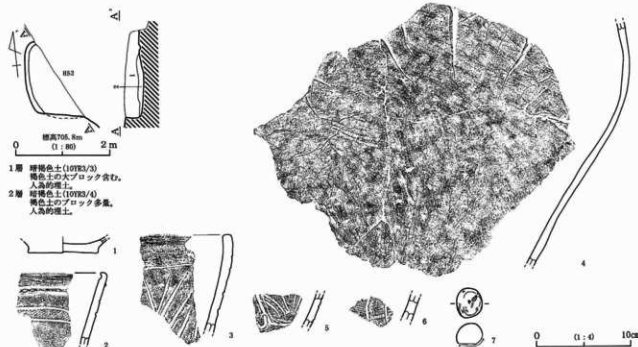
遺物は土師器環1～6、土師器碗8、土師器皿9、土師器か碗7、土師器甕12・13、須恵器有台環11、須恵器環10、須恵器甕15、須恵器壺14、磨石23、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢・弥生時代後期壺16・甕18～22がある。土師器環2～6・か碗7・皿9は、内面黒色処理される。土師器環2・6、須恵器環10の底部は回転糸切り、土師器環4は体部下端底部手持ちヘラケズリ、須恵器有台環は底部ヘラケズリ後高台貼付される。土師器環7は墨書「ネ」。12・13は土師器武蔵甕で胴部に最大径があり、「コ」字口縁部を持つ。14は有台の長頸壺であろう。16の壺はヘラ描格子文、18・20・21の甕は櫛描波状文、19の甕には櫛描斜走文が施文される。

本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

(26) H26号住居址

む-33Grにあり、東側部分をH52に切られる。カマド・柱穴等は調査範囲内では確認されない。断面鍋底状で底面堅くはなく、竪穴住居址と扱うのは不適かもしれない。覆土は褐色土のブロック含み人為埋土である。

遺物は1～6の縄文時代中期後葉から後期前半の深鉢片、磨石と見られる7がある。本址の機能等不明、時期は縄文時代後期前半であろうか。



第91図 H26号住居址

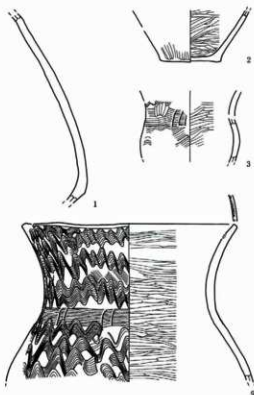
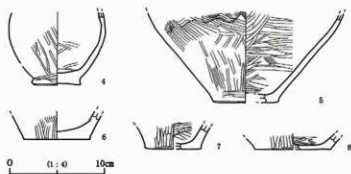
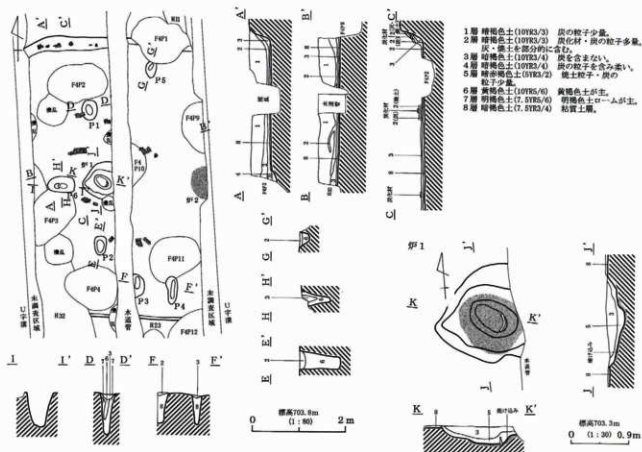
第54表 H26号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

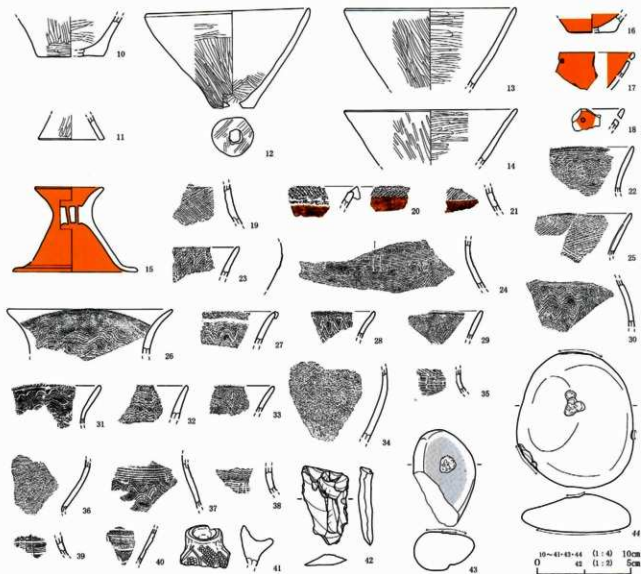
H26		法 量				成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推定値() 残存確率 > 丸座・		
No.	種別	器種	口徑(底)	底径(輪)	頸高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
1	縄文土器	深鉢	-	7.4	<1.7>	ナデ	ミガキ	後期前半	覆土	
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁に沿って斜め輪線。推定字文。縄文LR充填。						堀之内2	覆土
3	縄文土器	深鉢	沈線区画内に斜行沈線。						中期後葉	覆土
4	縄文土器	深鉢	縄文。内面口コのナデ。外面 胴上部ヨコ・胴下部タテのミガキ。						後期前半	覆土
5	縄文土器	深鉢	仮状の集合沈線。						堀之内1	覆土
6	縄文土器	深鉢	仮状沈線。縄文LR。						堀之内	覆土
No.	種 別	質 材	最大径	最大径	最大厚	厚 量	所 属		出土位置	
7	磨石?		<3.1>	<2.7>	<2.2>	<16.50>	全体にすりか?表面は欠損か?		覆土	

(27) H27号住居址

ひ-ふ-58・59Grにあり、H23・H32・F4・M11に切られる。主軸方位は西を指す。炉は2カ所から検出された。主柱穴P1・P2間の炉1は、主炉である。炉1は第93図24の甕片を炉縁石の代用品にし15cmほど掘り窪めた地床炉である。底面は焼け込んでいる。炉2は炉1の東に1.6m離れた主軸線



第92図 H27号住居址(1)



第93図 H27号住居址(2)

第55表 H27号住居址出土遺物観察表(1)

(cm-g)

H27		数量				形状・文様		発出層() 残存層() 丸型()	
No.	種別	器種	口径(高)	底径(高)	底高(高)	内面	外面	層号	出土位置
1	弥生土器	甕	-	-	<20.0>	ハケメ、割腹	ヘラミガキ→赤魚造形	自然発露	I区 No.1 58
2	弥生土器	甕	-	6.2	<5.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ、割腹	完全発露	I区 D58 58
3	弥生土器	甕	-	-	<7.6>	ヘラミガキ	縦線波状文→縦線波状文	完全発露	I区 H23II区カマド
4	弥生土器	甕	-	5.0	<7.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	自然発露	I区 D51
5	弥生土器	甕	-	(7.0)	<9.6>	ハケメ→ヘラミガキ	縦線波状文→ヘラミガキ	自然発露	II区 覆土
6	弥生土器	甕	-	(7.0)	<3.0>	ナデ	ハケメ	自然発露	II区 覆土
7	弥生土器	甕	-	(6.0)	<2.6>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	自然発露	II区 覆土
8	弥生土器	甕	-	(8.0)	<1.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	自然発露	II区 覆土
9	弥生土器	甕	(22.6)	-	<16.8>	ハケメ→ヘラミガキ	縦線波状文→縦線波状文、口内部分あり	自然発露	I区 M区 No.13
10	弥生土器	甕	-	(7.0)	<4.2>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	自然発露	H23I区
11	弥生土器	付付物	-	(7.0)	<2.7>	ナデ	ヘラミガキ	自然発露	II区 覆土

上にあり、東半分が調査区域外に伸びる。僅かに窪む底面がよく焼け込んでいる。ピットは6個検出され、P1・P2の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。梁行き2.8m。P6の棟持柱も掘方から、五平状の柱が想定される。出入口施設の基礎と考えられるP3・P4も五平状の部材が考えられる。本住居址の出入り口は、主軸に直交する位置に設けられている。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられ、掘方は認められない。住居中央から西にかけて多

H27号住居址出土遺物観察表(2)

(cm・g)

H27		位置			成形・磨製・文様		指定値() 残存値 <> 丸数・		
No.	種別	口径(長)	底径(幅)	底高(厚)	内面	外面	備考	出土位置	
12	弥生土器	鉢	17.6	4.5	10.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実蓋 1孔の厚孔は焼成後	No.3・4・12
13	弥生土器	鉢	(18.2)	-	<8.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	白釉実蓋	I区 甌土
14	弥生土器	鉢	(18.3)	-	<5.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	白釉実蓋	II区 No.2
15	弥生土器	蓋	(13.2)	7.2	8.9	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実蓋 蓋底2孔	No.5
16	弥生土器	鉢	-	(5.0)	<1.9>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	白釉実蓋	I区 甌土
24	弥生土器	鉢	-	-	<5.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	白釉実蓋	I区 甌土
26	弥生土器	蓋	(17.4)	-	<4.7>	ヘラミガキ	白釉実蓋	No.14	I区 甌土
17	弥生土器	鉢	内面ヘラミガキ赤色塗彩、口縁部に焼成前厚孔が1孔。				白釉実蓋		II区 甌土
18	弥生土器	鉢	内面 割漆。外面 ヘラミガキ赤色塗彩 厚孔が1孔。				白釉実蓋		II区 甌土
19	弥生土器	蓋	内面 ナデ。外面 褐色のヘラミガキ内に黒位波状の磨製刻定文→赤色塗彩。				白釉実蓋		II区 甌土
20	弥生土器	蓋	折り返し口縁。内面 口縁縁部と口縁部を取りまわす織文。内外面赤色塗彩。				白釉実蓋		II区 甌土
21	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 褐色のヘラミガキ内に黒位波状の磨製刻定文→赤色塗彩。				白釉実蓋		II区 甌土
22	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文→磨製刻定文。				白釉実蓋		II区 甌土
23	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
25	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製刻定文。				白釉実蓋		II区 甌土
27	弥生土器	蓋	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
28	弥生土器	蓋	口縁縁部から内面。内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		I区 甌土
29	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
30	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
31	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
32	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
33	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
34	弥生土器	蓋	内面 磨製波状文のナデ→ヘラミガキ。外面 磨製波状文のナデ→磨製波状文。				白釉実蓋		I区 甌土
35	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製刻定文→磨製波状文。				白釉実蓋		II区 甌土
36	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文→磨製刻定文。				白釉実蓋		II区 甌土
37	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文→磨製刻定文。				白釉実蓋		II区 甌土
38	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文→磨製刻定文。				白釉実蓋		II区 甌土
39	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製波状文→磨製刻定文。				白釉実蓋		II区 甌土
40	縄文土器	深鉢	底に2本の溝線に、磨製刻定文の波状の筋が切付。				白釉実蓋		II区 甌土
41	縄文土器	深鉢	底に波状の筋に、磨製刻定文の波状の筋が切付。				白釉実蓋		II区 甌土
42	スクリュー	蓋	4.2	2.5	6.51				II区 甌土
43	磨石		<10.2>	<6.6>	<4.1>	<344.94>	下部欠損。正面にすり目と磨行面。		No.11
44	磨石		14.3	12.3	4.4	991.45	底面磨り(磨製刻定文と縁部に磨行面)。表面にすり目。		No.6

くの炭化材が検出された。床に接している炭化材もあるが、ほとんどが床面上の3~5cmを測る覆土第3層上にある。第3層は、炭化材・焼土・灰を含まない。炭化材の上下に灰・焼土・炭化粒子を含む。火に遭ったのは、第3層堆積後である。

遺物は、甕(2~10・22~39)・台付甕(11)・壺(1・19~21)・鉢(13・16・17・18)・蓋(18)の弥生土器、磨面付敲石(43・44)、炉1内から獣頭部位不明片、オニグルミ片1/3個がある。縄文時代後期称名寺・加曾利B1式深鉢片は混入遺物である。

口唇部刻みのある9の甕は、頸部欄波状文後口縁部と胴部の欄波状文が施される。3・24・30・36・37等は、胴部欄波状文や口縁部欄波状文後頸部欄波状文が施される。20の折り返し口縁壺は、口唇部と内面口縁端部に縄文LR、赤色塗彩される。大型の鉢13・14は無彩、16~18の鉢は内外面赤色塗彩。15の蓋は2孔を持ち内外面赤色塗彩。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(28) H28号住居址

第56表 H28号住居址出土遺物観察表(1)

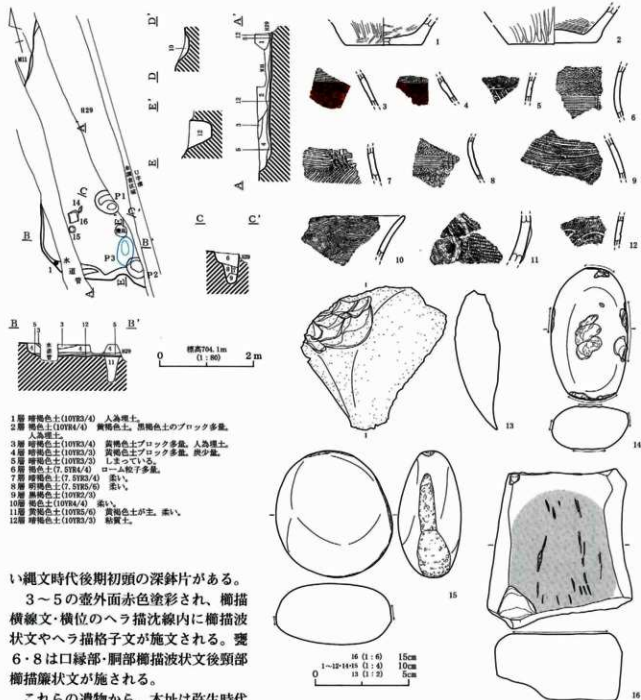
(cm・g)

H28		位置			成形・磨製・文様		指定値() 残存値 <> 丸数・		
No.	種別	口径(長)	底径(幅)	底高(厚)	内面	外面	備考	出土位置	
1	弥生土器	蓋	-	(8.0)	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。蓋部ヘラミガキ	NIR	
2	弥生土器	蓋	-	(9.2)	<3.9>	ハク目	ヘラミガキ。蓋部ヘラミガキ	No.1	
3	弥生土器	蓋	内面 割漆。外面 磨製刻定文→赤色塗彩。				後期	SR	
4	弥生土器	蓋	内面 割漆。外面 ヘラミガキ内に黒位波状の磨製刻定文。赤色塗彩。				後期	SR	
5	弥生土器	蓋	内面 蓋部まで赤色塗彩。外面 ヘラミガキ内にヘラミガキ目文。赤色塗彩。				後期	SR	
6	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 口縁 磨製欄波状文→磨製刻定文。				後期	SR	
7	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製刻定文→磨製波状文。				後期	NIR	
8	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 口縁 磨製欄波状文→磨製刻定文。				後期	NIR	
9	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨製刻定文→磨製波状文。				後期	No.1	
10	縄文土器	深鉢	底に4溝。織文1孔。				後期初頭	SR	
11	縄文土器	深鉢	底に4溝。織文1孔。				後期初頭	SR	

ひ・ふ-56-57Grにあり、H29・M11に切られる。炉は調査範囲内にはない。ピット3個検出されP1は主柱穴、P2は出入口施設の基礎であろう。P3は床下から検出。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。覆土1~4層は人為埋土。H11・H12・H20・H27同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。

遺物は、甕(6~10)・壺(1~5)の弥生土器、剥片(13)、敲石(14-15)、台石(16)、本址に伴わなH28号住居址出土遺物観察表(2)

No.	原種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
13	剥片		7.5	7.7	2.4	120.82		N区覆土
14	敲石		14.0	8.3	4.7	872.12	正面と側面に彫り痕。	No.4
15	敲石		13.5	12.3	6.6	1668.14	ほぼ側面全面に彫り痕。側面は平坦面に近い形状。	No.2
16	台石		25.8	23.2	11.0	11800.0	正面が使用面。条痕残る。	No.3



い縄文時代後期初頭の深鉢片がある。

3~5の壺外面赤色塗彩され、櫛描横線文・横位のへら描沈線内に櫛描波状文やへら描格子文が施文される。甕6・8は口縁部・胴部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第94図 H28号住居址

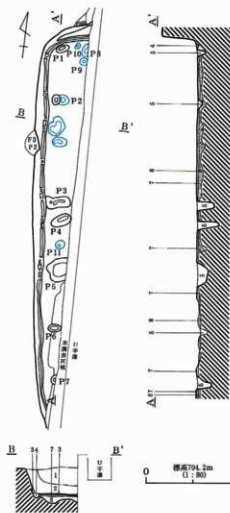
(29) H29号住居址

U-55~57Grにあり、F3・P165に切れ、H28を切る。炉は調査範囲内では確認されない。ピットは11個の壁柱穴が検出された。西壁下を巡る壁溝内に、10カ所の壁柱痕のような浅い窪みがみられた。P1~P7は床面から、P8~P11は床下から検出された。床面は堅く平坦で、直上にH11・H12・H20・H27・H28同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。覆土1・2層は人為埋土である。2層は堅く締まる。

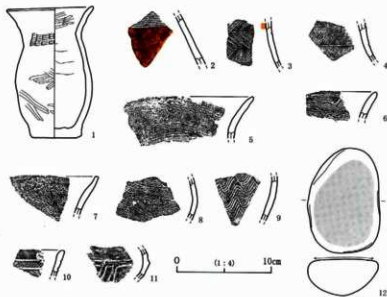
遺物は、甕(5~9)・壺(1~4)の弥生土器、磨石(12)、本址に伴わない縄文時代後期堀之内式2の深鉢・称名寺式か堀之内式1の注口土器片がある。

1の小形の壺は、内面に粘土帯が窺えるくらい内外面粗く調整されている。2の壺外面3の頸部まで赤色塗彩され、2~4の壺には縞描横線文・横位羽状のへら斜走文が施文される。甕5~8は縞描波状文が施される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



- 1層 暗褐色土(7.5YR3/4) 黄褐色土の小ブロック多量。人為的埋土。
- 2層 暗褐色土(7.5YR3/3) 堅く締まる。人為的埋土。
- 3層 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘質土。
- 4層 暗褐色土(7.5YR5/6)
- 5層 暗褐色土(10YR2/3) 赤い。
- 6層 暗褐色土(7.5YR3/4) 床面直上の粘質土。
- 7層 暗褐色土(10YR3/4) 灰。堅く締まる。黄褐色土の小ブロック多量。
- 8層 黄褐色土(10YR5/6) 黒方埋土。暗褐色土・黄褐色土多量。



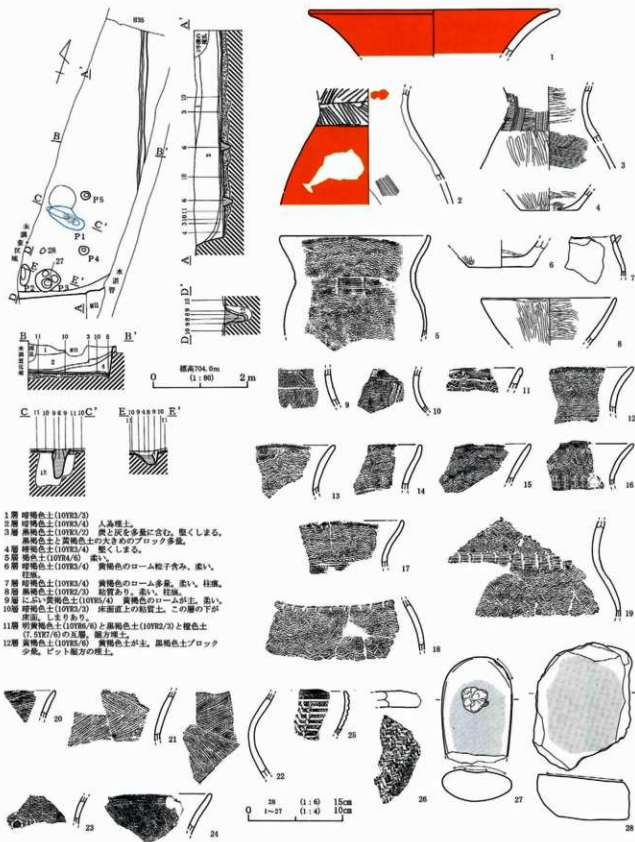
第95図 H29号住居址

第57表 西近津遺跡IV H29号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H29		流量			成形・調整・文様		測定値() 残存値 < > 片数・出土位置		
No.	類別	器種	口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	9.1	(5.4)	<13.9>	ナデ+口縁部へらミガキ。粘土帯痕みられる	ナデ+粗いへらミガキ。縞描横線文	完全実測	N区覆土
2	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 縞描横線文 赤色塗彩。					後期	S区覆土
3	弥生土器	壺	内面 ハクメヘラミガキ 頸部上部まで赤色塗彩。外面 へら斜走文横位羽状。					後期	S区覆土
4	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 へら斜走文 横位羽状。					後期	S区覆土
5	弥生土器	壺	内面 へらミガキ。外面 縞描波状文+縞描横線文。					後期	N区覆土
6	弥生土器	壺	内面 へらミガキ。外面 縞描波状文。					後期	N区覆土
7	弥生土器	鉢	口唇部取り。内面 へらミガキ。外面 縞描波状文+口縁部近いへらナデ。					後期	N区覆土
8	弥生土器	鉢	内面 へらミガキ。外面 縞描波状文。					後期	N区覆土
9	弥生土器	鉢	内面 へらミガキ。外面 縞描波状文。					後期	N区覆土
10	縄文土器	深鉢	口唇部取り。2条の横位波線内に横文L形。					堀之内2	N区覆土
11	縄文土器	注口土器	微形L形文。					堀之内前室	S区覆土
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	出	注	出土位置
12	磨石	磨石	11.2	7.5	3.9	522.16	正室にすり面。		床 P77北

(30) H30号住居址



第96図 H30号住居址

第58表 H30号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文部		推定産地()	残存量 < > 丸底・	出土位置
			口径(横)	底径(横)	底径(縦)	内面	外面			
1	弥生土器	甕	(26.2)	-	<5.0>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	白帆実用	5G 甕土	
2	弥生土器	甕	-	-	<12.3>	ハケ目調整。摩耗している	ヘラ描斜定文を横位羽状に施文	完全実用	5R P3	ホリ方
3	弥生土器	甕	-	-	<8.7>	胴部ヘラミガキ。胴部ハケ目調整	胴部ヘラミガキ	白帆実用	5G	5区床
4	弥生土器	甕	-	(5.9)	<2.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。胴部ヘラミガキ	白帆実用	5G 甕土	
5	弥生土器	甕	(16.1)	-	<10.5>	ヘラミガキ	横位羽状文→横位扇状文	白帆実用	NR床	5G 甕土
6	弥生土器	甕	-	6.7	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。磨耗している	完全実用	5G 甕土	
8	弥生土器	鉢	(14.2)	-	<4.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	白帆実用	5G 甕土	
7	弥生土器	鉢				片口の斜。内外面ヘラナデ。		後期	5G 甕土	
9	弥生土器	甕				内面ナデ。外面横位羽状のヘラ描斜定文一部赤色塗彩。		後期	5G 甕土	
10	弥生土器	甕				内面ハケ目調整 胴部まで赤色塗彩。外面 横位T字文→赤色塗彩。		後期	5G 甕土	
11	弥生土器	甕				折り返し口縁。内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文。		後期	カクラン	
12	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文→横位扇状文。		後期	5G 甕土	
13	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文→横位扇状文。		後期	5G 甕土	
14	弥生土器	甕				口縁部内湾気味に立ち上る。内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文。		後期	5G 甕土	
15	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文。		後期	5G 甕土	
16	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ 口唇部 折目。外面 横位扇状文→口縁部・胴部横位扇状文。		後期	5G 甕土	
17	弥生土器	甕				口縁部やや内湾気味に立ち上る。内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文→横位扇状文。		後期	N-5区甕土	
18	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 胴部横位扇状文→胴部 横位扇状文。		後期	5G 甕土	
19	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文→横位扇状文。		後期	5G 甕土	
20	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文。		後期	5G 甕土	
21	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文→横位羽状の横位扇状文。		後期	5G 甕土	
22	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 口縁部一部部横位羽状の横位扇状文。		後期	N-5区甕土	
23	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文→横位扇状文・折片付文。		後期	5G 甕土	
24	弥生土器	甕				内面ヘラミガキ。外面 横位扇状文。		後期	5G 甕土	
25	縄文土器	深鉢				口縁部内湾気味に立ち上る。7条の横位沈線。弧状短沈線と押圧で区切る加曾利B1の深鉢である。		加曾利B1	NR床甕土	
26	縄文土器	深鉢				網代底。3本越え3本滑り。		後期前半	NR床甕土	
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見			出土位置
27	台石		20.5	16.0	7.0	3600.00	正器に使用部。			No.1
28	磨-蔽石		<11.4>	<7.5>	<3.3>	<328.61>	下部欠損。正面にすり目。上端部と正面に磨り目。			No.2

ふ-54~56Grにあり、H35・F3・M11に切られる。炉は調査範囲内にはない。ピットは5個検出された。五平状の柱痕持つP1は主柱穴、出入口施設の基礎と考えられるP2も五平状の部材が考えられる。出入口施設の基礎と考えられるP3の柱痕は、P2側に傾斜する。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20・H27・H28同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。覆土2・3層は人為埋土、3層には炭と灰が多量に見られる。

遺物は壺(1~3・9・10)・甕(4~6・11~24)・鉢(7・8)の弥生土器、磨面持つ蔽石(28)、台石(27)、本址に伴わない縄文土器(25・26)がある。

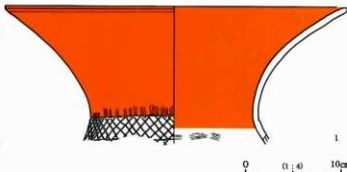
1・2は外面と内面頸部まで壺赤色塗彩され、2は横位羽状のヘラ描斜定文が施文される。3・4頸部には横位T字文が施され、3は無彩である。甕5・12・19は口縁部・胴部横位扇状文後部部横位扇状文が施される。11~17は口縁部に横位扇状文が、20~22・24は横位扇状文が施文される。25は口縁部内湾気味に立ち上がり、7条の横位沈線を弧状短沈線と押圧で区切る加曾利B1の深鉢である。26の縄文深鉢網代底は、3本越え3本滑りの編み方である。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

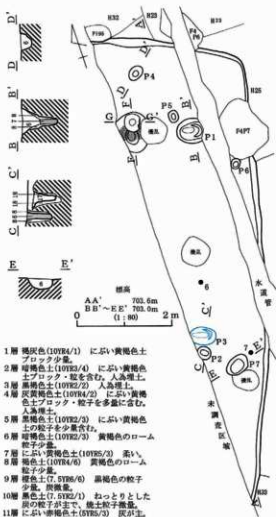
(31) H31号住居址

ひ-ふ-60~62Grにあり、H23・H25・H33・F4・P195に切られる。H32との新旧関係は、重複部にP195がかかり不明である。

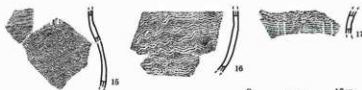
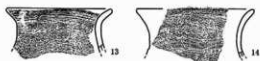
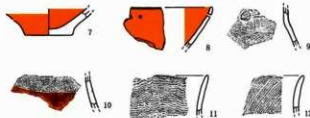
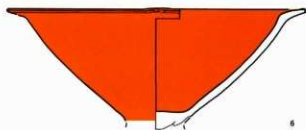
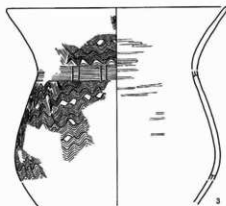
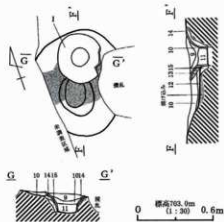
炉は主柱穴P1の西に近接する。第97図



第97図 H31号住居址(1)

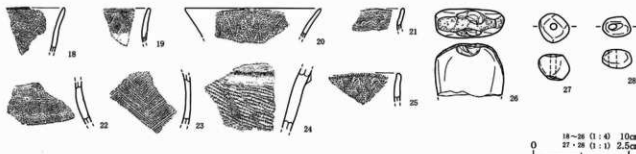


- 1層 褐灰色(10YR4/1) に多い黄褐色土ブロック少量。
- 2層 暗褐色土(10YR2/4) に多い黄褐色土ブロック・灰を含む。人高埋土。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2) 人高埋土。
- 4層 灰黄褐色土(10YR4/2) に多い黄褐色土ブロック・灰を多量に含む。人高埋土。
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) に多い黄褐色土の粒子を少量含む。
- 6層 暗褐色土(10YR2/3) 黄褐色のローム粒子少量。
- 7層 に多い黄褐色土(10YR2/3) 灰。
- 8層 暗褐色土(10YR4/6) 黄褐色のローム粒子少量。
- 9層 棕色土(7.5YR6/6) 黒褐色の粒子少量。黄灰土。
- 10層 黒色土(7.5YR2/1) わつとりした灰の粒子が主で、焼土粒子少量。
- 11層 に多い暗褐色土(10YR5/3) 灰が主。灰の粒子・灰を含む。
- 12層 灰褐色土(7.5YR5/2) 灰が主。
- 13層 明黄褐色土(10YR4/6) 焼土。
- 14層 に多い暗褐色土(10YR4/4) 焼土粒子多量。
- 15層 暗赤褐色土(5YR3/4) 焼土粒子多量。
- 16層 黄褐色土(10YR5/6) 灰方埋土。
- 17層 暗褐色土(10YR2/3)
- 18層 黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色ロームが主。



0 (1:4) 10cm

第98図 H31号住居址(2)



第59図 H31号住居址(3)

第59表 H31号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

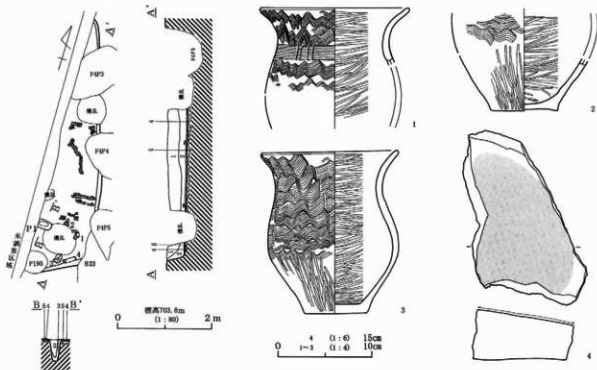
H31		法 量		成 形 ・ 装 飾 ・ 文 様				埋 藏 位 置 () 埋 存 深 < > 丸 底	出 土 位 置
No.	種別	口径(内)	底径(内)	底高(内)	内 面	外 面	備 考		
1	弥生土器	壺	36.1	-	<14.7>	口縁部ヘラミガキ→赤色塗彩。頸部ヘラミガキ→赤色塗彩。	完全実測	Ⅱ区 No.4	
2	弥生土器	壺	(17.4)	-	<3.2>	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	I区	
3	弥生土器	壺	<23.3>	-	<20.8>	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区 P6 H25	
4	弥生土器	壺	-	(3.4)	<2.3>	ヘラミガキ	回転実測	I区覆土	
5	弥生土器	壺	-	8.6	<6.2>	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区ホリ方 61	
6	弥生土器	高坏	(31.6)	-	<12.7>	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測 突起4ヶ所あり	No.3	
7	弥生土器	鉢	-	5.0	<2.6>	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	No.2	
8	弥生土器	鉢	-	-	<4.4>	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測 焼成前厚孔2ヶ所あり	Ⅱ区覆土	
13	弥生土器	壺	(11.0)	-	<4.7>	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土	
14	弥生土器	壺	(12.4)	-	<5.2>	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土	
20	弥生土器	壺	(14.4)	-	<3.2>	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土	
9	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描斜文→櫛描羅紋文→刺突内形貼付文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
10	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラミガキ→赤色塗彩。				断面実測	Ⅱ区覆土	
11	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
12	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描斜文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
15	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描羅紋文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
16	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。				断面実測	Ⅱ区 H25Ⅱ区覆土	
17	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描羅紋文。				断面実測	覆土	
18	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
19	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
21	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
22	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラミガキ→赤色塗彩。				断面実測	Ⅱ区覆土	
23	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 櫛描斜文。				断面実測	覆土	
24	縄文土器	深鉢	縁位敷起帯文のナデで一部縄文Rが認められる。				中実実測	覆土	
25	弥生土器	壺	口縁部斜文。内面ヘラミガキ。外面 口縁部櫛描波状文。				断面実測	Ⅱ区覆土	
No.	図 像	材	最大径	最大径	重量	備 考		出 土 位 置	
26	胎石		<5.6>	<7.3>	<3.1>	<237.6g>	下部欠損。上端部に刺打痕。	カクラン	
27	土製丸玉		0.8	0.8	0.6	0.33	孔径 0.15。	伊	
28	土製丸玉		0.6	0.7	0.5	0.17	孔径 0.2×0.1の傷み。	伊	

1の壺の口縁部から頸部を正位に埋設した埋甕である。壺南側のテラス部分と周辺がよく焼け込んでいる。壺の中最下部に灰、その上に粒子状の炭が堆積していた。テラスにも同様の堆積があった。7個のビットが検出された。P1・P2が支柱穴、P4が棟持柱、P5は支柱、P6・P7は壁柱穴である。桁行きは4.8m。P3は床面下から検出された。P2の柱痕径16cm、P1の柱痕は五平状とみられる。床面は堅く平坦で、P3周辺に浅い掘方があるが、他にはない。覆土2・3層は人為埋土。

遺物は、壺(1・2・10・22)・甕(9・11~21・23・25)・鉢(7・8)の弥生土器、敲石(26)、土製の丸玉(27・28)、炉内からモモの破片が5個(1/2個分)と獣類の部位不明焼骨破片、本址に伴わない縄文中期後葉深鉢片(24)がある。1・2は外面と内面頸部まで壺赤色塗彩され、炉に用いられた1はヘラ描格子文が施文される。3の甕は、口縁部・胴部櫛描波状文後頸部櫛描羅紋文が施される。11・14・17・18~21は口縁部に櫛描波状文が、12は櫛描斜文が施文される。6は口縁部屈曲し鈎状に開く高坏で、内外面赤色塗彩される。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(32) H32号住居址

ふ-54~56Grにあり、H23・F4・P159・P195に切れ、H27を切る。炉は調査範囲内にはない。主柱穴P1の柱痕は五平状とみられる。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20・H27・H28・H30同様暗褐色の粘質土が床に張り付く。垂木や桁材であろう炭化材が床面に接して多数検出された。火に遭ったのは、居住時か廃屋間もなくみられる。遺物は1の甕は口縁部と胴部の櫛描波状文後頸部に櫛描簾状文、口縁部から胴中央部まで櫛描波状文のみ施文の2の甕、4の台石がある。



- 1層 暗褐色土(10YR3/4)
- 2層 黄褐色土(10YR2/3) 炭化材・炭化粒子が主。灰と礫土が部分的にある。炭化材の上層に礫土。
- 3層 黄褐色土(10YR5/3)
- 4層 暗褐色土(10YR2/3) 粘質土。
- 5層 褐色土(10YR4) 明黄褐色土多量。礫方礫土。

第100図 H32号住居址

これらの遺物から本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第60表 H32号住居址出土遺物観察表

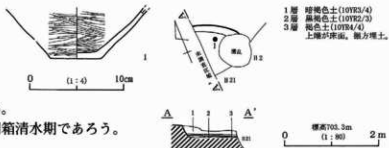
(cm・g)

No.	種別	形状	法量			内面		外面		測定値()	残存量 < > 丸底・	出土位置
			口径(径)	底径(径)	深さ(深)	内面	外面	備考				
1	弥生土甕	壺	15.9	-	<12.8>	ヘラミガキ	ハケメ、櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測	No.2			
2	弥生土甕	壺	7.0	-	<10.3>	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測	No.1			
3	弥生土甕	壺	14.6	6.7	17.1	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測	No.3			
No.	種別	形状	最大径	最大径	最大径	重量	所	所			出土位置	
4	台石		28.0	19.8	8.3	5610.00	正面が使用面。				No.4	

(33) H33号住居址

ふ-62Grにあり、H21・H23に切れH31を切る。炉・ピット等調査範囲内にはない。床面は堅く平坦でH11・H12・H20・H27・H28・H30同様粘質土が床に張り付く。掘方はない。

1の甕と重複関係から弥生時代後期箱清水期であろう。

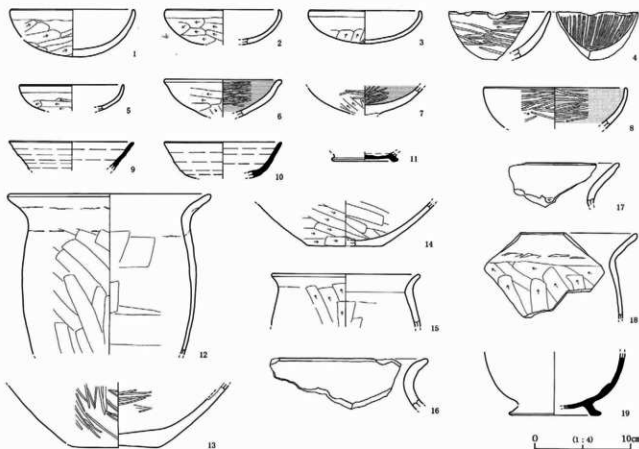
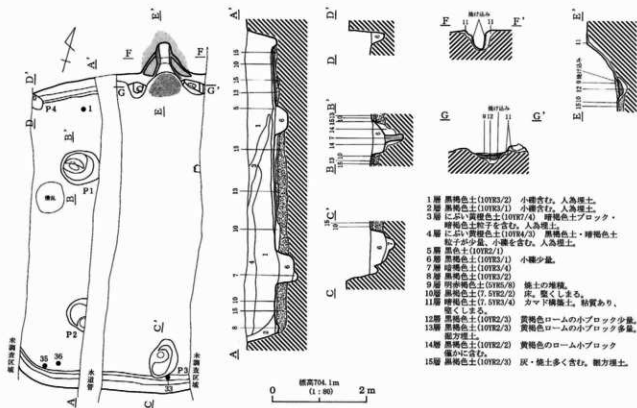


- 1層 暗褐色土(10YR3/4)
- 2層 黄褐色土(10YR2/3)
- 3層 褐色土(10YR4/4) 上層が礫面。礫方礫土。

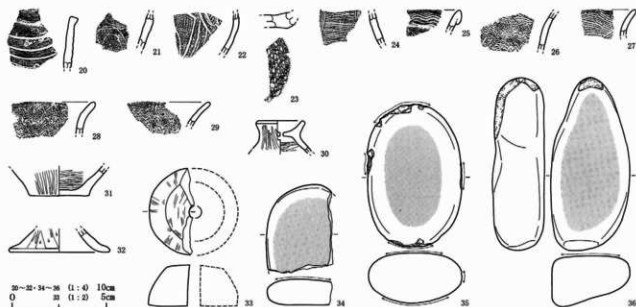
第101図 H33号住居址

(34) H34号住居址

ふ-51~53Grにあり、H39を切る。カマドは北壁中央にあり、暗褐色土で構築された袖・煙道部



第102図 H34号住居址(1)



第103図 H34号住居址(1)

第61表 H34号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

H34		施 装			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		指定箇() 残存箇 < > 丸座	備 考	出土位置		
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面				
1	土師器	杯	(13.2)	-	5.0	ナデ	口縁部ヨコナデ→体部ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区 No.1		
2	土師器	杯	(12.2)	-	<3.7>	ナデ	ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ	回転実測	I区覆土		
3	土師器	杯	(11.6)	-	3.5	ナデ	ナデ→ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区 Ⅱ区ホリ方 P1 H39		
4	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	Ⅱ区覆土		
5	土師器	杯	(11.0)	-	<2.7>	ナデ	ナデ→ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ	回転実測	カマド Ⅱ区ホリ方		
6	土師器	高杯	(12.4)	-	<3.9>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	I区 Ⅱ区		
7	土師器	高杯	-	-	<3.0>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土		
8	土師器	杯	(15.0)	-	<4.3>	ヘラミガキ。黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区覆土		
9	須恵器	杯	(13.2)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区覆土		
10	須恵器	杯	(12.4)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区覆土		
11	須恵器	有台杯	-	(7.0)	<1.0>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ→高台貼付	回転実測	Ⅱ区覆土		
12	土師器	壺	(21.6)	-	<17.1>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区覆土		
13	土師器	鉢	-	(9.6)	<6.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区 カマド		
14	土師器	鉢	-	(8.0)	<4.8>	ヘラナデ→部ヘラミガキ	ヘラケズリ→部ヘラミガキ	回転実測	カマド		
15	土師器	壺	(15.6)	-	<5.4>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	I・Ⅱ・Ⅲ区		
16	土師器	壺	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	破片実測	Ⅱ-V区覆土		
17	土師器	壺	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ。ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区覆土		
18	土師器	壺	-	-	-	ヘラナデ	ヘラケズリ	破片実測	カマド		
19	須恵器	壺	-	9.6	<6.8>	ロクロナデ	ロクロナデ	当初検出に成りしたものを器種変更し香とした	Ⅱ区 H39		
20	弥生土器	蓋	5.2	-	<3.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区覆土		
21	弥生土器	蓋	-	(6.4)	<3.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	覆土		
22	弥生土器	蓋	-	(10.6)	<2.4>	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	I区覆土		
20	縄文土器	注口土器	4集の平行沈線。縄文I&II完備。						瓶之内2	Ⅱ区覆土	
21	縄文土器	深鉢	横位・弧状沈線(線細い沈線)。						瓶名寺	Ⅱ区覆土	
22	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。縄文I。						瓶之内1	I区覆土	
23	縄文土器	深鉢	網代底。2本筋2本廻り。							後期前半	カマド
24	弥生土器	蓋	内面 ナデ。外面 磨波ノ字文。								I区覆土
25	弥生土器	蓋	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 磨波波状文。								I区覆土
26	弥生土器	蓋	内面 ヘラミガキ。外面 磨波波状文。								Ⅱ区覆土

H34号住居出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	部種	所	見	備考	出土位置				
27	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面 磨削斜定文。		Ⅱ区覆土				
28	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面 磨削波状文。		Ⅱ区覆土				
29	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面 磨削波状文。		カマド				
No.	器種	高	材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所	見	出土位置
33	紡錘杵			最大径(4.6)	最大幅(3.1)	<2.7>	<31.97>		孔径(0.6)。右側欠損。	No.3
34	磨石			<9.4>	<7.1>	<2.8>	<317.63>		正面にすり面。右側一下側欠損。	Ⅱ区覆土
35	磨・磨石			15.1	10.0	5.3	1293.19		正面にすり面。縁部に削打痕。	No.4
36	磨・磨石			18.4	8.4	5.3	1301.45		正面にすり面。上部部に削打痕。	No.5

分と焼土が堆積する火床が残存する。ピットは4個検出された。P1の柱痕18cm、主柱穴P1・P2は桁行340cmを測る。P3カマドに対峙し位置的に出入り口の基礎であろう。P4は壁柱穴。床は堅く締まり平坦、20cmほどの掘方には灰と焼土が多く含まれる。カマド西の北壁・南壁下に壁溝が巡る。覆土1~4層は人為埋土である。獣類四肢骨の破片がP4南の床面から検出された。

遺物は、土師器環(1~5・8)・高环(6・7)・鉢(13・14)・甕(12・15~18)、須恵器環(9・10)・有台環(11)・壺(19)、紡錘杵(33)、磨石(34)、磨面持つ敲石(35・36)、混入遺物である縄文時代後期称名寺式・堀之内1式・堀之内2式の深鉢片、弥生時代後期壺・甕・台付壺・蓋がある。

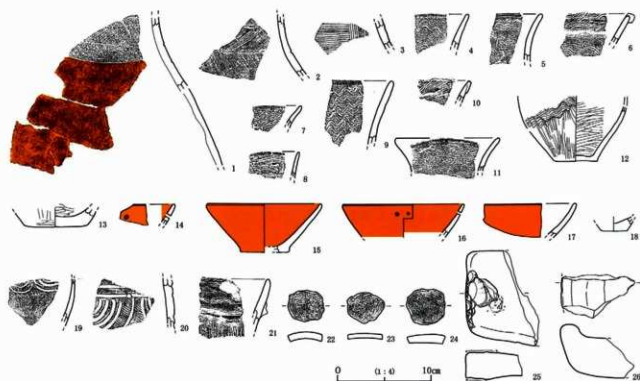
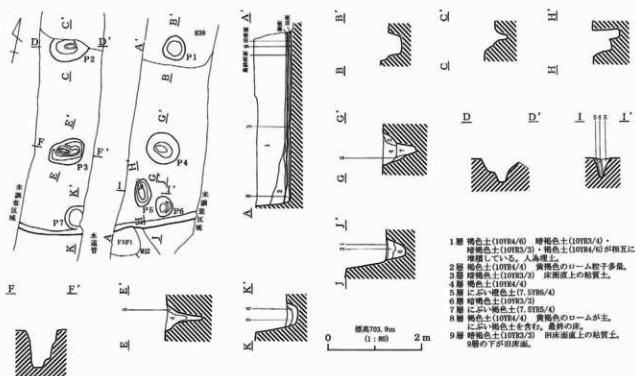
土師器環1~5・8は半球状の環、8の環と6・7の高環坏部は内面黒色処理される。10の須恵器坏底部は手持ちヘラケズリ、11の有台環は底部回転ヘラケズリ後高台貼付。土師器甕は、器肉厚く胴部長く縦長のヘラケズリされる12や口縁部「く」字の武蔵甕17・18がある。19の須恵器壺は、当初横版に成形調整した後器種変更されて壺として焼成されたようである。本址はこれらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(35) H35号住居

第62表 H35号住居出土遺物観察表

(cm・g)

H35			法				成形・磨面・文様		指定値() 残存値 <> 欠・破
No.	種別	部種	口径(径)	底径(幅)	底高(厚)	内部	外部	備考	出土位置
12	弥生土器	甕	-	4.6	<6.9>	ヘラミガキ	磨削波状文→ヘラミガキ	完全実測	P3
13	弥生土器	甕	-	6.6	<2.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	E3区覆土
14	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測 焼成割付2m所剩り	S区覆土
15	弥生土器	鉢	(12.3)	(5.0)	5.1	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	図録実測	S区覆土
16	弥生土器	鉢	(13.0)	-	<3.5>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	図録実測	N-S区覆土
17	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	S区覆土
18	弥生土器	手づくね土器	-	2.8	<1.5>	ナデ	ナデ	完全実測	N区覆土
1	弥生土器	甕	内面	ナデ。外面	ヘラ磨削波状文に横位羽状ヘラ磨削斜定文→赤色塗彩。			断面実測	N区覆土
2	弥生土器	甕	内面	ナデ。外面	横位ヘラ磨削波状文に横位羽状のヘラ磨削斜定文→赤色塗彩。			断面実測	S区覆土
3	弥生土器	甕	内面	ナデ。赤色塗彩。外面	磨削T字文。			断面実測	S区覆土
4	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面	磨削波状文。			断面実測	S区覆土
5	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面	磨削波状文。			断面実測	E区覆土
6	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面	ヘラミガキ。外面	口唇部→口縁部磨削波状文。			断面実測	覆土
7	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面	磨削波状文→磨削波状文。			断面実測	S区覆土
8	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面	磨削波状文→磨削波状文。			断面実測	S区覆土
9	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面	磨削波状文。			断面実測	S区覆土
10	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面	ヘラミガキ。外面	口唇部→口縁部磨削斜定文。			断面実測	S区覆土
11	弥生土器	甕	内面	ヘラミガキ。外面	磨削波状文→磨削波状文。			断面実測	S区覆土
19	縄文土器	注口土器	内外面	ミガキ。張状の集合文様。				堀之内1	S区覆土
20	縄文土器	深鉢	横位2本の沈線下に張状の集合文様。縄文I9境。					堀之内1	N区覆土
21	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位條帯。條帯下に磨削状工具による磨下沈線。					称名寺	N区覆土
22	弥生土器	土製鉢	土製片円形。真円脚片。削打痕。研磨痕。表面赤色塗彩。裏面ナデ。長さ3.8 厚さ0.7。					破片実測	S区覆土
23	弥生土器	土製鉢	土製片円形。鉢片実測。削打痕。裏面赤色塗彩。最大幅3.8 厚さ0.5。					破片実測	N区覆土
24	弥生土器	土製鉢	土製片円形。磨削斜定文。表面ヘラミガキ。裏面ナデ。長さ4.1 短径3.8 厚さ0.9。					破片実測	S区覆土
No.	器種	材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所	見	出土位置
25	敲石		<10.1>	<7.7>	<3.0>	<392.23>		右側欠損。正面に削打痕。	P6
26	石皿		<4.7>	<7.8>	<4.2>	<136.63>		左側に外欠損。	N区覆土



第104図 H35号住居址

ふ-53・54Grにあり、H38・H39・F3・M12に切られる。炉は水道管の下に位置するとみられる。主柱穴P1～P4でP2・P3の柱は五平状とみられる。桁行き・梁行き共に2.2mを測る。出入口施設の基礎であろうP5の柱痕は住居の外方に傾く。P6・P7は貯蔵穴であろうか。新旧2面の床面は双方とも堅く平坦で旧の床面直上には、H11・H12・H20・H27・H28・H30・H33同様暗褐色の粘質

土が床に張り付く。覆土第1・2層は、人為埋土である。

遺物は壺(1~3)・甕(4~13)・鉢(14~17)・手捏土器(18)の弥生土器、土製品(22~24)、敲石(25)、本址に伴わない縄文後期壺之内式深鉢片(20・21)がある。

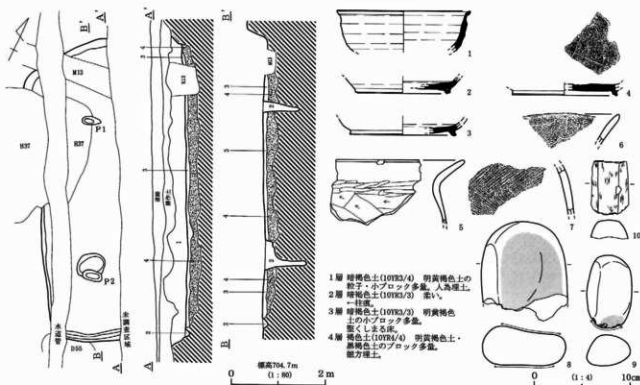
1・2の壺は、外面赤色塗彩され横位羽状のヘラ描斜走文が施文される。2・3は、内面頸部まで赤色塗彩され、3は頸部欄描T字文が施される。4~9の甕は口縁部に欄波状文が、6の甕は折り返し口縁を持ち口唇部から口縁部欄波状文が施される。10は折り返し口縁を持ち口唇部から口縁部欄描斜走文が施される。14~17は、内外面赤色塗彩される。土製品22~24は、土器片円板である。22は表面赤色塗彩の高环脚部片で、側面に敲打痕・研磨痕が認められる。23は表裏面積際のこれら赤彩の鉢か高坏片で、剥離痕が見られる。24は甕胴部片である。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(36) H36号住居址

ふ-48・49Grにあり、H37・D55・M13に切られる。カマドは調査範囲にない。主柱穴P1・P2の柱は五平状とみられる。桁行き2.3mを測る。床は堅く平坦で、覆土第1層は人為埋土である。

遺物は、土師器甕(5)、須恵器碗か坏(1)・有台坏(2~4)、磨石(8)、敲石(9)、面取状に加工



第105図 H36号住居址

第63表 西近津遺跡IV H36号住居址出土土物観察表

(cm・g)

H36		造 成			成 形・装 飾・文 様		原 産 地 ()	貯 存 庫 <>	出 土 位 置
No.	種 別	部 種	口径(横)	底径(横)	底高(背)	内 面	外 面	備 考	
1	須恵系	鉢か高坏	(14.0)	-	<4.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	田代実測	S区覆土
2	須恵系	有台坏	-	(10.0)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切取し踵し後高台貼付	田代実測	礎部面
3	須恵系	有台坏	-	(11.0)	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切取ヘラ切り後高台貼付	田代実測	礎部面
4	須恵系	有台坏	-	(11.0)	<1.3>	ロクロナデ。ヘラ記号あり	ロクロナデ→底部切取ヘラ切り後高台貼付	田代実測	N区覆土
5	土師器	甕				内面ヘラナデヨコナデ。外面口辺部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ。		硬片実測	覆土
6	赤土土器	甕				内面ヘラミギキ。外面 欄波状文。		田代実測	礎部面
7	赤土土器	甕				内面ヘラナデ。外面 横位羽状の欄波刻立文。		田代実測	礎部面
No.	種 別	材	長さ(横)	幅(横)	厚(背)	用 具			出 土 位 置
8	磨石		<10.5>	<9.2>	<4.2>	<578.68>			礎部面
9	敲石		7.8	4.6	3.3	168.16			覆土
10	不明		<5.7>	<3.9>	<1.8>	<88.08>			P1

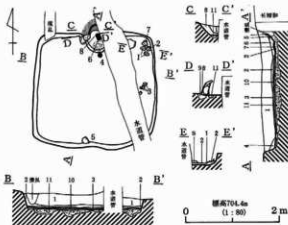
した石器(10)、混入遺物である弥生時代後期甕がある。

須惠器有台杯3・4の底部は、回転ヘラ切り後高台貼付される。土師器甕は、口縁部「く」字の武蔵甕で、口縁部に最大径がある。

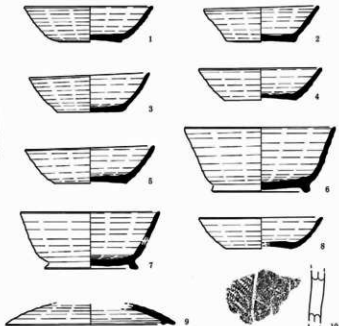
これらから、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(H7) H37号住居址

ふ-48・49Gにあり、H36・D56を切る。カマドは北壁中央にあり、礎を芯材とし暗褐色の粘質土で構築された袖・煙道部の一部、火床が残存する。柱穴等は検出されない。床は堅く締まりほぼ平坦



- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色ローム・黒褐色土の小ブロック多量。人為堆土。
- 2層 黄褐色土(10YR3/2) 黄褐色のローム小ブロック含む。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3) 床面直上の粘質土。
- 4層 黄褐色土(10YR3/3) 黄褐色のローム小ブロック含む。
- 5層 赤褐色土(5YR4/8) 炭土。
- 6層 褐色土(10YR4/4) 炭・灰・炭土小ブロック少量。
- 7層 濃い黄褐色土(10YR7/4) 炭が少量。
- 8層 暗褐色土(10YR3/4) 粘質土。
- 9層 褐色土(10YR4/6) 炭い。
- 10層 黒褐色土(10YR2/2) 炭。堅くしめる。
- 11層 褐色土(10YR4/6) 濃い黄褐色土が主。暗褐色土の小ブロック含む。



第106図 H37号住居址

第64表 H37号住居址出土遺物観察表

H37		寸法			形状・調整・文様		調査区() 残存量 < > 区分・			
No.	種別	径幅	口徑(内)	底径(内)	取柄(有)	内面	外面	調査区	出土区	
1	須惠器	杯	13.7	6.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ-底部右回転ヘラ切り	完全実測	内外 器火だすき	No.2 No.4
2	須惠器	杯	12.1	7.2	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ-底部右回転ヘラ切り	完全実測	内外 器火だすき	No.3
3	須惠器	杯	12.8	7.0	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ-底部右回転ヘラ切り	完全実測	内外 器火だすき	No.5-6・7
4	須惠器	杯	(13.0)	(7.6)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ-底部右回転ヘラ切り	完全実測	内外 器火だすき	No.9
5	須惠器	杯	13.7	7.6	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ-底部右回転ヘラ切り	完全実測	内外 器火だすき	No.10
6	須惠器	高台杯	15.9	(10.4)	6.9	ロクロナデ	ロクロナデ-底部回転ヘラケズリ、高台貼付	完全実測	I区 IV区 床	No.14
7	須惠器	高台杯	(14.8)	(9.8)	6.1	ロクロナデ	ロクロナデ-底部回転ヘラケズリ、高台貼付	完全実測	No.1	
8	須惠器	高台杯	(13.0)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ-底部右回転ヘラ切り、高台付	回転実測	内外 器火だすき	I区 No.13
9	須惠器	甕	(18.0)	-	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	内外 器	I区 IV区
10	縄文土器	深鉢	底を下する深鉢。縄文式。					中期後葉	器区層土	
11	縄文土器	深鉢	傾斜・底部の磨石痕跡。					器之内I	器区層土	
12	縄文土器	深鉢	横切面等上縄文式。					中期後葉	器区層土	
13	弥生土器	土器(内輪)	磨削面。研磨面。磨石痕跡。最大幅4.7 厚さ0.8。					破片実測	器区層土	
14	縄文土器	土器(内輪)	磨削面。磨石痕跡。最大幅3.3 厚さ1.0。					破片実測	器区層土	
15	弥生土器	甕	内面三角片。外面磨石痕跡。					中期後葉	器区層土	
16	弥生土器	甕	内面三角片。外面磨石痕跡。磨石痕跡。磨石痕跡。					中期後葉	器区層土	
17	弥生土器	甕	内面へつらみ片。外面磨石痕跡。磨石痕跡。磨石痕跡。					中期後葉	器区層土	
18	弥生土器	甕	内面へつらみ片。外面磨石痕跡。磨石痕跡。磨石痕跡。					中期後葉	器区層土	

である。覆土第1層は人為埋土である。カマド東脇床面には、平石が見られた。第105図1・2・7が北東隅の床面、4・6・8がカマド内、3が東壁中央下の床面から出土した。

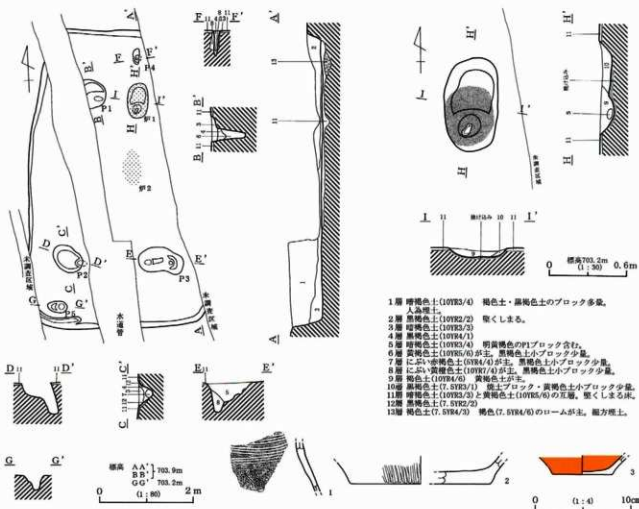
遺物は、須恵器坏(1~5)・有台坏(6~8)・蓋(9)、混入遺物である縄文時代中期後葉・後期前半の深鉢(10~12)・弥生時代後期甕(15~18)、土製品(13・14)がある。カマド内灰から獣類部位不明焼骨片出土。1~5・8の底部回転糸切り、6・7の底部回転糸切り後に回転ヘラケズリ。9は、僅かなかえりを有す。13は弥生時代後期甕片を加工した土器片円板、側面に研磨痕。14は縄文時代後期前半深鉢を加工した土器片円板。側面に敲打痕。

これらから本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀第3四半期に位置づけられる。

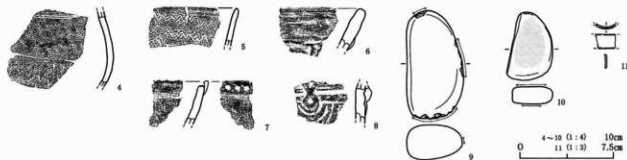
(38) H38号住居址

ふ-48・49GrにありH35を切り、M12に切られる。カマド・柱穴等調査範囲内にはない。床は堅く締まりほぼ平坦。覆土第2層は炭化材を多量に含む。第107図1の砥石は、最大長10cm最大幅5.3cm最大厚2.5cm重量162.16g、砥面数4、右側欠損後も使用。本址の時期等詳細は不明である

(39) H39号住居址



第108図 H39号住居址



第109図 H39号住居址

第65表 H39号住居址出土遺物観察表

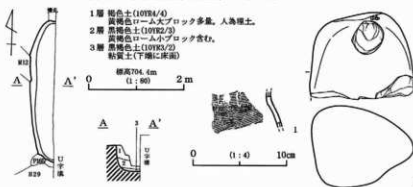
(cm・g)

H39		法 器		成 形・調 整・文 様		測定値() 残存径 < > 丸径・	備 考	出土位置		
No.	種別	器種	口径(内)	底径(内)	器高(厚)	内 面	外 面			
2	弥生土器	壺	-	(14.8)	<3.0>	ナデ	ヘラミガキ	田畑実測	P2	
3	弥生土器	鉢	-	6.3	<2.1>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	覆土層	
1	弥生土器	壺	内面	ナデ		外面 櫛形横走文。		断面実測	W区埋土	
4	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ		外面 櫛形横走文・櫛形横走文。		断面実測	E区埋土	
5	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ		外面 櫛形横走文。		断面実測	ホリ方	
6	縄文土器	深鉢	折部製深鉢。口縁部下に横位彫刻。					断面実測	E区埋土	
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部に付って内折彫刻。					断面実測	埋土	
8	縄文土器		横位の集合状線土の6字状彫刻文を起点を巻弧状の集合状線。						断面実測	埋土
No.	種別	器種	口径	底径	器高	厚	備 考	出土位置		
9	敲石		11.5	6.1	4.0	432.92	上下側部と右側に敲打痕。		多	
10	敲石		7.2	4.8	1.9	97.70	正面にすり面。		W区埋土	
11	銅	銅	<1.6>	<1.1>	<0.1>	<1.14>	同端欠損。		埋土	

ひ・ふ-52~53GrにありH34切れH35を切る。炉は2カ所から検出された。主柱穴P1・P2間の炉1は主炉で、北側にテラスを持つ地床炉である。底面にあった敲石(第109図9)は炉縁石が移動したのかは定かでない。炉底面はよく焼け込んでいる。炉1南65cmの住居主軸線上の炉2は、床面からの掘り込みは見られず、南北80cm東西40cmの楕円形状によく焼け込んでいる。ピットは5個検出され、P1~P3の主柱穴は掘方からP4の棟持柱と共に五平状の柱が考えられる。P2は外側に向けて傾斜している。P5は壁柱穴。P1とP2の桁行き350cm・P2とP3の梁行き160cmを測る。敲き床の床面は堅く平坦で、掘方は北側に僅か認められる。南壁西側部分に壁溝がある。覆土第1層は、人為埋土である。

遺物は壺(1・2)・甕(4・5)・鉢(3)の弥生土器、敲石(9・10)、銅銅(11)、本址に伴わない縄文後期称名寺式・堀之内1式深鉢片(6~8)がある。

1の無彩の壺は、頸部に櫛形横走文が施文される。4の甕は胴部櫛形横走文後頸部櫛形横走文が施される。3の鉢は、内外面赤色塗彩される。



第110図 H40号住居址

第66表 H40号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

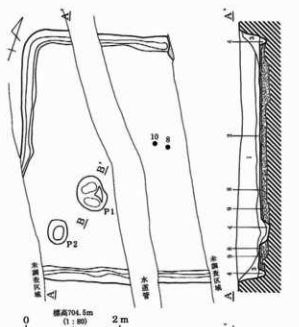
H40		法 器		成 形・調 整・文 様		測定値() 残存径 < > 丸径・	備 考	出土位置	
No.	種別	器種	口径(内)	底径(内)	器高(厚)	内 面	外 面		
1	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ		外面 櫛形横走文、櫛形横走文。		断面実測	埋土
2	敲石							断面実測	埋土

これらの遺物から本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

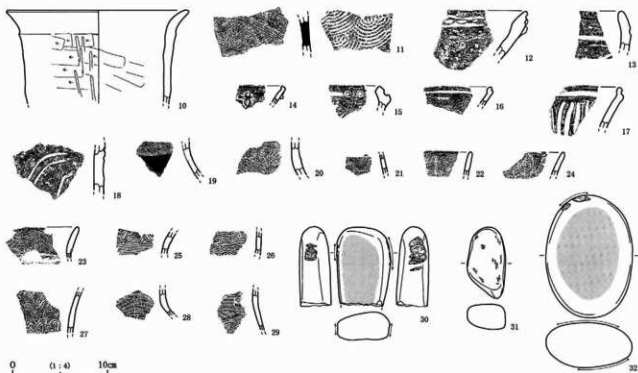
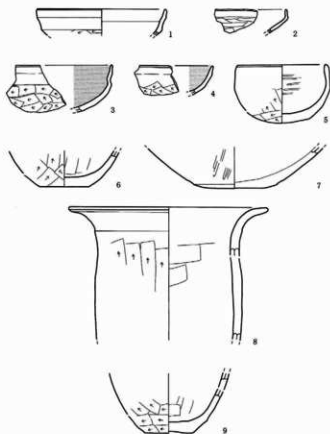
(40) H40号住居址

ひ・ふ-55GrにありH29・M12・P165に切られる。調査範囲内で炉・柱穴等見られない。覆土第1層は人為埋土。床面直上に粘質土が張り付く。時期はH29との関係で弥生時代後期かそれ以前である。

(41) H41号住居址



- 1層 にごい黄褐色土・黒褐色土・黒色土がブロック・レンズ状に堆積する。人為堆積。
- 2層 黒褐色土(10T82/3) にごい黄褐色土ブロック少量。人為堆積。
- 3層 黒褐色土(10T83/1) にごい黄褐色土ブロックを少量含む。人為堆積。
- 4層 黒褐色土(10T83/4) 薄い。
- 5層 黒褐色土(10T84/1) 薄い。柱礎。
- 6層 にごい黄褐色土(10T85/3) 黒色土ブロック層に含む。
- 7層 灰黄褐色土(10T84/2) 黒褐色土ブロック多量を含む。
- 8層 黒褐色土(10T85/4) にごい黄褐色土の小ブロック多量を含む。密くしまる。
- 9層 黒褐色土(10T84/4) にごい黄褐色土・褐色土が主。黒褐色土の小ブロック少量。緩方硬土。



第111図 H41号住居址

第67表 H41号住居出土土物観察表

(cm・g)

No.	H41	器種	形状	法 量		成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		規定値 () 推定値 < > 測定値	備 考	出土位置
				口径(径)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面			
1	土師器	杯	(13.4)	-	<2.8>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	白転実測	Ⅱ区 Ⅱ区	
2	土師器	杯	-	-	<2.5>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区	
3	土師器	杯	-	-	<5.0>	ヨコナデ→黒色処理	口縁部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区	
4	土師器	杯	-	-	<3.1>	ヘラミガキ→黒色処理	口縁部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区	
5	土師器	鉢	(9.2)	-	6.2	ヘラミガキ	ヘラケズリ	白転実測	Ⅱ区	
6	土師器	壺	-	5.2	<3.8>	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区	
7	土師器	壺	-	(8.8)	<4.4	摩耗している	ヘラミガキ 摩耗している	白転実測	Ⅱ区	
8	土師器	甕	(20.8)	-	<14.1>	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ	白転実測	Ⅱ区 No.1	
9	土師器	甕	-	5.0	<6.4>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区	
10	土師器	甕	(19.2)	-	<9.9>	口縁部ヨコナデ 胴部ナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ→ヘラミガキ	白転実測	Ⅰ区 No.2	
11	須恵器	甕	-	-	-	同心内文当て具		新田実測	Ⅱ区	
12	縄文土器	深鉢	口縁に沿って2本の沈線下に連続刻文。						新田実測	Ⅱ区
13	縄文土器	深鉢	口縁部下縁位沈線。						新田実測	Ⅱ区
14	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁位刻み縦線上に8字状貼付文。						後期初期	Ⅰ区
15	縄文土器	深鉢	口縁部内折。2本の円形刻みから横位の沈線。その下斜位の沈線。						堀之内2	Ⅱ区
16	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁に沿って横位沈線。						堀之内1	Ⅰ区
17	縄文土器	深鉢	口縁に沿った沈線の下 2集1対の沈線が直下。						堀之内1	Ⅱ区
18	縄文土器	深鉢	環状の沈線区画。						堀之内1	Ⅱ区
19	弥生土器	壺	内面	赤色塗彩。外面	ヘラ指染線文内へヘラ指染線文→赤色塗彩。			新田実測	Ⅱ区	
20	弥生土器	壺	内面	ナデ。外面	ヘラ指染線文内へヘラ指染線文・刻文を充填したヘラ指染線文。			新田実測	Ⅱ区	
21	弥生土器	壺	内面	ナデ。外面	ヘラ指染線文内へヘラ指染線文・刻文を充填したヘラ指染線文。			新田実測	Ⅱ区	
22	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文。			新田実測	Ⅱ区	
23	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文。			新田実測	Ⅱ区	
24	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文。			新田実測	Ⅱ区	
25	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文→磨滅横線文。			新田実測	Ⅱ区	
26	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文。			新田実測	Ⅱ区	
27	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文。			新田実測	Ⅱ区	
28	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文。			新田実測	Ⅱ区	
29	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ。外面	磨滅沈線文。磨滅沈線文。			新田実測	Ⅱ区	
No.	器 種	商 材	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
30	磨石		<8.5>	<5.6>	<3.2>	<273.97>	正面にすり面。内側に磨打痕と条痕。		Ⅰ区	
31	磨石		7.6	4.1	2.8	137.64	磨面あり? (表面磨化) 全体にすり。		Ⅱ区	
32	磨石		13.1	9.0	5.0	911.08	上磨面に磨打痕。正面にすり面。		Ⅱ区	

ほま-46・47GrにありH42を切る。カマドは北壁東寄りに、粘土・焼土を検出しのみで大半が調査区域外に伸びる。ピットは2個検出され、支柱穴P1は径24cmの柱痕が確認された。深さ22cmのP2は支柱であろう。床は平坦で堅く締まる。北壁・南壁・西壁下には壁溝が巡る。覆土1～3層は人為埋土。

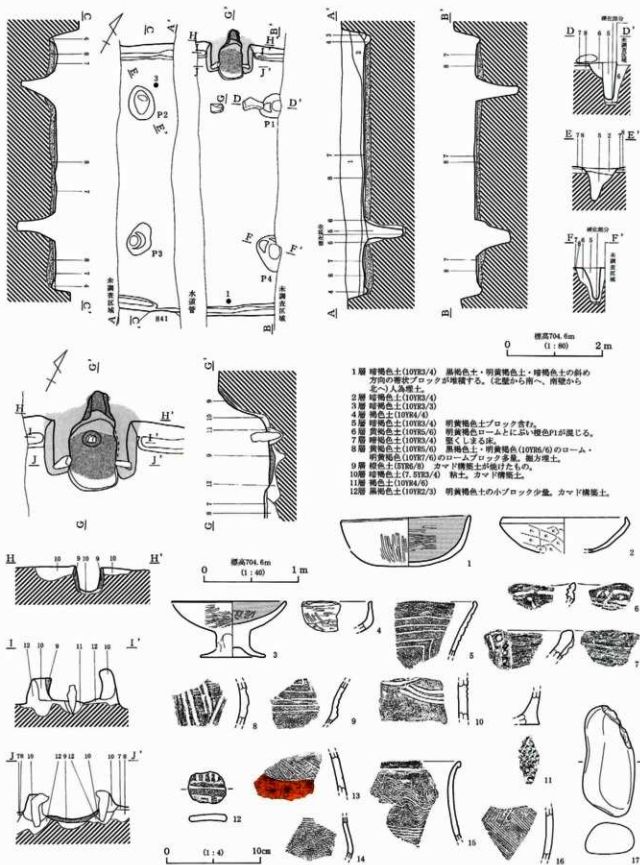
遺物は、土師器杯(1～4)、土師器鉢(5)、土師器甕(6・8・9)、土師器壺(7)、土師器甕(10)、須恵器甕(11)、石器(30～31)、本址に伴わない縄文時代後期土器称名寺式深鉢(12・18)、堀之内式1深鉢(12～18)、弥生時代後期箱清水式土器壺(19～21)・甕(22～29)がある。

土師器杯は須恵器杯蓋模倣1・3、須恵器杯身模倣2、半球状4があり、3・4が内面黒色処理される。甕8は、口縁部に最大径がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。

(42) H42号住居

ほま-45・46GrにありH47を切り、H41に切られる。カマドは北壁に、袖部芯材にL字形に加工した軽石を用い、暗褐色の粘土・黒褐色土で構築されていた。火床に熔結凝灰岩を加工した支脚石が残る。火床と煙道部・袖部の内側に焼け込んでいる。ピットは4個検出され、支柱穴P1・P3・P4は径30cmの柱痕が確認された。P4の底面は荷重によるものか、硬化している。桁行き3.0m梁行き3.0mを測る。床は平坦で堅く締まる。北壁・南壁下には壁溝が巡る。覆土1層は、黒褐色土・明黄褐色



第112図 H42号住居址

第68表 H42号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H42		法 量			成形・調整・文様		埋定層() 残存様式 > 丸底	
No.	種別	口径(径)	底径(径)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器 環	(13.4)	・	5.1	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No.2
2	土師器 環	(13.0)	・	<3.7>	ヨコナデ	ヘラケズリ	図輪実測	Ⅱ区覆土
3	土師器 高環	(12.0)	(6.2)	6.0	環部ヘラミガキ→黒色処理、胴部ナデ	環部ヘラミガキ、胴部ナデ	完全実測	No.1
4	土師器 手づくね土器	-	-	-	ヘラミガキ	ナデ。底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	図片実測	埋定層
5	縄文土器 深鉢	口縁部内折。幾何学文。縄文LR片断。			壺之内2 埋定層			
6	縄文土器 深鉢	小突起に内形刺突と横位沈線。			壺之内1 覆土			
7	縄文土器 深鉢	小突起に縦位沈線と音孔。そこから直下する筋み隆帯。			壺之内1 Ⅰ区覆土			
8	縄文土器 深鉢	斜行集合沈線。縄文LR。			壺之内1 Ⅱ区覆土			
9	縄文土器 深鉢	幾何学文。縄文LR。			壺之内2 埋定層			
10	縄文土器 深鉢	弧状の集合沈線。			壺之内1 埋定層			
11	縄文土器 深鉢	網代底。2本筋2本罫り。			壺之内2 Ⅱ区			
12	縄文土器 土製器	土器片円板。筋み隆帯。幾何学文。縄文LR片断。長辺4.0 短辺3.2 厚さ0.7。			壺之内2 埋定層			
13	弥生土器 壺				新面実測 Ⅱ区			
14	弥生土器 壺				新面実測 埋定層			
15	弥生土器 壺				新面実測 Ⅱ区覆土			
16	弥生土器 壺				新面実測 Ⅱ区覆土			
No.	器 種	質 材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置
17	磁石		11.8	5.5	3.4	336.62	被熱あり(正倉庫化)上部に磁打痕。裏面は被熱跡れか。	Ⅱ区覆土

土・暗褐色土の帯状ブロックが住居中央に向けて傾斜する人為埋土である。

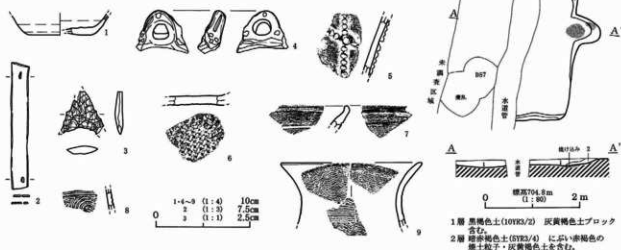
遺物は、土師器環(1・2)、土師器高環(3)、土師器手捏(4)、磁石(17)、本址に伴わない縄文時代後期土器壺之内式1深鉢(6～7・10)・壺之内式2(5・9)、土製品(12)、弥生時代後期箱清水式土器壺(13)・甕(14～16)がある。土製品は、壺之内式2の深鉢を加工した土器片円板である。

土師器環は半球状の1・2があり、1が内面黒色処理される。3の高環も内面黒色処理される。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。

(43) H43号住居址

ま-44、み-43・44GrにありD57に切られる。カマドは東壁や南壁寄りに、焼け込みが見られる火床と沿道の張り出し部が僅かに残存する。北壁下に厚さ10cmほどの焼土の堆積が確認された。床面は堅固ではない。柱穴はみられない。



第113図 H43号住居址

第69表 H43号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H43		測量				成形・調整・文様		規定値() 残存値 < > 丸径・	
No.	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	環	-	(6.8)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ、蓋部ヘラナデ	印転実測	N区 5区
9	弥生土器	甕	(14.8)	-	<7.1>	ヘラミガキ	帯指波状文→磨擦線状文	自然実測	N区 5区
4	縄文土器	深鉢	楕状形手の裏面と側面に円形刺突と沈線。					堀之内1	N区 覆土
5	縄文土器	深鉢	楕下する駒み隆帯と斜行する駒み隆帯相交点上に楕状隆帯。					堀之内1	N区 覆土
6	縄文土器	深鉢	胴代底。2本趾2本趾入り。					後期前半	S区 覆土
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下に横位沈線。縄文R。					堀之内2	N区 覆土
8	縄文土器	注口土師	斜行字文。縄文R。					堀之内2	S区 覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
2	鉄?	鉄	10.1	1.4	0.15	7.21	方形の2孔あり。		覆土
3	石鏝		<1.1>	<1.1>	<0.2>	<0.21>	先端・両側欠損。		N区 覆土

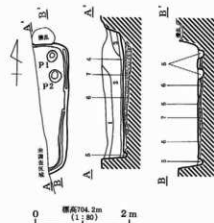
遺物は、底部ヘラナデされる土師器環(1)、方形の2孔がある器種不明の鉄器(2)、本址に伴わない縄文時代後期土器堀之内1式深鉢(4・5)・堀之内2式深鉢(7・8)、弥生時代後期箱清水式甕(9)、石鏝(3)がある。本址の時期は、1の8世紀代とみられる土師器環が唯一のよりどころである。

(44) H44号住居址

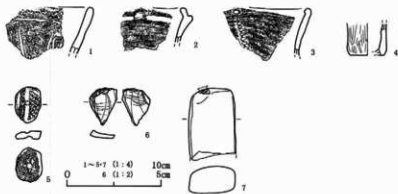
み-40・41Grにあり、大半は西側の調査区域外に伸びる。カマド・炉は調査範囲内では確認されない。

ピットは北東隅に2個検出された。壁溝が東壁から南壁下を巡る。覆土第2層は、黄褐色土・黒褐色土のブロックを多量に含む人為埋土である。床面は堅く平坦である。

遺物は、縄文時代後期称名寺式と思われる深鉢(1)、堀之内1式の深鉢(2)、堀之内2式の深鉢(3)、後期前半のミニチュア土器(4)、側面に剥離痕・研磨痕、内外面に未貫通孔



- 1層 黄褐色土(10TR3/3) 黄褐色土少量含む。
- 2層 濃い黄褐色土(10TR4/2) 黄褐色土・黒褐色土ブロックを多量に含む。人為埋土。
- 3層 黒褐色土(10TR2/3) 黄褐色土少量含む。
- 4層 黒褐色土(10TR2/3)
- 5層 黄褐色土(10TR3/3)
- 6層 灰褐色土(10TR4/2) 黄褐色土のブロック・砂子を含む。堅くしる床。
- 7層 黄褐色土(10TR3/2) 濃い黄褐色土ブロックを少量含む。



第114図 H44号住居址

第70表 H44号住居址出土遺物観察表

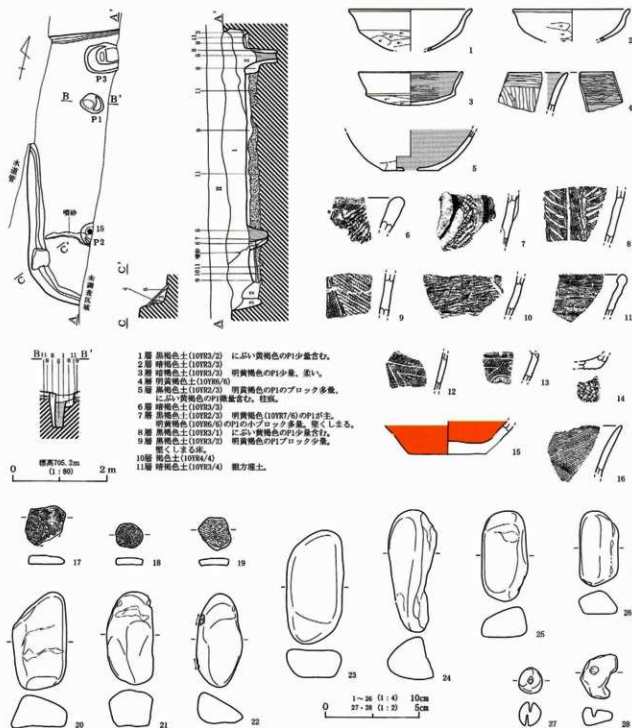
(cm・g)

No.	種別	器種	文様・調整				備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	楕状口縁?口縁部に引く沈線。斜位横位の沈線。				称名寺?	覆土
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。小突起頂部2箇行形刺突から横位沈線。				堀之内1	覆土
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折。頂部部孔から斜位に楕下する駒み隆帯。				堀之内2	覆土
4	縄文土器	ミニチュアア土器	直径 3.6cm	残存器高 3.4cm。	胴代底?		後期前半	覆土
5	縄文土器	土製土	土器片内径深鉢銅部片。剥離痕。研磨痕。内外面に未貫通の孔あり。2条の縦位沈線。斜位沈線。縄文R.穴現。底辺 3.5cm 短辺 2.5cm 厚さ 0.7cm。				堀之内1	覆土
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
6	二次加工のある製片	黒燐石	1.9	1.4	0.3	0.82	上部に二次加工。	覆土
7	酸石		<7.6>	<4.9>	<3.0>	<205.45>	下部欠損。上端部に敲打痕。	P1

を持つ堀之内式深鉢胴部片を加工した土器片円板(5)、二次加工のある剥片(6)、敲石(7)がある。
 本址は、縄文時代後期の遺物が主であるがいずれも小片であり、時期不明としたい。

(45) H45号住居址

み-39・40Grにあり、H51を切る。カマドは調査範囲内では確認されない。ピットは3個検出され、主柱穴P1は径30cm・P2は径20cmの柱痕が確認された。P3は位置的に貯蔵穴かと思えたが、五平



第115図 H45号住居址

第71表 H45号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

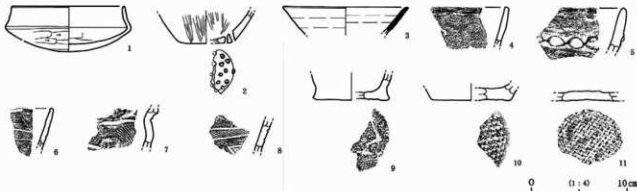
H45		位置			成形・原料・文様		指定()	残存寸 > 丸底・	
No.	類別	器種	口径(径)	底径(径)	器高(寸)	内面	外面	備考	出土位置
1	土器器	杯	13.2	-	<4.4>	ヘラナデ	底部ヘラケズリ	昭和実測	S-NR P1
2	土器器	杯	12.4	-	<3.4>	ヘラナデ	底部ヘラケズリ	昭和実測	N区覆土
3	土器器	杯	11.1	-	<3.5>	ヘラミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ	昭和実測	N区覆土
4	土器器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	昭和実測	S区覆土
5	土器器	甌	-	(6.1)	<4.2>	ヘラナデ、黒色処理	ヘラナデ、底部ヘラケズリ	1穴 昭和実測	N区覆土
15	弥生土器	壺	-	(8.2)	<3.5>	ヘラナデ→びいす色塗彩、一部黒塗彩	赤い赤色塗彩	昭和実測	Sリ方 S区 No.3
6	縄文土器	深鉢	縄文LR。						Sリ方
7	縄文土器	深鉢	窪状の隆帯、磨洲縄文瓦。						中期後半
8	縄文土器	深鉢	窪状隆帯区内に斜位の沈積。						N区覆土
9	縄文土器	深鉢	斜位の隆帯紀文。縄文瓦。						Nリ方
10	縄文土器	深鉢	地文縄文LR。窪状沈積。						中期後半
11	縄文土器	深鉢	口縁部内折。所部黒塗彩。						Sリ方
12	縄文土器	深鉢	沈積で幾何学的文様付。縄文LR光沢。						堀之内
13	縄文土器	深鉢	口縁部内折。幾何学的文様。縄文LR光沢。						堀之内2
14	縄文土器	深鉢	網代底。1本縄1本滑り。						堀之内1
15	縄文土器	深鉢	網代底。1本縄1本滑り。						S区覆土
16	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。磨洲縄文瓦。						後期
17	縄文土器品	土器片円板	深鉢片。一部欠損。研磨面。無文。最大長4.5cm 厚さ0.9cm。						後期?
18	縄文土器品	土器片円板	深鉢片。敲打面。無文。長径2.7cm 短径2.3cm 厚さ0.8cm。						後期?
19	弥生土器品	土器片円板	圓片。敲打面。研磨面。網代波状文。最大長・厚さ0.7cm。						後期
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
20	磨物石		10.5	5.8	3.5	304.24		No.7	
21	磨物石		10.0	4.9	4.0	260.63		No.8	
22	磨物石		10.0	4.9	3.2	186.72	左側に敲打面。	S区覆土	
23	磨物石		12.1	6.0	3.5	379.40		No.5	
24	磨物石		12.9	5.2	4.7	373.90		S区	
25	磨物石		9.6	4.8	3.1	232.12		No.6	
26	磨物石		7.8	4.1	2.5	124.90		No.4	
27	土製丸玉		1.4	1.2	1.3	2.07	孔径0.2~0.3。焼成後穿孔? ナデ調整。	No.1	
28	土製器勾玉		2.4	2.0	0.9	3.51	孔径0.4。焼成後穿孔? ナデ調整。	No.2	

状の柱痕が確認された。P1・P2の桁行き2.6mを測る。床は平坦で堅く締まる。北壁・西壁下には壁溝が巡る。南西隅の床面にくい込んだ鉄平石(第 図)が壁に斜めに架かり、この下に壁溝は認められない。この鉄平石からP2底面にかけて床面から幅2cm、40cmの高さで填砂(浅黄橙色のシルト質土)が検出された。本址廃絶後覆土第1層が堆積した後の事象である。

遺物は、土器器環(1~3)、土器器鉢(4)、土器器甌(5)、編物石(20~28)、台石(P114掲載図)、土製の丸玉(27・28)、本址に伴わない縄文時代中期後半の深鉢、後期堀之内式深鉢(10~13)、後期土器片円板(17~19)、弥生時代後期箱清水式の壺(15)・甌(16)がある。

1~3は須恵器環蓋模倣環で、3が内面黒色処理される。4の鉢・5の甌は、内面黒色処理される。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代4期-7世紀代に位置づけられる。

(46) H46号住居址

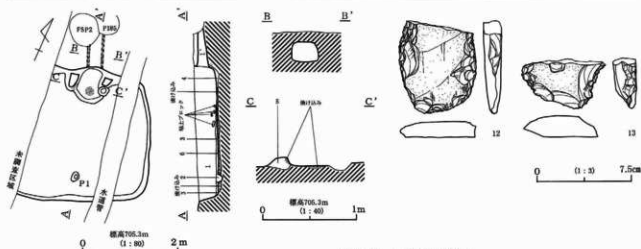


第116図 H46号住居址(1)

第72表 H46号住居出土土遺物観察表

(cm・g)

H46		法 量		内 容		成 形・質 類・文 相		測定値()	残存率 < > 丸直
No.	説明	形状(長)	直径(幅)	重量(g)				備 考	出土位置
1	土師器 杯	(12.0)	-	4.8	ナデ		ヘラケズリ	印輪実周	カマド
2	土師器 瓶	(5.8)	<3.4>		ヘラミガキ		ヘラミガキ。底部多孔	印輪実周	W区覆土
3	須恵器 杯	(13.2)	-	<2.9>	クロロナデ		クロロナデ	印輪実周	覆土
4	縄文土器 深鉢	口唇面取り。所部粗製深鉢。							後期前半
5	縄文土器 深鉢	所部粗製深鉢。口縁部下に圧痕持つ痕跡。							後期前半
6	縄文土器 深鉢	口縁部内折。幾何学文内に縄文LR。							堀之内2
7	縄文土器 注口土器	横位沈線内に斜内縄文LR。							堀之内2
8	縄文土器 注口土器	幾何学文。縄文LR。							覆土
9	縄文土器 注口土器	網代底。2本罫2本罫リ。							E区覆土
10	縄文土器 注口土器	網代底。2本罫2本罫リ。底径8.2。							後期前半
11	縄文土器 注口土器	網代底。2本罫2本罫リ。底径8.0。							後期前半
No.	部 種	質 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	用 途		出土位置
12	打製石斧		<7.3>	<6.1>	<1.4>	<95.07>	上部欠損。刃部に磨痕。正縁とも磨痕部。		S区覆土
13	打製石斧		<3.9>	<6.6>	<1.8>	<53.07>	上部欠損。正面に自然面。		S区覆土



第117図 H46号住居(2)

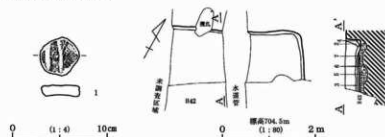
- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 南壁寄りの下層に褐色土。全般に褐色土が主で、上がい黄褐色のP1ブロック・砂子多量。
- 1層 暗褐色土(10YR3/4) 1層に赤土ブロック多く含む。カマド煙道部に埋積する。
- 2層 暗褐色土(10YR3/2) 床面直上の粘質土。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 炭が主。堆土・粘土・粘土小ブロック少量。
- 4層 明黄褐色土(10YR6/6)と暗褐色土(10YR3/3)が混じる。カマド煙道土。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色・明赤褐色のP1のブロック多量。能方埋土。

に南壁下に1個検出された。主柱穴であろうか。床面は堅く平坦で、暗褐色の粘質土が床に張り付く。覆土第1層は、人為埋土である。

遺物は、1の須恵器杯身模倣の土師器杯、2の多孔持つ土師器瓶、混入遺物の須恵器杯(3)、縄文時代後期前半の土器(4~11)、打製石斧(12-13)がある。

本址は少ない遺物だが、古墳時代後期-7世紀代とみて大過ないであろう。

(47) H47号住居址



第118図 H47号住居址

- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土・明黄褐色のブロック多量。人為埋土。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2) 明黄褐色土のブロック含む。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3)
- 4層 黄褐色土(10YR5/6)
- 5層 暗褐色土(10YR3/4) 床面直上の粘質土。
- 6層 暗褐色土(10YR3/3) 明黄褐色土を帯状に含む。堅くしまる床。
- 7層 明黄褐色土(10YR6/6) 明黄褐色土が主で、斜め方向に帯状の暗褐色土を含む。

ま・み-45Grにあり、H42に切られる。カマド・炉・柱穴等は、調査範囲内では確認されない。覆土第1層は、明黄褐色土・黒褐色土のブロックを多量に含む人為埋土である。床面は堅く平坦であり、弥生時代後期のH11・H12・H20・H27・H28・H30・H33・H35に見られた暗褐色の粘質土が、床面直上に張り付く。

遺物は、縄文時代後期堀之内式の深鉢片を加工した土器片円板が図示できた。2条の平行沈線・縄文が施文される。最大幅4.2cm厚さ1.2cmを測る。他に図示できない、縄文時代・弥生時代の土器小片が出土している。本址の時期は、重複するH42の古墳時代後期-7世紀以前である。

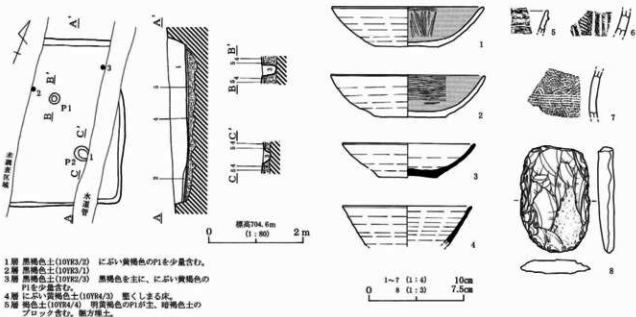
(48) H48号住居址

み・む-36・37Grにあり、M14を切る。カマドは、調査範囲内では確認されない。ピットは柱穴であろうか、不規則な位置に2個検出された。床面は堅く締まり平坦である。

遺物は、土師器环(1・2)、須臾器环(3・4)、混入遺物である縄文時代後期堀之内1式の深鉢(6)・堀之内2式の深鉢(5)・弥生時代後期箱水式の甕(7)、打製石斧(8)がある。

1・3の底部回転糸切り、2の底部回転糸切り後に手持ちヘラケズリされる。

これらの遺物から本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀第3四半期に位置づけられる。



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色のP1を少量含む。
 2層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色を主に、にぶい黄褐色のP1を少量含む。
 3層 黒褐色土(10YR2/3) 黒褐色を主に、にぶい黄褐色のP1を少量含む。
 4層 にぶい黄褐色土(10YR4/2) 堅く締まる床。
 5層 褐色土(10YR4/4) 明黄褐色のP1が主、暗褐色土のブロック含む。硬方雑土。

第119号 H48号住居址

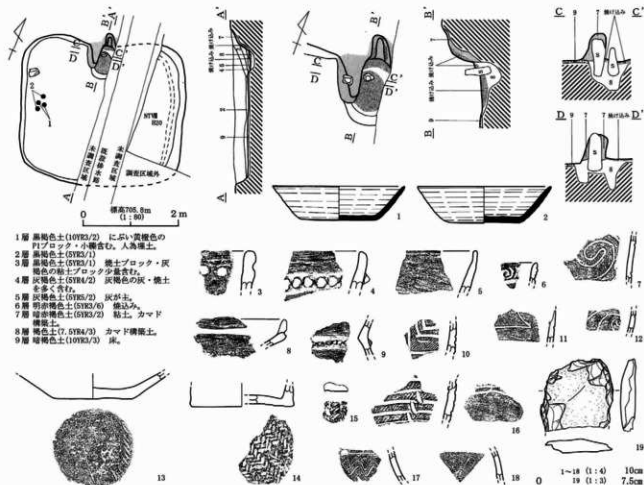
第73表 H48号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H48		計量				成形・装飾・文様		埋定値() 推定値<>丸証・		
No.	類別	原径	口径(径)	底径(径)	原高(厚)	内面	外面	備考	出土位置	
1	土師器 环	16.0	6.5	4.2		ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測	No.1-2 S-N区層土	
2	土師器 环	16.2	7.5	4.4		ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り→手持ちヘラケズリ	完全実測	No.3	
3	須臾器 环	(14.0)	6.2	3.6		ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測	No.4	
4	須臾器 环	(13.6)	-	<4.2>		ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	S区層土	
5	縄文土器 深鉢	口縁部下に刻み模様。横位沈線。							堀之内2	N区層土
6	縄文土器 深鉢	堀下-斜行する集合沈線。縄文R。							堀之内1	N区層土
7	弥生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 帯線状沈線→帯線状沈線。								N区層土
No.	器種	素材	原径	原高	原厚	重量	所	具	出土位置	
8	打製石斧		8.3	5.5	1.3	74.12	磨滅痕残る。正面に自然涙。			N区層土

(49) H49号住居址

み・む-34Grにあり、H50を切る。本址は東隣で調査された西近津遺跡ⅦのH20号住居址と同一住



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) に古い黄褐色の円ブロック・小礫含む。人為土。
- 2層 黒褐色土(5YR3/1)
- 3層 黒褐色土(5YR3/1) 焼土ブロック・灰褐色の粘土ブロック多量含む。
- 4層 灰褐色土(5YR4/2) 灰褐色の灰・焼土多量を含む。
- 5層 灰褐色土(5YR3/2) 灰が主。
- 6層 赤褐色土(5YR2/6) 焼込み。
- 7層 灰赤褐色土(5YR3/2) 粘土。カマド構築土。
- 8層 褐色土(7.5YR4/3) カマド構築土。
- 9層 暗褐色土(10YR3/3) 床。

第120図 H 49号住居址
第74表 H 49号住居址出土遺物観察表

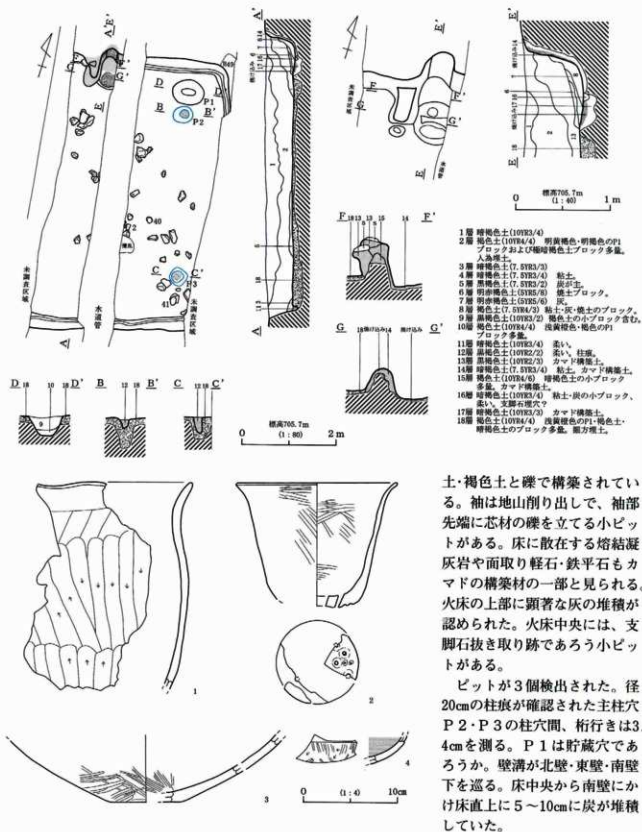
H 49		位置			形状・調整・文様		用途(主) 持ち手・用途		出土位置
No.	種類	口径(㎜)	底径(㎜)	底厚(㎜)	内面	外面	備考		
1	須恵器 坏	14.1	8.2	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り直し後手持ちヘラケズリ	完全実用 内面火だきき	No.2・3	
2	須恵器 坏	14.1	7.6	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り直し後手持ちヘラケズリ	完全実用 内面火だきき	No.1・4	
3	縄文土器 深鉢	所調形製深鉢。口縁下に圧痕。					後期前半	N区層土	
4	縄文土器 深鉢	所調形製深鉢。口縁下に圧痕付残存。					後期前半	N区層土	
5	縄文土器 深鉢	所調形製深鉢。口縁部内折。					後期前半	N区層土	
6	縄文土器 深鉢	安山岩に内文と表文沈着。					壺之内1	赤リ方	
7	縄文土器 深鉢	T字状沈着区画。縄文L B。					赤名寺	N区層土	
8	縄文土器 深鉢	口縁部内折。口縁に沿って沈着。					壺之内1	N区層土	
9	縄文土器 深鉢	形不明。					壺之内1	赤リ方	
10	縄文土器 深鉢	幾何学文。縄文L R充填。					壺之内2	S区層土	
11	縄文土器 深鉢	幾何学文。					壺之内2	S区層土	
12	縄文土器 深鉢	T字状沈着。					赤名寺	N区層土	
13	縄文土器 深鉢	調代産? 底径6.6。					後期前半	No.6	
14	縄文土器 深鉢	調代産。3本脚3本脚リ。底径11.0。					後期前半	N区層土	
15	縄文土器 深鉢	調代産。2本脚2本脚リ。					後期前半	N区層土	
16	縄文土器 深鉢	5条の横位沈着間に磨湾縄文R区切り。					加賀野1	赤リ方	
17	弥生土器 甕	内面三方弁。外面 磨湾波状文→磨湾波状文。					新南実南	S区層土	
18	弥生土器 甕	内面三方弁。外面 磨湾波状文。					新南実南	N区層土	
No. 9	須 罎	最大径 <5.7>	最大径 <5.7>	最大径 <1.1>	<44.31>	下部欠損。自然変形。	所 見		出土位置
19	打製石片								S区

居址である。カマドは北壁中央に、面取り軽石と焙結凝灰岩を袖部の芯材にし、粘土と褐色土で構築されている。火床に安山岩を加工した支脚石が残る。火床上部に灰の堆積が顕著である。火床と煙道部がよく焼け込んでいる。両方の調査範囲内から柱穴は検出されない。床面は堅く締まり平坦である。遺物は、底部手持ちヘラケズリ製の須恵器坏(1・2)、混入遺物の縄文時代後期称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1式の深鉢、弥生時代後期箱清水式の甕、打製石斧がある。

本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀第2四半期に位置づけられる。

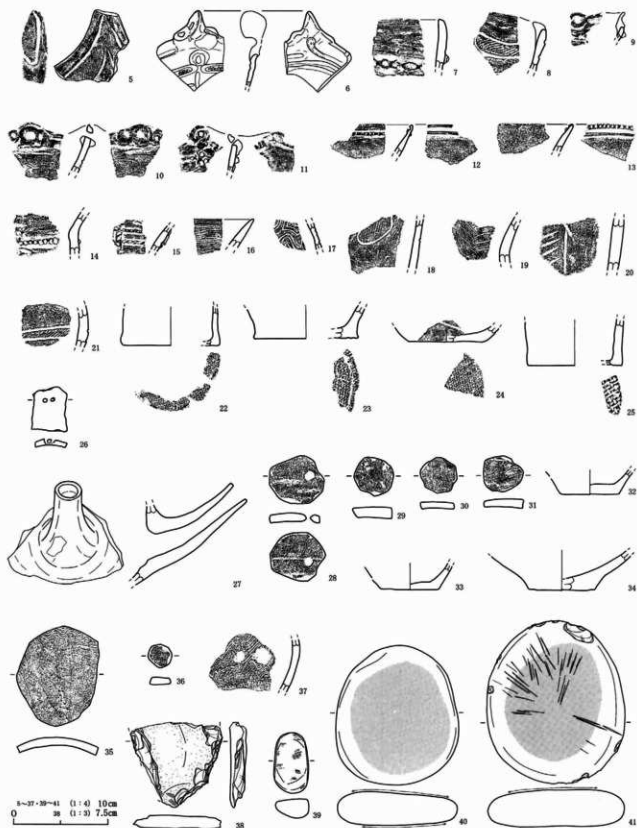
(50) H50号住居址

み・む-34・35Grにあり、H51に切られる。カマドは北壁中央に、暗褐色の粘土と暗褐色土・黒褐色



土・褐色土と礫で構築されている。袖は地山削り出で、袖部先端に芯材の礫を立てる小ピットがある。床に散在する熔結凝灰岩や面取り軽石・鉄平石もカマドの構築材の一部と見られる。火床の上部に顕著な灰の堆積が認められた。火床中央には、支脚石抜き取り跡であろう小ピットがある。

ピットが3個検出された。径20cmの柱痕が確認された主柱穴P2・P3の柱穴間、桁行きは3.4cmを測る。P1は貯蔵穴であろうか。壁溝が北壁・東壁・南壁下を巡る。床中央から南壁にかけ床直上に5~10cmに炭が堆積していた。



第122图 H50号住居址(2)

第75表 H50号住居址出土遺物観察表

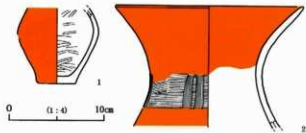
(cm・g)

No.	種別	H50	流量			成形・調整・文様		測定値() 検存値 < > 丸底・	備考	出土位置
			口径(㎝)	底径(㎝)	胴高(㎝)	内面	外面			
1	土師器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラズリ→ヨコナデ	破片実測	カマド	
2	土師器	甕	17.0	8.6	13.3	ヘラミガキ	ヘラズリ→ヘラミガキ	完全実測 多孔	N区	No.4
3	土師器	壺	-	(8.0)	<7.2>	ハケ	ヘラミガキ	破片実測	Ⅱ区	N区
4	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラズリ→ヘラミガキ	破片実測	Ⅱ区	
32	弥生土器	甕	-	3.3	<2.6>	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区	
33	弥生土器	甕	-	6.0	<2.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区	
5	縄文土器	深鉢	波状口縁。口唇部先状沈線内に縄文。正三角形の沈線区画内に縄文R Lを先施。					形名寺	Ⅱ区	
6	縄文土器	深鉢	沈線と円形貼付文の突起。口縁に沿って沈線。突起下に刺突を留む器状沈線さらに陥下する短沈線。そこから2本の横位沈線内に意匠縄文R L。内面突起下にお玉杓子状の沈線。3本の横位沈線。					加賀利B1	Ⅱ区	
7	縄文土器	深鉢	序部稍深鉢。口縁部下に圧痕持つ隆帯。					後期前半	Ⅰ区	
8	縄文土器	深鉢	波状口縁。沈線区画内に縄文R L先施。					形名寺	Ⅱ区	
9	縄文土器	深鉢	口縁部内折。突起部に円形刺突もつ円形貼付文。					堀之内1	Ⅱ区	
10	縄文土器	深鉢	波状突起内外面両側に円形刺突の円形貼付文。					堀之内1	Ⅱ区	
11	縄文土器	深鉢	波状口縁。口縁部内折。波頂部に円孔もつ円形貼付文。その下8字状貼付文から刻み隆帯。さらに斜行沈線。					堀之内2	Ⅰ区	
12	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下口縁に沿って刻み隆帯。内面口縁に沿って沈線。					堀之内2	Ⅱ区	
13	縄文土器	深鉢	内面口唇部に刻み。その下2本の横位沈線。					加賀利B1	Ⅱ区	
14	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯。その下斜行沈線。					堀之内1	Ⅱ区	
15	縄文土器	深鉢	横位刻み隆帯またぐ角部に円形刺突もつ刻み隆帯。					堀之内2	Ⅱ区	
16	弥生土器	甕	粗輪斜律文。					堀之内2	Ⅰ区	
17	縄文土器	注口土器	換向字沈線。					堀之内2	N区	
18	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文R L先施。					形名寺	Ⅱ区	
19	縄文土器	深鉢	斜行沈線。楕円状の沈線。					中期後半	Ⅲ区	
20	縄文土器	深鉢	陥下する沈線。斜行沈線。					中期後半	Ⅰ区	
21	縄文土器	深鉢	2本の横位沈線内に縄文R L。					堀之内2	N区	
22	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本寄り。素材粗し。底径10.4。					後期前半	Ⅰ区	N区 H 49.5区
23	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本寄り。素材粗し。底径(11.0)。					後期前半	Ⅱ区	
24	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本寄り。胴下部斜行沈線。底径(8.0)。					後期前半	N区	
25	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本寄り。底径(10.0)。					後期前半	Ⅰ区	
26	縄文土器	土製品	深鉢破片。外面貫通する丸もつ。底径4.7 短径3.8 厚さ0.6。					後期	Ⅱ区	
27	縄文土器	注口土器						後期前半	Ⅱ区	
28	縄文土器	土製品	土器片円板。粗製深鉢破片。焼成後穿孔1孔あり→敲打磨。研磨面。底径5.8 短径5.1 厚さ0.9。					後期前半	Ⅱ区	
29	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢破片。敲打磨。研磨面。磨製工具による沈線。径4.2 厚さ1.2。					形名寺	N区	
30	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢破片。敲打磨。無文。底3.8 厚さ0.7。					後期前半?	N区	
31	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢破片。敲打磨。無文。最大径4.2 厚さ1.0。					後期前半?	Ⅱ区	
34	縄文土器	深鉢	底径7.0。					後期?	Ⅰ区	
35	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢破片。敲打磨。磨製工具による沈線。底径10.5 短径8.6 厚さ0.8。					破片実測	カマド	
36	弥生土器	土製品	土器片円板。深鉢破片。敲打磨。表面赤色塗彩。裏面ナデ。径2.5 厚さ0.8。					破片実測	Ⅱ区	
37	弥生土器	甕	内面ヘラミガキ。外面粗製波状文。						Ⅱ区	

遺物は、1の口縁部に最大径があり胴長の土師器甕、2の土師器多孔有する甕、4の須恵器円蓋模倣の土師器坏、3土師器壺、39・40の磨石、41の砥石、多量の混入遺物縄文時代後期前半の土器(5～34)、弥生時代後期甕(37)、打製石斧(38)、土製品縄文時代後期の土器片円板(35)・弥生時代後期の土器片円板がある。カマド内から獸類四肢骨の焼骨破片、覆土から炭化したモモの破片1/2～1/3個分が出土した。本址は少ない遺物だが、古墳時代後期～7世紀代とみて大過ないであろう。

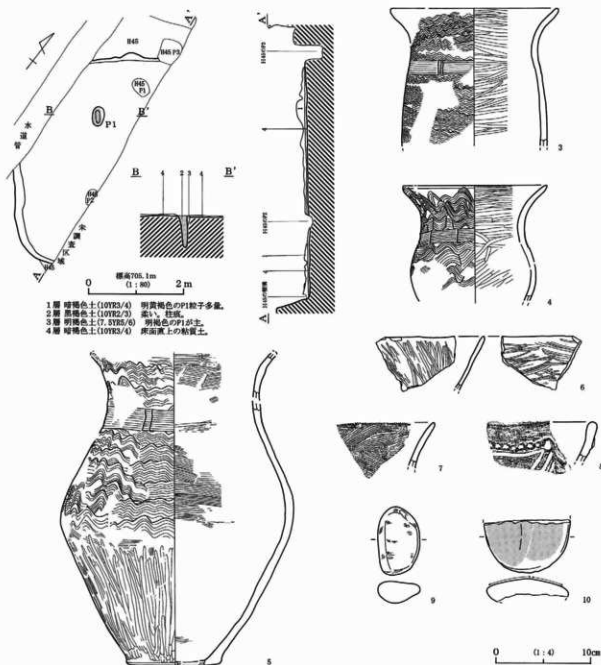
(51) H51号住居址

み-39・40Grにあり覆土大半がH45に切られる。



第123図 H51号住居址(1)

炉は調査範囲内には、検出されない。主柱穴P1は、五平状の柱が考えられる。床面は堅く平坦であり、弥生時代後期のH11・H12・H20・H27・H28・H30・H33・H35に見られた暗褐色の粘質土が、床面



第124図 H51号住居址(2)

第76表 H51号住居址出土遺物観察表(1)

(cm・g)

No.	層位	器種	法量		成形・調整・文様		測定値()	検出層	出土位置
			口径(幅)	底径(幅)	内面	外面			
1	弥生土層	壺	-	4.2	<8.1>	ヘラミガキ	ミガキ、赤色塗彩	完全実測	床
2	弥生土層	壺	19.8	-	<13.0>	赤色塗彩	巻縮T字文→赤色塗彩	完全実測	床
3	弥生土層	壺	(19.2)	-	<14.1>	ヘラミガキ	巻縮波状文→巻縮波状文	図輪実測	H51床 H45N ホリ方
4	弥生土層	壺	15.1	-	<12.8>	ヘラミガキ	巻縮波状文→巻縮波状文	完全実測	Nホリ方 床
5	弥生土層	壺	(19.6)	10.1	<33.1>	ハケメ調整→口縁ヘラミガキ	巻縮波状文→巻縮波状文→ハケメ→ミガキ	完全実測	床 H45 Nホリ方
6	弥生土層	鉢	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測	覆土

H51号住居址出土遺物観察表(2)

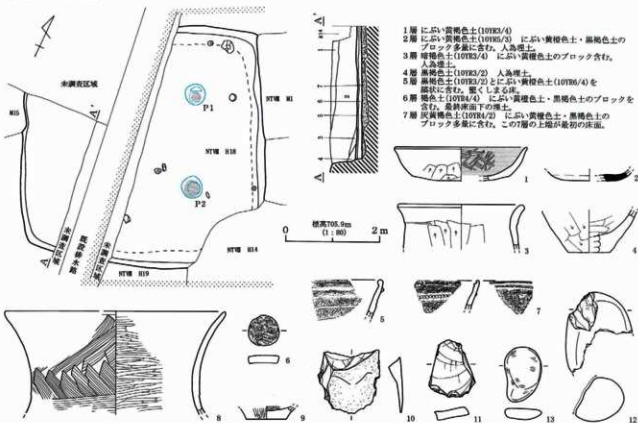
(cm・g)

No.	種別	部種	所	見	備考	出土位置			
7	弥生土器	甕	椗埴斜走文。		後期	H51床			
8	縄文土器	深鉢	波状口縁。波頂部陶帯上の竇孔から口縁に沿って円形刺突陶帯。その下をなぞる沈線。3条の凹位沈線。		堀之内1	H51床			
9	磨石	部材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所	見	出土位置
9	磨石		7.2	4.5	2.3	109.73	全体にすり。		P2
10	磨石		<5.6>	<9.0>	<2.0>	<120.76>	上部一面磨突溝。正面にすり面。		床

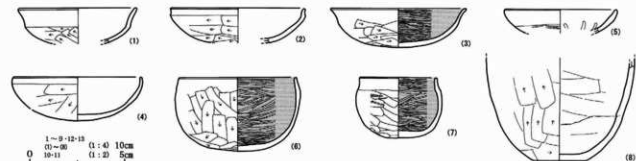
直上に張り付く。床下の掘方はない。

遺物は、壺(1・2)・甕(3~5・7)・鉢(6)の弥生土器、磨石(9・10)、本址に伴わない縄文後期堀之内1式深鉢片(8)がある。2の赤彩壺は、頸部に櫛描T字文が施文される。3~5の甕は口縁部と胴部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。7の甕には、櫛描斜走文が施文される。6の鉢は、無彩。これらの遺物から本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

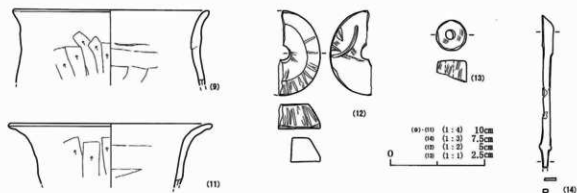
(52) H52号住居址



() は、西近津遺跡ⅦのH18号住居址出土遺物



第125図 H52号住居址(1)



第126図 H52号住居址(2)

第77表 H52号住居址出土遺物観察表

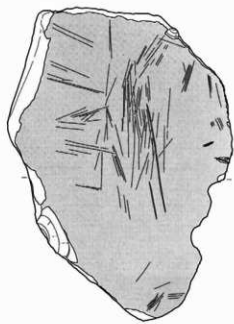
(cm・g)

H52		法 量			成形・調整・文様		指定室() 残存痕 < 方位	備考	出土位置
No.	種別	器種	口径(径)	底径(幅)	総高(厚)	内 面	外 面		
1	土師器	環	(14.0)	-	<3.4>	ヘラミガキ。黒色処理	口縁部ヨコナデ→ヘラケズリ	図転実測	覆土
2	須恵器	環	-	(6.0)	<1.2>	ロクロナデ。火だすき痕	ロクロナデ。底縁回転糸切り。火だすき有	図転実測	覆土
3	土師器	甕	(13.4)	-	<4.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	図転実測	覆土
4	土師器	甕	-	(4.4)	<4.5>	ヘラナデ	ヘラケズリ	図転実測	覆土
8	弥生土器	甕	(23.8)	-	<10.7>	ヘラミガキ	帯斜削定文→帯斜削定文	図転実測	ホリ方 ㊦32
9	弥生土器	甕	-	4.2	<1.4>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	覆土
5	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下縁位刻み残断。洗滌内に縄文LR充満。						
6	縄文土器	土製品	土器片円板。深鉢断部片。縄文LR。駄打痕。研磨痕。径3.3 厚で0.8。						
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下縁位刻み残断。内面 口縁に沿って沈線。						
No.	器 種	材 質	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置	
10	剥片		3.4	3.2	0.7	5.85	自然面の残る剥片。	覆土	
11	二次加工のある剥片		3.0	2.4	0.5	4.35	下縁部に二次加工。	覆土	
12	磨石		<8.5>	<6.9>	<4.9>	<223.99>	下部欠損。上縁に磨打痕。	ホリ方	
13	磨石		5.8	3.9	1.3	29.68	破熟あり(裏面赤化)全体にすり。	覆土	

む-32・33Grにあり、M15に切られ、H26を切る。本址は、東隣で調査された西近津遺跡ⅦのH18号住居址と同一住居址である。カマドは排水路内か未調査区にあらう。柱痕が確認された。主柱穴P1・P2の桁行き2.0mを測る。平坦で堅く締まる床が2面確認された。西近津遺跡Ⅶの調査分では、住居の拡張が認められたが、本調査分ではみられない。覆土第2～4層は人為埋土である。

遺物は、土師器環・甕、敲石、磨石、本址に伴わない縄文時代後期土器・石器、弥生時代後期の甕、須恵器環がある。西近津遺跡Ⅶの調査分では、須恵器環蓋模倣の土師器環・半球状の土師器環・分厚い土師器甕・内面黒色処理される土師器鉢等がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005型原)古墳時代Ⅳ期-7世紀代に位置づけられる。



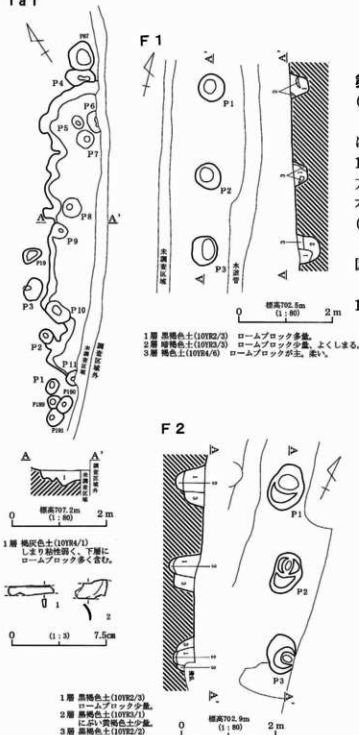
H45号住居址出土遺物

第2節 竪穴状遺構

(1) Ta1号竪穴状遺構

た・ち-17・18Grで検出され、大半が調査区域外にある。隅丸長方形を呈するとみられる。南北軸長6.4m東西軸長1.0m壁高0.35mで、南北軸方位はN-28°-Eを指す。ピットは遺構内から6個(P5~P8)深さ20~32cm、壁柱穴が5個(P2・P4・P9~P11)深さ28~42cm、外柱穴が7個(P1・P3・P19・単独P87・単独P189~191)深さ14~46cmを測る。床面は脆弱である。遺物は、1の両端を欠損する刀子と2の器種不明鉄器

Ta1



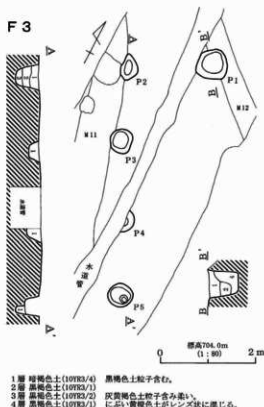
第3節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

ひ-71Grから検出され、西側調査区域外に伸びる側柱式建物址か柱列か不明。柱間180cm、柱穴径60cm深さ40~48cmである。軸方位はN-10°-W、出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明。

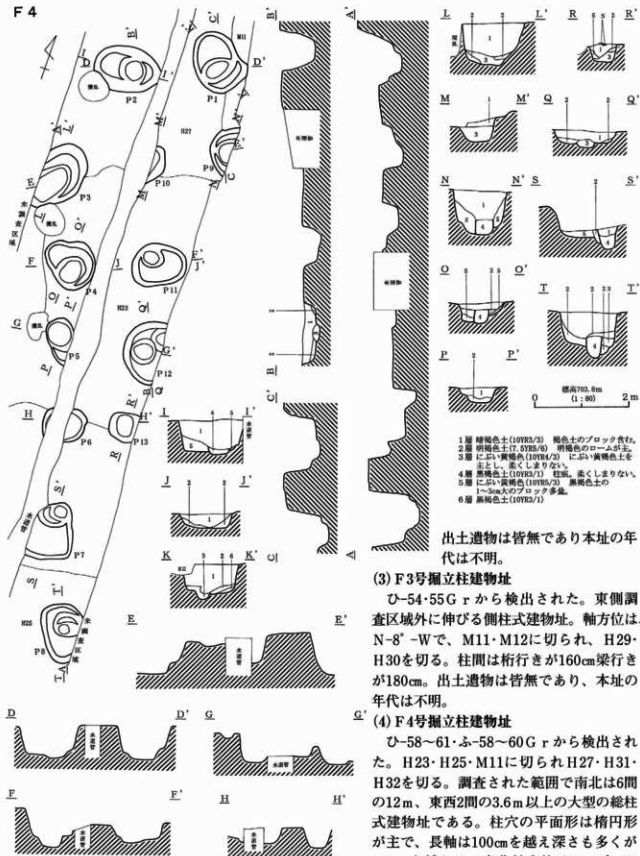
(2) F2号掘立柱建物址

ひ-67・68Grから検出された。東側調査区域外に伸びる側柱式建物址か柱列か不明。軸方位はN-25°-W、H14を切る。柱間180cm・200cm、P1~P3の柱径40cmである。



第127図 Ta1号竪穴状遺構・F1号・F2号・F3号掘立柱建物址

F 4



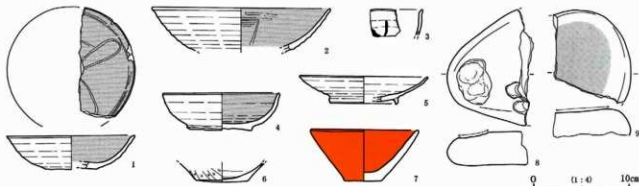
(3) F3号掘立柱建物址

ひ-54・55G r から検出された。東側調査区域外に伸びる側柱式建物址。軸方位は、N-8°-Wで、M11・M12に切られ、H29・H30を切る。柱間は桁行きが160cm梁行きが180cm。出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明。

(4) F4号掘立柱建物址

ひ-58~61・ふ-58~60G r から検出された。H23・H25・M11に切られH27・H31・H32を切る。調査された範囲で南北は6間の12m、東西2間の3.6m以上の大型の総柱式建物址である。柱穴の平面形は楕円形が主で、長軸は100cmを越え深さも多くが100cmを越える。南北軸方位はN-20°-Wを指す。

第128図F4号掘立柱建物址(1)



第129図 F4号掘立柱建物址(2)

第78表 F4号掘立柱建物址出土遺物観察表

(cm・g)

F4		法 規			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		測定値()/残存部<>/欠底・	
No.	種別	口径(径)	底径(径)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器 杯	(13.4)	(5.2)	3.5	内面、黒色処理	ロクロナデ→回転糸切り	回転実測	P13 O60
2	土師器 杯	(18.6)	-	<4.6>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	P13
3	土師器 杯	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ、墨書あり	破片実測	P7
4	土師器 杯	12.4	4.0	4.0	ロクロナデ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	P12
5	灰釉陶器 皿	(13.6)	(7.2)	2.9	ロクロナデ→軸軸	ロクロナデ→底部ヘラ切り後裏台貼付→軸軸	完全実測	P12
6	土師器 甕	-	(5.5)	<2.0>	ヘラナデ	胴部ヘラナズリ、底部ヘラナズリ	回転実測	P6
7	弥生土器 鉢	11.5	4.1	5.4	ミガキ→赤色塗砂	ミガキ→赤色塗砂	完全実測	P3
No.	種 別	材 質	最大径	最大幅	最大厚	重 量	備 考	出土位置
8	敷石		<12.3>	<9.2>	<3.5>	<576.30>	被熱あり(正面黒色)正面は被熱による表面から右側欠陥。	P13
9	基石		<9.9>	<8.2>	<2.8>	<326.63>	被熱あり(正面黒色)左側→裏面欠陥。正面にすり目。	P13

柱根は30~40cmで太い柱が想定される。遺物は、底部回転糸切りで内面黒色処理される土師器杯(1・2・4)、判読不明の墨書土師器杯(3)、土師器甕(6)、灰釉陶器皿(5)、弥生土器鉢(7)、敷石(8・9)がある。これらの遺物と重複関係から本址は、平安時代9世紀前半に位置づけられる。

(5) F5号掘立柱建物址

み・む-37・38Grから検出され、H32・P185を切る。東西調査区域外のどちらかに伸びる2間×2間の総柱式建物址であろう。南北軸方位はN-8°-Wを指す。南北柱間は180cmと220cm東西柱間は230cmを測る。時代が判明する出土遺物はない。

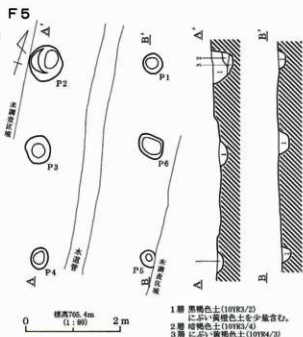
第4節 土坑

D1号土坑 さ-7Grにあり、長軸長57cm短軸長54cm壁高は33cm長軸方位はN-70°-E。平面形円形、断面鍋底。出土遺物は皆無時期は不明である。

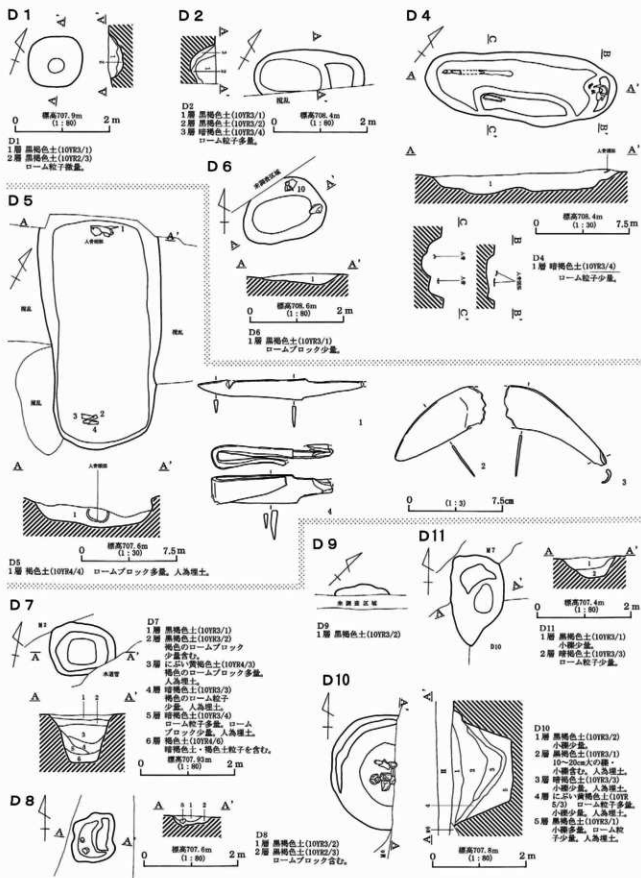
D2号土坑 え-6Grにあり、長軸長236cm検出短軸長90cm壁高72cm長軸方位はN-30°-E。平面形円形、断面鍋底。出土遺物は、縄文時代堀之内2式深鉢片・後期前葉の土器片円板、土師器杯小片があるが、時期は比定できない。

D4号土坑 う-3Grにあり、長軸長150cm短軸長58cm壁高は18.5cm長軸方位はN-55°-E。平面形楕円形、断面鍋底。成年から壮年前半とみられる人骨が、左側を上にした横臥状態で埋葬されていた。女性とみられるが断定できない。出土遺物皆無のため、時期は不明。

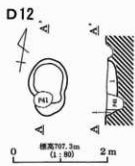
D5号土坑 け-6Grにあり、検出長軸長183cm短軸長92cm壁高は78cm長軸方位はN-30°-Wを指す。



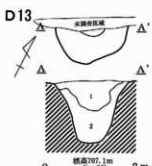
第130図 F5号掘立柱建物址



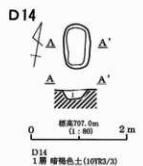
第131図 D1・D2・D4・D5・D6・D7・D8・D9・D10・D11及びD5号土坑出土遺物



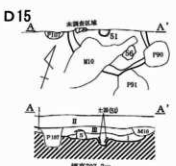
D12
1層 黒褐色土(10YR2/2)
しまり粘性弱く、ローム粒子を含む。



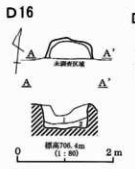
D13
1層 暗褐色土(10YR3/3)
しまり粘性あり、黒褐色土ブロックを含む、人為堆土。
2層 暗褐色土(10YR2/2)
しまり粘性弱い、ロームブロック多量を含む、人為堆土。



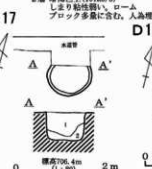
D14
1層 暗褐色土(10YR3/3)
しまり粘性弱い。



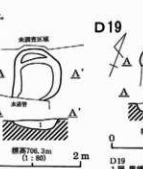
D15
1層 暗褐色土(10YR3/3)
しまり粘性弱い、ローム粒子を軽石粒子を多量に含む。



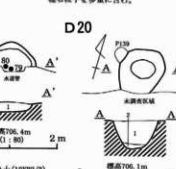
D16
1層 黒褐色土(10YR2/2)
小礫少量を含む。
2層 黒褐色土(10YR3/1)
ロームブロック少量。



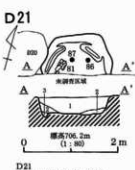
D17
1層 黒褐色土(10YR2/2)
ローム粒子少量含む。
2層 黒褐色土(10YR2/2)



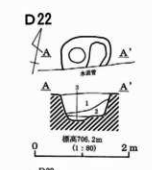
D18
1層 黒褐色土(10YR2/2)



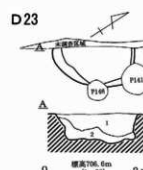
D20
1層 黒褐色土(10YR2/3)
ローム粒子微量。
2層 黒褐色土(10YR3/1)
ロームブロック少量。



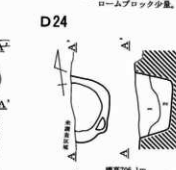
D21
1層 黒褐色土(10YR2/3)
3~5cmの礫多量、人為堆土。
2層 黒褐色土(10YR2/2)
ローム粒子少量。
3層 黒褐色土(10YR2/3)



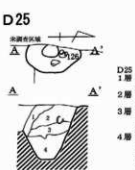
D22
1層 黒褐色土(10YR2/2)
人為堆土。
2層 黒褐色土(10YR2/3)
小礫含む、人為堆土。
3層 黒褐色土(10YR3/2)
ローム粒子多。



D23
1層 黒褐色土(10YR2/1)
小礫少量。
2層 暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒子・黒土を含む。



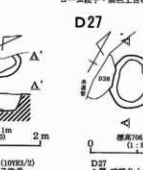
D24
1層 黒褐色土(10YR2/2)
小礫含むローム粒子微量。
2層 黒褐色土(10YR2/2)
ローム粒子含む。



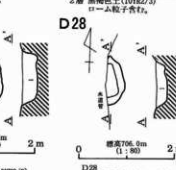
D25
1層 黒褐色土(10YR3/1)
人為堆土。
2層 黒褐色土(10YR2/3)
小礫含む、人為堆土。
3層 黒褐色土(10YR2/2)
ローム粒子少量。
4層 黒褐色土(10YR3/2)
ローム粒子・ロームブロック・小礫含む、人為堆土。



D26
1層 黒褐色土(10YR3/2)
ローム粒子微量。
2層 黒褐色土(10YR2/3)
ローム粒子含む。

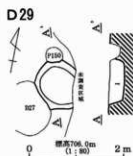


D27
1層 暗褐色土(10YR3/3)
小礫・ローム粒子多量、人為堆土。

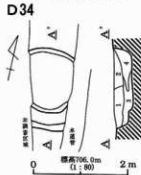


D28
1層 黒褐色土(10YR2/2)
ロームブロック含む、人為堆土。

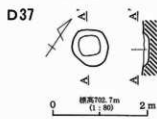
第132図 D12・D13・D14・D15・D16・D17・D18・D19・D20・D21・D22・D23・D24・D25・D26・D27・D28号土坑



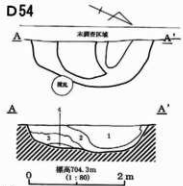
D29
1層 黒褐色土(10YR3/1)
小礫含む。人為埋土。



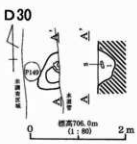
D34
1層 黄褐色土(10YR5/6)
黒褐色土を含む。
2層 にごい・黄褐色土(10YR
5/4)暗褐色土を含む。
3層 黒褐色土(10YR2/2)
黄褐色土を多量に含む。
4層 暗褐色土(10YR6/6)
黒褐色土を含む。
1~4層人為埋土。



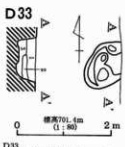
D37
1層 暗褐色土(10YR3/3)
炭・灰・鏡土ブロック含む。



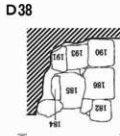
D54
1層 黄褐色土(10YR2/2)
2層 暗褐色土(10YR3/3)
3層 暗褐色土(10YR3/4) 明褐色土の
ブロック・粒子多量。人為埋土。
4層 褐色土(7.5YR6/6) 明褐色土の
粒子多量。人為埋土。



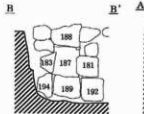
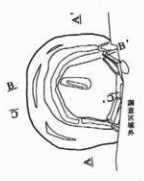
D30
1層 黒褐色土(10YR2/2)
小礫含む。人為埋土。



D33
1層 にごい・黄褐色土(10YR5/4)
暗褐色土を多量に含む。
2層 明黄褐色土(10YR6/6)
黒褐色土を多量に含む。
3層 黒褐色土(10YR2/2)
にごい・黄褐色土を含む。
1~3層人為埋土。

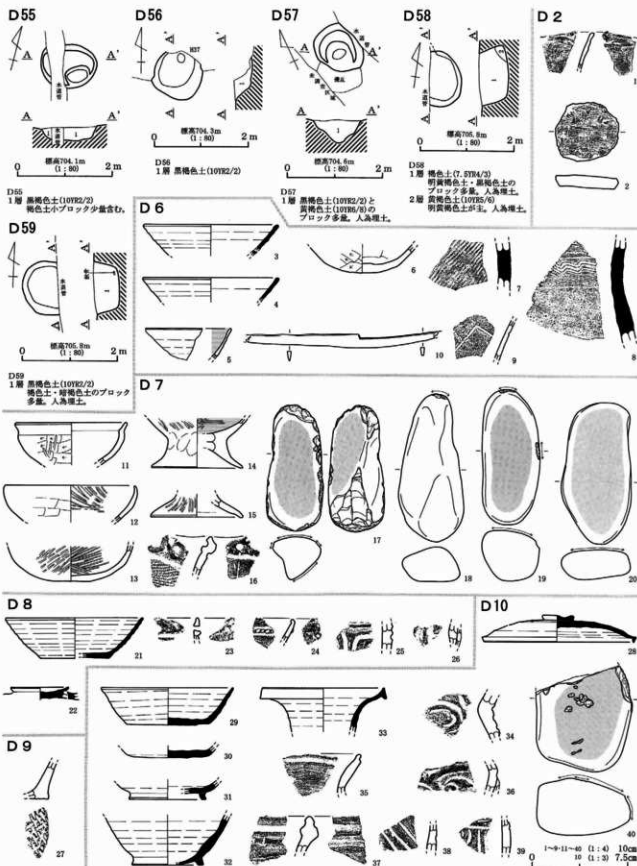


D38
1層 暗褐色土(7.5YR2/3)
7.5YR6/4の小ブロックを少量含む。
2層 暗褐色土(7.5YR3/4)
シルト質土。
3層 暗褐色土(7.5YR3/3)
粘質土。
4層 暗褐色土(7.5YR3/3)
砂主体。
5層 褐色土(10YR4/4)
ローム粒子を少量含む。
6層 明黄褐色土(10YR6/6)
10YR4/4の小ブロックを少量含む。

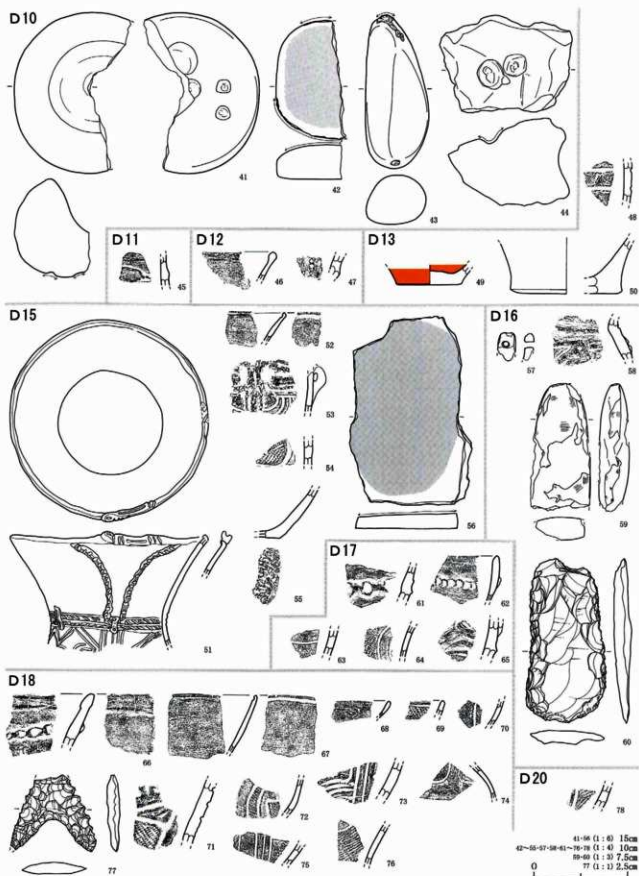


No. 181~No. 1812第180段・No. 185~No. 1912第190段
No. 192~No. 1942第180段の遺物番号と一致する。

第133図 D29・D30・D31・D32・D33・D34・D35・D36・D37・D38・D40・D43・D54号土坑



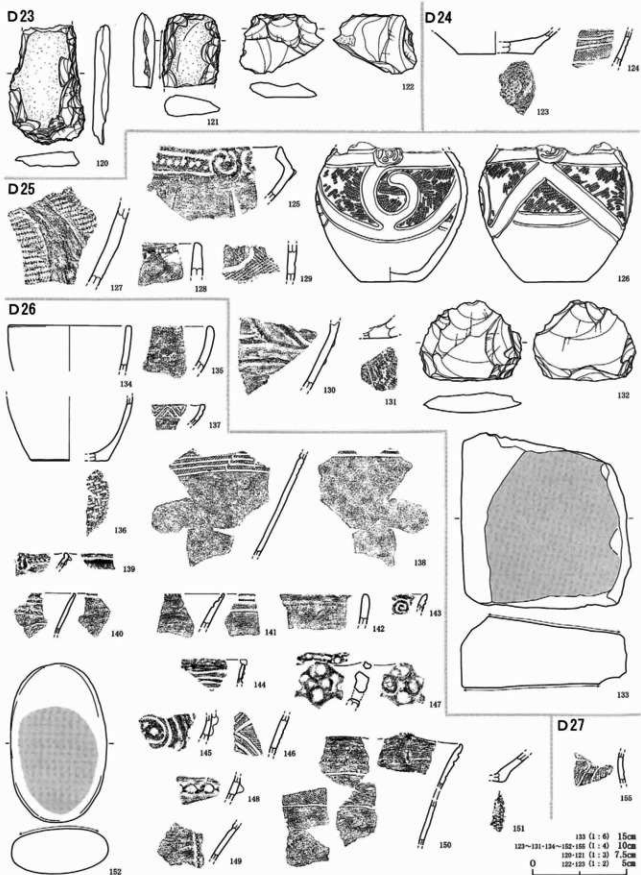
第134図 D55・D56・D57・D58・D59号土坑及びD2・D6・D7・D8・D9・D10号土坑出土遺物



第135圖 D10・D11・D12・D13・D15・D16・D17・D18・D20号土坑出土遺物

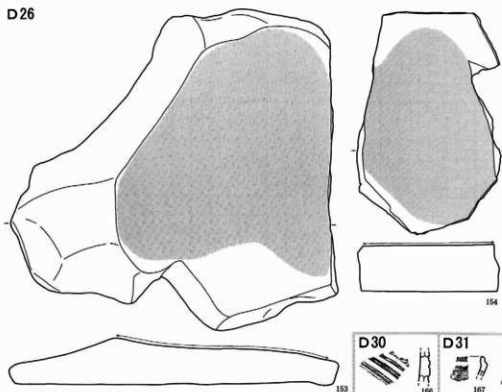


第136图 D19·D21·D22·D23号土坑出土遗物

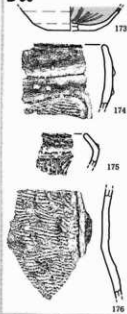


第137图 D23·D25·D26·D27号土坑出土遗物

D26



D35



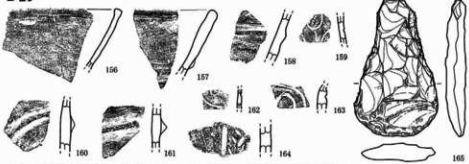
D30



D31



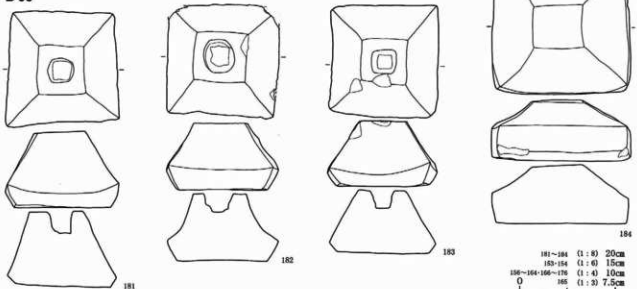
D29



D31



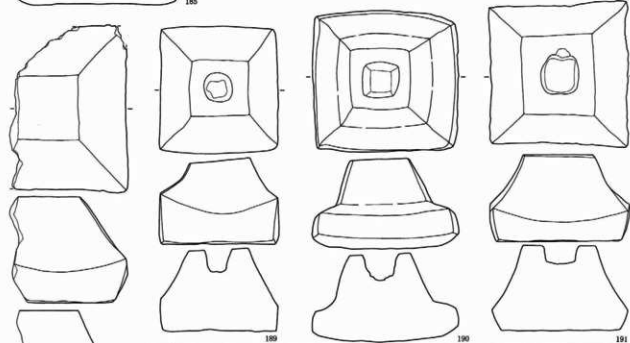
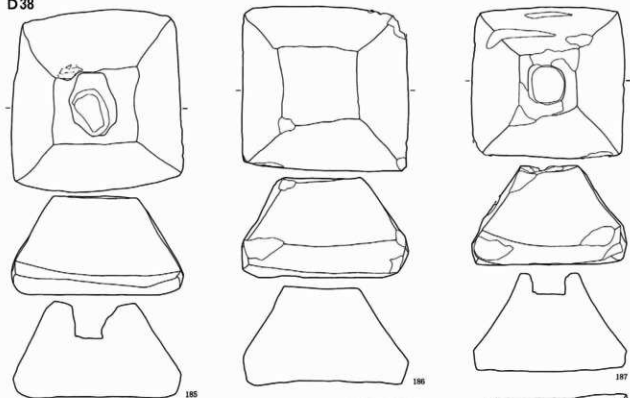
D38



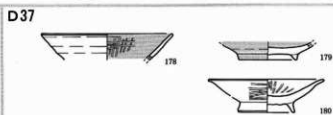
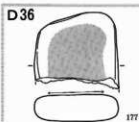
181~184 (1:8) 20cm
 185~184 (1:6) 15cm
 186~184+186~178 (1:4) 10cm
 0 185 (1:2) 7.5cm

第138图 D26·D29·D30·D31·D35·D38号土坑出土遺物

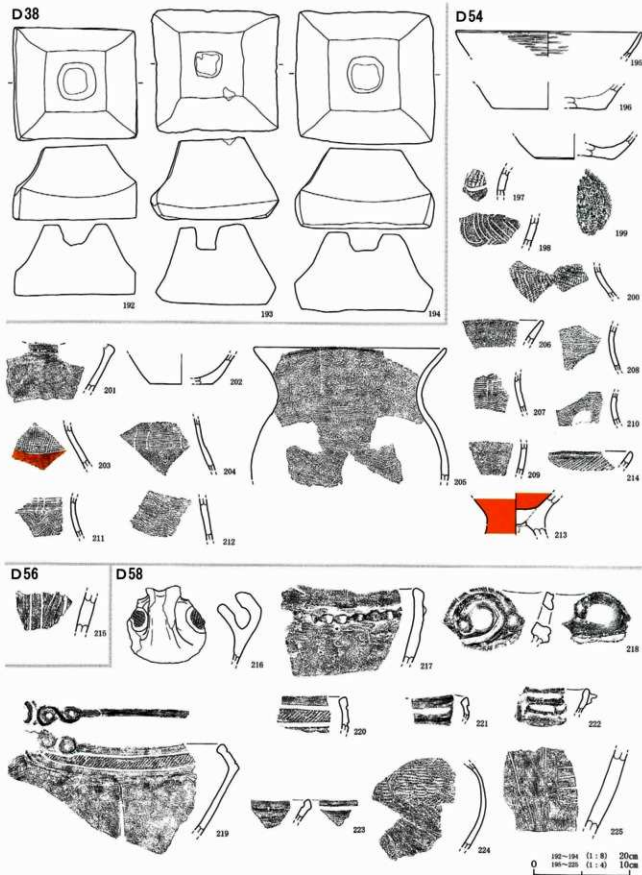
D38



185-191 (1:8) 20cm
 0 177-180 (1:4) 10cm

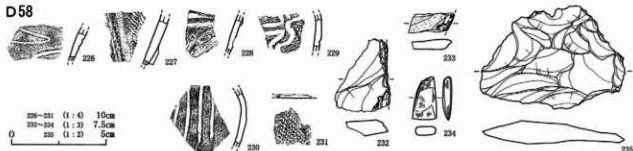


第139图 D36·D37·D38号土坑出土遗物



第140图 D38·D54·D56·D58号土坑出土遗物

D58



第141図 D58号土坑出土遺物

平面形長方形、断面逆梯子形。底面北端から8~10歳の小児とみられる頭蓋骨が、底面に密着した刀子(第131図1)の直上から検出された。他の部位は遺存しないが、頭蓋骨の位置と底面南端から出土した刀子(第131図4)と鎌(第131図2・3)の存在と遺構の規模から、全身の埋葬が想定される。1の刀子は切先を西に刃部を北に向けている。4の刀子は基部も刃部も中央から折り曲げられ、切先を東に刃部を北に向けている。2・3の鎌は同一の個体で、刃部中央から折り切りされたような断面を持ち、同一面を意識し刃部を北に向けている。

1および4の刀子は、両側で下部の凹が茎から垂直に立ち上がりず角度を有する。鎌は、湾曲が強く、三日月状の平面形である。この3点の鉄器の特徴から本址は、小林真寿の金属器・金属製品編年(2005)原良・平安時代Ⅱ期-8世紀第2四半期に位置づけられる。

D6号土坑 い-1Grにあり、7世紀代のH5を切る。長軸長182cm短軸長128cm壁高は24cm長軸方位はN-80°-Eを指す。平面形楕円形、断面鍋底。遺物は、土師器環・甕、須恵器環(第134図3・4)・甕、縄文後期前葉土器片、刀子(10)が出土した。土師器環・須恵器環はロクロ成形、5は内面黒色処理される。平安時代9世紀代であろうか。

D7号土坑 く-6GrにありM2に切られ、H6を切る。長軸長140cm短軸長108cm壁高は120cm長軸方位はN-80°-Eを指す。平面形長方形、断面逆梯子形。覆土3~5は人為埋土。遺物は、半球状の土師器環(12-13)、土師器高環(14・15)、敲石(17~19)、磨石(20)、縄文後期前葉深鉢片、最下層の第6層から獣骨が出土した。獣骨はウマの左機骨・左尺骨、ニホンジカの角、獣類の焼骨(肋骨・四肢骨)・非焼骨(四肢骨)。本址の時期は、8世紀代であろうか。

D8号土坑 た-12Grにあり、長軸長106cm短軸長90cm壁高は30.5cm長軸方位はNを指す。平面形は方形、断面逆梯子形。遺物は、須恵器の底部手持ちヘラケズリの環(21)・皿状のつまみを持つ蓋(22)、縄文時代堀之内式深鉢がある。本址の時期は、8世紀代前半であろう。

D9号土坑 せ-10Grで検出、大半が調査区域外である。検出長軸長116cm短軸長22cm詳細不明である。

D10号土坑 そ-14Grにあり、M6に切られ、D11・P30・P32を切る。長軸長244cm検出短軸長130cm壁高は132cm軸方位はNを指す。平面形は円形、断面逆梯子形。第2~5層は人為埋土。遺物は、須恵器の底部回転ヘラケズリの環(29・30)・有台環(31)・蓋(28)・長頸壺(32)、凹石(41・44)、磨面持つ敲石(40・42・43)、第2層からウマ/ウシの四肢骨破片・獣類の四肢骨破片、縄文時代堀之内1式深鉢片が出土した。本址の時期は、8世紀代前半であろう。

D11号土坑 そ・た-14Grにあり、D10・M7に切られる。残存長軸長188cm短軸長112cm壁高は47cm長軸方位はN-30°-Wを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。時期は、8世紀代前半以前。

D12号土坑 た-16・17Grにあり、P41に切られる。長軸長118cm短軸長80cm壁高は26cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。時期は、遺物小片少量で不明。

D13号土坑 つ-8Grにあり、P41に切られる。長軸長118cm短軸長80cm壁高は26cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は円形か、断面逆梯子形。覆土第1・2層人為埋土。遺物は、縄文時代後期前葉深鉢片・弥生時代後期鉢片があるが、時期は、比定できない。

D14号土坑 て-19Grにあり、長軸長96cm短軸長56cm壁高は23cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は長方形、断面逆梯子形。出土遺物皆無で、時期不明。

D15号土坑 に-20G rにあり、M10・P90・P91に切られる。長軸長166cm検出短軸長56cm壁高は22.5cm、長軸方位はN-55°-Wを指す。平面形は楕円形か、断面逆梯子形。底面円形の小ピットに第135図-51の深鉢が正位に埋設されていた。遺物は、縄文時代堀之内1式の深鉢51～53、後期前葉の深鉢54・55、台石(56)がある。本址は縄文時代後期前葉に位置づけられよう。

D16号土坑 に-20G rにあり、長軸長100cm検出短軸長43cm壁高は51cm、平面形は楕円形か、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期初頭の把手(57)・堀之内1式の深鉢片、磨製石斧(59)、打製石斧(60)がある。本址は縄文時代後期前葉に位置づけられよう。

D17号土坑 ふ-22G rにあり、長軸長95cm残存短軸長76cm壁高は57cm、軸方位はN-70°-Eを指す。平面形は円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期前葉・前半の深鉢片が出土した。本址の時期は、不確定であるが縄文時代後期前葉に比定されようか。

D18号土坑 ふへ-22G rにあり、残存長軸長110cm短軸長98cm壁高は25.5cm、軸方位はN-21°-Wを指す。平面形は不整楕円形、断面鍋底。遺物は、縄文時代中期後半、堀之内式の深鉢片、石鏃(77)が出土した。本址の時期は、不確定であるが縄文時代後期前葉に比定されようか。

D19号土坑 へ-22G rにあり、長軸長100cm残存短軸長52cm壁高は18cm、軸方位はN-75°-Eを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代堀之内1式の深鉢(79)・(80)が出土した。本址の時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D20号土坑 ま-23G rにありP139に切られ、D21を切る。検出長軸長95cm短軸長94cm壁高は63cm、長軸方位はNを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期前葉の深鉢片が出土した。本址の時期は、縄文時代後期前葉のD21より後出する。

D21号土坑 ま-23G rにありD20に切られる。長軸長150cm壁高は45cm、平面形は不整多角形、断面逆梯子形。壁際に深さ8cmの溝がみられる。覆土第1層は人為埋土。遺物は、縄文時代後期前半の粗製深鉢(81)等の深鉢片、打製石斧(97・98)がある。本址の時期は、縄文時代後期前半に比定されよう。

D22号土坑 ま-23G rにあり長軸長106cm検出短軸長64cm壁高は66cm、平面形は円形?断面テラスを持つ逆梯子形。軸方位はN-75°-Eを指す。縄文時代後期前葉深鉢片少量、時期は比定できない。

D23号土坑 むめ-24G rにあり、P141・P146に切られる。長軸長174cm検出短軸長76cm壁高は61cm、平面形は円形?断面凸凹した逆梯子形。長軸方位はN-25°-Eを指す。遺物は沈線部分に赤彩がみられる縄文時代中期後半浅鉢(107)、縄文時代後期前葉深鉢片、打製石斧(118～121)、剥片(122)がある。時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D24号土坑 むめ-26G rにあり、P147を切る。長軸長127cm検出短軸長80cm壁高は74cm、平面形は円形、断面逆梯子形。長軸方位はN-25°-Eを指す。縄文時代後期前葉深鉢片少量、時期は比定できない。

D25号土坑 むめ-26G rにありH7に切られる。残存長軸長150cm検出短軸長58cm壁高は118cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。長軸方位はNを指す。覆土第1～4層は人為埋土。遺物は、125縄文時代堀之内1式の深鉢が3層上部から出土。渦巻き文を両側から抱き込むように三角形の縄文部を配し、渦巻き文下端が閉じている。縄文時代称名寺式・堀之内1式等の深鉢片、台石(133)、剥片(132)がある。本址の時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D26号土坑 むめ-24・25G rにあり、長軸長124cm検出短軸長42cm壁高は44cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。長軸方位はN-22°-Eを指す。遺物は、縄文時代称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1式等の深鉢片、磨石(152)、台石(153・154)がある。本址の時期は、縄文時代後期中葉であろうか。

D27号土坑 むめ-28G rにありD28に切られD29を切る。長軸長117cm検出短軸長91cm壁高は38cm平面形は楕円形断面逆梯子形。長軸方位N-25°-W。縄文時代後期前葉深鉢片少量あるが時期は不明。

D28号土坑 むめ-28G rにありD27を切る。長軸長106cm検出短軸長91cm壁高は38cm、平面形は長方形?断面逆梯子形。遺物は縄文土器片少量あるが、時期は不明である。

D29号土坑 むめ-28G rにありD27・P150に切られる。長軸長107cm検出短軸長85cm壁高は39.5cm、

平面形は円形？断面逆梯子形。長軸方位N-15°-W。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文土器片・打製石斧(165)あるが、時期不明である。

D30号土坑 め-28GrにありP149に切られる。検出長軸長60cm短軸長53cm壁高は39cm、平面形は楕円形、断面テラス持つ逆梯子形。長軸方位N-42°-E。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文後期前半深鉢片少量あるが、時期不明である。

D31号土坑 む-28Grにあり、長軸長164cm検出短軸長85cm壁高は37cm、平面形は長方形？断面逆梯子形。長軸方位N-17°-E。遺物縄文中期後半～後期前葉の土器片少量あるが、時期不明。

D32号土坑 め-28Grにあり、長軸長108cm検出短軸長40cm壁高は55cm、平面形は円形？断面逆梯子形。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文後期粗製深鉢片少量あるが、時期不明である。

D33号土坑 は-77Grにあり、検出長軸長113cm短軸長78cm壁高は49cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。小ピット3個あり。長軸方位N-56°-E。覆土1～3層は人為埋土。遺物は、弥生後期土器・土師器片少量あるが、時期は比定できない。

D34号土坑 ひ-77Grにあり、長軸長172cm検出短軸長90cm壁高は52cm、平面形は円形？断面逆梯子形、テラスあり。覆土1～4層は人為埋土。遺物は、弥生後期土器・土師器・須恵器片少量あるが、時期は比定できない。

D35号土坑 の-76Grにあり、検出長軸長74cm短軸長96cm壁高は18cm、平面形は楕円形？断面逆梯子形、長軸方位N-85°-E。覆土は人為埋土。遺物は内面黒色処理の土師器環・縄文土器片少量あるが、時期は比定できない。

D36号土坑 の-76Grにあり、東部を攪乱で破壊される。H11・H15を切る。残存長軸長106cm残存短軸長92cm壁高は47cm、平面形は円形、断面テラス持つ逆梯子形。長軸方位N-65°-E。遺物は磨石(177)、弥生後期土器・土師器・須恵器片少量あるが、時期は比定できない。

D37号土坑 ひ-65GrにありH19(9世紀前半)・H20を切り、H18(9世紀後半)に切られる。長軸長78cm短軸長75cm壁高は14cm、平面形は円形、断面鍋底。長軸方位N-42°-W。炭・灰・焼土ブロック含む。遺物は土師器皿(180)等がある。時期はこれらの遺物と重複関係から、9世紀前半～9世紀後半になる。

D38号土坑 ひ-65GrにありH22・D43を切る。隅丸方形の穴の壁面に石を3～4段積んでいる土坑である。南北軸はN-5°-W。石の大半が五輪塔笠部の火輪を使用し、腹面を内側としている。東側が調査区域外で全容は見えないが、南北幅122cm深さ86cmを測る。石組みの内上幅は南北76cm(下幅64cm)、東西78cm(下幅58cm)である。石組みの間は第6層の地山の土を入れている。土坑底面は石積み底面より5cmほど高く壁充填土の第6層を貼っている。底面には西壁に接して長楕円形の33cm×11cmのピットがあり、深さ7cmを測る。土坑内の覆土は下から粘質土と砂質土が交互に堆積し、三度繰り返している。遺構から石積みに使用した五輪塔以外の遺物は出土していない。

石積みの石は五輪塔の火輪が14個、区域外に伸びる東壁面の火輪9個(東壁の石は未回収であるが五輪塔火輪を三段に積んでいる。)と併せて23個の五輪塔を使用している。石質は熔結凝灰岩が20個、軽石が3個である。他には安山岩の河原石も調整用に6個使っている。

石積みの遺構は見られるが、五輪塔の火輪のみを使用することは佐久では初見である。

土坑の壁に石積みを持つ小規模な土坑は14世紀以降に便所遺構とされるものが福井の一乗谷朝倉氏関連遺跡などで確認されている。土坑内に有機物が確認できないことから肥溜ではないと思われるが、本址は粘質土と砂質土が交互にあることから液体物を貯蔵していたものとみられる。

五輪塔は磨耗が少なく完存しており、第139図188の軽石の五輪塔が割れているのみである。これからこの五輪塔は作成されてそれほどの時間を持たず、積みだれたものとみられる。笠部の最上部から軒までの稜線は曲線を描き、軒の幅は笠の高さに対し厚く、軒反りの勾配はややきつくなっている。最大幅が20～30cm未満、最大高14～18.2cmのものが14個の内6個あり、小型化の傾向が見られる。これらより16世紀頃の年代があてられようか。しかし、形態的に気になる190の軒までの稜線が折れており、笠塔婆の可能性もある。また、184の最大幅26.5cmに対し最大高13.1と高さの低いもの、

185の軒先までの稜線が直線的で軒先の反りの少ないものは古相が窺える。

D40号土坑 ふ-58GrにありP160を切る。長軸長80cm残存短軸長68cm壁高は41cm、平面形は円形、断面鍋底。長軸方位N-40°-E。遺物は縄文・弥生後期土器、土師器片少量、時期は比定できない。

D43号土坑 ひ-62GrにありH22を切り、D38に切られる。残存長軸長100cm検出短軸長106cm壁高は17.5cm、平面形は楕円形、断面鍋底。遺物は弥生後期土器片少量、時期は比定できない。

D54号土坑 へ-50Grにあり、検出長軸長268cm検出短軸長98cm壁高は57cm、3・4層は人為埋土。平面形は楕円形、断面鍋底。遺物は縄文後期土器少片と弥生時代後期鉢・壺・甕高坏がある。200は、赤井戸・吉ヶ谷系の甕である。本址は、弥生時代後期箱清水式期に比定できよう。

D55号土坑 ふ・へ-49GrでH36を切る。長軸長116cm短軸長93cm壁高38.5cm、平面形楕円形、断面逆梯子形、テラス有り。長軸方位E。遺物は、縄文後期・弥生後期・土師器片少量あるが、時期は、不明。

D56号土坑 へ-49GrにありH37に切られる。長軸長116cm短軸長93cm壁高は38.5cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形、テラス有り。長軸方位N-20°-E。遺物は縄文・弥生土器小片があるが時期は不明。

D57号土坑 み-45GrでH43を切る。長軸長88cm短軸長82cm壁高49cm、平面形は円形、断面テラス持つ逆梯子形、長軸方位N-30°-W。人為埋土。遺物は縄文・弥生土器、土師器小片があるが時期は不明。

D58号土坑 む-33Grにあり、長軸長118cm残存短軸長68cm壁高62cm、平面形は楕円形、断面不整フラスコ状、長軸方位N-37°-W。1・2層人為埋土。出土遺物から縄文時代後期初頭に比定されよう。

D59号土坑 む-33Grにあり、長軸長113cm残存短軸長76cm壁高54cm、平面形は円形、断面逆梯子形、長軸方位N-21°-E。覆土人為埋土。遺物は縄文後期土器片少量あるが時期は不明。

第79表 西沢津遺跡IV土坑一覧表

(残存壁高) <検出壁高> (cm)

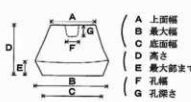
遺構名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長	短軸長	壁高	遺物	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長	短軸長	壁高	遺物	
D1	○7	円形	N70°-E	57	54	33		D30	○28	楕円形	N42°-E	<90>	53	P149Cに切れる。縄文後期土器。	
D2	○8	長方形	N40°-E	236	<90>	72	縄文後期土器・土師器片。	D31	○27	長方形	N17°-E	164	<85>	37	P149Cに切れる。縄文後期土器。
D3	欠							D32	○28	円形	-	108	<40>	35	
D4	○3	長方形	N55°-E	150	58	18.5	縄文・弥生後期土器片・土師器片。	D33	○27	楕円形	N50°-E	113	78	49	テラスあり。
D5	○6	長方形	N30°-W	<180>	92	78.0	縄文・弥生時代の小片、磨りガラス片。	D34	○27	円形	-	172	<95>	52	テラスあり。
D6	○11	楕円形	N80°-E	182	128	24	H2を切る。土師器片・土師器片・土師器片。H2を切る。土師器片・土師器片。	D35	○26	円形	N80°-E	96	<74>	18	縄文後期土器、土師器片。
D7	○6	長方形	N40°-E	140	108	120	M20に切れる。H2を切る。縄文後期土器片・土師器片・土師器片。H2を切る。縄文後期土器片・土師器片・土師器片。	D36	○22	円形	N65°-E	<106>	<52>	47	H11・H15を切る。テラスあり、土師器片。
D8	○12	方形	N	106	90	30.5	縄文後期土器片、土師器片。	D37	○25	円形	N42°-W	78	75	14	H19・H20を切り、H18に切られる。土師器片・土師器片。
D9	○10	?	-	<116>	<22>	-	縄文後期土器片、土師器片。	D38	○63	円形	N45°-W	124	<96>	82	H2を切る。D43を切る。土師器片。
D10	○14	円形	N	244	<130>	132	縄文後期土器片、土師器片。	D39	○58	楕円形	-	113	90	77	F401へ直入。M11Cに切れる。H27を切る。
D11	○14	長方形	N30°-W	(188)	112	47	M42に切れる。D11-P30-P32を切る。縄文後期土器片、土師器片・土師器片。H2を切る。縄文後期土器片、土師器片・土師器片。	D40	○58	円形	N40°-E	80	68	41	P160を切る。
D12	○16-17	長方形	N10°-W	118	80	26	F41に切れる。縄文後期土器片、土師器片。	D41	○59	楕円形	-	<98>	<30>	<28>	F401へ直入。H23Cに切れる。H27を切る。
D13	○18	円形	-	154	<98>	<133>	D13-P1に切れる。縄文後期土器片、土師器片。	D42	○61	楕円形	-	126	<88>	105	F401へ直入。H23Cに切れる。H27を切る。
D14	○19	長方形	N10°-E	96	56	23	M10-P90-P91に切れる。縄文後期土器片、土師器片。	D43	○62	楕円形	-	<100>	<106>	<17.5>	D38Cに切れる。H2を切る。
D15	○20	楕円形	N55°-W	166	<98>	<22.5>	M10-P90-P91に切れる。縄文後期土器片、土師器片。	D44	○60	楕円形	-	113	91	45	F401へ直入。H23Cに切れる。H27を切る。
D16	○22	長方形	-	100	<43>	<31>	縄文後期土器片、土師器片。H2を切る。縄文後期土器片、土師器片。	D45	○60	円形	-	137	<80>	45	F401へ直入。H23Cに切れる。H27を切る。テラスあり。
D17	○22	円形	N70°-E	95	(78)	57	縄文後期土器片、土師器片。	D46	○60	楕円形	-	<75>	<58>	38.5	F401へ直入。H23Cに切れる。H27を切る。テラスあり。
D18	○22	不規則形	N21°-W	(110)	98	25.5	縄文後期土器片、土師器片。	D47	○60	楕円形	-	<75>	<58>	38.5	F401へ直入。H23Cに切れる。H27を切る。テラスあり。
D19	○22	楕円形	N75°-E	100	(52)	18	縄文後期土器片(土師器片)。	D48	○59	円形	<132>	90	62	F401へ直入。M11Cに切れる。H27を切る。	
D20	○23	円形	N	<95>	94	63	P139Cに切れる。D21を切る。縄文後期土器片、土師器片。	D49	○59	楕円形	<110>	<47>	<48>	F401へ直入。M11Cに切れる。H27を切る。	
D21	○23	不規則形	-	150	<90>	45	D20Cに切れる。縄文後期土器片(土師器片)・土師器片。	D50	○60	楕円形	-	63	<57>	48.5	F401へ直入。H23・H23Cに切れる。H27を切る。
D22	○23	円形	N75°-E	106	<84>	66	テラスあり。縄文後期土器片(土師器片)。	D51	○58	楕円形	-	122	80	29.5	F401へ直入。H27を切る。テラスあり。
D23	○4	円形	N25°-E	174	<76>	61	P141-P146Cに切れる。縄文後期土器片、土師器片。土師器片・土師器片・土師器片。	D52	○61	円形	-	(108)	(100)	42	F401へ直入。H23Cに切れる。H27を切る。テラスあり。
D24	○26	円形	N20°-E	127	<80>	74	P147を切る。縄文後期土器片(土師器片)。	D53	○51	円形	(122)	(120)	<26>	F401へ直入。H23・H23Cに切れる。土師器片。	
D25	○26	楕円形	N	<100>	<58>	118	H7Cに切れる。縄文後期土器片(土師器片)・土師器片。	D54	○49-50	楕円形	-	<268>	<98>	<57>	テラスあり。縄文後期土器片、土師器片・土師器片。
D26	○24-25	楕円形	N22°-E	124	<62>	44	縄文後期土器片(土師器片)・土師器片。	D55	○49	楕円形	N20°-E	<105>	<101>	39	H37Cに切れる。縄文後期土器片、土師器片。
D27	○28	楕円形	N25°-W	117	91	38	D28-D29を切る。縄文後期土器片、土師器片。	D56	○45	円形	N3°-W	88	82	49	H4に切れる。
D28	○28	長方形	-	106	<40>	23	D27Cに切れる。縄文後期土器片、土師器片。	D58	○23	楕円形	N37°-W	118	<68>	62	F401へ直入。土師器片。
D29	○28	円形	N15°-W	107	<85>	39.5	D27-P150Cに切れる。テラスあり。縄文後期土器片。	D59	○233	円形	N21°-E	113	<76>	54	H6。土師器片(土師器片)。

土坑出土遺物観察表 (2)

(cm・g)

No.	種別	素材	文書	重量	長さ	幅	厚さ	No.	種別	素材	文書	重量	長さ	幅	厚さ
156	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			202	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
157	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			203	弥生土器	須賀	奥野(白)磁器<3.2>				D5-4層土
158	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			204	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
159	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			205	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
160	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			206	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
161	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			207	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
162	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			208	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
163	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			209	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
164	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			210	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
165	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			211	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
166	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			212	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
167	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			213	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
168	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			214	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
169	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			215	弥生土器	須賀	内野へつ子片、外野へつ子片。				D5-4層土
170	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			216	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
171	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			217	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
172	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			218	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
173	土師器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			219	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
174	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			220	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
175	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			221	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
176	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			222	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
177	土師器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			223	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
178	土師器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			224	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
179	土師器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			225	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
180	土師器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			226	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
181	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			227	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
182	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			228	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
183	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			229	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
184	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			230	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土
185	縄文土器	須賀	1(高野宮遺跡)		0.29			231	縄文土器	須賀	須賀川沖積層に埋蔵。須賀川沖積層に埋蔵。				D5-4層土

五輪塔(大輪)計測凡例



- (A) 上面幅
- (B) 最大幅
- (C) 底面幅
- (D) 高さ
- (E) 最大径までの高さ
- (F) 孔幅
- (G) 孔径さ

第5節 溝状遺構

M1号溝状遺構

くけ-6Grにあり、H6・M2を切る。南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面形状は、浅い皿状である。規模は検出部分で全長3.56m、幅0.76~1.04m、深さ16~26cmを測る。南北底面の比高差はない。西側には粗い砂がみられた。

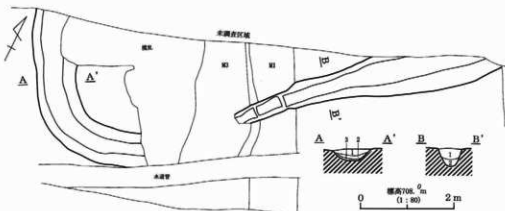
遺物は図示できるものではなく、縄文後期土器・土師器坏・須恵器甕の小片が出土した。本址の時期不明である。

M2号溝状遺構

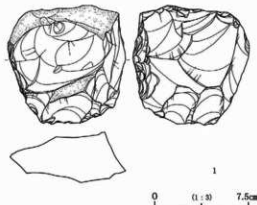
くこ-6Grにあり、M1・M3に切れ、H6・D7を切る。断面U字形と鍋底状で東西方向から北側の調査区域外へL字状に屈曲する。検出長12.4m、幅0.56~0.8m、深さ22~62cmを測る。西が低く東との比高差30cmである。

遺物は、縄文後期土器・土師器坏・須恵器坏・甕の小片が出土した。本址の時期不明である。

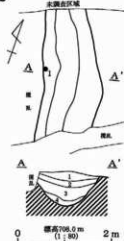
M2



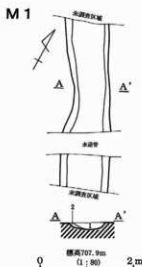
第143図 M2号溝状遺構



M3



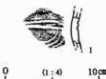
第144図 M3号溝状遺構



第142図 M1号溝状遺構

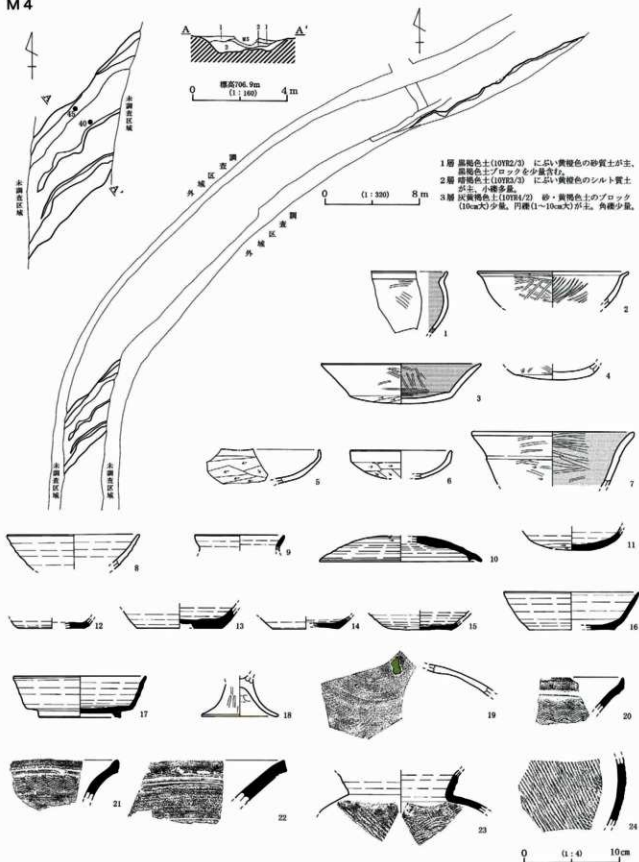
- 1層 黒褐色土(10YR3/1)
2層 暗褐色土(10YR3/2)
粒子の粗い砂。

- 1層 黒褐色土(10YR3/1)
2層 暗褐色土(10YR3/2)
3層 暗褐色土(10YR4/1)
ローム粒子多量。

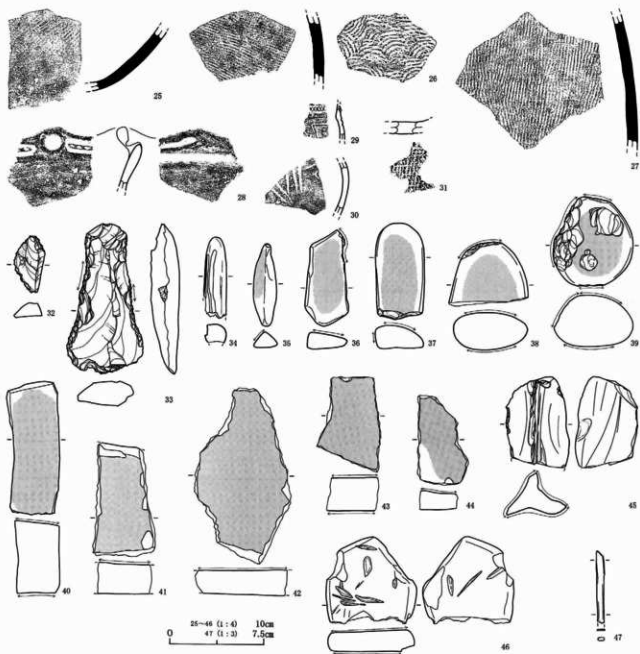


- 1層 黒褐色土(10YR3/2)
2層 暗褐色土(10YR3/1)
3層 黒褐色土(10YR2/3)
4層 暗褐色土(10YR3/3)
褐色土含む。

M 4



第145図 M 4号溝状遺構(1)



第146図 M4号溝状遺構(2)

M3号溝状遺構

け-6Grにあり、H6・M2・P20を切る。南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面U字形、覆土はレンズ状堆積を見せ、流水の跡はない。規模は検出部分で全長2.8m、幅0.86~1.24m、深さ56~76cmを測る。南北底面の比高差はない。

遺物は第144図1の石核、縄文後期土器・土師器・須恵器の小片であり、本址の時期は不明である。

M4号溝状遺構

お-き-5、き-け-6、そ-た-12~14GrにありP33を切り、M1・M5に切られる。検出長23.52m、幅3.7m、深さ54~73cmを測る。断面形は溝底凸凹する逆台形を呈する。覆土第1層は砂質土が主で、第2層は小礫多量に含むにぶい黄橙色のシルト質土が主である。最下層の3層は角礫と砂・黄褐色土のブロックが少量、1~19cm大の円礫が主である。北東から南西方向へ流下する河川跡である。

第81表 M2・3・4号溝状遺構出土物観察表

(cm・g)

No.	種別	図種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置	
1	縄文土器	深鉢	2本の溝状沈積。弧状の集合沈積。				堀之内1	M2<6	
No.	器 種	素 材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置	
1	石瓶		9.5	9.2	4.0	419.95	自然曲がる	M3No.1	
M 4		注 意		成 形 ・ 調 整 ・ 文 様			留意点(保存値< >丸座)		
No.	種別	図種	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	破片実測	M4
2	土師器	杯	(15.9)	-	<3.8>	ナデ→短文	ヘラミガキ	回転実測	M4せ5
3	土師器	杯	(16.8)	-	<3.7>	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ。底部ヘラケズリ	回転実測	M4
4	土師器	杯	-	-	<1.7>	ナデ	ヘラミガキ	完全実測	M4せ5
5	土師器	杯	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	破片実測	M4か53層
6	土師器	杯	(10.6)	(10.4)	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実測	M4
7	土師器	鉢	(17.0)	-	<5.8>	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	M4せ5
8	土師器	杯	(14.0)	-	<3.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	M4
9	須恵器	壺	(9.4)	-	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	M4
10	須恵器	蓋	(17.2)	-	<2.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測	M4せ5
11	須恵器	杯	-	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	完全実測	M4せ5
12	須恵器	杯	-	(7.0)	<1.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	M4
13	須恵器	杯	-	(9.0)	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り履し後手持ちヘラケズリ	回転実測	M4
14	須恵器	杯	-	(7.0)	<1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	M4
15	須恵器	杯	-	6.6	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→底部外周回転ヘラケズリ	完全実測	M4せ53層
16	須恵器	杯	(14.2)	(9.0)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測	M4せ53層
17	須恵器	有台杯	14.0	8.5	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り後ヘラナデ→高台付	完全実測	M4せ53層
18	弥生土器	高杯	-	8.1	<4.3>	杯部摩耗。胴部ヘラナデ。ヨコナデ	ヘラミガキ	完全実測	M4
23	須恵器	甕	-	-	<4.6>	ロクロナデ。当て具状。	ロクロナデ→平行タタキ目	回転実測	M4せ13
No.	種別	図種	文 様 ・ 調 整				備 考	出土位置	
19	灰釉陶器	壺					断面実測	M4	
20	須恵器	甕					断面実測	M4	
21	須恵器	甕					断面実測	M4か53層	
22	須恵器	甕					断面実測	M4せ5	
24	須恵器	甕					断面実測	M4せ53層	
25	須恵器	甕					断面実測	M4	
26	須恵器	甕					断面実測	M4	
27	須恵器	甕					断面実測	M4<6 No.7	
28	縄文土器	深鉢	口縁部内折。小突起の首孔から口縁に沿った沈積内に刺突を先境。					M4	
29	縄文土器	深鉢	横位部分隆帯の下行字文。縄文状。					堀之内2	
30	縄文土器	深鉢	堀下→斜位の集合沈積。					堀之内	
31	縄文土器	深鉢	外面底部網代状。2本超2本溜り。					M4	
No.	器 種	素 材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置	
32	二次加工の ある石片	黒曜石	3.0	1.6	0.7	3.40	左側に二次加工面	M4	
33	打製石片		11.8	6.0	2.2	143.70	両面に磨削痕	M4	
34	石剣		<6.4>	<1.8>	<1.4>	<27.28>	下部→裏面欠損	M4せ・た12・13	
35	磨石		8.8	2.5	1.6	35.95	左側にすり面	M4	
36	磨・磨石		10.1	4.7	1.8	126.28	右側に磨打痕。正面にすり面	M4	
37	磨・磨石		10.2	5.2	2.5	178.81	被熱あり? (黒化)正面と左側にすり面。下端部に磨打痕	M4	
38	磨・磨石		<6.8>	<8.3>	<4.0>	<305.92>	被熱あり? (赤化と黒化)下部欠損。正面にすり面。上部部に磨打痕	M4か5 3層	
39	磨・磨石		9.4	8.3	5.5	633.21	被熱あり? (一部黒化)左側を中心に磨打痕。正面にすり面	M4	
40	台石		14.1	5.6	7.8	1122.27	正裏とも使用面。両側の欠損状況不明	M4せ・た12・13 No.5	
41	台石片		<12.0>	<6.5>	<3.3>	<461.73>	上側に外周面欠損。正面が使用面	M4せ5 3層	
42	台石片		18.6	10.4	2.8	801.61	全周欠損。正面が使用面	M4	
43	台石片		<10.0>	<6.8>	<3.7>	<412.70>	正裏とも使用面。全周欠損	M4	
44	台石片		<9.5>	<5.5>	<2.1>	<162.00>	全周欠損。正面が使用面	M4	
45	砥石		<9.6>	<6.6>	<4.5>	<203.36>	下部欠損。砥縁数3	M4No.6	
46	砥石		<9.2>	<9.7>	<2.3>	<267.14>	下部欠損。砥縁数2。正面に糸痕	M4か5 2層	
47	磨	鉄	<9.7>	<0.6>	<0.3>	<3.48>	下部欠損。片刃。磨削か	M4せ・た12・13	

西近津遺跡VIでM4号溝状遺構として検出された河川跡と同一のものである。M4～M7は並行する。遺物は縄文時代後期土器・弥生時代後期・土師器・須恵器、二次加工のある剥片32、打製石斧33、石剣?34、磨石35、磨り面持つ磨石36～39、白石40～44、砥石45・46、鉄鎌47がある。

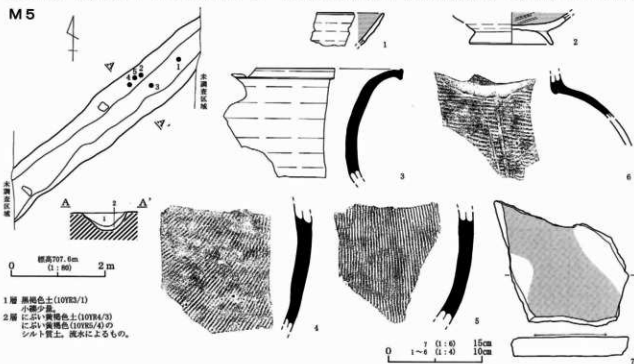
覆土3層からウシの右中手骨破片、ウマの左上顎3/4前臼歯破片、ニホンジカの角の可能性のある破片、ニホンジカの中手骨/中足骨の破片が出土した。

28～30は、縄文時代後期堀之内式の深鉢、31の底部網代は、2本越え2本潜りの編み方である。土師器には、1・2の内斜口縁坏、3の丸底から口縁部長く外反し内面黒色処理される坏、5・6の半球状の坏、8のロクロ成形の坏がある。須恵器には、底部ヘラ調整がみられる坏11～15・有台坏17、天井部ヘラケズリされ返りを有す蓋10、広口で頸部が括れ口縁部が長い甕20～23がある。19は灰釉陶器壺である。これらの土器には、磨耗がみえる。縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代、平安時代の遺物が出土した。本址の時期は、8世紀代であろうか。

M5号溝状遺構

そ-12・13、た-13Grから検出され、M4を切り、M4の中にある。M4～M7は並走する。北東から南西方向に延び両側が調査区域外となる。断面逆梯子形、覆土は流水によるシルト質土が堆積する。規模は検出部分で全長5.36m、幅0.8～1m、深さ12～35cmを測る。底面の比高差はなくほぼ平坦である。遺物は、1・2の土師器坏、3～5の須恵器がある。本址の時期は、平安時代であろうか。

M5



- 1層 黒褐色土(10YR3/1)
小礫少量。
2層 濃い黄褐色土(10YR4/3)
に濃い黄褐色(10YR5/4)の
シルト質土。流水によるもの。

第147図 M5号溝状遺構

第82表 M5号溝状遺構出土遺物観察表

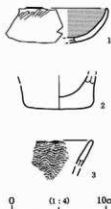
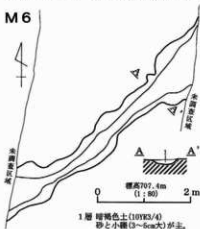
(cm・g)

No.	種別	器種	口徑(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内 面	外 面	推定重()残存重<>丸高<	備 考	出土位置	
1	土師器	碗	-	8.6	<3.4>	ヘラミガキ→藍色処理	ロクロナデ→底部白粉水切り→磨台貼付	完全実測		M4 No.4	
2	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ→藍色処理	ロクロナデ	破片実測		M4 No.4	
3	須恵器	碗	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測		No.1	
No.	種別	器種	注 意				文 様・装 飾		備 考		出土位置
4	須恵器	甕							前面実測		3甕
5	須恵器	甕							前面実測		No.3
6	須恵器	樽							前面実測		No.2
No.	器 種	質 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出 土 位 置		
7	白石		20.1	21.6	3.3	2140.00	正面が使用面				

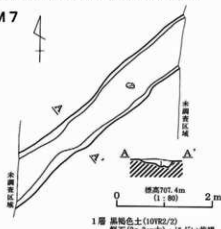
M6号溝状遺構

そ-12・13、た-13Grにあり、M4～M7は並走する。北東から南西方向に伸び両側が調査区域外となる。断面鍋底状、覆土は、流水による砂と3～5cm大の小礫が堆積する。規模は検出部分で全長5m、幅0.4～1.14m、深さ13～20cmを測る。北東から南西方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。遺物は、2の縄文後期深鉢、3の弥生後期甕、土師器環がある。本址の時期は、不明である。

M6



M7



第148図 M6号・M7号溝状遺構

第83表 M6号溝状遺構出土遺物観察表

M6			法 量		成形・調整・文様		測定値() 残存数<> 丸底		
No.	種別	形種	口径(径)	底径(径)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	環	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ		出土位置
2	縄文土器	深鉢	-	6.8	<3.4>			破片実測	
3	弥生土器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛歯状文	完全実測	断面実測

M7号溝状遺構

そ・た-14Grにあり、D11を切る。M4～M7は並走する。北東から南西方向に伸び両側が調査区域外となる。断面凹凸ある鍋底状。規模は検出部分で全長4.6m、幅0.66～0.88m、深さ6～11cmを測る。北東から南西方向に緩く傾斜、比高差は12cm程度である。遺物は縄文土器小片がある。本址の時期は、不明である。

M8号溝状遺構

ち-18Grにあり、P54・P188を切る。南北方向に伸び北側と南側が調査区域外となる。断面テラス持つ逆梯形、規模は検出部分で全長3.32m、幅1～1.22m、深さ25～35cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。

第84表 M8号溝状遺構出土遺物観察表

M8			法 量		成形・調整・文様		測定値() 残存数<> 丸底		
No.	種別	形種	口径(径)	底径(径)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	弥生土器	環	-	(10.4)	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り履し後ナデ。ヘラ記号有	破片実測	出土位置
2	弥生土器	環	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	
No.			法 量		文 様 ・ 調 整		備 考		出土位置
3	縄文土器	深鉢	口径部内折。口径に沿って1条の沈線。						堀之内1
4	縄文土器	深鉢	円孔持つ突起。器に環状沈線。さらに円形刺突から口径に沿って1条の沈線。2条の横位沈線の下の2条の横下する沈線。沈線区画内に縄文R光装。						堀之内1
5	縄文土器	深鉢	波状口縁。円形刺突から口径に沿って2条の沈線。						堀之内1
6	縄文土器	深鉢	突起部の円形刺突を囲むC字状沈線。器の2条の円形刺突から横引き沈線と横位溝し孔。						堀之内1
7	縄文土器	深鉢	粗製深鉢。磨部が肥化する。						後期前半
8	縄文土器	深鉢	粗製深鉢。注ぎ持つ横位隆帯。						後期前半
9	縄文土器	深鉢	幾何学文。区画内に磨洲縄文R。						堀之内2
10	縄文土器	深鉢	横位刺突隆帯にC字刺突付文。						堀之内2
11	弥生土器	土器片内物	円形。表面に赤褐色皮。底部ヘラナデ。磨打痕。ヘラ記号あり。径8.9 厚3.1.0						8C代
No.	種別	材	最大径	最大厚	備 考	用 具		出土位置	
12	打製石片	燧石	<6.0>	<5.5>	<2.2>	<1.13>			上下穴構

遺物は、3～10の縄文後期堀之内1式・堀之内2式・後期前半のの深鉢、底部へラ調整される須恵器環1・11、打製石斧12がある。11は底部へラ調整・へラ記号もつ須恵器環底部加工した、土器片円板である。須恵器環1・2・11から、本址は8世紀代であろうか。

M 8



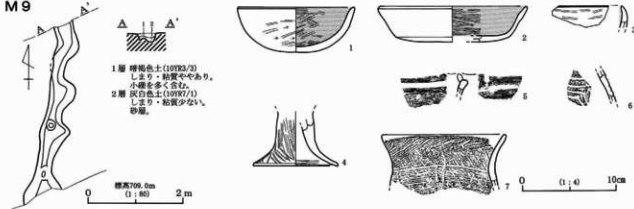
第149図 M 8号溝状遺構

M 9号溝状遺構

て-19Grにあり、南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面凹凸あるU字形、規模は検出部分で全長3.8m、幅0.28～0.64m、深さ7～41cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。覆土2層は、砂層である。

遺物は、5・6の縄文時代後期土器、7の弥生時代後期甕、1～3の土器器環・高杯がある。

M 9



第150図 M 9号溝状遺構

第85表 M 9・10号溝状遺構出土遺物観察表

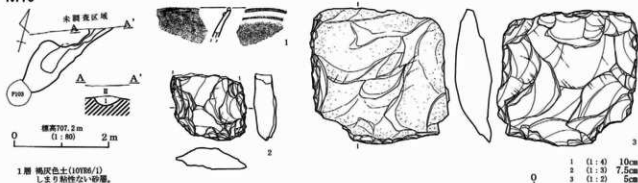
M9		法 量		形状・保管・支那		測定値()	保存態()	丸底・		
No.	種別	径(横)	底径(縦)	縁高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置		
1	土師器 鉢	(12.4)	-	4.8	ハラミガキ→黒色粘質	ヨコナデ→ハラミガキ	回転実測	M9		
2	土師器 鉢	(15.8)	(12.0)	3.8	ハラミガキ→黒色粘質	摩耗	回転実測	M9		
3	土師器 鉢	-	-	-	ハラミガキ→黒色粘質	ハラミガキ	破片実測	M9		
4	土師器 高杯	-	(9.0)	<5.8>	ナデ→ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	M9		
7	弥生土器 甕	(15.0)	-	<5.5>	ハラミガキ	帯彫刻文→帯彫刻状文	回転実測	M9		
5	縄文土器 深鉢	突起部に凹凸沈着。外面1層に沈着。							堀之内1	
6	縄文土器 茶臼蓋?	沈着区画内に縄文瓦。							堀之内2	
M10		文 様		文 様・図 案		備 考	出土位置			
1	縄文土器 鉢	内面口縁に引つて沈着。							M10堀之内1	M10
No.	種 別	材 質	最大径	最大厚	重量	用 具		出土位置		
2	打製石斧		<5.3>	<6.0>	<1.8>	<62.4>	上部欠損。全体に摩耗		M10	
3	使用済みのある割片		7.2	7.3	1.9	112.40	正面は自然面か?縁辺の彫刻は使用によるものか		M10	

M10号溝状遺構

に-20GrにありD15を切り、P90・P91・P103に切られる。北方向に延び北側が調査区域外となる。断面U字形、規模は検出部分で全長2.2m、幅0.2~0.78m、深さ30~40cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。覆土1層は、砂層である。

遺物は、1の縄文時代後期土器、2の打製石斧、3の使用痕ある剥片がある。時期は不明である。

M10



第151図 M10号溝状遺構

M11号溝状遺構

ふ-54~56、ひ-56~58Grにあり、H27・H28・H30・H38・F3・F5を切る。南北方向に延び南北側が調査区域外となる。断面U字状であるが、溝底が二つになり断面W字状になる部分がみられる。北から南方向に緩く傾斜、比高差は15cm程



第152図 M11・M12号溝状遺構

度である。規模は検出部分で全長14.6m、幅0.32~0.8m、深さ10~32cmを測る。2層に砂の堆積がある。遺物は、縄文・弥生時代後期土器片と土師器・須恵器・灰釉陶器片、第152図4の鉄鏃がある。本址の時期は、不明である。

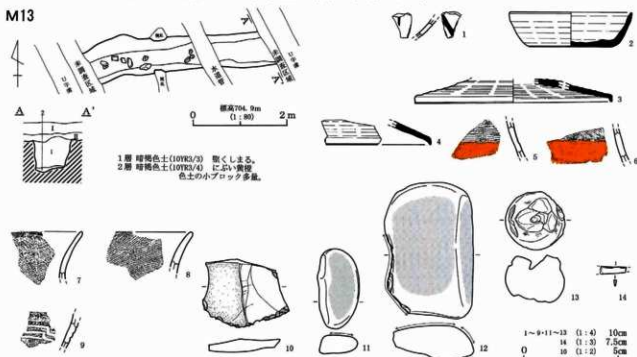
M12号溝状遺構

ふへ-54・55Grにあり、H35・H38・H40を切る。北西から南東方向に延び遺構の両側は、調査区域外にある。断面は逆梯形、溝底は平坦である。規模は検出部分で全長4.9m、幅0.46~0.52m、深さ18~20cmを測る。2層に砂の堆積がある。遺物は皆無で、本址の時期は不明である。

M13号溝状遺構

ふへ-48Grにあり、H36を切る。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にある。断面は凹凸ある逆梯形、規模は検出部分で全長3.8m、幅0.7~0.84m、深さ70cmを測る。東へ緩く傾斜、比高差13cm。1層上部から10個の礫(安山岩、熔結凝灰岩)。縄文後期・弥生時代後期土器片と土師器・須恵器、第153図10~13の石器と14の刀子がある。本址の時期は不明である。

M13



第153図 M13号溝状遺構

第86表 M11-13号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

M11									
No.	種類	状態	文様・装飾				数量	出土地	出土位置
1	弥生土器	壺	縁部残片文					弥生後期	M11
2	弥生土器	壺	縁部残片文					弥生後期	M11
3	弥生土器	壺	縁部残片文					弥生後期	M11
No.	種類	素材	最大長	最大幅	重量	用途	出土地	出土位置	
4	礫	砂	<5.6>	<0.7>	<0.35>	<4.06>	上下次溝、障壁埋存、表層貯蔵	M11No.1	
No.	種類	状態	長(幅)	厚(高)	重量	内面	外面	用途	出土位置
1	土師器	片	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ、磨痕あり。	磨片実測	BC区A M13
2	須恵器	片	(13.0)	(9.0)	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ・底部のすり傷としほへラナデ	磨片実測	BC区A M13
3	須恵器	片	(20.6)	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ。磨痕あり。自然輪付有。	磨片実測	BC区A M13
4	須恵器	片	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	磨片実測	BC区A M13
5	弥生土器	壺	縁部残片文・縁部文・赤色塗彩					弥生後期	
6	弥生土器	壺	へら・縁部文・縁部文・赤色塗彩					弥生後期	
7	弥生土器	壺	内面へらナデナ。縁部残片文。					弥生後期	
8	弥生土器	壺	内面へらナデナ。縁部残片文。					弥生後期	
9	縄文土器	須恵器	縁部A帯の文様。1字区切り。					弥生後期	
No.	種類	素材	最大長	最大幅	重量	用途	出土地	出土位置	
10	使用済のある礫		3.6	4.5	0.8	13.32	下部に使用痕	M13	
11	礫石		8.5	4.4	2.2	116.45	正面にすり傷	M13	
12	磨片(礫石)		14.4	9.5	3.8	834.65	正面・右側にすり傷。左側に磨打痕	M13No.1	
13	磨片(礫石)		6.1	6.2	5.4	82.26	表面、周りに磨痕。磨孔あり。礫石として使用か?	M13	
14	刀子?	鉄	<2.0>	<0.6>	<0.2>	<0.89>	両端欠損	M1305A 磨片出	

M14号溝状遺構

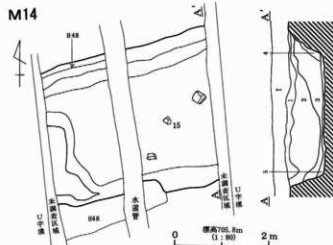
み・む-36Grにあり、H48(奈良時代後半)に切られる。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にある。断面は逆梯形形、規模は検出部分で全長3.64m、幅3.2m、深さ80cmを測る。2・3層は人為埋土、平坦な溝底にはシルト質土が堆積する。西端がテラス状に20~25cmほど高くなっている。遺物は、

縄文後期前葉・中葉の土器、弥生時代後期甕と台石が出土している。

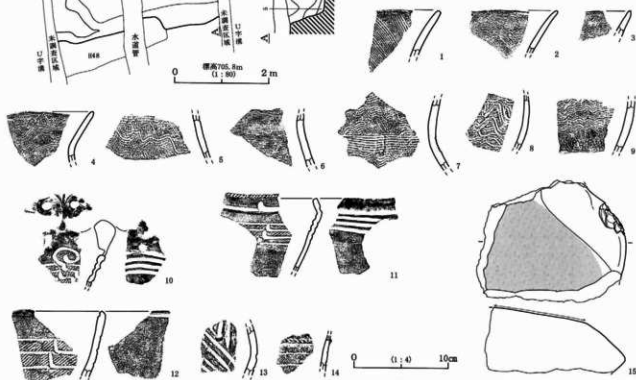
本址の時期は、これらの遺物から弥生時代後期箱清水式期に比定されよう。

本址の東方100mで平成19年度に長野県

M14



- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土のブロック少量。
- 2層 黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色のP1が主。南側に緩く傾斜する褐色土の帯状ブロックが北側にあり、人為埋土。
- 3層 暗褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR2/3)・暗褐色のP1の帯状ブロックが中央に面し傾斜する。人為埋土。
- 4層 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土ブロック含む。
- 5層 土に赤い褐色土(7.5YR5/4) シルト質土。



第154図 M14号溝状遺構

第87表 M14号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	形状	文様・調査	備考	出土位置			
1	弥生土器	甕	帯形斜交文	弥生後期				
2	弥生土器	甕	帯形波状文	弥生後期				
3	弥生土器	甕	帯形波状文	弥生後期				
4	弥生土器	甕	帯形波状文	弥生後期				
5	弥生土器	甕	帯形波状文	弥生後期				
6	弥生土器	甕	帯形波状文・帯形斜交文	弥生後期				
7	弥生土器	甕	帯形波状文→帯形斜交文	弥生後期				
8	弥生土器	甕	帯形波状文	弥生後期				
9	弥生土器	甕	帯形波状文	弥生後期				
10	縄文土器		口縁部内折、波状口縁。波状部に2条の円形貼付文。波状部の下溝帯状沈積内に黒濁黄文R。その下お玉杵子状切りを持つ4条の帯状沈積区画内に黒濁黄文R。内側4条の帯状沈積。	加南利B1				
11	縄文土器		10cm角一帯状とみられる。口縁部下にお玉杵子状の区切りを持つ沈積。口縁部に連続刺目目。	加南利B1				
12	縄文土器	深鉢	4条の帯状沈積区画内に黒文R。一部磨消。L字区切り。	加南利B1				
13	縄文土器		斜行・縦位の集合沈積。	堀之内				
14	縄文土器		帯状刺目縁線の下2条の帯状沈積区画内に黒文LR沈積。	堀之内2				
No.	種別	材質	最大径	最大径	重量	産地	調査	出土位置
15	台石		<13.0>	<15.7>	<6.9>	<1790>	南側～溝底欠損	No.1

埋蔵文化財センターが実施した中部横断道路関係西近津遺跡群の調査で検出された弥生時代後期の大量とされる溝状遺構に繋がる可能性が非常に大きい。

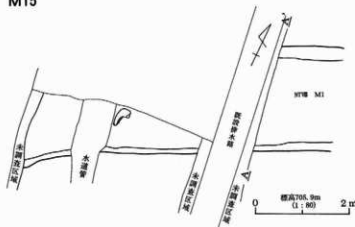
M15号溝状遺構

む-32・33Grにあり、H52・H54・P186・P187を切る。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にあり、東側は東隣で調査された西近津遺跡ⅧのM1と同一遺構に繋がる。断面は凹凸が激しい逆梯形、規模は検出部分で全長3.68m、幅1.44m、深さ46cmを測る。

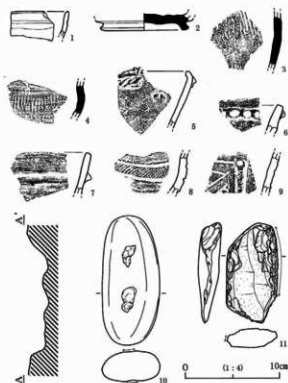
遺物は、縄文後期土器・土師器・須恵器、凹石、敲石が出土した。

さらに、ニホンジカの右下顎骨、ウマの右下顎

M15



第155図 M15号溝状遺構



第88表 西近津遺跡Ⅳ M15号溝状遺構出土遺物観察表

(cm・g)

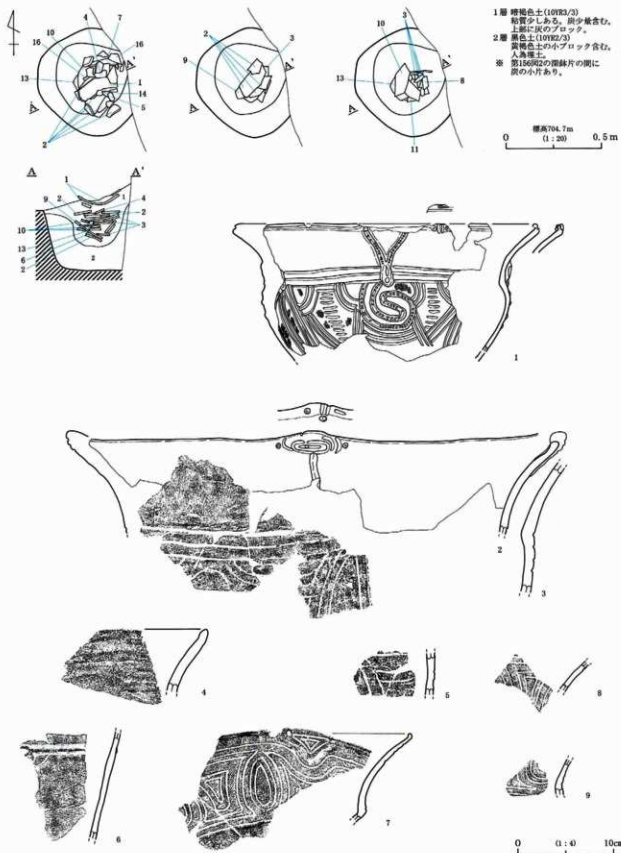
No.	遺物	遺種	口徑(内)	底径(内)	口縁(厚)	内 径	外 径	指定重()	保存重<>	丸籠	
1	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ、黒点処理	ナデ			破片実測	
2	須恵器	有台杯? 甕?	-	(9.2)	<1.8>	口クロナデ	底縁凹縁へつ切り後高台貼付			回転実測	
3	須恵器	壺	-	-	-						
4	須恵器	壺	-	-	-						
5	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁下に横位隆帯。								後期前半
6	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁部内折。口縁直下の横位隆帯から短く垂下する斜み隆帯。								称名寺
7	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁直下に圧痕持った横位隆帯。								称名寺
8	縄文土器	深鉢	沈線区画内に縄文R充填。								後期前半
9	縄文土器	深鉢	垂下する隆帯上に円形貼付文。沈線による幾何学文。縄文R充填。								堀之内2
No.	遺物	資 材	最大径	最大径	重量	所 属		出土位置			
10	凹石		13.7	6.1	3.3	正面に2ヶ所ずつの浅い彫り痕		壺土			
11	敲石?		10.5	5.5	2.0	166.76 上面部→左側に磨滅。右側面つがひ状		壺土			

第1門歯、ウマの右大腿骨片・遠位端片・脛骨近位端片・四肢骨片、ウマの左下顎第1門歯片、4～5歳程度的大型馬の左右下顎骨が検出された。

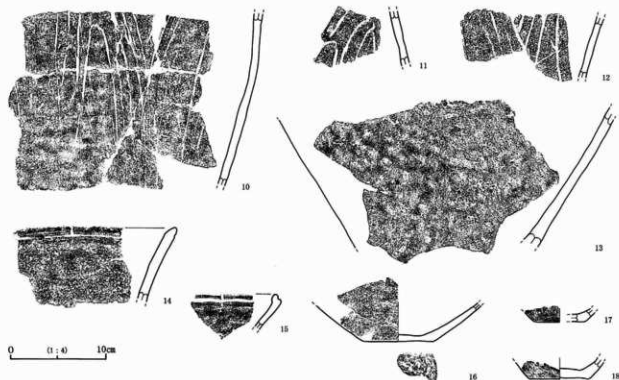
本址の時期は、竅穴住居址等の重複関係や出土遺物から古墳時代後期以降とみられる。

第6節 ビット

総数185基が検出され、そ-16～め-24Grに集中している。縄文時代後期の土坑が多く存在する地点である。大半が何らかの建物に関連した柱穴と思われるが、建物址として把握できなかった。



第156図 P172号ピット(1)



第157図 P172号ピット(2)

P172号ピット

柱穴として扱ったが、土坑としたほうが妥当であろう。平面形は径56cmのほぼ円形、深さは44cmを測る。底面10cmほどから総数82個の土器片を重ね置きしてある。第156図1の鉢が最上部、その下部東側に2～4が西側に10が、2～4に挟み込まれて10がある。覆土は人為埋土で、1層には少量の灰・炭小片が含まれる。2の土器片間に炭片、1の土器上面に接して灰の小ブロックが認められた。

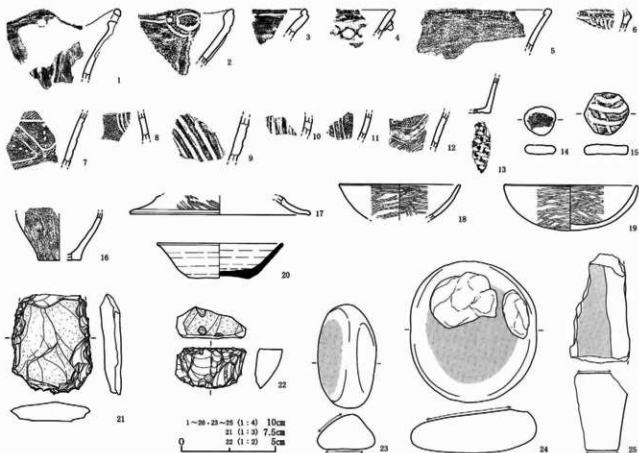
1は口縁部内折する鉢、括れ部8字貼付文下の渦巻き状刻み隆線と紡錘状の集合沈線を斜行集合沈線とつなぐ。これらの間に形成された槍先状区画内は、横位の短沈線で充填される。

2～5は口縁部内折する深鉢の同一個体。突起部円孔から横引きの短沈線をC字状と弧状の沈線が囲み、両脇に円形刺突。突起内面口唇部から円孔へ縦位沈線、脇に円形刺突と短沈線。

第89表 西近洋遺跡Ⅳ P172号ピット出土物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	文・飾・形	備考	出土位置
1	縄文土器	鉢	口縁部内折。突起部縦位2条の沈線内脇の円形刺突から口縁に沿って沈線。この沈線からV字状刻み隆線がくびれ部・横位集合沈線上の8字貼付文に垂下する。8字貼付文の下に渦巻状刻み隆線。下を横位集合沈線とつなぐ。他の8字貼付文の下に紡錘状の集合沈線。渦巻状刻み隆線と紡錘状の集合沈線を斜行集合沈線とつなぐ。横位集合沈線と渦巻状と紡錘状は短沈線集合沈線と繋がる。これらの間に形成された槍先状区画内は横位の短沈線で充填される。横位短沈線。口縁径(3.4)器高<10.9。	器之内2占	No.12・13・16・17
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。突起部円孔から横引きの短沈線を囲むC字状沈線と弧状沈線。両脇に円形刺突。突起内面口唇部から円孔へ縦位沈線。脇に円形刺突と短沈線。3・4・5と同一個体。口縁径(5.2)器高<10.9。	器之内2占	No.11・12・14・17・20・22・23・27・28・49・50
3	縄文土器	深鉢	2・5と同一個体。横位集合沈線から紡錘状と弧状集合沈線。	器之内2占	No.29・39～41・43・46
4	縄文土器	深鉢	2・3・5と同一個体。口縁部内折。	器之内2占	No.18
5	縄文土器	深鉢	2～4と同一個体。弧状集合沈線。紡錘状集合沈線。	器之内2占	No.8
6	縄文土器	深鉢	横位短沈線から横位隆線。	器之内2占	No.48
7	縄文土器	鉢	6・9と同一個体。口縁部内折。横小突起2個の円形刺突間に二重の逆三角形沈線を伴った逆三角形の突起。2条1組の沈線で横円形と逆三角形が交互に描かれる。区画内に横位充満。	器之内2占	No.3・15
8	縄文土器	鉢	7・9と同一個体。逆三角形の2条1組の沈線。区画内横位充満。	器之内2占	
9	縄文土器	鉢	7・8と同一個体。横円形の2条1組の沈線。区画内横位充満。	器之内2占	No.25
10	縄文土器	深鉢	12と同一個体か？逆U字状沈線の両脇に弧状の集合沈線。	器之内2占	No.24・31・32・34・37
11	縄文土器	深鉢	逆U字状沈線。斜行沈線。	器之内2占	No.35
12	縄文土器	深鉢	10と同一個体か？弧状と斜行集合沈線。	器之内2占	H42層部
13	縄文土器	深鉢	底部内折。	No.47	
14	縄文土器	深鉢	口縁部下横位沈線か？	器之内2占	No.19
15	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁直下に横位沈線。	器之内2占	
16	縄文土器	鉢	時代未定。器形不明(一部破裂)器底(7.4)	器之内2占	No.2 H42層部
17	縄文土器	鉢	器底(5.2)	器之内2占	
18	縄文土器	鉢	器底(6.2)	器之内2占	No.38



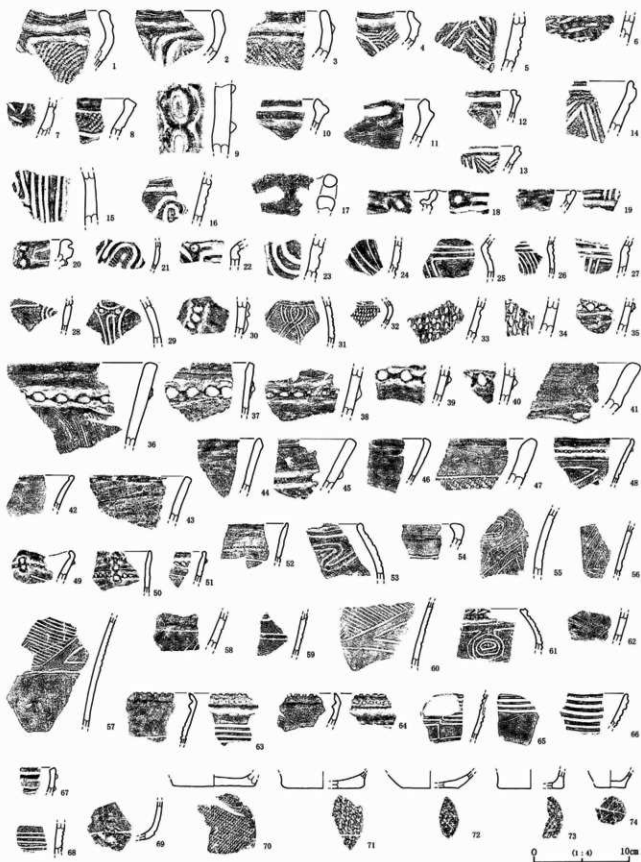
第158図 ビット出土遺物実測図

6は楕円状の隆帯から横位の隆帯。7～9は口縁部内折する鉢、極小突起に2個の円形刺突間に二重の逆三角形沈線を持つ逆三角形の突起を付す。その下部に2条1組の沈線で楕円形と逆台形が交互に描かれ、区画内に縄文L R充填される。10と11は同一個体とみられる。逆U字状沈線の両脇に弧状の集合沈線が施文される。これらは総じて縄文時代後期前葉層之内2式に比定される。

第90表 西近洋遺跡IVビット出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	形状	口径(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内径	外径	厚さ(㎝)	重量(g)	出土地層
17	土師器	高杯	-	(19.2)	<2.0>	ナ字	ミガキ			同層実測 P10
18	土師器	杯	(2.6)	-	<3.7>	ヘラミガキ, 黒色沈線	ヘラミガキ, 黒色沈線			同層実測 P61
19	土師器	杯	(4.0)	-	4.8	ヘラミガキ, 黒色沈線	ヘラミガキ			同層実測 P154No.1
20	土師器	杯	13.4	6.4	3.7	口クロア字	口クロア字, 黒色右側斜糸付			同層実測 P55
No.	種別	形状	文様・調整			文様・調整		備考	出土位置	
1	縄文土器	深鉢	円孔状突起の周囲からV字状に垂下する隆帯, 口縁部内折。						層之内	
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折, 突起部に隆帯に沈線。縁の円形刺突から横列状沈線と弧状沈線。弧状沈線から垂下する隆帯。						層之内2	
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下に横位沈線。						層之内1	
4	縄文土器	深鉢	黒色沈線深鉢。口縁部下にL R充填付横位沈線。						層内前部	
5	縄文土器	深鉢	口縁部内折。						層之内	
6	縄文土器	深鉢	縁部内折縁線の下部に集合沈線。						層之内	
7	縄文土器	深鉢	沈線による斜行文。X字状に平行沈線状。突起の刺突から縁位と斜位に連続沈線。平行沈線内に縄文L R充填。						層之内2	
8	縄文土器	深鉢	縁位沈線。弧状の集合沈線。縄文L R充填。						層之内	
9	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。10と同一個体。						層之内	
10	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。9と同一個体。						層之内	
11	縄文土器	深鉢	縁位・弧状沈線(縁部状)						層之内	
12	縄文土器	深鉢	斜行文。縄文L R充填。一般縁部。						層之内2	
13	縄文土器	深鉢	網代文。2本縁2本縁付。						後期前半	
14	縄文土器	土師片円板	円形。縄文の深鉢片。黒褐色・研磨面。最大径3.3厚さ1.0						後期前半?	
15	縄文土器	土師片円板	円形。弧状・斜行集合沈線。最大径4.6厚さ1.1						層之内	
16	赤土土器	環	内径ヘラミガキ。外周部黒色沈線状ヘラミガキ						後層後部	
No.	種別	素材	最大径	最大径	重量	厚	厚	備考	出土位置	
21	打製石斧		<7.9>	<6.4>	<1.5>	<101.64>			上部欠損	
22	石核	黒曜石	2.2	3.7	1.5	11.73			自然磨り面	
23	磨石		11.0	6.2	4.4	389.37			正装にすり磨	
24	磨石		15.0	13.4	4.3	1401.92			磨面あり(左端に黒色)正装の磨面は磨面によるもの	
25	白土片		<11.7>	<8.2>	<8.2>	<847.77>			左側に内外沈線。正装に使用面	



第159图 遼朝外出土遺物実測图(1)



第160图 遗物出土实物实图(2)

第91表 遺構外出土遺物観察表(1)

(cm・g)

G7		法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		推 定 値 ()	残 存 率 < >	丸 皿 -
No.	種別	器種	口径(横)	底径(縦)	取高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
74	縄文土器	鉢?	-	3.2	<1.8>		木製遺	後期	め26
76	縄文土器	深鉢	-	6.4	<2.3>			完全実測	後期 表採
77	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	<1.6>			完全実測	後期 表採
86	弥生土器	壺	-	5.9	<2.3>	ミガキ	胴部ミガキ, 底部ミガキ	完全実測	は71 カクラン
87	弥生土器	鉢	-	5.1	<3.7>	ヘラミガキ, 赤色塗彩	ヘラミガキ, 赤色塗彩	完全実測	後期 0.50 V層上部
88	弥生土器	鉢	-	3.9	<3.2>	ヘラミガキ, 赤色塗彩	ヘラミガキ, 赤色塗彩	完全実測	後期 0.60
89	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ, 口縁付近赤色塗彩	ヘラミガキ, 口縁部に2孔, 赤色塗彩	部分実測	0.56
90	弥生土器	鉢	-	(4.2)	<4.8>	ヘラミガキ, 赤彩付着。	ヘラミガキ	完全実測	後期 0.50 V層上部
91	弥生土器	手捏土器	(7.4)	-	<1.7>	ナデ	ナデ	部分実測	0.51 V層上部
92	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ, 黒色処理	口クロナデ, 意蓋あり	部分実測	0.51 V層上部
93	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ, 黒色処理	口クロナデ, 意蓋あり	部分実測	0.66
94	土師器	坏	-	6.2	<1.7>	ヘラミガキ, 黒色処理	口クロナデ, 底部右回転糸切り	完全実測	0.54
95	土師器	碗	-	5.2	<1.4>	縄文, 黒色処理	口クロナデ→高台付着, 墨書あり	完全実測	0.66
96	須恵器	坏	-	(6.6)	<1.3>	口クロナデ	口クロナデ, 底部回転糸切り	完全実測	け6
97	須恵器	坏	-	(6.8)	<2.2>	口クロナデ	口クロナデ, 底部右回転糸切り	部分実測	0.65
98	須恵器	蓋	-	-	<3.3>	口クロナデ	口クロナデ, 天井部回転ヘラケズリ	完全実測	た・ち17-18
100	反胎陶器	蓋	-	5.2	<3.4>	口クロナデ, 施胎	口クロナデ, 高台粘付	部分実測	0.66 カクラン
No.	種別	器種	文 様 ・ 調 整			備 考	出土位置		
1	縄文土器	深鉢	底状口縁, 頸部彫刻帯内に縄文文様R。			中期後半	み40-41		
2	縄文土器	深鉢	頸部底面内に縄文R。			中期後半	み40		
3	縄文土器	深鉢	横位隆帯, 縄文R。			中期後半	み40		
4	縄文土器	深鉢	底状口縁, 底状沈線, 地文縄文R。			中期後半	0.65 カクラン		
5	縄文土器	深鉢	垂下する沈線, 線杉状沈線。			中期後半	み42		
6	縄文土器	深鉢	横位の短沈線。			中期後半～後期 前半	み40		
7	縄文土器	深鉢	線杉状の短沈線。			中期後半～後期 前半	み43		
8	縄文土器	深鉢	口縁部内折, 沈線区画内に縄文R充満。			特名寺	め25		
9	縄文土器	釣手土器	筒円状の隆帯, 内側をなぞる沈線。			特名寺	ち17		
10	縄文土器	深鉢	口縁部内折, 口縁部下横位隆帯。			堀之内1	み40		
11	縄文土器	深鉢	口縁部内折, 突起部に横位隆帯。			堀之内1	み44		
12	縄文土器	深鉢	口縁部下横位隆帯, その下短沈線。			堀之内1	み40		
13	縄文土器	深鉢	口縁部下横位隆帯, その下斜行する集合沈線。			堀之内1	み44		
14	縄文土器	深鉢	口縁部下横位隆帯, 斜行集合沈線。			堀之内1	Z 表採		
15	縄文土器	深鉢	垂下・斜行沈線。			堀之内1	み43		
16	縄文土器	深鉢	横位隆帯の下湾帯状沈線。			堀之内1	み43		
17	縄文土器	深鉢	2唇の円孔持つ突起。			堀之内1	0.28		
18	縄文土器	深鉢	突起部内外に円形突起, 内部円形突起から横位隆帯。			堀之内1	み41		
19	縄文土器	深鉢	突起部内部に縦位の沈線, そこから横位隆帯。			堀之内2	0.40		
20	縄文土器	深鉢	口縁部8字粘付文様筒円状沈線区画内に縄文R充満。			堀之内1	0.40		
21	縄文土器	深鉢	底状沈線内に磨消縄文Rの上に横内形の突起。			堀之内1	な・に19-20		
22	縄文土器	深鉢	円形突起, 底状沈線。			堀之内	ち17		
23	縄文土器	深鉢	底状沈線。			堀之内	み43		
24	縄文土器	深鉢	垂下・短沈線の集合沈線。			堀之内	み44		
25	縄文土器	深鉢	横位・斜行集合沈線。			堀之内	み44		
26	縄文土器	深鉢	横位・短沈線の集合沈線。			堀之内	み44		
27	縄文土器	深鉢	横位集合沈線, 斜行集合沈線。			堀之内	0.50 V層上部		
28	縄文土器	深鉢	同心円状の沈線, 沈線区画内に縄文R充満。			堀之内2	0.28		
29	縄文土器	深鉢	2唇の円形突起, 十字状・底状沈線。			堀之内	Z		
30	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 垂下する任意持つ隆帯。			後期前半	た14		
31	縄文土器	深鉢	横位集合沈線, 対底状集合沈線, 縄文R。			堀之内	ち17		
32	縄文土器	鉢	6字突起, 横位沈線, 下湾帯状突起。			特名寺	0.50 V層		
33	縄文土器	深鉢	多量の刺突文。			特名寺	0.22 カクラン		
34	縄文土器	深鉢	多量の刺突。			三十稲荷	み40		
35	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 任意持つ横位隆帯。			後期前半	は21		
36	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 任意持つ横位隆帯, その下磨滅状工具による垂下沈線。			特名寺	0.28		
37	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 任意持つ横位隆帯。			後期前半	0.33		
38	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 任意持つ横位隆帯。			後期前半	め26		
39	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 任意持つ横位隆帯。			後期前半	0.28		
40	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 任意持つ横位隆帯。			後期前半	め25		
41	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢, 横位隆帯。			後期	0.50 V層		
42	縄文土器	深鉢	口縁部内折。			堀之内	た14		
43	縄文土器	深鉢	所狭帯製深鉢。			後期	0.50 V層		
44	縄文土器	深鉢	口縁部内折。			堀之内	な・に19-20		
45	縄文土器	深鉢	横位隆帯。			中期後半	め26		

西近津遺跡Ⅳ遺構外出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	特徴	文 様・装 飾	備 考	出土位置			
46	縄文土器	深鉢	口縁部内折。	堀之内	4728			
47	縄文土器	深鉢	口縁部下に横位沈没。縄文丸。	中層後半	2940			
48	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下部に横位沈没。磨湾片文。縄文丸を施す。	堀之内2	050 V層			
49	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁部下部に横位沈没。磨湾片文。支脚区画内縄文丸。	堀之内2	050 V層上部			
50	縄文土器	深鉢	8割折付文。横位磨湾片。	堀之内2	073			
51	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下に横位磨湾。その下横位沈没。	堀之内2	076			
52	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下に横位磨湾。その下横位沈没。	堀之内2	05・26			
53	縄文土器	注口土器	口縁部下部に横位磨湾。その下下行する接帯。接帯上に横文丸。接帯をなぞる沈没。	堀之内2	064			
54	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下横位沈没。	稲名寺	073			
55	縄文土器	深鉢	磨湾片文。縄文丸を施す。	堀之内2	035			
56	縄文土器	深鉢	磨湾片文。磨湾丸丸。	堀之内2	14			
57	縄文土器	深鉢	60%同一磨湾。磨湾片文。区画内に斜行沈没沈没。磨湾区画内に縄文丸を施す。	堀之内2	18-19-20			
58	縄文土器	深鉢	横位・斜行沈没。	堀之内2	14			
59	縄文土器	深鉢	2条1組沈没区画。磨湾丸丸。	堀之内2	14			
60	縄文土器	深鉢	57%同一磨湾。磨湾片文。区画内に斜行沈没沈没。磨湾区画内に縄文丸を施す。	堀之内2	18-19-20			
61	縄文土器	注口土器	口縁部底部に横位。口縁部下横位沈没沈没。磨湾丸。	堀之内2	17-18			
62	縄文土器	深鉢	斜行する集合沈没。	堀之内2	18-19-20			
63	縄文土器	深鉢	横位磨湾の下位に4条の横位沈没。64と同一磨湾とみられる。口縁部内折。口縁部に斜角・横位沈没・縄文丸。内口縁部直下に横位沈没。	笠原101	026			
64	縄文土器	深鉢	63と同一磨湾とみられる。口縁部内折。口縁部に横位。横位等の下横位沈没。	笠原101	026			
65	縄文土器	深鉢	6条の横位沈没。17区画より。内区4条の横位沈没。	笠原101	026			
No.	種別	特徴	文 様・装 飾	備 考	出土位置			
66	縄文土器	深鉢	口縁部下から6条の横位沈没。	笠原101	026			
67	縄文土器	深鉢	口縁部上2条の横位。横位沈没。	稲名寺	026			
68	縄文土器	深鉢	5条の横位沈没。磨湾丸丸の下横位沈没。	笠原101	14			
69	縄文土器	深鉢	底部磨湾上に横位沈没。磨湾下をなぞる磨湾沈没。	堀之内2	040			
70	縄文土器	深鉢	網代瓦。2本組2本寄り。直径(5.6)。	後期	076			
71	縄文土器	深鉢	網代瓦。2本組2本寄り。直径(5.6)。	後期	043			
72	縄文土器	深鉢	網代瓦。2本組2本寄り。直径(6.0)。	後期	044			
73	縄文土器	深鉢	網代瓦。磨湾片。直径(7.0)。	後期	026			
74	縄文土器	深鉢	網代瓦。1本組1本寄り。	後期	055			
79	縄文土器	深鉢	網代瓦。2本組2本寄り。磨湾片なし。	後期	050 V層上部			
80	縄文土器	深鉢	網代瓦。2本組2本寄り。磨湾片なし。	後期	021			
81	縄文土器	土器片(深鉢)	片形深鉢片。磨湾片。磨湾磨湾。磨湾。最大径3.8 厚さ1.0	後期	043			
82	縄文土器	土器片(深鉢)	片形深鉢片。磨湾片。磨湾をなぞる沈没。縄文丸。最大径4.6 厚さ1.0。	中層後半	17-18			
83	弥生土器	壺	横位区画の磨湾片文。	弥生後期	044			
84	弥生土器	壺	内面へつり。外周磨湾片文・磨湾片文。	弥生後期	076			
85	弥生土器	壺	磨湾片文・磨湾片文。内周磨湾片文・磨湾片文。磨湾片文の2孔あり。	弥生後期	050			
98	弥生土器	壺	内周片文。外周磨湾片文。	17-18	013			
101	弥生土器	壺	外周磨湾片文。	063	カグラ			
No.	器 種	素 材	最大径	最大径	最大径	備 考	出 土 位 置	
102	スプレイバー		5.4	3.7	2.8	50.24	右側を方角としたスプレイバーか	17-18 19G
103	スプレイバー		4.9	5.6	1.3	38.32	下辺を方角としたスプレイバーか	063 カグラ
104	銅片		4.4	3	1.3	17.86		17-18 19G
105	打製石斧		<11.1>	<6.8>	<1.4>	<152.55>	上部欠損。正副は自然磨。方部に使用痕	076
106	打製石斧		<8.4>	<5.5>	<1.9>	<94.54>	下部欠損。正副は自然磨	029
107	打製石斧		<7.1>	<5.3>	<1.0>	<55.20>	上部欠損。方部に使用痕	042
108	磨製石斧		<5.0>	<3.9>	<1.5>	<48.02>	上部欠損	113
109	石剣		<5.2>	<1.4>	<1.2>	<13.60>	上下欠損	17-18 19G
110	台石片		<11.1>	<6.3>	<1.4>	<168.34>	正副が使用面。上部に外欠損か	026 カグラ
111	台石片		<5.5>	<9.9>	<4.3>	<310.12>	右側に外欠損。正副に使用痕	2
112	打製石剣		<3.7>	<5.5>	<1.2>	<25.05>	上部欠損。磨湾部から方部と変わる	040
113	磨石		<6.4>	<4.9>	<2.4>	<111.08>	下部欠損。上部に磨打痕	113
114	磨石		<5.4>	<4.0>	<3.2>	<103.32>	下部欠損。上部部に磨打痕。正副にすり面	041
115	磨石		<6.3>	<8.0>	<5.1>	<910.69>	下部欠損。正副にすり面。上部に磨打痕	2 17-18 19G
116	磨石		10.1	4.9	3.8	252.22	上下端部に磨打痕	2
117	磨石?		<8.2>	<4.4>	<2.7>	<168.86>	下部欠損。断面数4。多数の磨かい磨打痕あり	033
118	磨石?		7.6	8.5	1.4	98.19	正副に欠損。断面は自然磨。磨かい使用と変わる	065

第7節 遺構外出土遺物

遺構確認時に多くの縄文時代中期後半・後期初頭・後期前葉・後期中葉、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の土器や土製品・石器が出土した。弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の土器は、該期の竪穴住居址覆土上部から出土したものである。縄文時代の遺物は、土坑やピットの上部や周辺から検出された。

縄文時代後期初頭釜形土器は、D23・D25・D29・D31のあるGrめ-25～28に集中する。後期中葉加曾利B1式土器は、D26周圍Grめ-25から出土した。後期前葉堀之内1式・2式土器は本調査で最も多く、た-12～むめ-26Gr内で遺構はD8～D25が存在する地点で出土した。この地点は、平成22年度に縄文時代後期前葉の遺構が多く検出された西近津遺跡Ⅳに接する。

ここから60m南方の地点でH44号住居址のあるGrみ-40・41には、縄文時代中期後半・後期前葉堀之内式の深鉢片が集中している。この地点には、堀之内2式土器片82がみられたP172が存在する。

第92表 堅穴住居址-堅穴状遺構一覧表(1)

(残存部) <横出幅> (cm)

遺構名	横出位置	平面図				主軸方位 (長軸方位)	備考 柱・穴跡・遺構・併存等
		北壁長	南壁長	東壁長	壁高		
H1	お-か4	-	400	<246>	<56>	43	N-14°-W P1 44×36×59 P2 -×××25 P3 28×28×34 P4 20×16×24 P5 16×14×26 P6 20×18×23 P7 P8 P9 P10
H2	さ-し-7-8	<100>	<90>	-	290	27	-
H3	き-5-6	-	(22.8)	<140>	<68>	38	N-19°-W M2に切られる。P1 32×24×61 P2 36×28×47 P3 40×26×37 P4 34×28×42 P5 56×36×17
H4	お-2	-	<220>	<150>	-	17	N P18に切られる。P1 48×34×40 P2 58×26×39
H5	あ-い-1	-	(420)	<210>	<156>	53	N-33°-W D6に切られる。壁溝同切リ。P1 柱礎18φ 60×56×46 P2 柱礎14φ 60×56×60 P3 46×38×45 P4 28×18×37
H6	く-け-5-6	-	(216)	<100>	-	-	N-5°-W M1-M2-M3-D7に切られる。P3~P5床下カス。P1 72×(44)×69 P2 108×88×69 P3 柱礎20φ 42×40×53 P4 36×28×48 P5 38×32×26
H7	め-26~28	<150>	<66>	(70)	-	72	N-5°-W H8-P148に切られる。D25を切る。南北軸長630cm P1 <22>×30×24 P2 30×<14>×23
H8	め-27	-	<90>	-	-	58	- H7を切る。壁溝18cm
H9	む-あ-29-30	328	308	108	-	60	N H10を切る。溝深16cm P1 76×66×67 P2 <46>×66×57 P3 64×<×>×60 P4 82×72×69 P5 56×<36>×53 P6 38×30×29 P7 50×<46>×54 P8 <36>×36×15
H10	む-29	<144>	-	-	-	-	N-6°-W H9に切られる。壁溝5cm P1 42×39×39 P2 <46>×22×38 P3 <36>×20×42 P4 (34)×(34)×63 P5 32×20×37 P6 38×36×15 P7 <74>×<38>×37 P8 52×48×16 P9 (30)×38×31 P10 (80)×<48>×32 P11 44×<32>×71 P12 50×42×32 P13 54×48×56
H11	は-72~74	<340>	260	180	-	22	N-13°-E D36に切られる。P1~P3五平石の柱。P1 80×62×85 P2 <70>×72×73 P3 (56)×74×99 P4 74×64×52 P5 柱礎30φ×20φ 78×52×55 P6 <16>×<10>×8 P7 44×38×26 P8 26×<14>×5
H12	は-ひ-69-70	-	<130>	-	<640>	45	N-16°-E P3とP6外へ傾斜。P1 54×36×87.5 P2 76×43×38 P3 56×20×37 P4 70×60×24 P5 28×22×64 P6 24×22×57 P7 16×16×30
H13	ひ-69	<410>	-	<190>	-	50	N-13°-E P153に切られる。H16を切る。P1 柱礎18φ 32×46×39
H14	ひ-67-68	<190>	<60>	-	(240)	-	N-35°-W F2に切られる。P1 柱礎24φ 40×36×40 P2 柱礎20φ 42×42×73 P3 柱礎24φ 32×24×24
H15	ひ-71-72	-	(126)	-	380	22	(N-27°-W) D36に切られる。
H16	ひ-68	<70>	-	(250)	-	50	N-4°-W P1 54×30×9 P2 36×28×18 P3 22×18×13 P4 <70>×<26>×19 P5 <26>×<12>×33
H17	お-67	<24>	<20>	276	-	26	N-7°-W H20を切る。
H18	ひ-あ-64~66	<360>	<314>	-	-	25	N-10°-W H19-H20-D37を切る。P1 32×30×6 P2 32×28×16 P3 <22>×30×8 P4 28×24×16 P5 32×30×34 P6 90×70×31
H19	ひ-あ-64~66	<150>	<294>	440	-	23	N-19°-W H20を切り。H18-D37に切られる。P1 (38)×44×7 P2 36×(24)×40 P3 20×20×30 P4 16×16×36 P5 (60)×68×23 P6 (80)×120×24
H20	ひ-あ-64~67	<300>	<270>	<180>	<90>	62	N-10°-W H17-H18-H19-D37に切られる。P1 <16>×<10>×<22> P2 <44>×<50>×46 P3 74×24×84 P4 40×20×62 P5 <70>×<30>×<41> P6 24×22×16 P7 28×26×11 P8 20×18×11 P9 52×34×27 P10 28×24×15 P11 22×20×15 P12 34×36×10 P13 42×<30>×19
H21	ひ-63-64	<72>	<130>	(344)	-	34	N-9°-W H24に切られる。H22-P161-P162を切る。P1 34×30×55 P2 50×<32>×33 P3 24×16×38 P4 22×12×35
H22	ひ-あ-62~64	(168)	(186)	-	(56)	32	N-13°-W H18-H21-H24-P161~P164-P167に切られる。P1 66×60×70 P2 64×(54)×83 P3 (84)×70×28 P4 (84)×70×28
H23	ひ-あ-58~60	<344>	<202>	-	486	29	N-13°-W H25-H27-H32-F4を切り。P159に切られる。P1 70×60×4 P2 70×54×10 P3 104×<44>×33
H24	あ-63	-	(140)	(160)	-	60	- H21を切る。壁溝8~18。深10~14 P1 40×30×21 P2 40×30×31 P3 18×(10)×20
H25	ひ-あ-60-61	<290>	<230>	-	310	40	N-83°-E H23に切られる。H31-F4を切る。北西隅にベッド状遺構。床面に施込み2ヶ所あり。P1 26×20×43
H26	あ-63	(16)	(110)	-	150	31	-
H27	ひ-あ-58-59	(360)	(188)	-	-	42	W (即2ヶ所)
H28	ひ-あ-56-57	-	<220>	-	<492>	32	N-18°-E H29-M11に切られる。P1 54×<44>×65 P2 48×<32>×8 P3 60×34×55

竪穴住居址・竪穴状遺構一覧表(2)

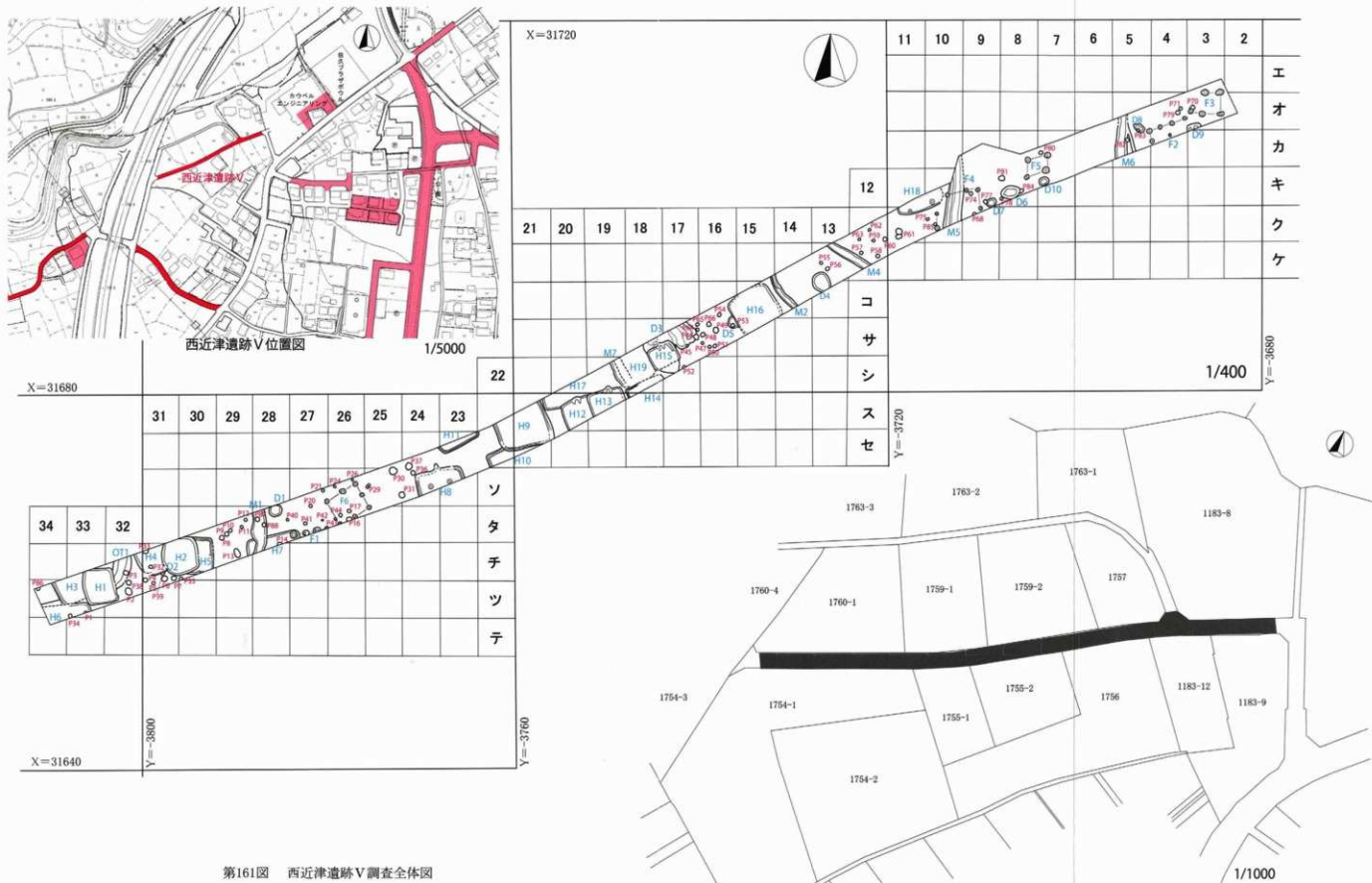
(残存部) <横出部> (cm)

遺構名	横出位置	平 面 形				主軸方位 (長軸方位)	備 考	
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長			
H29	D-55~57	<100>	-	-	<820>	N-8°-W	F3-P165に切られ、H26を切る。P1 28×14×24 P2 34×20×30 P3 50×24×36 P4 46×24×50 P5 50×42×24 P6 24×18×28 P7 18×(8)×35 P8 28×<12>×32 P9 <14>×18×13 P10 16×10×22 P11 20×16×18	
H30	D-54~56	-	<200>	(344)	-	60	N-20°-W	H35-F3-M11に切られる。壁溝10~16㎝。梁3~5㎝ P1 84×36×76 柱礎28×20 P2 46×20×57 P3 54×44×31 P4 22×20×20 P5 20×18×18
H31	D-56-60~62	<320>	-	<950>	-	47	N-18°-E (伊 埋設炉)	H23+H25+H33-F4-P195に切られる。H32とは不明。P1 <58>×54×
H32	D-58~60	-	(80)	(406)	-	32	N-18°-W	H23-F4-P159-P195H32-Fに切られ、H27を切る。H31とは? P1 30×28×64柱礎16 P2 30×28×64木梁敷14 P3 66×36×58 P4 36×26×25 P5 26×20×34 P6 20×18×24 P7 50×34×31
H33	D-62	<102>	-	-	-	32	-	H21+H22に切られ、H31を切る。
H34	D-51~53	<380>	<366>	-	-	59	N-13°-W カマド北壁中央	H39を切る。P1 <86>×74×63柱礎20 P2 <40>×70×46 P3 90×58×52 P4 36×24×28
H35	D-53-54	-	<376>	-	-	77	N-8°-W	H38+H39-F3-M12に切られる。通行・前行220 P1 50×48×44 P2 82×(48)×48 P3 80×52×79 P4 70×66×72 P5 60×34×55 P6 46×36×43 P7 52×<36>×25
H36	D-48-49	<190>	<130>	-	550		N-25°-W	H37-M13-D55に切られる。前行230 P1 38×18×7柱礎五平状 P2 40×22×91柱礎五平状
H37	D-48-49	214	(214)	220	202	33	N-9°-W (カマド北壁中央)	H36-D56を切る。
H38	D-53-54	-	<50>	<340>	-	48	N-14°-W	H35を切り、M12に切られる。
H39	D-52-53	<160>	<340>	-	<380>		N-6°-E 伊(埋設炉)跡部	H34に切られ、H35を切る。梁行160前行350壁溝10 P1 <42>×62×74 P2 64×60×60 P3 94×50×67 P4 36×14×56
H40	D-54-55	<20>	<74>	-	280	50	N	H29-M12-P165に切られる。
H41	D-46-47	<286>	<360>	-	<264>	49	N-15°-W (北壁に焼土)	H42を切る。壁溝4~12深さ P1 76×62×66 P2 48×42×22
H42	D-45-46	<352>	<332>	-	-	55	N-30°-W (北壁中央カマド)	H41に切られ、H47を切る。梁行300前行300P1 <48>×42×89 P2 64×56×70 P3 70×50×82 P4 76×<56>×75
H43	4-4 み-43-44	<180>	(100)	460	-	17	N-60°-E (カマド壁中央)	D57に切られる。北壁下10cm程度の焼土地層。壁溝2~8cm
H44	み-40-41	<70>	<36>	250	-	47	N	P1 24×24×15 P2 28×24×13
H45	み-39-40	<150>	<96>	-	(300)		N-16°-W	H51を切る。壁溝12~16㎝。前行260埋設炉(P1)。P1 50×40×79 P2 <48>×<26>×43 P3 <70>×64×82
H46	み-37-38	<184>	<262>	238	-	51	カマド北壁 N-18°-W	P5-P185に切られる。P1 20×14×14
H47	ま-45	<270>	-	(96)	-		N-27°-W	H42に切られる。
H48	み-36-37	<144>	<226>	(230)	-	39	N-22°-W	M14を切る。P1 25×21×32 P2 <30>×28×15
H49	み-34 本址と西近津 遺H20は同一 住居址	<194>	<112>	-	268	31	カマド北壁 N-7°-W	H50を切る。
H50	み-34-35	<330>	<330>	<86>	-	64	カマド北壁 N-17°-W	H49に切られる。壁溝5~13。前行340。P1 柱礎20 40×30×47 P2 柱礎20 40×38×48 P3 66×52×45
H51	み-39-40	(40)	<60>	-	<180>	59	(南北軸) N-33°-W	H45に切られる。P1 柱礎五平状 40×24×69
H52	む-32-33 本址と西近津 遺H18同一住 居址	-	<60>	-	<320>	57	N-23°-W	M15に切られ、H26を切る。 主柱穴西近津遺跡H18に2個。前行200
Ta1	た-5-17-18	<80>	<60>	-	560	35		凹凸差しい。まわりのP189-P190-P191-P19-P87も関係ありそう。深さ46-14-17-27-24 P1 34×22×28 P2 30×28×17 P3 60×40×46 P4 60×30×40 P5 30×22×20 P6 56×<22>×27 P7 40×36×26 P8 40×40×32 P9 36×32×26 P10 58×34×19 P11 30×<20>×12

第93表 ビット計測表

(残存値) <換出値> (cm)

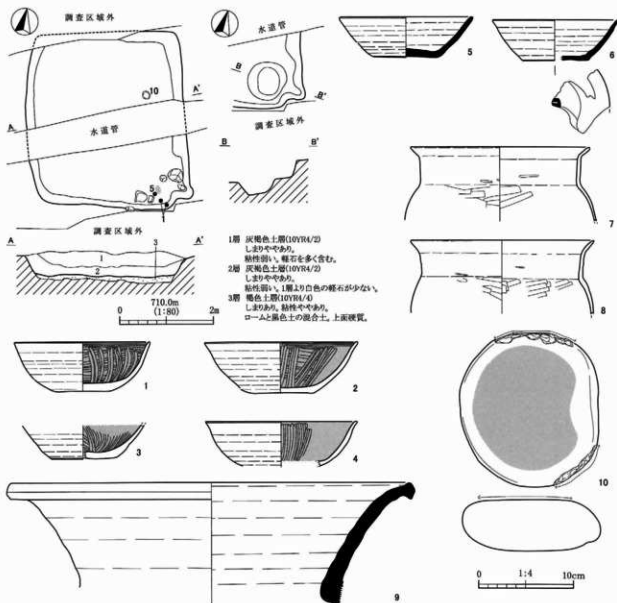
No.	終出値	換出値	備考	No.	終出値	換出値	備考
1	07	35x34	10WR3/1-10WR2/3	100	1020	34x11	
2	07	36x11	10WR3/3	101	0621	67x24	
3	07	38x17	10WR3/1	102	0611	20x303	
4	07	<42x34>	10WR3/3	103	1020	54x35	
5	07	48x18	テラスあり、P6を切り、10WR3/1	104	0621	<41x32.5>	テラスあり。
6	07	<44x17>	テラスあり、P7を切り、P5Cを切り、10WR3/1	105	0621	63x135	
7	07	<48x32>	テラスあり、P6を切り、10WR3/1	106	0620	44x23	
8	06	<34x14>	10WR3/1	107	1020	<38x22.5>	
9	101-2	46x16.5	10WR2/1-10WR2/2-10WR6/6	108	0621	31x8	
10	04	66x36	1組壁・天井、	109	1020	48x21	
11	04	28x9		110	1020	37x15.5	
12	03	43x49	テラスあり、	111	0620-21	28x16	
13	03	62x21		112	0621	32x23.5	
14	03	35x17		113	0621	44x48	
15	03	31x20.5		114	0620	<44x16>	
16	03	<44x18>		115	0621	<104x36>	テラスあり、10WR2/3
17	03	34x11.5		116	0622	(89x16)	10WR2/3
18	02	40x46	P4を切り、10WR2/3-10WR3/3-10WR3/1	117	0622	68x17	10WR2/3
20	06	<46x47>	テラスあり、M3000のり/方木等、	118	0622	<56x38.5>	10WR2/1
21	011	88x43	10WR3/3-10WR4/3	119	0622	<71x13.5>	10WR2/2
22	011	48x26.5	10WR2/2-10WR3/2-10WR3/4	120	022	36x35	10WR2/1
23	013	48x18.5	10WR2/2-10WR3/2-10WR3/4	121	01-22	31x17	10WR2/2
24	011	42x13	10WR2/2	122	021	51x43	10WR2/2
25	011	78x74	備 考 ? 10WR4/2-10WR4/3-10WR3/2-10WR2/2-	123	021	<46x39.5>	テラスあり、10WR2/2
26	014	26x18	10WR4/4-10WR4/4	124	022	50x27.5	10WR2/1
27	015	25x11	10WR3/1-10WR2/2-10WR4/3	125	022	53x19	10WR2/1
28	015	48x13	10WR3/1	126	022	<46x16>	10WR2/1
29	015	34x12	10WR3/1	128	022	60x34	10WR2/2
30	014	<44x35>	O1Cに切り、10WR3/1-10WR3/3-10WR4/3	129	023	50x40.5	テラスあり、10WR2/2
31	014	<107x24>	M/Cに切り、10WR3/1	130	022	30x11	10WR2/2
32	013	<72x7.5>	O1Cに切り、10WR3/1	131	02-23	96x32.5	石、10WR2/3
33	013	<88x32>	M/Cに切り、10WR3/1	132	023	41x36	10WR3/3
34	012	<34x7.5>	M/Cに切り、(?)	133	023	46x27.5	10WR3/3
35	016	<63x32>		134	023	73x28	10WR3/3
36	016	47x22		135	023	43x31	10WR2/2
37	016	54x43		136	022	34x43	10WR2/2
38	016	52x48	横文組網張、P194を切り、	137	023	60x35.5	10WR2/2
39	016	45x34.5		138	023	<50x29.5>	10WR2/2
40	017	82x22	縦文組、テラスあり、	139	023	34x15	10WR3/1
41	017	41x36	O1Cを切り、	140	024	46x23	10WR3/1
42	017	34x14	O1Cを切り、	141	024	<83x24>	10WR3/1
43	017	64x20		142	024	55x12	10WR3/1
44	017	<74x19>		143	024	73x26	打錠工、10WR3/1
45	017	<58x7.5>	縦文組、	144	02-25	<52x22>	10WR3/1
46	017	54x41	P13を切り、	145	025	64x37	10WR3/1
47	017	47x26		146	024	<44x32>	O22を切り、
48	017	46x24		147	025	<74x50>	10WR2/2
49	019	<62x26>		148	027	<47x44.5>	H7を切り、
50	019	49x17	縦文組	149	026	44x27	
51	019	104x29	縦文組・テラスあり、	150	028	42x7.5	O22を切り、
52	019	66x27		151	028	43x25	壁より埋め、テラスあり、
53	019	48x18		152	024	72x30	
54	018	<73x44>	M/Cに切り、	153	069	91x43	管等1組、壁、テラスあり、H13を埋め、10WR2/2-10WR4/3-10WR7/6
55	018	40x22	縦文組、	154	067	70x83	1組壁・天井、10WR3/1-10WR5/4-10WR2/3
56	019	40x39	子断り工、	155	068	<83x52>	10WR3/1-10WR5/4
57	019	20x39	子断り、壁の切替、P15に切り、	156	068	56x36	H16を切り、10WR3/1-10WR6/6
58	019	51x26	テラスあり、P5/7を切り、	157	070	20x41.5	
59	019	52x31.5		158	070	<54x55>	
60	019	<56x7.5>	P65を切り、	159	060	69x34.5	テラスあり、H23を埋め、10WR3/1-10WR5/4-10WR2/3-10WR4/3-10WR4/3
62	018	84x30.5		160	057	<71x27.5>	テラスあり、D400に切り、10WR3/3-10WR2/1
63	018	79x8		161	064	<52x26.5>	H25を切り、H21Cに切り、10WR4/4-10WR6/6
64	018	51x13.5		162	064	<41x31>	H22を切り、H21Cに切り、10WR3/4
65	019	<42x23>	P6Cに切り、	163	064	44x18.5	P164を切り、壁、
66	018	47x19.5	縦文組、	164	064	<48x28.5>	P163に切り、
67	019	27x6		165	055	48x20.5	
68	018	82x18		166	054	76x30	H22を切り、
69	C18-19	<44x28>	テラスあり、	168	054	111x65	テラスあり、壁、10WR3/4
70	C19	41x22		169	054	58x66	10WR5/4
71	C19	57x35	テラスあり、	170	054	62x46	10WR3/1
72	C19	28x16		171	044	58x33.5	H15を切り、
73	C19	<64x16>	壁、	172	038	<56x44>	縦文組・天井、
74	C19	58x45		173	037	76x47	F5P2へ変更、テラスあり、P185Cに切り、10WR3/2-10WR4/2-10WR4/3-10WR6/4
75	C19	<72x21>	P76に切り、テラスあり、	174	037	<52x53>	10WR3/2-10WR4/3-10WR6/4
76	C19	34x11	P75に切り、	175	037	43x26	F5P1へ変更、10WR3/2-10WR6/4
77	C19	48x15		176	037	<57x46>	テラスあり、10WR3/2-10WR3/1-10WR4/3-10WR6/4
78	019	61x31		177	038	60x26	F5P6へ変更、壁、10WR3/1-10WR6/4
79	020	55x27	縦文組、	178	038	59x18	F5P1へ変更、10WR3/2-10WR6/4
80	020	82x22.5	縦文組、	179	038	<59x14>	10WR3/2-10WR6/4
81	020	61x30	縦文組、	180	038	<80x27>	10WR3/2-10WR6/4
82	020	34x14		181	039	46x14	F5P6へ変更、10WR3/2-10WR6/4
83	020	<30x12>		182	038	<34x20>	F5P6へ変更、10WR3/2-10WR6/4
85	020	106x74	テラスあり、	183	037	51x25	10WR3/2-10WR6/4
86	020	99x31	テラスあり、	184	037	48x37	10WR3/2-10WR6/4
88	020	55x27		185	037	<52x34>	H46とP17を埋め、10WR5/6
89	020	65x42	テラスあり、	186	032	48x20	M15Cに切り、10WR1/1横断スプロック設置、
90	020	64x14.5	O15を切り、	187	032	46x38	M15Cに切り、テラスあり、10WR3/1横断スプロック設置、
91	020	78x83	テラスあり、	188	018	68x39	M/Cに切り、
92	020	96x57	縦文組、テラスあり、	189	018	30x17	
93	020	<52x33>	P94を切り、	190	018	36x25	縦断天井、Ta1に設置するものか?
94	020	<63x24>	P93-P95に切り、	191	018	38x17	
95	020	<84x26>	縦文組、P94を切り、テラスあり、	192	018	<60x80>	P18Cに切り、
96	017	47x47		193	017	80x31	P46Cに切り、テラスあり、
97	020	38x14		194	016	46x39	P36Cに切り、
98	020	52x26					
99	020	50x10.5					



第161図 西近津遺跡V調査全体図

第IV章 西近津遺跡V

第1節 竪穴住居址



第162図 H1号住居址及び出土遺物

第94表 H1号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形状	寸法			成形・調整・文様		推定産地・所産地	備考	出土位置
			口径(径)	底径(径)	器高(深)	内面	外面			
1	土師器	杯	(14.4)	(5.5)	5.2	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→切り離し方法不明 ヘラクスリ	産地不明	同転実測	No.5、No.6、Ⅱ区
2	土師器	杯	(16.2)	6.7	5.3	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→同転実切り	同転実測	同転実測	Ⅰ区
3	土師器	杯	-	6.7	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→同転実切り	同転実測	同転実測	Ⅰ区
4	土師器	杯	(8.1)	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	同転実測	同転実測	Ⅱ区、Ⅱ区東リ方
5	須恵器	杯	(14.1)	7.1	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→同転実切り	同転実測	同転実測	No.3
6	須恵器	杯	(13.2)	(7.1)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→糸切り	同転実測	同転実測	Ⅰ区
7	土師器	武蔵壺	(9.5)	-	-	横ナデ	ヘラクスリ	同転実測	同転実測	Ⅰ区、一括
8	土師器	武蔵壺	(9.7)	-	-	横ナデ	ヘラクスリ	同転実測	同転実測	Ⅰ区
9	須恵器	(23.8)	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	同転実測	同転実測	Ⅰ区、Ⅱ区、一括
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大深	重量	片	片		出土位置
10	土師器	土	16.1	14.6	5.4	2170.00	上下端部に転行痕	正逆にすり面		

(1) H1号住居址

チ・ツ-32・33Grにあり、H3・OT1を切る。カマドは東壁南隅にあり、礫を芯材とし粘質土で被覆し構築されたとみられる。柱穴等は検出されない。床は僅か凹凸があるが堅く硬化している。第162図1と5が、カマド付近床面から出土した。

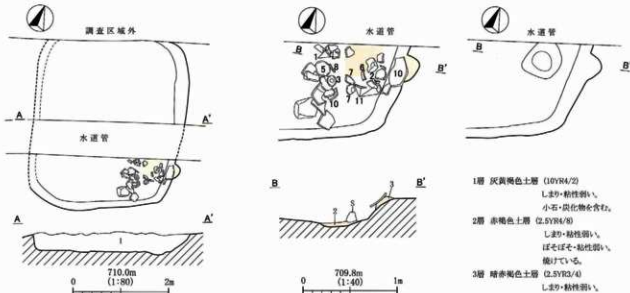
遺物は土師器環1~4、土師器甕7・8、須恵器環5・6、須恵器甕9、磨面持て敵石10が出土した。土師器環1~4は、内面黒色処理される。土師器環2・3、須恵器環5・6の底部は回転糸切り。土師器環1は底部外周回転ヘラケズリされる。須恵器環6は、墨書がみえる。7・8は土師器武蔵甕で、「コ」字口縁部を持ち、胴部に最大径がある。

本址は、これらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。

(2) H2号住居址

タ-30、チ-30・31Grにあり、H4・H5を切る。カマドは東壁南隅にあり、礫を芯材とし構築されたとみられる。支脚石が残る火床と煙道の一部が残存するのみである。礫が火床付近に散在する。柱穴等は検出されない。床は平坦で堅く硬化している。第164図1~8・10・11が、カマド火床や火床前面の床面から集中して出土した。

遺物は土師器環1・2、土師器高台皿3、土師器蓋4、土師器甕8・9、須恵器環5~7、須恵器甕

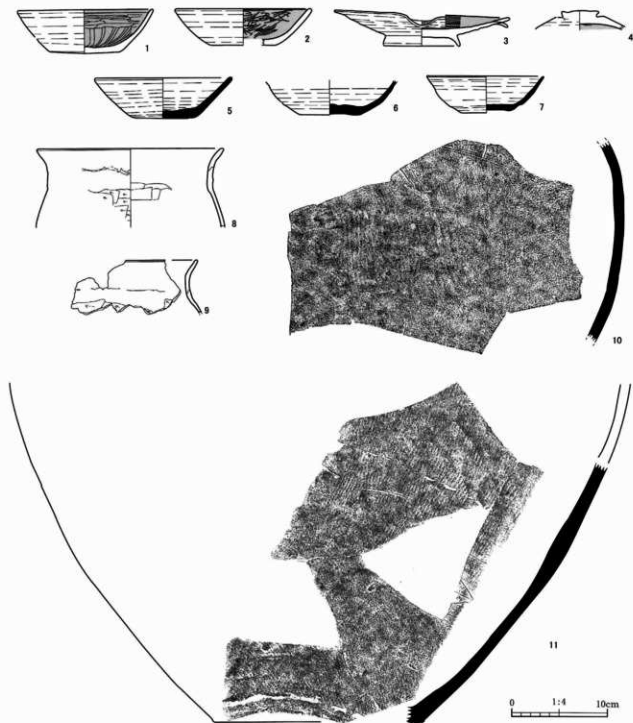


第163図 H2号住居址(1)

第95表 H2号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			内面	成形・調整・文様		測定値() 推定値< > 凡成・出土位置
			口径(径)	底径(径)	高さ(厚)		外面	備考	
1	土師器	環	14.2	7.3	4.6	ミガキ→黒色処理	口コナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区、No.10
2	土師器	環	14.5	7.0	3.8	ミガキ→黒色処理	口コナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転実測	No.6
3	土師器	高台皿	18.4	7.9	3.7	ミガキ→黒色処理	口コナデ→底部静止糸切り+付高台口縁部輪花	完全実測	Ⅱ区、No.3
4	土師器	蓋	-	-	-	ミガキ→黒色処理	口コナデ→天井部右回転ヘラケズリ	完全実測	カマド
5	須恵器	環	14.6	6.6	4.25	口コナデ	口コナデ→底部右回転糸切り	完全実測	No.2
6	須恵器	環	-	6.4	<3.6>	口コナデ	口コナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅱ区、No.12
7	須恵器	環	12.4	5.2	3.9	口コナデ	口コナデ→底部右回転糸切り	完全実測	Ⅰ区、Ⅱ区、No.1
8	土師器	武蔵甕	19.8	-	-	口縁コナデ→胴部ヘラナデ	口縁コナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	No.11
9	土師器	甕	-	-	-	口縁コナデ→胴部ヘラナデ	口縁コナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区
10	須恵器	甕	-	(22.4)	<36.0>	ナデ	タタキ目	回転実測	No.4、No.7、Ⅱ区、一筋
11	須恵器	甕	-	-	-	-	-	断面実測	No.7

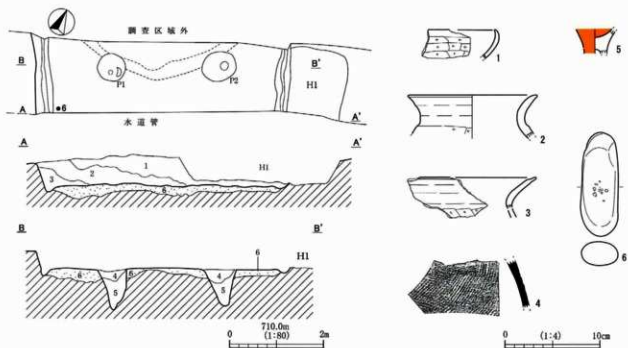


第164図 H2号住居址(2)

10・11が出土した。

土師器1～4は内面黒色処理される。3は片口を有する。土師器坏1と須恵器坏5～7の底部は回転糸切り、土師器坏2は底部手持ちへラケズリされる。8・9は土師器武蔵甕で、「コ」字口縁部を持ち胴部に最大径がある。

本址は、これらの遺物から小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。



- 1層 黒褐色土層(10YR3/2)しまりややあり、粘性弱い、黄色の軽石を多量に含む。 4層 黒褐色土層(10YR3/1)しまり・粘性弱い、軽石を含む。
 2層 暗褐色土層(10YR3/3)しまり・粘性強い、小石を多量に含む。 5層 黄褐色土層(10YR3/8)しまりややあり、粘性強い、黒色土とローム土の混合土。
 3層 暗褐色土層(10YR3/4)しまり・粘性強い、黄色ロームブロックを多量に含む。 6層 暗褐色土層(10YR3/4)しまり・粘性ややあり、黒色土とローム土の混合土。上部硬質化。

第165図 H3号住居址

第96表 H3号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量		成形・調整・文様			備考	規定値()保存値<>丸底・出土位置	
			口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面			出土地
1	土師器	杯	-	-	<3.1>	ナデ	ヘラケズリ	破片実測	1区	
2	土師器	甕 (13.6)	-	-	<4.6>	口縁ヨコナデ	口縁クロコナデ 胴部ヘラケズリ	図輪実測	1区	
3	土師器	甕	-	-	<4.2>	ナデ	口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ	破片実測	1区	
4	須恵器	甕	-	-	-	-	タタキ目	断面実測	1区	
5	弥生	高坏	-	-	<2.6>	坪部ヘラミガキ→赤彩 胴部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	1区	
6	器・軽石?	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	表面	裏面	出土位置	
			11.0	4.1	2.5	176.07	被熱あり? (正副炭化)全体に滑らか	すりか?	正副中央は縁打痕	

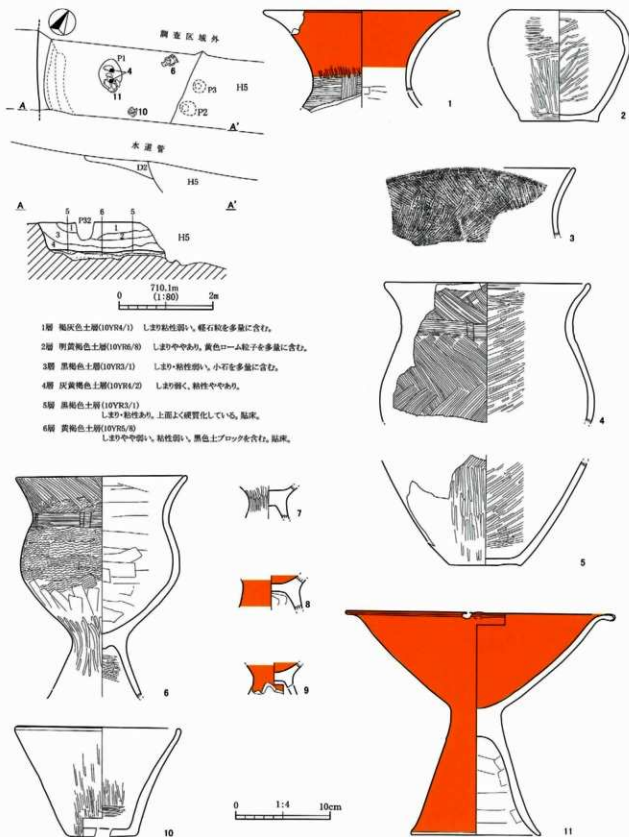
(3) H3号住居址

チ-33、ツ-33・34 Grにあり、H1に切られ、OT1を切る。カマドは調査範囲内にはみられない。床は平坦で堅く硬質化している。主柱穴P1・P2間は、240cmを測る。東壁・西壁下に壁溝が巡る。遺物は土師器環1、土師器甕2・3、須恵器甕4、敲石であろう6、混入遺物である弥生時代後期の赤彩される高坏が覆土中から出土した。本址の時期は、遺物少量で判然としませんが、1の半球状の土師器環、「く」の字口縁の土師器甕3から8世紀初頭であろうか。

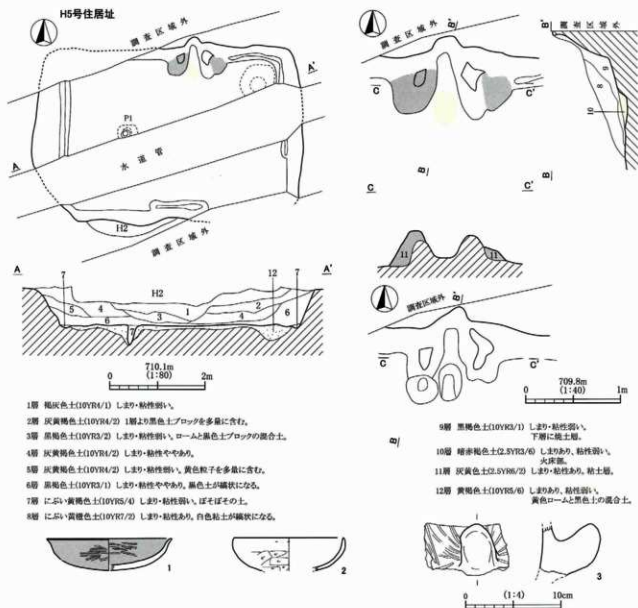
(4) H4号住居址

チ-31・32 Grにあり、H2・P32・P33に切られる。D2砦の重複関係は、不明である。が址は調査範囲内にはみられない。柱穴は3個検出された。P1はテラスを持ち、79cmを測る深さである。床は平坦でよく硬質化している。遺物は、壺1・2、甕3～5、台付甕6・7、高坏8・9・11、甕10の弥生土器、覆土からシカの白歯片が出土した。4はP1、1はP2、6・10は床面から出土した。1の壺は赤色塗彩され、頸部櫛描T字文が施される。2は無彩の無頸壺である。4の甕は、口縁部横位羽状の櫛描斜走文、頸部櫛描波状文、胴部横位羽状の櫛描斜走文の順で施文される。6の台付甕は、胴部櫛描波状文、頸部櫛描状文、最後に口縁部櫛描斜走文が施される。6は口縁部屈曲し鈎状に開く高坏で、内外面赤色塗彩される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第166図 H4号住居址及び出土遺物



第167図 H5号住居址及び出土遺物

第97表 H5号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 量		内 容	外 容	推定座(埋存態)<>丸底・ 備考	(cm)
			口徑(度)	底径(度)				
1	土師器	杯	(13.0)	-	<3> ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	完全実測	Ⅱ区
2	土師器	杯	(11.6)	-	<3> ヨコナジ	ヘラケズリ	図帳実測	Ⅰ区
3	土師器	甌			ヘラミガキ	ヘラミガキ	鏡片実測	Ⅰ区

(5) H5号住居址

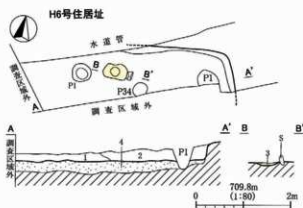
タ・チ-30Grにあり、H2に切れ、D2を切る。カマドは北壁や東寄りにあり、袖部地山削り出して、灰黄色の粘土で構築されている。袖部先端の小ピットは、礎を芯材としたことを窺わせる。径18cmの柱痕が確認されたP1の位置と、主軸が短い事から2本の主柱であろう。床は平坦である。壁溝がカマド東脇から東壁中央にかけてと南壁中央付近、西壁下にみられる。覆土1~6層は、人為埋土である。

遺物は、土師器杯1・2、土師器甌の把手片が図示できた。1は内外面黒色処理され、半球状で口縁部が短く外反する。本址の時期は、遺物少量で判然としませんが、古墳時代後期7世紀代であろうか。

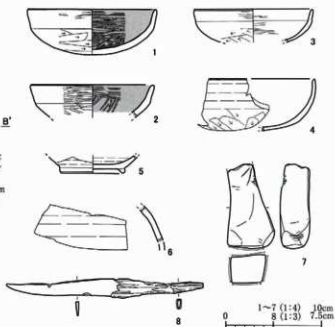
第98表 H4号住居址出土土物観察表

(cm)

No.	種別	図種	法量			成形・装飾・文様		推定値()残存寸く>丸底・	備考	出土位置
			口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面			
1	弥生	釜	(20.4)	-	<10.3>	口縁部ヘラミガキ→赤彩	胴部ナデ	口縁部ヘラミガキ→赤彩	完全実測	P2
2	弥生	釜	(10.3)	8.1	11.8	ヘラミガキ		ヘラミガキ 底部ヘラミガキ	完全実測	No.4
3	弥生	甕	-	-	-			壱部斜走文	断面実測	I区
4	弥生	甕	(21.4)	-	<14.8>	ヘラミガキ		壱部壱部横波状文 口縁、胴部壱部斜走文	断面実測	No.4, No.5
5	弥生	甕?	-	7.6	<11.1>	ヘラミガキ		壱部斜走文? 下部ヘラミガキ 底部ヘラミガキ	完全実測	No.4, No.5
6	弥生	台付鍋	17.9	-	23.5	胴部ヘラミガキ	胴部ナデ	口縁部壱部横波状文→壱部斜走文 胴部壱部横波状文 壱部壱部横波状文 下部ヘラミガキ→ヘラミガキ	完全実測	No.3
7	弥生	台付鍋	-	-	<3.5>	胴部ヘラミガキ	胴部ナデ	ヘラミガキ	完全実測	I区
8	弥生	高坏	-	-	<3.6>	胴部ヘラミガキ→赤彩	胴部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	H4
9	弥生	高坏	-	-	<3.3>	胴部ヘラミガキ→赤彩	胴部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	I区
10	弥生	甕	17.0	7.2	11.7	ヘラミガキ		ヘラミガキ	完全実測	1孔 No.2, I区
11	弥生	高坏	28.2	13.6	23.8	胴部ヘラミガキ→赤彩	胴部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	No.1, I区



- 1層 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性强い、ローム粒子を多量に含む。
 2層 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性强い、大粒の粘土土塊土ブロックを含む。
 3層 赤褐色土(2.5YR4/0) しまり・粘性强い、橙色の粘土でよく糊けている。
 4層 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、粘性强い、黒色土・黄色土ブロックの混合土。土壌腐質化している。

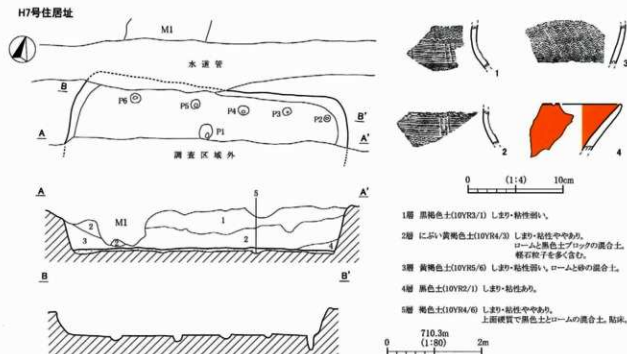


第168図 H6号住居址及び出土土物

第99表 H6号住居址出土土物観察表

(cm)

No.	種別	図種	法量			成形・装飾・文様		推定値()残存寸く>丸底・	備考	出土位置	
			口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面				
1	土師器	坏	(13.6)	(13.0)	4.8	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラミガキ→ヘラミガキ	断面実測		
2	土師器	坏	(13.0)	(12.2)	<3.5>	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラミガキ	断面実測		
3	土師器	坏	(12.4)	(12.2)	<3.5>	ヘラミガキ		ヘラミガキ→ヘラミガキ	断面実測		
4	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ		口縁部ナデ→ヘラミガキ	断面実測		
5	灰胎陶器	甕	-	7.8	<1.8>	口縁部ナデ		口縁部ナデ→底部切り離し後両台貼付→灰胎陶器	完全実測		
6	灰胎陶器	甕	-	-	-	口縁部ナデ		口縁部ナデ→灰胎陶器	断面実測		
No.	部	種	材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所		見	出土位置
7	磁石			<9.0>	<5.0>	<3.0>	<184.14>	上部欠損、磁面割5、右側の縁上と下部に欠損			
8	刀子		金鋼鉄	15.5	1.5	0.6	<15.84>	ほぼ円形、基部に木質残る			P1



第169図 H7号住居址及び出土遺物

第100表 H7号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 質 量 ・ 文 様		測定値(埋存層< >丸径・)	
			口径(径)	底径(径)	器高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛掻波状文、櫛掻平状文	新面実測・拓本	
2	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛掻波状文、櫛掻平状文	新面実測・拓本	
3	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	櫛掻波状文	新面実測・拓本	
4	弥生	高坏	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実測	

(6) H6号住居址

ツ-33・34、テ-34Grにあり、P1・P34に切られ、OT1を切る。埋め込まれた礫がある焼土の堆積がP1の東脇から検出された。この付近の覆土には、粘土と焼土ブロックがみられカマドの火床であろう。床は平坦で強く硬質化している。覆土土1・2層は人為埋土である。8の刀子はP1から出土。

遺物は土師器環1～4、砥石7、茎部に木質が残存する刀子8、混入遺物の灰陶陶器碗5・壺6がある。1～3は須恵器环蓋模倣环で、1・2は内面黒色処理される。4の环は、丸みを帯びた平底から口縁部が直立する。

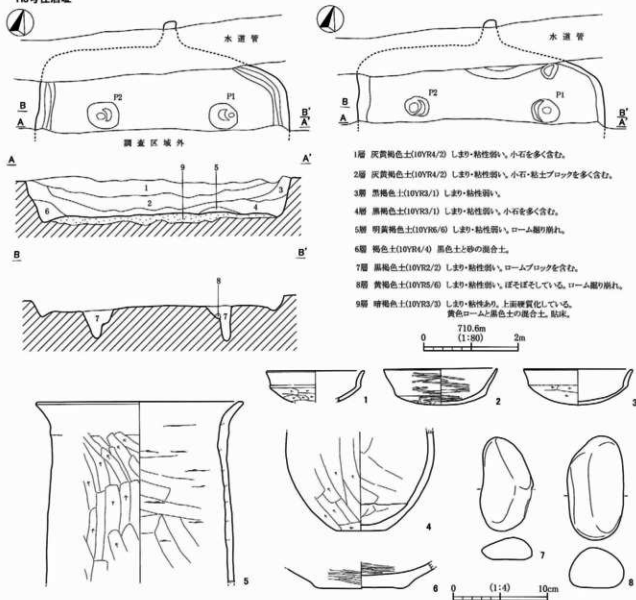
これらの遺物から本址の時期は、古墳時代後期7世紀代であろう。

(7) H7号住居址

タ-27～29、チ-28・29Grにあり、F1・M1・P14に切られる。炉は調査範囲には、検出されない。ピットは6個検出された。壁柱穴P2～P6は、北壁下に配列されている。径は16～34cmのほぼ円形で、深さは4.5～28cmを測る。楕円形で深さ55cmのP1は、位置的に棟持柱であろう。床面は、平坦で強く硬質化している。覆土2層はロームと黒色土ブロックの混合土、3層はロームと砂の混合土で人為埋土である。遺物は、1～3の甕、内外面赤色塗彩される4の高坏がある。1・2は、口縁部・胴部櫛掻波状文、頸部に櫛掻波状文が施される。2は櫛掻波状文施文後頸部櫛波状文が施文される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

H8号住居址



- 1層 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い、小石を多く含む。
- 2層 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い、小石・粘土ブロックを多く含む。
- 3層 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性弱い。
- 4層 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性弱い、小石を多く含む。
- 5層 明黄褐色土(10YR6/6) しまり・粘性弱い、ローム層の崩れ。
- 6層 褐色土(10YR4/4) 黒色土と砂の混合土。
- 7層 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性弱い、ロームブロックを含む。
- 8層 黄褐色土(10YR5/6) しまり・粘性弱い、ぼそぼそしている。ローム層の崩れ。
- 9層 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性あり、上面硬質化している。黄色ロームと黒色土の混合土。粘土。

第170図 H8号住居址及び出土遺物

第101表 H8号住居址出土遺物観察表

(cm)

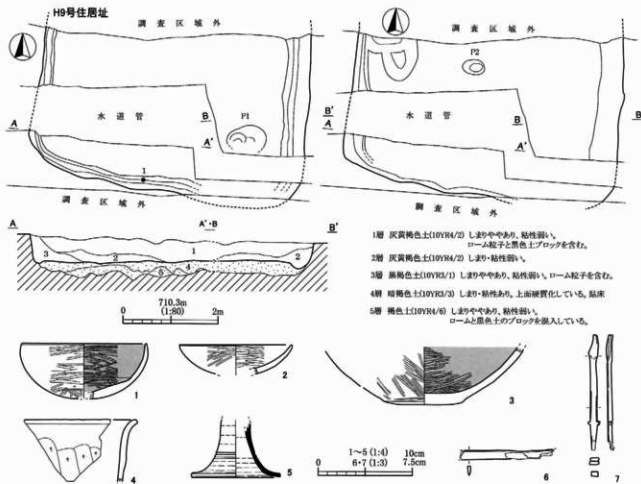
No.	種別	形種	法量			成形・調整・文様		指定量()残存量<>丸底・	備考	出土位置
			口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面			
1	土師器	環	(10.4)	(9.6)	<3.3>	ナデ	ヘラケズリ、口縁ヨコナデ	回転実測		
2	土師器	環	(12.0)	(9.4)	3.3	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測		
3	土師器	環	(11.4)	(10.4)	3.8	ナデ	ヘラケズリ、口縁ヨコナデ	回転実測		
4	土師器	環	-	(5.4)	<10.6>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測		
5	土師器	環	(22.0)	-	<19.1>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測		P1
6	弥生	環	-	9.9	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測		P1
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見			出土位置
7	編み物石		9.9	5.7	2.5	199.73	右側に摩滅した刻痕あり。挟りか?			
8	編み物石		11.0	5.9	4.3	409.01				

(8) H 8 号住居址

ソ-23・24 Gr にあり、カマドは北壁中央に煙道部の一部が残存する。床はほぼ平坦で堅く硬化している。いずれもテラスを持つ主柱穴 P 1・P 2 間は、280cm を測る。北壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器環 1～3、土師器甕 4・5、編み物石 7・8、混入遺物である弥生時代後期の甕がある。5・6 は、P 1 から出土。1～3 は須恵器環蓋模倣の環で、体部と口縁部の境に稜を有する。5 は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縦長にヘラケズリされる。

これらの遺物から本址の時期は、古墳時代後期 7 世紀代に位置づけられる。



- 1層 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりややあり、粘性弱い、ローム粒子和黒色土ブロックを含む。
- 2層 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。
- 3層 黒褐色土(10YR3/1) しまりややあり、粘性弱い、ローム粒子和含む。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性あり、上面硬化している。粘床
- 5層 褐色土(10YR4/6) しまりややあり、粘性弱い、ロームと黒色土のブロックを混入している。

第171図 H 9 号住居址及び出土遺物

第102表 H 9 号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調査・文様		備考	推定値() 残存値 < 丸底・
			口径(径)	底径(径)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	環	(13.0)	-	<4.8>	ヘラミガキ→黒色鉛筆	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	No1 H10掘り方
2	土師器	環	(12.0)	-	<3.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
3	土師器	鉢	-	8.4	<6.0>	ヘラミガキ→黒色鉛筆	ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区
4	土師器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区掘り方
5	須恵器	高環	-	(9.4)	<6.0>	口口ロナデ	口口ロナデ	回転実測	Ⅱ区
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見	出土位置	
6	刀子	鉄製品	<7.3>	<0.7>	<0.3>	<4.39	同破欠損	掘り方 Ⅱ区	
7	長形鏡	鉄製品	<9.0>	0.9	0.4	<7.86>	鏡身部分が折れ曲がる、下部欠損、棒状脚	掘り方 Ⅱ区	

(9) H9号住居址

ス・セ-21・22Grにあり、H10を切る。カマドは調査範囲では確認されない。床はほぼ平坦で堅く硬質化している。P1は深さ59cmで位置的にも主柱穴であろう。P2は、掘方から検出された。南壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器環1・2、土師器鉢3、土師器甕4、須恵器高坏5、刀子6、長頸鎌7がある。4・6・7は掘方から出土。1・2とも半球状の坏で、1は内面黒色処理される。3の大型の鉢の内面黒色処理される。4は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縦長にヘラケズリされる。

これらから、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

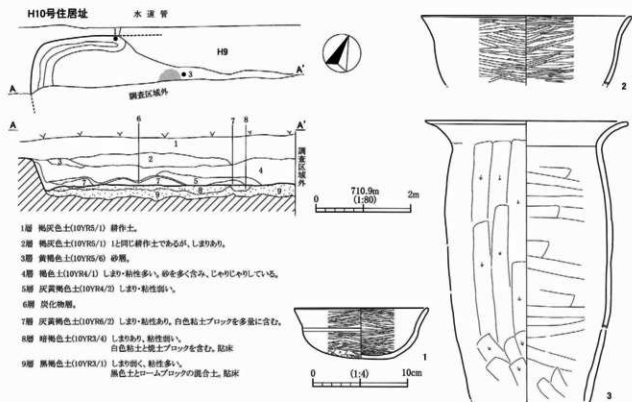
(10) H10号住居址

セ-21・22Grにあり、H9に切られる。カマドおよびピットは、調査範囲では確認されない。が、覆土7層に多量の白色粘土が含まれ、第172図3が出土した地点床面にまとまった白色粘土がみえ、北壁にカマドが存在したと想定できる。床はほぼ平坦で堅く硬質化している。覆土7層の上部中央から西にかけて炭化物の堆積がみられた。南壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器環1、土師器鉢2、土師器甕3がある。1は壁溝内、3は床面から出土。

1・2とも内面黒色処理される。1は須恵器環蓋模倣の坏で、体部と口縁部の境に稜を有する。3は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縦長にヘラケズリされる。

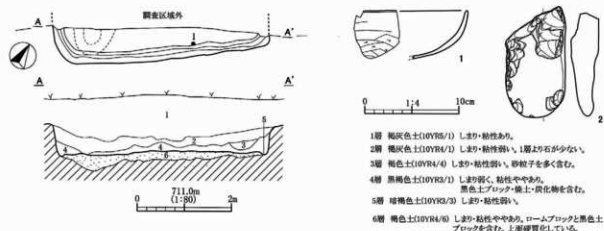
これらの遺物から、古墳時代後期7世紀代に位置づけられる。



第172図 H10号住居址及び出土遺物

第103表 H10号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 装 飾 ・ 文 様		想定値()既存値 >丸部・	
			口径(横)	底径(横)	器高(厚)	内 面	外 面		備 考
1	土師器	環	14.2	12.3	5.4	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ・ヘラミガキ	完全実測	No1
2	土師器	鉢	(22.2)	-	<7.3>	ミガキ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	目録実測	H10
3	土師器	甕	21.2	-	<29.6>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2



第173図 H11号住居址及び出土遺物

第104表 H11号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定額(残存確率)・丸底・	
			口径(奥)	底径(奥)	器高(奥)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	-	-	-	ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラケズリ	破片実測	
No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	形見		出土位置
2	敲き石		11.8	6.4	3.0	286.46	内側から敲打、上部の欠損も敲打によるものか		

(11) H11号住居址

セ-23Grにあり、カマドおよびピットは、調査範囲では確認されない。掘方の埋土にはロームブロックと黒色土ブロックが含まれる。この上面の床は、ほぼ平坦で強く硬質化している。南壁・西壁下に壁溝が巡る。覆土4層には、黒色土ブロック・焼土・炭化物が含まれる。

遺物は土師器半球状の坏1、敲石2がある。

遺物少量であるが本址の時期は、古墳時代後期であろうか。

(12) H12号住居址

ス-20GrにありH13に切られ、H17を切る。北壁中央のカマドは、灰白色の粘土と暗褐色の砂質土で構築されている。袖部先端は礎を芯材としこれらの構築土で被覆している。火床に横たわる横長の礎は、カマド礎石であろうか。床下の掘方埋土は、黄色ローム・黒色土ブロックの混合土で、上面の床は強く硬質化している。ピットは、検出されない。

遺物は土師器坏1・2、土師器残3～6、須恵器短径甕7がある。1・3～5はカマドから出土。

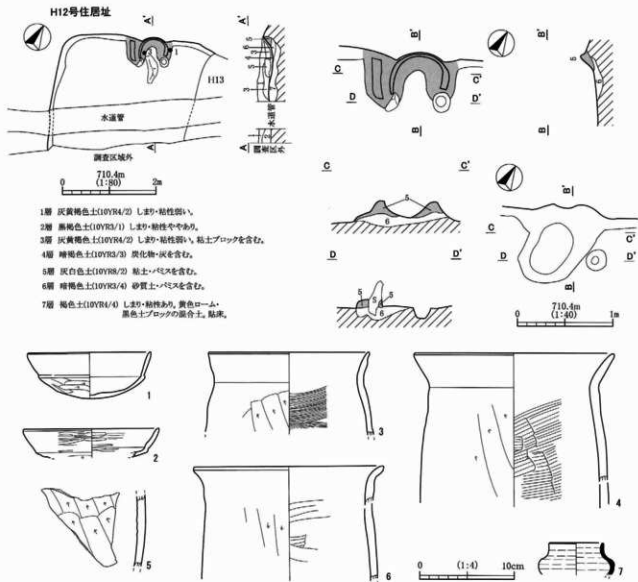
1・2は須恵器坏蓋模倣の坏で、体部と口縁部の境に段を有する。3・6は胴部に最大径を持ち、長い胴部外面は縦長にヘラケズリ、内面ハケメ調整される。

これらの遺物から本址の時期は、小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅲ期-6世紀中葉～7世紀初頭に位置づけられる。

第105表 H12号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定額(残存確率)・丸底・	
			口径(奥)	底径(奥)	器高(奥)	内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	(13.0)	(11.8)	4.9	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	完全実測	Ⅱ区 カクラン
2	土師器	坏	(12.4)	(11.8)	<3.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
3	土師器	甕	(17.0)	-	<8.6>	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
4	土師器	甕	(21.2)	-	<16.4>	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	カマド、Ⅱ区
5	土師器	甕	-	-	-	ハケメ	ヘラケズリ	破片実測	カマド
6	土師器	甕	(20.0)	-	<12.2>	ハケメ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区 H14
7	須恵器	甕	(5.6)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カクラン



第174図 H12号住居址及び出土遺物

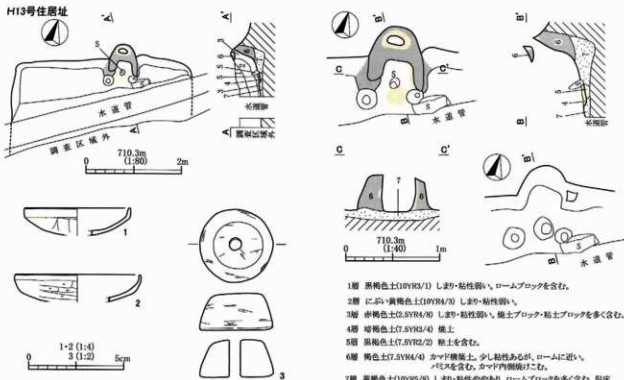
(13) H13号住居址

ス-20GrにありH13に切られ、H17を切る。北壁中央に設置されているカマドは、床下掘方の埋土7層の上面に少し粘性があるがロームに近い褐色土で構築されている。袖部先端の小ピットは、礫を芯材としたことを窺わせる。火床には、支脚石が残存する。斜上方に伸びる煙道部も一部原形を留めていた。煙道残存部の最上面は平面形が楕円形を呈し、長軸18cm短軸10cmを測る。煙道部の立ち上がりは、ほぼ垂直に近く壁の上端あたりで70度の傾斜で住居外上方に延びる。煙道部の内側・左右の袖部内側は、比熱がよく焼け込んでいる。火床にも焼け込みがみられる。

床下の掘方埋土は、ロームブロックを多く含む黄褐色土で、上面の床は堅く硬質化している。柱穴は、検出されていない。

遺物は土師器環1・2、滑石製の紡錘車がある。1は須恵器環身模倣環で、体部と口縁部に稜を有し口縁部が直立する。2は半球状で口縁部内湾する。

これらの遺物から本址の時期は、小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。



第175図 H13号住居址及び出土遺物

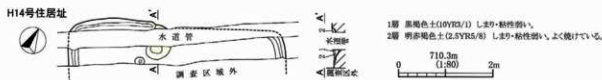
第106表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形状	法量		成形・調整・文様		推定値(1層の厚さ) > 丸皿・	備考	出土位置	
			口径(長)	底径(短)	内径(厚)	外径(厚)				内部
1	土師器	環	(11.2)	(11.0)	<2.9>	ナデ	クワコナデ	クワコナデ	回転実測	Ⅱ区
2	土師器	環	(13.2)	-	<2.9>	ナデ	クワコナデ	クワコナデ	回転実測	Ⅱ区
No.	種	質	材	最大径	最小径	最大厚	重量	所 見		出土位置
3	初級車	石製品		3.9	2.6	2	48.95	孔徑0.6		北面コーナー 覆土

(14) H14号住居址

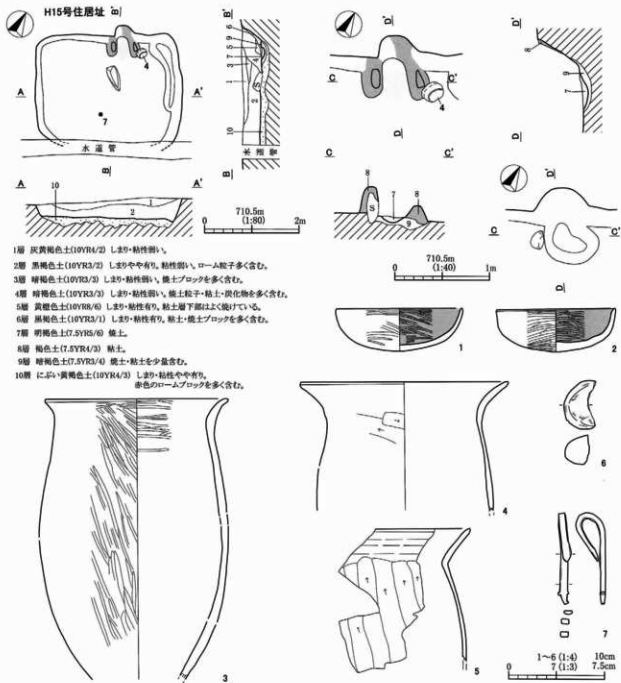
シ・ス-18Grにあ、H19を切る。北壁中央を通り東西に設置された水道管に、カマドの大半が破壊されている。北壁中央よりやや西寄りに床面から16cmの深さによく焼け込んだ部分があり、カマドの火床残存部とみられる。P1は柱穴としたら、カマドに近接しすぎである。北壁から西壁と東壁下を壁溝が巡る。床面はほぼ平坦である。本址の時期は、出土遺物が武蔵甕・須恵器坏小片のみであるが、H19を切っており古墳時代後期6世紀中葉から7世紀初頭以降の平安時代であろうか。



第176図 H14号住居址

(15) H15号住居址

サ・シ-17・18Grにあり、H19・D3を切る。北壁中央やや東寄りのカマドは、礫を芯材とし褐色の粘土で被覆し構築されている。カマド前方に横たわる横長の礫は、カマド廻石であろうか。火床はよく焼けている。覆土5層の粘土下部はよく焼けており、壊れたカマド構築土の一部とみられる。



- 1層 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり・粘性弱い。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや有り、粘性弱い、ローム粒子多く含む。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性弱い、粘土ブロックを多く含む。
- 4層 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性弱い、粘土粒子・粘土・炭化物を多く含む。
- 5層 黄褐色土(10YR8/6) しまり・粘性有り、粘土層下部はよく脆れている。
- 6層 黒褐色土(10YR3/1) しまり・粘性有り、粘土・粘土ブロックを多く含む。
- 7層 明褐色土(7.5YR5/6) 粘土。
- 8層 褐色土(7.5YR4/3) 粘土。
- 9層 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘土・粘土を少量含む。
- 10層 濃い黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性やや有り、赤色のロームブロックを多く含む。

第177図 H15号住居址及び出土遺物

第107表 H15号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	類別	形種	度量				成形・装束・文様		備考	出土位置
			口径(横)	底径(横)	底径(縦)	底径(深)	内面	外面		
1	土師器	杯	13.2	-	4.5	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区、一踏	
2	土師器	杯	12.4	-	4.6	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区	
3	土師器	甕	19.4	-	<29.7>	ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区	
4	土師器	甕	22.0	-	<13.7>	ナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	完全実測	No.1、カマド	
5	土師器	甕	-	-	-	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→ヘラケズリ	破片実測	Ⅰ区、Ⅱ区	
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置		
6	磨石	輝石	<5.1>	<3.4>	<3.0>	<26.54>	右側欠損 全体にすり	Ⅱ区ホリ方		
7	鉄線織	鉄製品	7.2	0.8	0.5	10.25	ほぼ完形 折り曲がる 線状開	No.3		

床下掘方埋土は赤色のロームブロック多く含み、上面がほぼ平坦な床である。ピットは検出されない。

4の甕はカマド右袖部先端から、7の鉄鏝は南壁よりの覆土2層から検出された。

遺物は、土師器環1・2、土師器甕3～5、磨石6、鉄鏝7がある。1は浅い半球状で口縁部が素直に開く。2は丸底から口縁部直立気味に立ち上がる。1・2は内面黒色処理される。3の甕は口縁部径と胴部径がほぼ等しく、外面ヘラミガキされる。4・5の甕は、口縁部に最大径を持つ。7は長頸有棘鏝身柳葉形造込両丸の鉄鏝で、先端近くから折れ曲がっている。

これらの遺物から本址の時期は、古墳時代後期7世紀終末に位置づけられる。

(16) H16号住居址

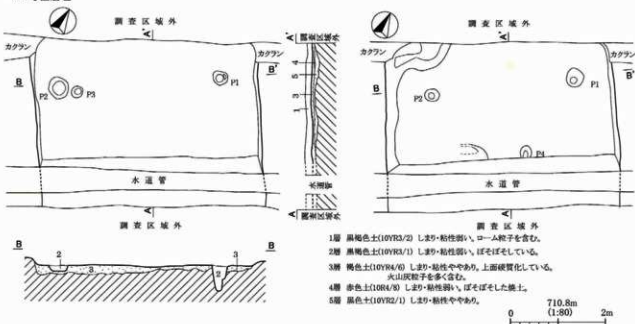
コ-14～16、サー-15・16GrにありD5を切る。住居址北と南側は調査区域外に伸びる。

カマド・炉は、調査範囲では確認されない。P1とP3の柱間中央3層の下掘方埋土上部に厚さ5cmほどのぼそぼそした焼土がみられた。

ピットは4個検出された。P4は床下から発見された。主柱穴P1とP3の柱間は、3mを測る。主柱穴P3西脇のP2は、支柱穴であろうか。3層上面の床は、ほぼ平坦で堅く硬質化している。

出土遺物は武蔵甕、須恵器環・甕、弥生後期壺・坏の小片のみであるが、平安時代であろうか。

H16号住居址



第178図 H16号住居址

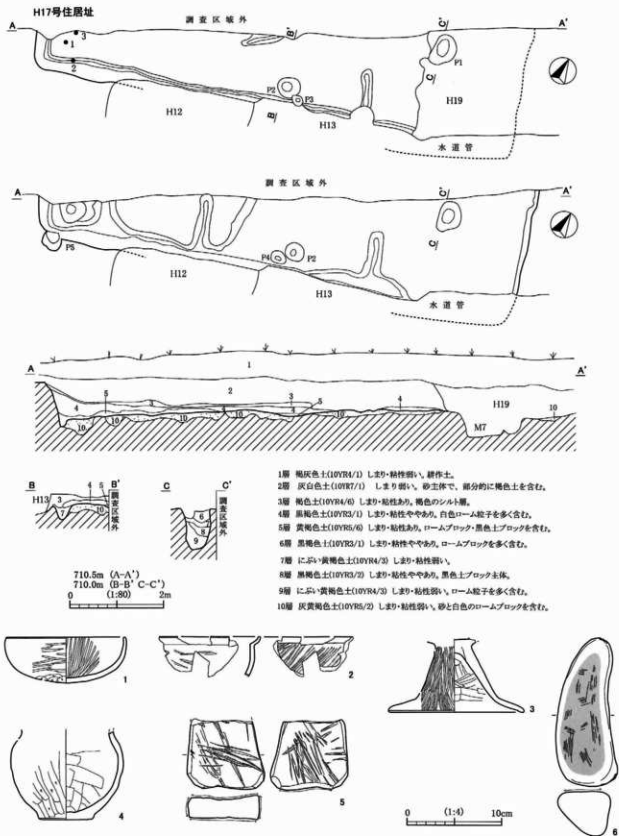
(17) H17号住居址

シ-19・20、ス-19～21Grにあり、H12・H13・H19・M17に切られる。住居址大半は、北側の調査区域外に延びる。ピットは4個検出された。P4は床下から発見された。P2～P4は、南壁中央下に位置し、入口施設の基礎であろうか。P1は主柱穴とみられる。南壁下から中央に向けて幅20cm深さ20cmの間仕切溝が延びている。P2の西側にもほぼ同様な溝が、床下から検出された。P2の北側には、東西方向の幅20cm深さ7cm前後の溝がある。床下の掘方埋土は、砂と白色のロームブロックを含み、上面がやや凹凸のある床である。1～3が南東隅の床面から出土。

遺物は土師器環1・2、土師器高坏3、土師器甕4、敲石5、磨面持った敲石6がある。

1は半球状で口縁部やや内湾する。2は内外面ミガキで体部内湾しながら立ち上がり、口縁部短く内湾しながら強く外反する。

本址はこれらの遺物から、古墳時代5世紀後半から6世紀初頭に位置づけられる。



第179図 H17号住居址及び出土遺物

第108表 H17号住居址出土遺物観察表

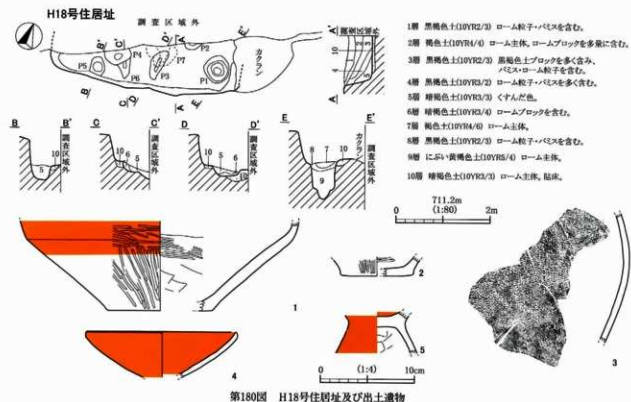
(cm)

No.	種別	形種	法量			成形・調整・文様		推定産地()埋存層<>丸盛・	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	埴	(12.6)	-	<4.9>	織文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅱ区、一添
2	土師器	埴	-	-	-	織文	ヘラミガキ	破片実測	No.1
3	土師器	高埴	-	(14.4)	<7.8>	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	No.3
4	土師器	罎	-	5.7	<9.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No.3

No.	器種	青灰	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
5	磁石		15.9	6.4	4.8	699.34	上下両部に敲打痕 正面に磨損なすり跡	Ⅱ区
6	磨・磁石		<7.6>	<8.2>	<3.0>	<274.06>	上部欠損 底部数5 正裏に糸痕磨痕	Ⅱ区

(18) H18号住居址

キ・ク-10・11Grにあり住居址大半は、北側の調査区域外に延びる。ピットは6個検出された。P1は、南壁下床下から発見された。底面近くに1周するテラスを有し、深さ88cmと深い。位置的に貯蔵穴であろうか。対のP3・P4は、南壁中央下に位置し、入口施設の基礎と思われる。P5・P6も対をなしている。P2は、配置場所から主柱穴とみられる。床面は平坦で堅く締まる。覆土2~5層は、人為埋土であろう。遺物は、1の外面胴部赤色塗彩される壺、3の櫛描波状文施文される甕、内外面赤色塗彩の鉢4、坏部内外面・脚部外面赤色塗彩の高埴がある。多くの遺物が東側覆土から出土。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

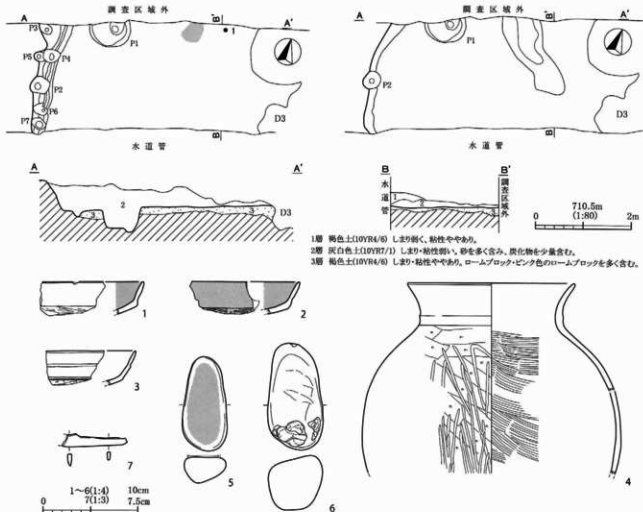


第180図 H18号住居址及び出土遺物

第109表 H18号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形種	法量			成形・調整・文様		推定産地()埋存層<>丸盛・	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
1	弥生	壺	-	(11.0)	<9.5>	ハケ目の残るナデ	ヘラミガキ 胴部赤彩	回転実測	E区
2	弥生	罎	-	(7.4)	<2.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	W
3	弥生	罎	-	-	-		櫛描波状文	断面実測	E区
4	弥生	鉢	(15.6)	-	<4.9>	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	E区
5	弥生	高埴	-	-	<4.4>	坏部ヘラミガキ→赤彩	胴部ナデ	完全実測	E区



第181図 H19号住居址及び出土遺物

第110表 H19号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	数量	流量			成形・調整・文様		推定値()検出個数 > 丸底・	備考	出土位置
			口縁(高)	高性(幅)	器高(厚)	内 蓋	外 蓋			
1	土師器 杯	-	-	-	<3.5>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ 底部ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	破片実測		
2	土師器 杯	-	-	-	<3.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ 底部ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	破片実測		
3	土師器 杯	-	-	-	<3.6>	ナデ→ヘラミガキ	口縁ヨコナデ 沈線? 底部ヘラケズリ	破片実測		Ⅱ区
4	土師器 壺	(17.6)	-	-	<20.1>	口縁ヨコナデ 胴部ハケ目	口縁ヨコナデ 胴部ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測		H15Ⅱ区、一括
5.	磨石	磨石	9.9	4.8	3.0	194.00	正面にすり面			
6.	磨石	磨石	11.3	5.8	5.4	506.63	正面に磨打痕			
7.	刀子	刀子	<5.2>	<1.0>	<0.3>	<4.24>	刃部欠損			

(19) H19号住居址

シ-18Grにあり住居址大半は、北側の調査区域外に延びる。H15・D3に切られ、H17・M7を切る。ピットは、7個検出された。P1は主柱穴、西壁・壁溝内に壁柱穴P2～P7がほぼ均等な間隔で並ぶ。P1東の床面に幅40cm厚さ40cmの粘土の塊がみられた。床面はほぼ平坦である。

遺物は、須恵器杯蓋模倣の体部と口縁部境に稜を有す土師器杯1～3、土師器壺、刀子7、磨石5、磨石6がある。本址の時期はこれらの遺物から古墳時代6世紀中葉から7世紀初頭に位置づけられる。

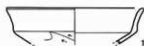
第2節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

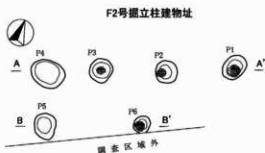


0 710.0m (1:80) 2m

- 1層 黒褐色土(10YR3/1) 土まじり・粘性强い。
2層 褐色土(10YR4/6) ローム・軽石ブロックを多く含む。
互層になり、硬め戻し土。



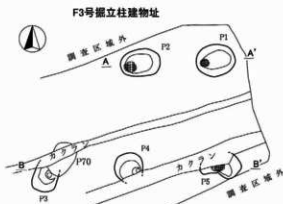
0 (1:4) 10cm



0 710.9m (1:80) 2m

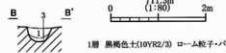
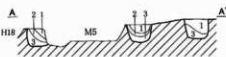
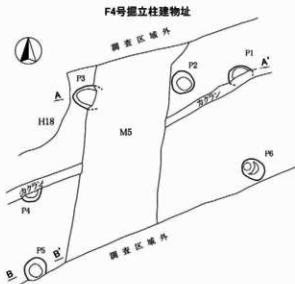
- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 柱底。
2層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。
3層 明黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。

柱底



0 711.8m (1:80) 2m

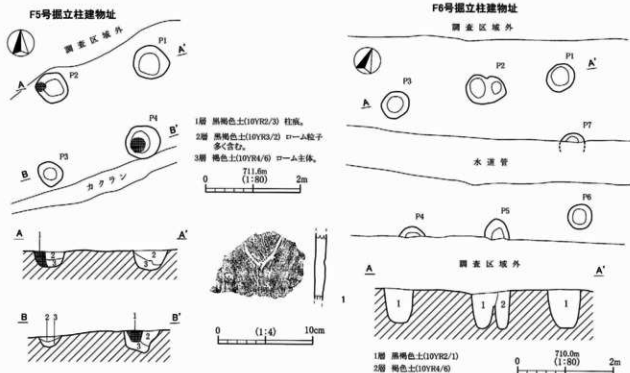
- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 柱底。
2層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック・バリス含む。
3層 褐色土(10YR4/6) ローム主体。
4層 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。



0 711.3m (1:80) 2m

- 1層 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子・バリス含む。
2層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
3層 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。

第182図 F1号・F2号・F3号・F4号掘立柱建物址



第183図 F5号・F6号掘立柱建物址及び出土遺物

第111表 掘立柱建物址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		測定値・保存値<>丸座・出土位置	
			口径(長)	底径(短)	深径(厚)	内径	外径	備考	
1	土師器	壺	(14.4)	(13.0)	<3.8>	ヨコナテ	ヨコナテヘラケズリ	図輪実測	F1P2
2	縄文	-	-	-	-			断面実測 拓本 加藤利E.M	F5P2

ター27Grから検出された。南側調査区域外に延び、側柱式建物址か総柱式建物址かは不明である。柱間120cm、柱穴は楕円形で長径68～92cm深さ47～63cm。出土遺物は、P2から1の須恵器環蓋模様の体部と口縁部境に稜を有す土師器環、P1から古墳時代後期の壺片、P2から弥生後期土器片・土師器内面黒色処理される土師器環片が出土、本址の時期は古墳時代後期遺構である。

(2) F2号掘立柱建物址

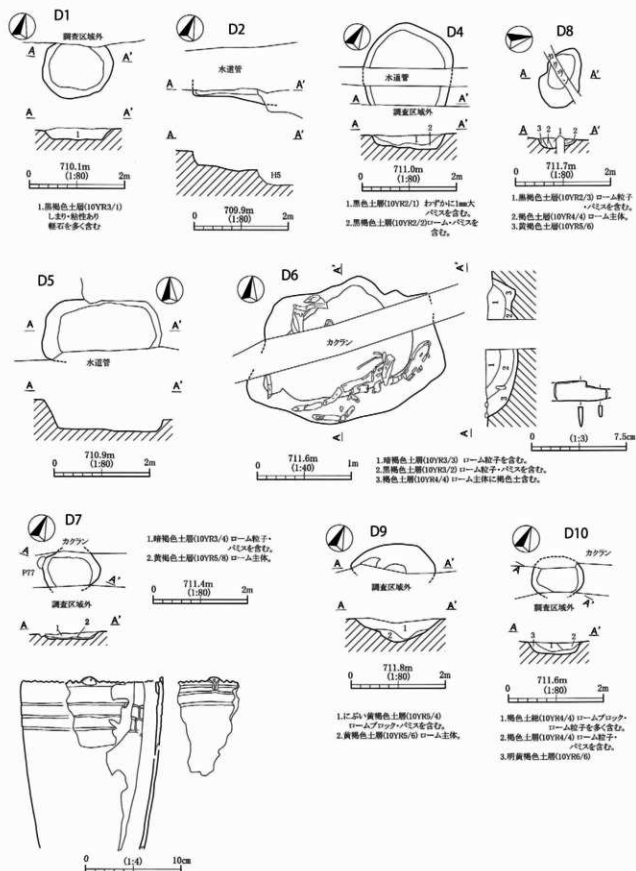
オカ-4Grから検出された。南側調査区域外に延びる3間×?の側柱式建物址。軸方位はN-70°-Eで、桁行柱間120～140cm梁行柱間120cm。柱穴は長径40～74cmの円形・楕円形で深さ28～55cm断面逆梯形、柱痕は20～26cm。遺物はP4から古墳後期の土師器環小片で、本址の時期は不明である。

(3) F3号掘立柱建物址

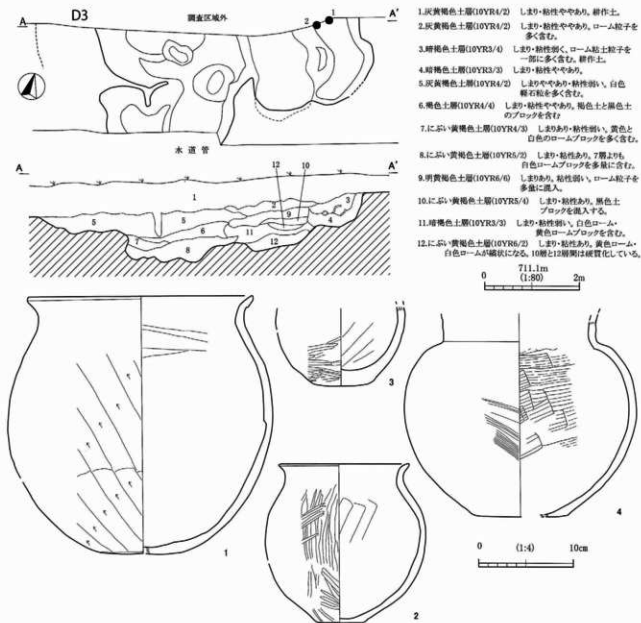
オ-3Grから検出され、1基が欠落か?2間×1間の側柱式建物址。軸方位はN-84°-EでP70に切られる。柱間は桁行160～180cm梁行220cm。柱穴は長径80～90cmの楕円形で深さ47～56cm断面逆梯形・U字形、柱痕は20～28cm。遺物はP5から古墳後期土師器壺小片があるが、本址の時期は不明。

(4) F4号掘立柱建物址

キク-9・10Grから検出され、M5に切られ、一部攪乱にかかる。3間×2間の側柱式建物址。軸方位はN-84°-Eで、桁行480cm梁行360cm、柱間は桁行120・200cm梁行160・200cm。柱穴は長径45～50cmの円形・楕円形で深さ32～49cm断面逆梯形・U字形。出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明。



第184図 D1号・D2号・D4号・D5号・D6号・D7号・D8号・D9号・10号土坑及び出土遺物

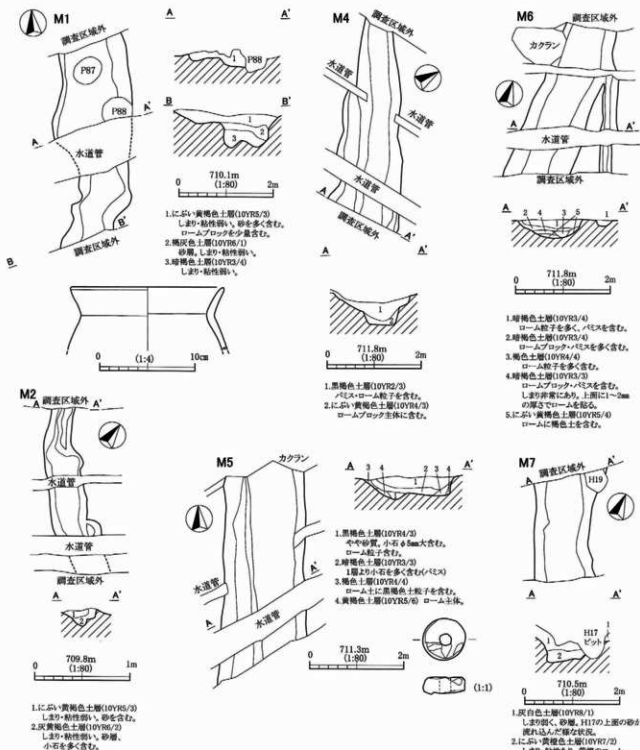


第185図 D3土坑及び出土遺物

第112表 土坑出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	図種	法量			成形・調整・文様		用定窯()埋存跡<>丸底・出土位置
			口径(横)	底径(横)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	壺	24.0	(8.4)	27.3	ヨコナデ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラクスリ	完全実測 D11
2	土師器	壺	13.6	(4.8)	16.9	ヘラナデ→ヨコナデ	ヘラクスリ→ヘラミガキ	完全実測 D11区ホリ方
3	土師器	壺	-	6.6	<8.3>	ヘラナデ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測 D1
4	土師器	壺	-	(10.0)	<21.5>	ハケ目	ハケ目 磨耗	自転実測 D11区
No.	図種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
1	刀子	鉄製品	<4.1>	<1.6>	<0.3>	<6.35>	肉縄欠損	D6
No.	種別	図種	法量			成形・調整・文様		用定窯()埋存跡<>丸底・出土位置
			口径(横)	底径(横)	器高(厚)	内面	外面	
1	縄文	深鉢	(15.0)	-	<18.5>			自転実測 加勢利田 D7

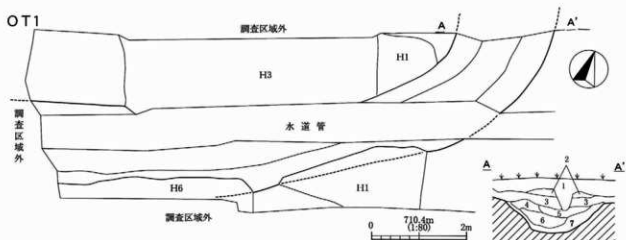


第186図 M1号・M2号・M3号・M4号・M5号・M6号・M7号溝状遺構及び出土遺物

第113表 溝址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	部材	材質		成形・調製・文様		測定値(残存寸)<丸径>		
			口徑(長)	底徑(短)	内面	外面	備考	出土位置	
1	土師器	壺	(16.0)	-	<6.7>	磨耗	磨耗	回転実測	M1
No.	部材	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 属	出土位置	
1	石製品	白玉	1.1	1.1	0.4	0.90	孔径0.3		M5



1. 褐色土層(10YR4/1)
2. 灰黄褐色土層(10YR7/2) 火山灰を含む砂層。
3. 黒褐色土層(10YR3/1) φ0.5mm大のノリス及び10YR2/2の黒褐色土を少量含む。
4. 黒褐色土層(10YR3/2) φ5mm大のノリスを微量含む。
5. 黒褐色土層(10YR2/2) 黒褐色土を少量含む。
6. 黒褐色土層(10YR2/3) φ1cm大ノリス・小石を少量含む。
7. 暗褐色土層(10YR3/4) 褐色ローム粒子・φ1cm大ノリスを含む。



第187図 OT1号墳及び出土遺物

第114表 OT1号周溝基出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	図種	法 量		成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		測定値()/保存値< >/内訳・	備 考	出土位置
			口径(度)	底径(度)	内 面	外 面			
1	土師器	坏	-	-	<3.4>	胎文	ナブ 底部ヘラケズJ	破片実測	II区
2	須恵器	甕	-	-	-	-	当て陶片	断面実測	I区
3	縄文	-	-	-	-	-	-	断面実測 堀之内	I区
No.	品 種	前 材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所 見		出土位置
4	白玉		0.5	0.5	<0.3>	<0.11>	表面欠損		I区

(5) F5号掘立柱建物址

カキ-7・8Grから検出された。1間×1間の菱形の変形側柱式建物址。軸方位は、N-75°-Eで、桁行220cm梁行180cm、柱穴は径50~70cmの円形で深さ21~45cm断面逆梯子形・U字形。柱痕は20・30cm。遺物は、P1から古墳後期土師器坏片、P2・P4から土師器甕片・縄文中期後半深鉢片出土したが、本址の時期は不明。

(6) F6号掘立柱建物址

ソ・タ-25~27Grから検出された。2間×2間の側柱式建物址。軸方位は、N-60°-Eで、桁行360cm梁行300cm、柱間は桁行180cm梁行160cm。柱穴は長径60~84cmの円形・楕円形で深さ30~41cm断面逆梯子形。遺物はP2から古墳後期土師器甕片、P6から弥生後期壺片出土したが、本址の時期は不明。

第3節 土坑

D1号土坑 タ-28Grで検出され、長軸長148cm検出短軸長116cm壁高は25cm長軸方位はN-78°-E。平面形円形、断面逆梯子形。縄文前期土器小片出土したが、時期は不明である。

D2号土坑 チ-31Grで検出され、H5に切られる。残存長軸長150cm検出短軸長28cm壁高33cmを測る。弥生後期鉢小片出土したが、時期は不明である。

D3号土坑 サ-シ-17・18Grで検出されH15に切れ、H19を切る。長軸長574cm検出短軸長228cm壁高89cm。粘土採掘場で幾度も掘り起こされ、平面形断面形とも不整形。1～4の土師器甕、角幹と第1尖が切断されている角器製作残滓の落角が出土した。本址の時期は、出土遺物と6世紀中葉～7世紀初頭のH19を切り、7世紀終末のH15に切られることから、7世紀中葉に位置づけられる。

D4号土坑 ケ-コ-13・14Grで検出された。長軸長190cm検出短軸長178cm壁高は19cm、長軸方位はN-30°-W。平面楕円形、断面逆梯形。弥生後期櫛描波状文甕・赤彩土器小片出土、時期は不明である。

D5号土坑 コ-サ-15・16Grで検出されH16・P53に切られる。長軸長242cm検出短軸長104cm壁高56cm長軸方位はN-83°-W。平面楕円形、断面逆梯形。弥生後期甕・武蔵甕小片出土、時期は不明である。

D6号土坑 キ-8Grで検出され、長軸長208cm短軸長148cm壁高28cm長軸方位はN-62°-E、平面楕円形、断面鍋底形。成獣で体高120～125cmの小型ウマ1個体分が、右上側臥姿勢の全身交連状態で出土した。解体されずに埋納されていた。土師器甕や須恵器坏・壺小片、刀子の破片が出土、時期は不明である。

D7号土坑 キ-ク-9Grで検出されP77に切られる。長軸長120cm検出短軸長74cm壁高は14cm長軸方位はN-48°-E。平面形楕円形、断面鍋底形。縄文時代後期加曾利B1式の深鉢出土。時期は縄文時代後期中葉であろう。

D8号土坑 オ-カ-5Grで検出され、P83に切られる。長軸長134cm短軸長78cm壁高10cm長軸方位はN-25°-W。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物なく、時期等不明である。

D9号土坑 オ-カ-3Grで検出され、長軸長176cm検出短軸長60cm壁高20cm長軸方位はN-62°-E。平面楕円形、断面テラス持つ逆U字形。出土遺物なく、時期等不明である。

D10号土坑 キ-7Grで検出され、長軸長108cm検出短軸長48cm壁高12cm長軸方位はN-85°-E。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物なく、時期等不明である。

表116表 西近津遺跡V竪穴住居址一覧表

(保存部)

第4節 溝状遺構

M1号溝状遺構

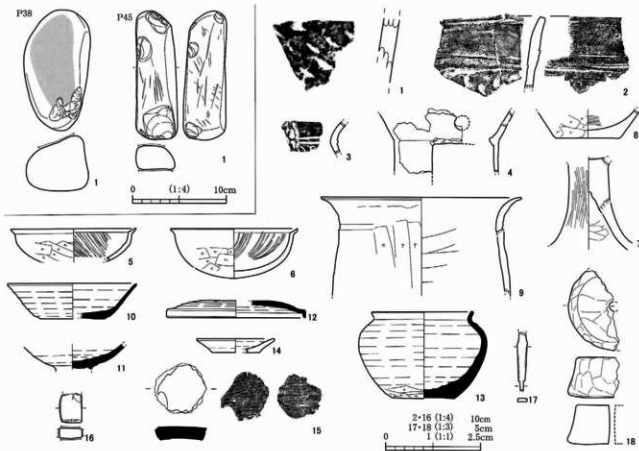
タ-チ-28GrにありP87・P88に切れ、H7を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。断面部分的にW字形。覆土に砂が多くみられ、北から南へ流下する河川跡。検出長4.12m、幅1.0～1.6m、深さ29～80cm、南北底面の比高差は20cmを測る。弥生後期壺、土師器甕出土したが、本址の時期は不明。

M2号溝状遺構

ケ-コ-14・15Grにあり、北側と南側が調査区域外に延びる。断面テラス持つU字形。覆土に砂・小礫多くみられ、地形の傾斜と逆に南から北へ流れる河川跡。検出長3.6m、幅0.44～0.8m、深さ29～80cm、南北底面の比高差は10cmを測る。弥生後期壺、土師器甕出土したが、本址の時期は不明である。

M3号溝状遺構

ク11～サ16Grにみられた現道路と畑地との境溝である。



第188図 ビット及び遺構外出土遺物

第115表 ビット・遺構外出土遺物観察表

(cm)

No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
1	磨・磁石		12.8	7.0	6.2	717.55	正面にすり面 下部部に敲打痕	P38	
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
14	磁石 転用 磁石		13.7	4.5	2.5	236.33	上下両部に敲打痕 正面に摩擦 磁石転用の磁石か	P45	
No.	種別	器種	諸量			成形・調整・文様		測定値()残存値< >丸底・	
			口径(径)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	縄文		-	-	-			断面実測	一括
2	縄文		-	-	-			断面実測	一括
3	縄文		-	-	-			断面実測	一括
4	弥生	器台	-	-	<6.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	遺 一括
5	土師器	杯	(13.2)	-	<3.5>	縄文	ヘラケズリ	回転実測	一括
6	土師器	杯	13.4	-	5.3	縄文	ヘラケズリ	完全実測	一括、OT1Ⅱ区
7	土師器	高杯	-	-	<9.7>	杯部ヘラミガキ→黒色処理 胴部ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	一括
8	土師器	盤	-	6.6	<3.1>	ハケ目	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	完全実測	一括
9	土師器	盤	(21.2)	-	<10.5>	ロクロコナデ 胴部ヘラナデ	ロクロコナデ 胴部ヘラケズリ	回転実測	一括
10	須恵器	杯	(13.6)	(6.8)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ→回転未切り	回転実測 内外面に火だき遺	一括
11	須恵器	碗?	-	-	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	一括
12	須恵器	蓋	(14.6)	-	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	回転実測	一括
13	須恵器	蓋	(10.4)	6.4	9.2	ロクロナデ	ロクロナデ→回転未切り	完全実測	一括
14	カワラナデ		(8.2)	(5.0)	1.5	ロクロナデ	ロクロナデ→回転未切り	完全実測	一括
15	土製品	土製円盤	5.2	5.5	1.4				一括
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
16	磁石		<3.1>	<2.3>	<1.1>	<14.49>	上部欠損 断面約5 正面に摩擦	一括	
17	短冊磁		<4.7>	<0.8>	<0.3>	<4.41>	縁部欠損 角磨	一括 ケン	
18	土製品	紡錘車	最大径(7.0)	最小径(5.5)	<3.1>	(0.80)	調整 ヘラケズリ→ナデ 約1/2残存	一括	

第116表 西近津遺跡V 竪穴住居址一覧表

(保存係) <検出係> (cm)

遺構名	検出位置	平面形				基軸方位 (基軸方位)	遺構方位 (基軸方位)	備考 (竪穴範囲・遺構・時期等)
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長			
H1	チ-ツ32-33	<118>	<200>	<349>	<317>	35	N-9°-W カマド東壁側	H3-OT1を切る。
H2	タ-30 チ-30-31	<24>	276	<340>	<320>	25	N-79°-E	
H3	チ-33 ツ-33-34	-	-	<148>	<170>	40	N-27°-W	H1に切られ、OT1を切る。壁溝あり。P160×56×83 P272×64×78
H4	チ-31-32	-	-	-	<168>	50	N-27°-W	H2-P32-P33に切られる。P164×46×79 P234×32×60 P327×24×32
H5	タ-チ30	<268>	<260>	<316>	<256>	75	N カマド北壁中央 やや東	H2に切られ、D2を切る。P140×<24>×33
H6	ツ-33-34 チ-34	<196>	-	<66>	-	45	N-10°-W カマド北壁中央	P1-P34に切られ、OT1を切る。P140×40×20
H7	タ-27-28 29チ-28-29	<240>	-	<94>	<144>	58	N-14°-W	F1-M1-P14に切られる。P134×24×55 P216×16×28 P320×16×26 P424×20×4.5 P520×20×6 P622×20×6
H8	ソ-23-24	<82>	-	<100>	<100>	28	N-18°-W カマド北壁中央	P162×54×75 P264×54×65
H9	ス-セ21-22	-	<152>	<172>	<132>	49	N-3°-E	H10を切る。P184×(60)×59 P248×32×22
H10	セ-21-22	(178)	-	-	<124>	32	N-22°-W	
H11	セ-23	-	424	<15>	<84>	31	N-29°-W	壁溝あり。
H12	ス-20	<320>	-	-	<236>	30	N-20°-W カマド北壁東寄り	H13に切られ、H17を切る。
H13	ス-19	<362>	-	-	<186>	50	N-19°-W	H12-H17を切る。
H14	シ-18 ス-18	予定436	<460>	<44>	<86>	13	N-28°-W	P120×<15>×19
H15	サ-シ-17-18	282	-	<206>	<186>	46	N-31°-W カマド北壁中央	H19-D3を切る。
H16	コ-14-15-16 サ-15-16	-	-	<308>	<320>	21	N-37°-W	D5を切る。P123×22×56 P267×42×13 P316×16×47 P4<24>×22×17
H17	シ-19-20 ス-19-20-21	-	<516>	-	<70>	65	N-15°-W	H12-H13-H19に切られる。P168×44×46 P248×44×29 P326×20×22 P434×26×13 P542×40×43
H18	キ-ウ-10-11	-	<376>	-	<38>	60	N-15°-W	P158×56×88 P2<34>×<14>×21 P368×28×23 P456×<28>×31 P5<36>×32×28 P6<80>×24×18
H19	シ-18	-	-	-	<236>	26	-	H15-D3に切られ、H17-M7を切る。P188×<54>×57 P244×40×37 P322×22×24 P440×30×35 P526×20×17 P632×26×48 P732×24×42

第117表 西近津遺跡V 土坑計測表

(保存係) <検出係> (cm)

遺構名	検出位置	平面形	基軸方位	基軸長 (東西壁)	基軸長 (南北壁)	基軸	備考 (遺構関係・出土遺物)
D1	タ-28	円形	N-78°-E	148	<116>	25	縄文前期
D2	チ-31	?	-	(150)	<28>	33	H5に切られる。弥生後期跡。
D3	サ-シ-17-18	不整形	-	574	<228>	89	H15に切られ、H19を切る。土師器・シカの豚骨。
D4	ケ-コ-13-14	楕円形	N-30°-W	190	<178>	19	弥生後、弥生前期分。
D5	コ-サ-15-16	楕円形	N-83°-E	242	<104>	56	H16-P53に切られる。弥生後、武蔵淵。
D6	キ-8	楕円形	N-62°-E	208	148	28	遺物層跡・土師器。ウシ骨付分。
D7	キ-ク-9	楕円形	N-48°-E	120	<74>	14	H77に切られる。縄文前期跡。
D8	オ-カ-5	楕円形	N-63°-W	134	78	10	H63に切られる。
D9	オ-カ-3	楕円形	N-62°-E	176	<60>	20	
D10	キ-7	楕円形	N-85°-E	108	(48)	12	

M4号溝状遺構

ケ-12-13Grにあり、北西と南東側が調査区域外に延びる。検出長3.94m、幅0.64~1.6m、深さ37~64cmを測る。断面形は部分的にテラス持つ逆梯子形。底面平坦で比高差、流水の痕跡ない。弥生後期壺・甕、須恵器甕、灰釉瓶小片出土したが、本址の時期は不明である。

M5号溝状遺構

カケ-10Grにあり、F4を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。東側に幅広いテラスを持つ、断面逆梯子形。検出長4.4m、幅1.68~1.84m、深さ43~47cmを測る。南北底面の比高差はない。土師器甕、須恵器甕、灰釉瓶小片、ウマの下顎臼歯2点・足根骨1点、ウマまたはウシの椎骨破片1点、種同定困難なほ乳類の小片3点が出土した。本址の時期は不明である。

第118表 西近津遺跡Vピット計測表

(保存館) <検出量> (cm)

遺構名	検出位置	奥長	短長	深さ	形状	備考	遺構名	検出位置	奥長	短長	深さ	形状	備考	
P1	ツ-33	44	<30>	15	不明	にじり黒褐色土(10YR4/3)軽石を多く含む。H6を切る。縄文中期-前期。古墳礎片。	P47	ウ-16	29	26	15	円形	褐色土(10YR4/1)。土師器高坏片。	
P2	ツ-32	80	72	37	楕円形		P48	ウ-16	56	48	20	円形	褐色土(10YR4/1)	
P3	チ-32	52	46	52	楕円形	灰黄褐色土(10YR5/2)。OT1を切る。土師器片。	P49	ウ-16	68	57	34	円形	褐色土(10YR4/1)	
P4	チツ-31	64	58	41	円形	黒褐色土(10YR3/1)。土師器片。古墳礎片。	P50	ウ-16	-	42	29	不明	褐色土(10YR4/1)。土師器片。	
P5	ツ-31	34	30	9	円形	黒褐色土(10YR3/1)。	P51	ウ-16	41	37	30	円形	褐色土(10YR4/1)	
P6	チツ-31	82	60	41	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)。古墳坏片。弥生土層片。	P52	ウ-16	18	(12)	25	不明	褐色土(10YR4/1)	
P7	チツ-31	62	58	26	円形	黒褐色土(10YR3/1)軽石多い。	P53	ウ-16	70	58	44	楕円形	褐色土(10YR4/1)。D5を切る。土師器片。弥生土層片。	
P8	タ-29	70	60	18	円形	灰黄褐色土(10YR5/2)。土師器片。	P54	コ-16	42	39	18	円形	褐色土(10YR4/1)	
P9	タ-29	54	50	53	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P55	ケ-13	19	18	14	円形	1.黒褐色土(10YR2/3) 2.黒褐色土(10YR3/4) ロームブロックを含む。	
P10	タ-29	48	46	24	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P56	ケ-13	53	46	23	楕円形	黒褐色土(10YR2/3)	
P11	タ-29	48	40	15	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P57	ケ-12	34	31	36	円形	1.黒褐色土(10YR2/2) 2.黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。	
P12	タ-29	44	38	25	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P58	ケ-12	48	(47)	22	円形	黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子を含む。弥生土層片。	
P13	チ-29	104	60	31	不整形	黒褐色土(10YR3/1)	P59	ク-12	30	<22>	38	不明	1.黒褐色土(10YR2/2) 2.黒褐色土(10YR2/3) 弥生土層片。	
P14	タ-28	44	<14>	44	不明	黒褐色土(10YR3/1)。H7を切る。	P60	ク-12	50	45	28	楕円形	弥生土層片。	
P15	F6P4に変更						黒褐色土(10YR3/1)	P61	ク-11	129	65	43	不整形	弥生土層片。
P16	タ-26	72	<32>	26	不明	黒褐色土(10YR3/1)	P62	ク-12	40	32	22	不整形	黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。	
P17	タ-26 (52)	44	13	円形	褐色土(10YR4/1)		P63	ク-12	37	13	23	楕円形	黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。	
P18	F6P5に変更						褐色土(10YR4/1)。	P64	ウ-16	24	20	26	円形	褐色土(10YR4/1) 色味少ない。
P19	F6P6に変更						褐色土(10YR4/1)。弥生土層片。	P65	ウ-16	22	24	16	円形	褐色土(10YR4/1) 色味少ない。
P20	タ-27	48	40	42	円形	褐色土(10YR4/1)。	P66	ウ-16	30	27	34	円形	褐色土(10YR4/1) 弥生土層片。	
P21	ウ-27	48	40	16	円形	褐色土(10YR4/1)。	P67	F4P6に変更						
P22	F6P3に変更						黒褐色土(10YR3/1)	P68	ク-9	43	<16>	39	不明	
P23	F6P2に変更						褐色土(10YR4/6)。古墳礎片。	P69	F4P3に変更				黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを含む。	
P24	ウ-26	36	30	26	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P70	オ-3	78	50	37	楕円形	F3P5を切る。	
P25	F6P2に変更						黒褐色土(10YR3/1)	P71	オ-4	44	40	37	方形	黒褐色土(10YR3/4)
P26	ウ-26	32	32	13	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P72	F4P2に変更						
P27	F6P1に変更						黒褐色土(10YR3/1)	P73	F4P1に変更					
P28	F6P7に変更						黒褐色土(10YR3/1)	P74	キ-9	40	16	23	楕円形	黒褐色土(10YR3/3) 黒褐色土・ローム粒子を多く含む。土師器坏片。
P29	ウ-25	62	30	17	不整形	黒褐色土(10YR3/1)	P75	ク-10-11	44	40	26	円形	土師器高坏片。内埴土層片。	
P30	ウ-25	88	79	9	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P76	F4P4に変更				土師器高坏片。内埴土層片。		
P31	ウ-24-25	72	60	75	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)	P77	ク-9	30	21	4	楕円形	黒褐色土(10YR2/3) D7を切る。	
P32	チ-31	36	<16>	20	不明	褐色土(10YR4/1)。H4を切る。	P78	キ-8	25	23	10	円形	黒褐色土(10YR2/3)	
P33	チ-31	26	36	34	不明	褐色土(10YR4/1)。H4を切る。	P79	オ-4	54	(44)	27	楕円形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.にじり黄褐色土(10YR5/4) ローム土層片。	
P34	ウ-33	34	<30>	24	円形	褐色土(10YR4/1)。H6を切る。	P80	カ-7	(72)	50	25	不明	黒褐色土(10YR2/3)	
P35	チ-30	-	-	31	不明	黒褐色土(10YR3/1)。縄文中期土層片。弥生土層片。	P81	キ-8-9	70	60	20	円形	黒褐色土(10YR3/3)	
P36	ウ-24	48	45	30	円形	褐色土(10YR4/1)。ざらざらしている。	P82	カ-5	43	43	52	円形	黒褐色土(10YR2/3) M6を切る。	
P37	セ-ウ-24	82	76	23	円形	褐色土(10YR4/1)。ざらざらしている。土師器片。	P83	カ-5	26	(23)	31	円形	黒褐色土(10YR2/3) D8を切る。弥生土層片。土師器内坏片。	
P38	ウ-32	<48>	56	44	不明	褐色土(10YR4/1)。土師器内坏片。弥生土層片。軽石。	P84	キ-8	(50)	45	20	不明	土師器坏片(S5後期)。	
P39	チ-31	<40>	45	48	不明	褐色土(10YR4/1)。土師器内坏片。	P85	ク-10	26	(26)	24	円形	黒褐色土(10YR3/4)	
P40	タ-28	32	<21>	20	不明	黒褐色土(10YR2/1)。	P86	ツ-33	53	(50)	21	不明		
P41	タ-27	48	<19>	48	不明	黒褐色土(10YR2/1)。土師器片。	P87	タ-28	64	50	27	円形	M1を切る。	
P42	タ-27	25	<17>	21	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)	P88	タ-28	64	(62)	44	円形	M1を切る。	
P43	タ-26	36	30	12	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)								
P44	タ-26	28	24	19	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)。古墳礎片。								
P45	ウ-17	23	22	37	円形	褐色土(10YR4/1)。軽石。D3を切る。								
P46	ウ-17	71	58	34	不整形	褐色土(10YR4/1)。D3を切る。土師器片。								

M6号溝状遺構

オ・カー 5GrにありP82に切れ、北側と南側が調査区域外に延びる。幅120cmと幅30cmの二股状に南側へ開く。幅広部分の検出長3.52m深さ25~38cm、幅狭部分の検出長2.3m深さ11~14cmを測る。幅広部分断面形はU字形、底面から15cmに覆土4層の非常に良く締まる暗褐色土上に1~2mのロームが貼られている。流水の痕跡はない。弥生後期壘、土師器壘出土したが、本址の時期は不明である。

M7号溝状遺構

シ-18・19GrにありH19に切られ、H17を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。残存長2.3m、幅1.24～1.4m、深さ48～55cmを測る。断面形逆梯子形、底面平坦で比高差ない。本址の時期は、出土遺物皆無であるが、6世紀中葉～7世紀初頭のH19に切られ、5世紀後半～6世紀初頭のH17を切る重複関係から6世紀前半に位置づけられる。

第5節 古墳跡

OT1号墳

チ・ツ-32～34GrにありH1・H3・H6・P3に切られる。遺構の大半は、「中部横断道」の長野県埋蔵文化財センター調査区域にある。詳細は不明であるが、古墳時代前期の方墳といわれている。周溝南東コーナーと西側一部が検出された。周溝検出長11m、幅0.88～0.94m、深さ72cmを測る。断面形逆梯子形、底面平坦である。遺物は、縄文後期・土師器環・須恵器甕の小片、滑石製の白玉が出土した。本址の詳細は、長野県埋蔵文化財センター調査結果を参照されたい。

第6節 ビット

総数75基が検出され、F6周辺のソ-24～チ-32Grに集中している。大半が何らかの建物に関連した柱穴と思われるが、建物址として把握できなかった。出土遺物等は、第115表に掲載した。

第7節 遺構外出土遺物

遺構確認時に素焼きの紡錘車(18)、短頸鎌(17)、砥石(16)が出土した。土器は縄文時代では、草創期爪形文土器(1)、中期後半(2)・後期前半(3)深鉢片がある。4は弥生時代後期終末の器台であろうか。土師器は古墳時代中期環(5・6)、後期の甕、高坏等があり、須恵器は平安時代の環・蓋・短頸壺・土器片円板がある。

第V章 まとめ

西近津遺跡群内で、平成18年～20年度に長野県埋蔵文化財センターにより「中部横断道」用地内の25,000㎡におよぶ広範囲が発掘調査された。(以下、県西近津遺跡群と記す。)佐久市教育委員会実施が実施した昭和46年度の第1次調査以降、平成23年度の第9次調査までの調査地点は、県西近津遺跡群に近接した周辺にあたる。第4次の調査地点は、県西近津遺跡群の西方100mを南北に並行する。第3次・第5次は、東方の周防畑遺跡群との境をなす低地に至る。

県西近津遺跡群の東西に延びる弥生時代後期といわれている大溝は、位置・出土遺物・形態の特徴から第4次のM14号溝状遺構に繋がる可能性が高い。弥生時代後期の竪穴住居址群は、県西近津遺跡群では、この大溝付近からいったん空白地帯があり、150m程北の地点に再び現れる。この2地点の竪穴住居址の在り方は、第3次～第5次の調査でも同様である。ただ、第4次のM14号溝状遺構付近と第8次の竪穴住居址群は、これらと異なったものとみられ、さらに西方へ延びそうである。

多くの竪穴住居址等が検出された古墳時代後期・奈良・平安時代は、県西近津遺跡群の有り様がさらに東西に拡大することを示している。該期の遺構では、第4次調査で検出された平安時代9世紀前半のF4号掘立柱建物址が特異である。大部分が調査区域外であるが、南北長6間12m検出東西長2間3.6mの総柱、柱穴は1mの深さで柱痕は30cmを超える。

特異と言え、五輪塔の火輪のみ23個を壁面全面に積んだ第4次調査のD38号土坑である。佐久ではもちろん初見であり、覆土の堆積状況から液体物を貯蔵していたのかと推察するしかない。五輪塔は、16世紀頃の所産であろう。

縄文時代では、後期堀之内式期の遺構と遺物が発見された。「田切り」上の平坦地では、稀なことである。第8次調査で検出された数石住居址と土坑群が、さらに、北方と西方に広がりを見せていることが第4次調査で確認された。西方100mの下長畝遺跡まで繋がる広範囲なものと思われる。

付篇

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの自然科学分析

<目次>

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの自然科学分析

—バリノ・サーヴェイ株式会社—

はじめに

I. 種実同定

表1. 種実同定結果

表2. 炭化米の大きさ

II. 骨類同定

表3. 出土骨の検出分類群の一覧

表4. 骨同定結果

表5. D4出土人骨の歯式

図1. ウマ骨格各部の名称

引用文献

図版1 種実遺体(1)

図版2 種実遺体(2)

図版3 出土骨(1)

図版4 出土骨(2)

図版5 出土骨(3)

西近津遺跡Ⅴ出土の動物遺体

—植泉 岳二(早稲田大学)・孔智賢(パレオ・ラボ) —

1. はじめに

2. 資料と分析方法

3. 結果および考察

4. おわりに

表1. 西近津遺跡Ⅴ出土動物遺体の同定結果

図版

はじめに

西近津遺跡(長野県佐久市長土呂)は、浅間山西南麓を流下する湧玉川左岸の田切り地形によって西された台地に立地する。本遺跡のこれまでの発掘調査では、弥生時代後期～平安時代の集落であることが明らかとされている。今回の西近津遺跡の発掘調査では、古墳～平安時代の竪穴住居跡をはじめとして、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構などが確認されている。

本報告では、西近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した炭化種実や骨類の同定および動・植物利用に関する検討を目的として、種実同定および骨同定を実施した。

I. 種実同定

1. 試料

試料は、西近津遺跡Ⅲ(以下、NTⅢ)より出土した種実遺体9試料(№1～9)160個と、西近津遺跡Ⅳ(以下、NTⅣ)より出土した種実遺体9試料(№10～18)301個の、計18試料461個である。試料は全て乾燥した状態で、プラケースに保管されている。各試料の詳細は一覧として、付表(添付CDに収録)に示す。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)、小畑(2008)などを参考に実施し、結果を表に示す。なお、本分析では、主に栽培種の種実遺体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さの計測を行っており、計測結果の詳細は付表に示した。分析後は、種実遺体を容器に戻して保管する。

3. 結果

同定結果を表1に示す。全試料(№1～18)を通じて、被子植物11分類群(木本のオニグルミ、クヌギ、スモモ、モモ、草本のイネ、アワ、オオムギ、コムギ、ホタルイ属、マメ科(アズキ類)、マメ科)430個の種実が同定された。2個は双子葉類と考えられるが、同定至らなかった。種実以外では、炭化材が19個、土粒が10個確認された。

種実遺体は、全て炭化している。栽培種は、スモモの核が1個、モモの核が24個、イネの穎が40個、穎・胚乳が66個、胚乳が264個、アワの穎・胚乳が1個、オオムギの穎・胚乳が4個、コムギの胚乳が11個と、栽培種の可能性を含むマメ科(アズキ類)の種子が1個、マメ科(?含む)の種子が5個の、計417個が確認され、全体の97%を占める。

栽培種を除いた分類群は、落葉広葉樹で堅果類のオニグルミの核の破片が6個と、クヌギの殻斗の破片が3個、果実の破片が1個、子葉が1個、草本のホタルイ属が2個の、計13個が確認された。

以下に、炭化種実の遺跡別出土状況を述べる。

<NTⅢ>

・№1(H3Ⅱ区床上)

栽培種のモモが2個確認された。完形1個は約1/3個(頂部～側面)を欠損する。破片は1/3個未満で、完形個体とは別個体である。

・№2(H3Ⅳ区)

栽培種のモモの破片が6個(計1個分)確認された。

・№3(H3Ⅲ区床上)

栽培種の可能性があるマメ科(?含む)が3個確認された。

・№4(H3Ⅲ区床上)

栽培種のイネが1個確認された。

・No5 (H4 II区ホリ方)

堅果類のクヌギの殻斗が3個、果実が1個、子葉が1個確認され、同一個体に由来する可能性が高い。

・No6 (H7 カマド)

栽培種のイネが89個(うち11個穎附着)、コムギが1個、栽培種の可能性があるマメ科(?)が1個の、計90個と、双子葉類が2個確認された。

・No7 (H7 No1 ビット内)

栽培種のイネが17個(うち4個穎附着)、アワが1個、マメ科(アズキ類)が1個の、計19個と、草本のホタルイ属が2個確認された。ホタルイ属の果皮表面は平滑で、フトイやサンカクイの類に似る。

・No8 (H7 第16図3の土師器坏墨書)

栽培種のコムギが10個(完形3個、破片7個)確認された。

・No9 (H12 東)

栽培種のスモモが1個確認された。

<西近津遺跡IV>

・No10 (H1)

栽培種のモモが3個確認された。完形1個は約1/3個分(腹面~側面)を欠損し、破片2個は接合して約2/3個分程度、上半部を欠損する。

・No11 (H1)

栽培種のモモが1個確認され、核側面~基部欠損の内部に種子がみられた。

・No12 (H12 北床直上)

栽培種のイネが1個確認された。

・No13 (H19 IV区ホリ方)

栽培種のイネが262個(うち穎40個、穎附着50個)と、オオムギが3個の、計265個が確認された。

状態が良好なイネの胚乳100個の計測結果は、長さが最小3.2~最大5.5(平均4.17±標準偏差0.44)mm、幅が1.5~3.4(平均2.66±0.40)mm、厚さが1.1~2.5(平均1.85±0.29)mmである。また、粒大(長さ×幅)・粒形(長さ/幅)(佐藤, 1988)は、短粒が78%を占め、円粒が16%、長粒が6%と次ぐ(表2, 3)。さらに短粒は、極小が45%、小型が32%、中型が1%である(表3)。

表2. 炭化米の大きさ(1)

No13NTV H19 IV区ホリ方											
長さ(mm)				幅(mm)				厚さ(mm)			
最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差
3.2	5.5	4.17	± 0.44	1.5	3.4	2.66	± 0.40	1.1	2.5	1.85	± 0.29

粒大(長さ×幅)				粒形(長さ/幅)				標本数 (n)
最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	
5.4	16.9	11.13	± 2.28	1.1	2.5	1.60	± 0.28	100

*計測値はデジタルノギスによる。粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤(1988)の定義に従う。

表2. 炭化米の大きさ(2)

No13NTV H19 IV区ホリ方											
粒大・粒形											
円粒(1.0-1.4)				短粒(1.4-2.0)				長粒(2.0-)			
最小	小	中	大	最小	小	中	大	最小	小	中	大
(8-12)	(12-16)	(16-20)	(20-)	(8-12)	(12-16)	(16-20)	(20-)	(8-12)	(12-16)	(16-20)	(20-)
8	8	0	0	45	32	1	0	6	0	0	0

*粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤(1988)の定義に従う。

・No14 (H19 カマド)

栽培種のモモの破片が1個(約1/5個分)と、堅果類のオニグルミの破片が1個確認された。

・No15 (H19 I区)

栽培種のオオムギが1個と、栽培種の可能性があるマメ科(ダイズ類?)が1個の、計2個が確認された。

・No16 (H27 炉)

堅果類のオニグルミの破片が5個(計1/3個分)確認された。

・No17 (H3 1炉)

栽培種のモモの破片が5個(計1/2個分)確認され、1個にネズミ類による食痕がみられた。

・No18 (H50)

栽培種のモモの破片が6個(計1/2~2/3個分)確認された。3個は接合し半分になる可能性がある。

4. 考察

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳから出土した種実遺体群からは、炭化した栽培種のスモモ、モモ、イネ、アワ、オオムギ、コムギと、栽培種の可能性を含むマメ科(アズキ類や別系統を含む)が確認された。栽培種は、種実遺体群全体の97%を占める。一方の栽培種を除いた分類群は、落葉広葉樹で堅果類のオニグルミ、クヌギと、草本のホタルイ属が確認された。オニグルミは、川沿いなどの湿潤な肥沃地に生育し、クヌギは丘陵～山地の二次林などに生育する落葉高木である。オニグルミは、子葉が生食可能で栄養価も高く、長期保存可能で収量も多い有用植物であることから、古くから利用され、遺跡出土例も多い。出土核は破片であることから、当時栽培種とともに利用された食料残渣の可能性もある。クヌギは高度なアク抜き工程を経ることで食用可能となるが、出土果実は殻斗がついた完全な状態と推定され、現地性の高さが示唆される。水生植物のホタルイ属は、周辺の水湿地環境に生育していたと考えられる。

Ⅲ. 骨類同定

1. 試料

試料は、西側近津遺跡Ⅲ・Ⅳの竪穴住居跡、溝、土坑などから出土した骨類62試料である(No1~62)である。これらの試料の状態は区々であり、乾燥によると思われる収縮やひび割れが生じる試料や、表面に付着した土壌の除去(クリーニング)済の状態のもの、保存状態が極めて悪く、また脆弱であるため土塊として取り上げられた状態の試料などがある。分析に供された試料の詳細は、一覧として結果とともに表4に示す。

2. 分析方法

前処理は、試料の状態を確認した後、砂や泥分は、乾いた筆や竹串、あるいは水に浸した筆で静かに除去する。一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。保存が悪い試料に関しては、バインダーなどを塗布し、補強を行う。

同定は、試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種類および部位の特定を行う。計測は、デジタルノギスを使用する。なお、ヒト歯牙の計測は、藤田(1949)に従った。

3. 結果

西側近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した骨類より検出した種類は、ヒト、ウマ、イノシシ、ニホンジカ、ウシである(表3)。各試料の同定結果を表4に示す。また、骨格各部位の名称については、ウマを例として図1に示す。以下に、各試料の結果を記す。

<NTⅢ>

・ Na1 (H1 覆土)

ウシの角の可能性がある破片である。

・ Na2 (H4 II区床面)

ウマの左上顎第3門歯の破片である。

・ Na3; (H6 カマド内火床)

獣類の四肢骨の破片、部位不明破片である。獣類四肢骨は焼骨、部位不明破片には焼骨と非焼骨がみられる。

・ Na4 (H6 カマド袖内)

獣類の部位不明破片である。

・ Na5 (H6 カマド袖)

獣類の四肢骨片、部位不明破片などである。四肢骨は、焼骨と非焼骨がみられる。

・ Na6 (H6 カマド東脇床面)

獣類の部位不明破片である。

・ Na7 (H6 カマド)

獣類の四肢骨片である。焼骨である。

・ Na8 (H6 カマド)

イノシシの第2/5中手骨/中足骨の遠位端である。遠位端が未化石で外れる。

・ Na9 (H6 カマド)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・ Na10 (H6 カマド)

ニホンジカの中手骨/中足骨の破片である。

・ Na10 (H6 カマド)

獣類の四肢骨の破片である。焼骨である。

・ Na11 (H12 東)

ニホンジカの左橈骨、左尺骨である。左尺骨は、近位端の破片であり、近位端幅42.48mmを測る。左尺骨は、遠位端が欠損する。この他、橈骨ないし尺骨の破片がみられる。

・ Na12 (H12 床面東)

ニホンジカの腰椎の破損である。椎体板がみられるが、化石化が終了しておらず、椎体と癒合していない。

・ Na13 (H12)

ウマの左上顎第3門歯、左基節骨、左末節骨である。左の基節骨・末節骨は後肢である。末節骨はほぼ完存し、基節骨は近位端が破損する。この他に部位不明破片がみられる。

・ Na14 (H12 サブトレ)

イノシシの可能性がある左右上腕骨遠位端片、ウマの左橈骨遠位端片・左橈側手根骨・左副手根骨片・手根骨片、獣類の部位不明破片である。イノシシの可能性がある左右上腕骨は小型のサイズである。

・ Na15 (H12)

ニホンジカの左上顎第2前臼歯片、獣類四肢骨片である。なお、四肢骨片の中には、幼獣の可能性がある小型のサイズがみられる。

・ Na16 (H12 サブトレ)

大型獣類の肩甲骨の可能性がある破片である。

・ Na17 (H12 サブトレ)

ニホンジカの椎骨、左脛骨である。椎骨は、椎体および破片がみられ、椎体では椎体板外れる。また、左脛骨の近位端は、54.37mmを測る。この他、獣類の部位不明破片がみられる。

表3. 出土骨の検出分類群一覧

脊椎動物門	Phylum Vertebrata
哺乳綱	Class Mammalia
ウシ目(霊長目)	Order Primates
ヒト科	Family Hominidae
ヒト	Homo sapiens
ウマ目(奇蹄目)	Order Perissodactyla
ウマ科	Family Equidae
ウマ	Equus caballus
ウシ目(偶蹄目)	Order Artiodactyla
イノシシ科	Family Suidae
イノシシ	Sus scrofa
シカ科	Family Cervidae
ニホンジカ	Cervus nippon
ウシ科	Family Bovidae
ウシ	Bos taurus

表4. 骨測定結果(1)

No	測距名	測標名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	焼熟	備考			
1	NTⅡ	H1 埋土	ウシ?	角?		破片	21					
2	NTⅡ	H4 E区床面	ウマ	上顎第3門歯	左	破片	1+					
3	NTⅡ	H6 カマド内火床	獣類	四肢骨	不明	破片	1	○				
						破片	2					
						破片	2	○				
4	NTⅡ	H6 カマド内	獣類	四肢骨	不明	破片	16+					
						破片	1					
5	NTⅡ	H6 カマド袖	獣類	四肢骨?	不明	破片	1	○				
						破片	1					
						破片	3					
						破片	8					
6	NTⅡ	H6 カマド楽座床面	獣類	不明		破片	8					
7	NTⅡ	H6 カマド	獣類	四肢骨		破片	1+	○				
8	NTⅡ	H6 カマド	イノシシ	第2/5中手骨/中足骨		遠位端	1		遠位端未化石外れ			
9	NTⅡ	H6 カマド	獣類	不明		破片	4	○				
10	NTⅡ	H6 カマド	獣類	ニホンジカ	中手骨/中足骨	破片	1					
						破片	4	○				
11	NTⅡ	H12 東	ニホンジカ	横骨	左	近位端	1		Bp42,48			
						尺骨	遠位端	1				
						横骨/尺骨	破片	8				
12	NTⅡ	H12 床面東	ニホンジカ	横骨	破片	1+		骨体未化石				
13	NTⅡ	H12	ウマ	上顎第3門歯	左	破片	1					
						基節骨	左	近位端破片	1			
						基節骨	左	破片	1			
						不明	破片	44				
14	NTⅡ	H12 サブトレ	イノシシ?	上腕骨	左	遠位端破片	1					
						右	遠位端破片	1+				
						ウマ	左	遠位端破片	1			
								橈骨手関節	左	ほぼ完存	1	
								副手関節	左	破片	1	
								手関節	破片	1		
						獣類	不明	破片	21			
						15	NTⅡ	H12	ニホンジカ	上顎第2前臼歯	左	破片
破片	3											
破片	1+		切欠?									
16	NTⅡ	H12 サブトレ	獣類	肩甲骨?		破片	1+					
17	NTⅡ	H12 サブトレ	ニホンジカ	横骨	左	骨体	4		骨体破外れ			
						破片	11					
						横骨	左	近位端	1		Bp54,37	
獣類	不明	破片	30									
18	NTⅡ	H12 カマド	獣類	不明		破片	1	○				
19	NTⅡ	D13	ウマ	大腿骨	左	破片	1+					
						近位端破片	1					
						遠位端破片	2					
						横骨	左	遠位端	1+			
						右	遠位端	1				
						右	遠位端	1+				
						右	遠位端破片	1				
						横骨	左	破片	1			
						右	破片	1+				
						距骨	左	破片	1			
						右	破片	1				
						中心定骨	左	ほぼ完存	1			
						右	ほぼ完存	1				
						第1+2足指骨,第4足指骨	左	破片	1+			
						第4足指骨	右	破片	1			
						第3足指骨	左	ほぼ完存	1			
						第1+2足指骨,第3足指骨,中足骨近位端	右	破片	1		土塊状	
						第2中足骨	左	破片	1+			
						第3中足骨	左	遠位端	1		Bp45±	
						第4中足骨	左	破片	1			
						第2中足骨,第3中足骨	右	破片	1			

<凡例>

P:前臼歯, M:後臼歯, Bp:近位端幅

表4. 骨同定結果(2)

№	遺跡名	遺構名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考		
19	NTⅡ	D13	クマ	第4中足骨	右	破損	1				
				第3中足骨		遠位端	1				
				第1趾骨		近位端	1				
				後肢		破片	80+				
				寛骨	右	破片	1+		№25と同一骨		
21	NTⅡ	D13	クマ	寛骨	左	破損	1+				
22	NTⅡ	D13	クマ	大腸骨	右	近位端欠	1				
				股骨	右	破損	1				
23	NTⅡ	D13	クマ/ワシ	肋骨		破片	30				
24	NTⅡ	D13	クマ	上顎第1門歯	左	破片	1				
				肋骨		破片	53				
25	NTⅡ	D13	クマ	寛骨	右	破片	1+		№20と同一骨		
				大腸骨	右	近位端片	1				
				不明		破片	33				
26	NTⅡ	H5 Ⅱ区	ニホンジカ	臼歯		破片	10+		同一歯牙の破片		
27	NTⅡ	H12 寺内塚土	鹿類	下顎骨?		破片	1	○			
28	NTⅡ	H12 南床土	鹿類	不明		破片	4	○			
29	NTⅡ	H19 部方	鹿類	不明		破片	1	○			
30	NTⅡ	H21 部1	鹿類	下顎骨?		破片	1	○			
31	NTⅡ	H22 部2	鹿類	不明		破片	2	○			
32	NTⅡ	H22 部2	鹿類	不明		破片	2	○			
33	NTⅡ	H23 Ⅰ区塚土	クマ	下顎臼歯	右	破片	1+				
34	NTⅡ	H27 部	鹿類	不明		破片	6+				
35	NTⅡ	H31内墓石(竈乱)	ワシ	下顎第1臼歯	左	破片	1+				
36	NTⅡ	H31 部	鹿類	不明		破片	2	○			
37	NTⅡ	H34 №2	鹿類	四肢骨		破片	40+				
38	NTⅡ	H37 カマド内皮	鹿類	不明		破片	1	○			
39	NTⅡ	H50 カマド内	鹿類	四肢骨		破片	1	○			
40	NTⅡ	M15	クマ	下顎第1門歯	右	破損	1				
				大腸骨	右	破片	1				
						遠位端破片	1				
						近位端	1				
						四肢骨	破片	24			
						下顎第1門歯	左	破片	1		
						門歯		破片	1+		
41	NTⅡ	M15	クマ	下顎第1門歯	左	破片	1				
42	NTⅡ	M15	ニホンジカ	下顎骨	右	破片	1				
43	NTⅡ	M15 №1	クマ	下顎骨	左	破損	1+		P2-M3補立		
					右	破損	1+		P2-M3補立		
						破片	100+				
44	NTⅡ	D4 №1	ヒト	頸蓋骨		破片	1+				
				上顎前切歯	左	破片	1				
				上顎犬歯	左	破損	1				
				下顎第2大臼歯	左	破損	1+				
				上顎第3大臼歯	右	破損	1				
				下顎第3大臼歯	右	破片	1				
						大腸骨?	破片	1+			
45	NTⅡ	D4 №2	ヒト	四肢骨?		破片	1+				
46	NTⅡ	D4 №3	ヒト	肋骨?		破片	1+				
47	NTⅡ	D4 №4	ヒト	肋骨?		破片	1+				
48	NTⅡ	D4	ヒト	不明		破片	1+				
49	NTⅡ	D5 №4	ヒト	脳頭蓋骨		破片	1				
				頭蓋骨		破片	2				
				切歯		破片	1+				
				第1頰骨		破片	1				
				頭蓋骨		破片	15+				
50	NTⅡ	D5 №4	ヒト	頭蓋骨		破片	15+				
51	NTⅡ	D5	ヒト	頭蓋骨		破片	1				
				上顎中切歯	左	ほぼ完存	1		未収収、出土直後		
52	NTⅡ	D7 №1	クマ	楯骨	左	近位端破片	1				
				尺骨	左	近位端	1+				
				橈骨/尺骨	左	破片	30+				
53	NTⅡ	D7 №2	ニホンジカ	角		破片	1+		切痕有		
54	NTⅡ	D7	鹿類	肋骨		破片	2	○			
54	NTⅡ	D7	鹿類	四肢骨		破片	3+				

<凡例>

P:前臼歯、M:後臼歯、Bp:近位端破片

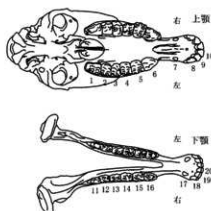
表4. 骨判定結果(3)

No	遺跡名	遺構名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考
54	NTM	D7	獣類	四肢骨		破片	3+		
						破片	1	○	
						不明	7	○	
55	NTM	D10 No2	ウマ/ウシ	四肢骨		破片	1+	土塊状	
56	NTM	D10 No3	獣類	四肢骨		破片	70+		
57	NTM	D59	獣類	不明		破片	11+		
						破片	1		土塊状
58	NTM	M4 No1	ウシ	中手骨	右	破片	1+		
59	NTM	M4 No2	ウマ	上顎第3/4前臼歯	左	破片	1		
60	NTM	M4 No3	ニホンジカ?	角?		破片	9		
61	NTM	M4 No4	ニホンジカ	中手骨/中足骨		破片	1		
62	NTM	D64 雑草産	獣類	不明		破片	7+		
						破片	2+		土塊状

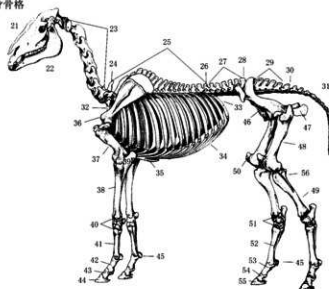
<凡例>

P:前臼歯, M:後臼歯, Bp:遊牧陶器

頭蓋



全身骨格



1. 上顎第3後臼歯, 2. 上顎第2後臼歯, 3. 上顎第1後臼歯, 4. 上顎第4前臼歯, 5. 上顎第3前臼歯, 6. 上顎第2前臼歯, 7. 上顎犬歯(雄のみ), 8. 上顎第3門歯, 9. 上顎第2門歯, 10. 上顎第1門歯, 11. 下顎第3後臼歯, 12. 下顎第2後臼歯, 13. 下顎第1後臼歯, 14. 下顎第4前臼歯, 15. 下顎第3前臼歯, 16. 下顎第2前臼歯, 17. 下顎犬歯(雄のみ), 18. 下顎第3門歯, 19. 下顎第2門歯, 20. 下顎第1門歯, 21. 頭蓋, 22. 下顎骨, 23. 頸椎, 24. 第一胸椎, 25. 胸椎, 26. 最後位胸椎, 27. 腰椎, 28. 最後位腰椎, 29. 仙骨, 30. 第一尾椎, 31. 尾椎, 32. 第一肋骨, 33. 最後位肋骨, 34. 軟肋骨, 35. 肩状軟骨, 36. 肩甲骨, 37. 上腕骨, 38. 橈骨, 39. 尺骨, 40. 手根骨, 41. 中手骨, 42. 指骨(基節骨), 43. 指骨(中節骨), 44. 指骨(末節骨), 45. 基節骨種子骨, 46. 腸骨, 47. 坐骨, 48. 大腿骨, 49. 脛骨, 50. 膝蓋骨, 51. 足根骨, 52. 中足骨, 53. 趾骨(基節骨), 54. 趾骨(中節骨), 55. 趾骨(末節骨), 56. 腓骨。

図1. ウマ骨格各部の名称(加藤・山内, 2003に加筆)

表5. D4出土人骨の模式

No.44 NTM D4 No1 出土人骨	右								左							
	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
上顎	M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
下顎	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○

<凡例>

○:植立, ○:遊牧

- ・No18 (H12 カマド)
獣類の部位不明破片である。焼骨である。
 - ・No19 (D13)
ウマの後肢である。左大腿骨片、左右脛骨、左右踵骨、左右距骨、左右中心足根骨、左右第1+2足根骨、左右第3足根骨、左右第4足根骨、左右第2中足骨、左右第3中足骨、左右第4中足骨、基節骨などが確認される。踵骨・距骨・足根骨と第2～4中足骨は、それぞれ塊状に取り上げられており、左右が接する状態である。左第3中足骨は、近位端幅約45mm前後を測る。
 - ・No20 (D13)
ウマの右寛骨の破片である。No25と同一骨である。
 - ・No21 (D13)
ウマの左寛骨である。
 - ・No22 (D13)
ウマの右大腿骨、右膝蓋骨である。大腿骨は近位端が欠損する。
 - ・No23 (D13)
ウマ/ウシの肋骨の破片である。
 - ・No24 (D13)
ウマの左上顎第1門歯、ウマ/ウシの肋骨の破片である。
 - ・No25 (D13)
ウマの右寛骨、右大腿骨である。右寛骨は、No20と同一骨の破片である。右大腿骨は寛骨臼に納まっており、大腿骨頭部である。その他、部位不明破片がみられる。
 - ・No26 (H5 IV区)
ニホンジカの臼歯の破片である。同一歯牙の破片である。
- <西近津遺跡IV>
- ・No27 (H12 炉内覆土)
獣類の下顎骨の可能性のある破片である。焼骨である。
 - ・No28 (H12 南床直上)
獣類の部位不明破片である。焼骨である。
 - ・No29 (H19 掘方)
獣類の部位不明破片である。焼骨である。
 - ・No30 (H21 炉1)
獣類の下顎骨の可能性のある破片である。焼骨である。
 - ・No31 (H22 炉2)
獣類の部位不明破片である。焼骨である。
 - ・No32 (H22 炉2)
獣類の部位不明破片である。焼骨である。
 - ・No33 (H23 I区覆土)
ウマの右下顎臼歯片である。
 - ・No34 (H27 炉1)
獣類の部位不明破片である。
 - ・No35 (H31内集石(攪乱))
ウシの左下顎第1後臼歯片である。
 - ・No36 (H31 炉)
獣類の部位不明の破片である。焼骨である。
 - ・No37 (H34 No2)
獣類の四肢骨の破片である。

- ・No38 (H37 カマド内灰)
獣類の部位不明の破片である。焼骨である。
- ・No39 (H50 カマド内)
獣類の四肢骨の破片である。焼骨である。
- ・No40 (M15)
ウマの右下顎第1門歯である。
- ・No40 (M15)
ウマの右大腿骨片、遠位端片、脛骨近位端片、四肢骨片である。
- ・No41 (M15)
ウマの左下顎第1門歯片、門歯片である。
- ・No42 (M15)
ニホンジカの右下顎骨である。下顎枝部の破片である。
- ・No43 (M15 No1)
ウマの左・右下顎骨である。左右とも第2前臼歯～第3後臼歯までがみられる。土塊状として取り上げられており、右側を上にした状態である。乾燥によるひび割れが生じており、形状を保つものの破片となっていたため、可能な限り復元を行った。なお、復元する際に臼歯高を測定した。右第2前臼歯を測ることができなかったが、それ以外の臼歯高は、左側の第2前臼歯が43.02mm、第3前臼歯が56.74mm、第4前臼歯が66.47mm、第1後臼歯が62.70mm、第2後臼歯が67.23mm、第3後臼歯が67.46mm、右側の第3前臼歯が56.66mm、第4前臼歯が67.21mm、第1後臼歯が61.47mm、第2後臼歯が66.94mm、第3後臼歯が67.17mmを測る。全臼歯列長179mmを測る。
- ・No44 (D4 No1)
土塊状として取り上げられたヒトの頭蓋骨である。土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。左側を上にした状態であるが、土圧を受けて変形しており、脳頭蓋の左側が割れて内側へと陥没する。上顎骨、下顎骨は比較的良好に残り、歯牙も観察される(表5)。なお、左上顎側切歯の歯冠幅(近遠心径)が6.35mm、同歯冠厚(頬舌径)が6.02mm、左上顎犬歯の歯冠幅(近遠心径)が7.61mm、同歯冠厚(唇舌径)が8.34mm、左下顎第2大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が11.28mm、同歯冠厚(頬舌径)が10.79mm、右上顎第3大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が8.69mm、同歯冠厚(頬舌径)が11.19mm、右下顎第3大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が9.78mm、同歯冠厚(頬舌径)が9.77mmを測る。
- ・No45 (D4 No2)
土塊状として取り上げられた四肢骨である。露出部が粉状となり、土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。No44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。両端が破損した骨体のみが残る。部位を確定できないが、現長260mm程度で径25mm前後あること、さらに断面が丸みを帯びることから、大腿骨の可能性はある。
- ・No46 (D4 No3)
土塊状として取り上げられた骨である。本試料も土塊から骨を外すと形質を保てないと判断され、No44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。四肢骨の可能性はある。
- ・No47 (D4 No4)
土塊状として取り上げられた四肢骨である。本試料も露出部が粉状となり、土塊から骨を外すと形質を保てないと判断された。No44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。骨体のみが部分的に残る状態である。部位を確定できないが、現長140mm程度、径25mm前後である。平らな面が存在するようにも見えることから、脛骨の可能性もある。
- ・No48 (D4)
粉状となった破片である。No44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。部位不明破片である。

・No49 (D 5 No 4)

土塊状として取り上げられたヒトの頭蓋骨である。本試料も土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。前頭骨、左右頭頂部、第1頸椎が認められ、右頭頂骨を下にした状態である。第1頸椎は眼窩部に位置する。冠状縫合の内側は閉じていない。また、骨質も薄い。この他、頭蓋骨片、切歯片が認められる。

・No50 (D 5)

No49と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。頭蓋骨の破片である。

・No51 (D 5)

ヒトの頭蓋骨片、左上顎中切歯である。左上顎中切歯はほぼ完存する。未咬耗で、萌出直後とみられる。

・No52 (D 7 No 1)

ウマの左機骨、左尺骨である。左機骨は、近位端の微細片であるが、左尺骨と関節することから判断した。左尺骨も近位端が残る。この他、左機骨/尺骨の破片がみられる。

・No53 (D 7 No 2)

ニホンジカの角の破片である。切痕がみられる。

・No54 (D 7)

獣類の肋骨、四肢骨、部位不明破片がみられる。肋骨、四肢骨の一部、部位不明破片は焼骨、四肢骨の一部は非焼骨である。

・No55 (D 10 No 2)

ウマ/ウシの四肢骨の破片である。土塊状である。

・No56 (D 10 No 3)

獣類の四肢骨の破片である。

・No57 (D 59)

獣類の部位不明の破片である。一部、土塊状である。

・No58 (M 4 No 1)

ウシの右中手骨の破片である。遠位端は欠損し、近位端も破損する。

・No59 (M 4 No 2)

ウマの左上顎第3/4前臼歯の破片である。

・No60 (M 4 No 3)

ニホンジカの角の可能性がある破片である。

・No61 (M 4 No 4)

ニホンジカの中手骨/中足骨の破片、ニホンジカの角の可能性がある破片である。

・No62 (ひ64 確認面)

獣類の部位不明の破片である。土塊状である。

4. 考察

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した骨類62試料からは、ヒト、ウマ、イノシシ、ニホンジカ、ウシ、種類不明の獣類が確認された。

イノシシやニホンジカは、日本各地の遺跡において古くより出土することが知られている。本遺跡では、イノシシは、NTⅢ H 6 カマドから第2/5中手骨/中足骨の破片が検出された程度であり、個体数としては少ない。遠位端が未化骨で外れており、幼獣とみられる。また、NTⅢ H12 サブトレで検出されたイノシシの可能性のある左上腕骨も大きさから幼獣と判断される。ニホンジカは、のべ6遺構(NTⅢ H 6、NTⅢ H12、NTⅢ H 5、NTⅣ M15、NTⅣ D 7、NTⅣ M 4)より確認された。ニホンジカは、成獣とともに、NTⅢ H12で検出された椎骨で椎体板が外れる資料が確認されることから、幼獣も狩猟の対象となっていた可能性がある。また、NTⅣ D 7で検出されたニホ

ンジカの角には、切痕が認められたことから、道具としての利用なども推定される。なお、種類不明の獣類の中には、焼骨が認められた。炉やカマドからの試料を主体とする状況から、食利用の痕跡あるいは残滓処理の状況を示すと考えられる。

ウマおよびウシは、家畜として存在していたものに由来すると考えられる。ウシに関しては、NTⅢ H1のウシの可能性のある角、NTⅣ H31内集石(攪乱)の左下顎第1後臼歯、NTⅣ M4で右中手骨が検出される程度である。出土数が少ないため、利用の形態についての詳細は不明である。一方、ウマは、多くの遺構(NTⅢ H4、NTⅢ H12、NTⅢ D13、NTⅣ H23、NTⅣ M15、NTⅣ D7、NTⅣ M4)から出土する。地点別の出土数(試料数)を見ると、NTⅢ D13が最も多く、NTⅢ H12、NTⅣ M15がこれに次ぐ。NTⅢ D13では、主に後肢が出土し、左右の踵骨・距骨・足根骨と第2～4中足骨が近接する状態である。このことから、左右の後肢を揃えた状態が埋存していた可能性がある。なお、左第3中足骨の近位端幅が約45mm前後を測る。林田・山内(1957)、西中川ほか(1991)を参考とすると、体高120～125cm程度となり、木曾馬・御崎馬クラスの中型馬に相当する可能性がある。次に、M15で出土した下顎骨は、西中川ほか(1991)を参考とすると、臼歯高の計測値から4～5歳程度のウマと推定される。また、全臼歯列長179mmを測ることから、サラブレッド並みの体高となる可能性があり、大型馬と判断される。なお、ウシ、ウマについては、焼骨がみられず、また解体に伴う切痕も観察されなかった。ただし、出土骨の状況を見ると、NTⅢ D13が全身骨格、NTⅢ H12が前肢、M15が後肢を主体とする。本遺跡周辺(浅間山南麓)には、平安時代以降において、塩野牧や長倉駅といったウマの繁殖・利用に関する施設が置かれていたと推定されている(御代田町教育委員会, 1989)。

ヒトは、NTⅣ D4・D5試料に確認された。D4の出土人骨は、左側を上にした状態であることから横臥状態で埋葬されていたことが推定される。本出土人骨には、右上顎第3大臼歯がみられ、また左下顎第3大臼歯も萌出した痕跡が認められることから、16歳程度以上の成人に達していたことがわかる。また、咬耗状況は、左側の上・下第2大臼歯が象牙質が僅かに露出する程度、第3大臼歯がエナメル質咬耗にとどまる。これより、成年(16～20歳程度)後半から壮年(20～39歳程度)前半と推定される。歯牙計測値を權田(1959)と比較すると女性的と判断されるが、眉上隆起、乳様突起、外後頭骨隆起などの性差の特徴が現れる箇所が観察できなかったため、性別の詳細は不明である。

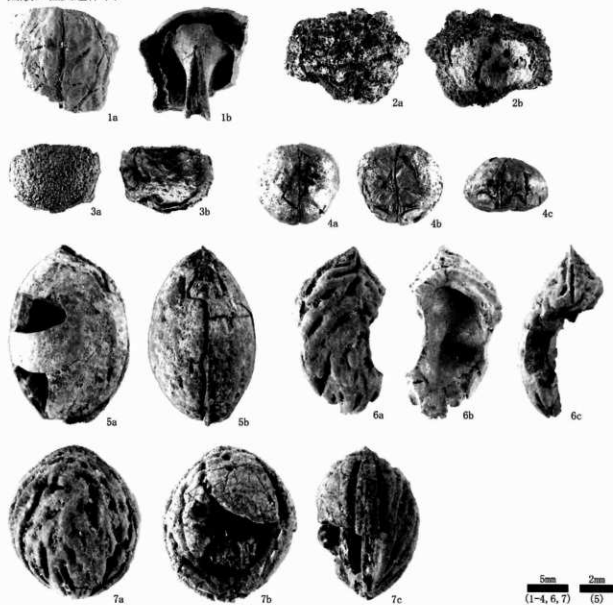
一方、D5の出土人骨は、右頭頂骨が土坑底部に接する状態であったとみられるが、埋葬方法については調査所見による確認が必要である。頭蓋は、全体的に骨厚が薄く、冠状縫合の内側が閉じていない。また、左上顎中切歯がみられるが、未咬耗であり、萌出直後に近い時期であったと思われる。これより、本人骨は8～10歳程度の小児程度と考えられる。性別については不明である。

引用文献

- 藤田恒太郎, 1949, 歯の計測基準について。人類学雑誌, 61, 27-32。
 權田和良, 1959, 歯の大きさの性差について。人類学雑誌, 67, 151-163。
 林田重幸・山内忠平, 1957, 馬における骨長より体高の推定法。鹿児島大学農学部学術報告, 6, 146-156。
 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑。石川茂雄図鑑刊行委員会, 328 p。
 加藤嘉太郎・山内昭二, 2003, 新編 家畜比較解剖図説 上巻。養賢堂, 315 p。
 御代田町教育委員会, 1989, 鋤師屋遺跡群 根岸遺跡。長野県北佐久郡御代田町根岸遺跡発掘調査報告書。
 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑。東北大学出版会, 642 p。
 西中川駿・本田道輝・松元光春, 1991, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究。平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 99 p。
 小畑弘巳, 2008, マメ科種子同定法。「極東先史古代の雑穀3」, 日本学術振興会平成16～19年度科学研究費補助金(基盤B-2)(課題番号16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書, 小畑弘巳編。熊本大学埋蔵文化財調査室, 225-252。

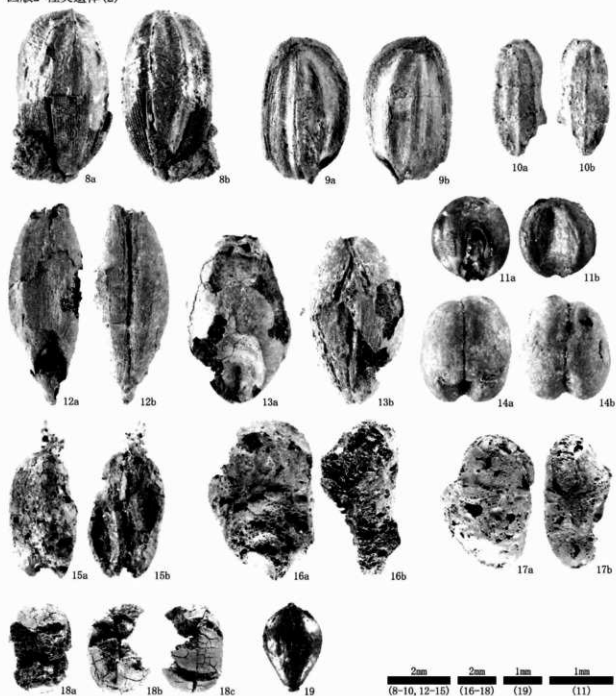
佐藤敏也, 1988, 弥生のイネ. 弥生文化の研究 2 生業, 金関 怨・佐原 真編, 雄山閣, 97-111.

図版1 種実遺体(1)



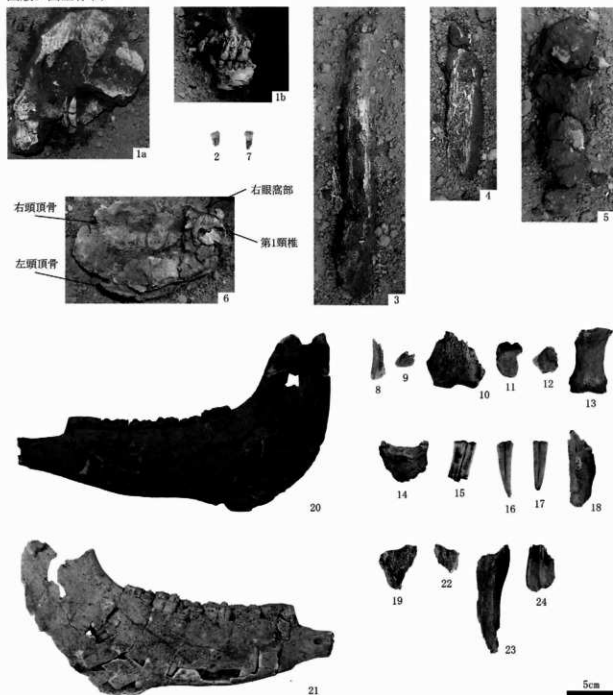
1. オニグルミ 核(NTIV H27 炉;16)
2. クスギ 殻斗(NTIII H4 II区ホリ方;5)
3. クスギ 果皮(着点)(NTIII H4 II区ホリ方;5)
4. クスギ 子葉(NTIII H4 II区ホリ方;5)
5. スモモ 核(NTIII H12 東;9)
6. モモ 核(ネズミ類食痕)(NTIV H31 炉;17)
7. モモ 核・種子(NTIV H1;11)

図版2 種実遺体(2)



8. イネ 穎・胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方:13)
 9. イネ 胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方:13)
 10. イネ 胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方:13)
 11. アワ 穎・胚乳(NTIII H7 №1ビット内:7)
 12. オオムギ 穎・胚乳(NTIV H19 IV区ホリ方:13)
 13. オオムギ 穎・胚乳(NTIV H19 I区:13)
 14. コムギ 胚乳(NTIII H7 カマド:6)
 15. コムギ 胚乳(NTIII H7 検出面坏墨書内:8)
 16. マメ科 種子(NTIII H3 III区床土:3)
 17. マメ科 種子(NTIV H19 I区:15)
 18. マメ科(アズキ類) 種子(NTIII H7 №1ビット内:7)
 19. ホタル目属(平滑型) 果実(NTIII H7 №1ビット内:7)

図版3 出土骨(1)



- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. ヒト 頭蓋骨 (NTIV D4 No. 1:44) | 2. ヒト 右下顎第3大臼歯 (NTIV D4 No. 1:44) |
| 3. ヒト 大腿骨? (NTIV D4 No. 2:45) | 4. ヒト 脛骨? (NTIV D4 No. 4:47) |
| 5. ヒト 四肢骨? (NTIV D4 No. 3:46) | 6. ヒト 脳頭蓋骨 (NTIV D5 No. 4:49) |
| 7. ヒト 左上顎中切歯 (NTIV D5:51) | 8. ウマ 左上顎第3門歯 (NT III H4 II 区床面:2) |
| 9. ウマ 左上顎第3門歯 (NT III H12:13) | 10. ウマ 左機骨 (NT III H12 サブトレ:14) |
| 11. ウマ 左側手根骨 (NT III H12 サブトレ:14) | 12. ウマ 左前手根骨 (NT III H12 サブトレ:14) |
| 13. ウマ 左基節骨 (NT III H12:13) | 14. ウマ 左末節骨 (NT III H12:13) |
| 15. ウマ 右下顎臼歯 (NTIV H23 I 区覆土:33) | 16. ウマ 右下顎第1門歯 (NTIV M15:40) |
| 17. ウマ 左下顎第1門歯 (NTIV H52:41) | 18. ウマ 右大腿骨 (NTIV H52:40) |
| 19. ウマ 脛骨 (NTIV M15:40) | 20. ウマ 左下顎骨 (NTIV M15 No. 1:43) |
| 21. ウマ 右下顎骨 (NTIV M15 No. 1:43) | 22. ウマ 左機骨 (NTIV D7 No. 1:52) |
| 23. ウマ 左尺骨 (NTIV D7 No. 1:52) | 24. ウマ 左上顎第3/4前臼歯 (NTIV M4 No. 2:59) |

図版4 出土骨(2)



25. ウマ 左上顎第1門歯(NTⅢ D13:24)
 27. ウマ 右寛骨(NTⅢ D13:20)
 29. ウマ 左大腿骨(NTⅢ D13:19)
 31. ウマ 右大腿骨(NTⅢ D13:25)
 33. ウマ 右膝蓋骨(NTⅢ D13:22)
 35. ウマ 左脛骨(NTⅢ D13:19)
 37. ウマ 右脛骨(NTⅢ D13:19)
 39. ウマ 左踵骨(NTⅢ D13:19)
 41. ウマ 左距骨(NTⅢ D13:19)
 43. ウマ 左中心足根骨(NTⅢ D13:19)
 45. ウマ 右第4足根骨(NTⅢ D13:19)
 47. ウマ 右第1+2足根骨, 第3足根骨, 中足骨近位端(NTⅢ H16:19)
 48. ウマ 左右第2~4中足骨出土状況(NTⅢ D13:19)
 50. ウマ 左第3中足骨(NTⅢ D13:19)
 52. ウマ 右第4中足骨(NTⅢ D13:19)
 54. ウマ 第3中足骨(NTⅢ D13:19)

26. ウマ 左寛骨(NTⅢ D13:21)
 28. ウマ 右寛骨(NTⅢ D13:25)
 30. ウマ 左大腿骨(NTⅢ D13:19)
 32. ウマ 右大腿骨(NTⅢ D13:22)
 34. ウマ 左脛骨(NTⅢ D13:19)
 36. ウマ 右脛骨(NTⅢ D13:19)
 38. ウマ 左右足根骨等出土状況(NTⅢ D13:19)
 40. ウマ 右踵骨(NTⅢ D13:19)
 42. ウマ 右距骨(NTⅢ D13:19)
 44. ウマ 右中心足根骨(NTⅢ D13:19)
 46. ウマ 左第3足根骨(NTⅢ D13:19)
 49. ウマ 左第2中足骨(NTⅢ D13:19)
 51. ウマ 左第4中足骨(NTⅢ D13:19)
 53. ウマ 右第2中足骨, 第3中足骨(NTⅢ D13:19)
 55. ウマ 基節骨(NTⅢ D13:19)

5cm

図版5 出土骨(3)



56. イノシシ 第2/5中手骨/中足骨(NTⅢ H6 カマド:8)
 58. イノシシ? 右上腕骨(NTⅢ H12 サブトレ:14)
 60. ニホンジカ 左上顎第2前臼歯(NTⅢ H12:15)
 62. ニホンジカ 椎骨(NTⅢ H12 サブトレ:17)
 64. ニホンジカ 左尺骨(NTⅢ H12 東:11)
 66. ニホンジカ 臼歯(NTⅢ H5 IV区:26)
 68. ニホンジカ 角(NTⅣ D7 №.2:53)
 70. ニホンジカ? 角? (NTⅣ M4 №.3:60)
 72. ウシ? 角? (NTⅢ H1 覆土:1)
 74. ウシ 右中手骨(NTⅣ M4 №.1:58)
 76. 獣類 四肢骨(NTⅢ H6 カマド袖:5)
 78. 獣類 四肢骨(NTⅣ D7:54)
 80. 獣類 四肢骨(NTⅢ H6 カマド内火床:3)
 82. 獣類 四肢骨(NTⅢ H6 カマド:7)
 84. 獣類 下顎骨? (NTⅣ H21 炉1:30)
 86. 獣類 四肢骨(NTⅣ D7:54)

57. イノシシ? 左上腕骨(NTⅢ H12 サブトレ:14)
 59. ニホンジカ 中手骨/中足骨(10:NTⅢ H6 カマド:10)
 61. ニホンジカ 腰椎(NTⅢ H12 床面東:12)
 63. ニホンジカ 左橈骨(NTⅢ H12 東:11)
 65. ニホンジカ 左脛骨(NTⅢ H12 サブトレ:17)
 67. ニホンジカ 右下顎骨(NTⅣ M15:42)
 69. ニホンジカ 中手骨/中足骨(NTⅣ M4 №.4:61)
 71. ニホンジカ? 角? (NTⅣ M4 №.4:61)
 73. ウシ 左下顎第1後臼歯(NTⅣ H31内集石(擾乱):35)
 75. 獣類 四肢骨(NTⅢ H12:15)
 77. 獣類 四肢骨(NTⅣ H34 №.2:37)
 79. 獣類 肩甲骨? (NTⅢ H12 サブトレ:16)
 81. 獣類 四肢骨(NTⅢ H6 カマド袖:5)
 83. 獣類 下顎骨? (NTⅣ H12 炉内覆土:27)
 85. 獣類 肋骨(NTⅣ D7:54)
 87. 獣類 不明(NTⅣ H19掘方:29)

1. はじめに

佐久市長土呂に所在する西近津遺跡Vからは、弥生時代～中世の集落址が確認された。ここでは、弥生時代後期～古代の遺構から検出された歯および骨片資料の同定結果を報告する。

2. 資料と分析方法

資料は、4遺構から採集された5資料である。各遺構の覆土から取り上げられたものだが、採集方法の詳細は不明である。遺構の情報は以下である。

弥生時代後期のH4号住居址は小鍛冶遺構の可能性もあり、古墳後期と平安の遺構と重複している。D3号土坑は、古墳時代以降の粘土採掘坑である。D6号土坑は、出土遺物がなく時期は不明だが、中世の可能性も想定されている。

クリーニングは、洗浄すると破損するおそれがあったため、付着された土を乾燥し、筆で取り除いた。特に保存状態が悪い資料No16は、表面の土を除去した後、水に薄く溶かした木工用ボンドを塗って形態を保つようにした。接合可能な資料については、接合を行った。同定は国立歴史民俗博物館西本豊弘氏所蔵の現生標本との比較によって行った。

3. 結果および考察

同定結果を表1に示す。資料はすべて哺乳類の歯または骨である。全般的に溶解が進行しており、保存状態は悪い。以下、遺構ごとに内容を述べる。

H4号住居址(資料No14. 弥生時代後期)

シカ*Cervus nippon*の臼歯が確認された。エナメル質のみの破片である。

D3号土坑(資料No15. 古墳時代以降)

シカの落角の角座部分。今回の分析資料の中では、比較的保存がよい。角幹と第1尖は切断されており、角器製作の残滓である。

D6号土坑(資料No16. 年代不明-古代?)

ウマ*Equus ferus*が1個体分まとまって検出されている。成獣で、性別は不明。中手骨・中足骨の計測値から推定される体高は120~125cm程度で、古代に一般的にみられる比較的小型のウマである。骨は全体的に溶解が進行しており、とくに脆弱な部位(頸椎・肋骨など)はほとんど消滅しているが、肩甲骨・腕骨・中手骨・寛骨などは比較的保存がよい。腰椎と後肢の脛骨～足根骨が欠如しているのは攪乱のためである。同定結果と出土状況の実測図を照合した結果、全身が交連状態(各骨が関節した状態)で埋蔵されていたことが確認された。右を上に向けた側臥姿勢である。死後のウマを解体することなく、そのまま埋納したものと考えられるが、その性格については遺構や伴出遺物の内容などを踏まえて検討する必要がある。

M5号溝状遺構(資料No17-18. 古代)

ウマの下顎臼歯2点と足根骨1点、ウマまたはウシと思われる椎骨破片1点、および種同定の困難な哺乳類の小片3点が確認された。

4. おわりに

西近津遺跡Vからはウマ・シカを含む哺乳類遺体が出土した。弥生時代後期のH4号住居址ではシカの歯が確認され、シカ猟が行われていた可能性が示された。また古墳時代以降ながら、角器製作の残滓と考えられる鹿角が出土したことから、本遺跡において角器生産が行われていたことが示唆される。古代?のD6号土坑からはウマの全身骨が出土した。死後のウマを解体することなく、そのまま埋納したものと考えられるが、その性格については遺構・遺物などと比較検討したうえで検討する必要がある。

表1. 西沢津遺跡V出土動物遺体の同定結果

資料No.	No.	遺構	出土位置	種類	部位	残存位置/残存状態	左右	数	備考・計測
14	1	H4号住居址	-	シカ	臼歯	破片	-	多数	
15	2	D3号土坑	-	シカ	角	角座	L	1	落角、角幹・第1尖を切断
16	3	D6号土坑	1	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	4	D6号土坑	2	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	5	D6号土坑	3	ウマ	上顎臼歯(P3～M2のいづれか)	-	R	1	
16	6	D6号土坑	4	ウマ	上顎臼歯(P3～M2のいづれか)	-	R	1	
16	7	D6号土坑	5	ウマ	上顎臼歯(P3～M2のいづれか)	-	L	1	
16	8	D6号土坑	6	ウマ	下顎M3	-	L	1	
16	9	D6号土坑	7	ウマ	下顎骨	[P4-M1-M2-M3 +下顎枝]	L	1	
16	10	D6号土坑	7	ウマ	上顎M2	-	L	1	
16	11	D6号土坑	7	ウマ	上顎M3	-	L	1	
16	12	D6号土坑	7	ウマ	上顎骨	[P3-P4-M1-M2-M3]	R	1	M2は著しく変形
16	13	D6号土坑	7	ウマ	下顎骨	[P3-P4-M1-M2-M3]	R	1	
16	14	D6号土坑	9	ウマ	肩甲骨	関節部	R	1	
16	15	D6号土坑	9	ウマ	肋骨	-	-	2	No.16-14の肩甲骨に付着して出土
16	16	D6号土坑	10	ウマ	手根骨/足根骨	-	-	4	
16	17	D6号土坑	10	ウマ	上脛骨	完存	R	1	
16	18	D6号土坑	15	ウマ	橈骨	遠位端	L	1	
16	19	D6号土坑	16	ウマ	肩甲骨	関節部	L	1	
16	20	D6号土坑	不明	ウマ	上脛骨	近位端	L	1	
16	21	D6号土坑	不明	ウマ	胸椎	-	-	2	
16	22	D6号土坑	不明	ウマ	胸椎	破片	-	1	
16	23	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	24	D6号土坑	8	ウマ	中手骨	近位端	R	1	SD:31.8mm
16	25	D6号土坑	8	ウマ	基節骨	-	-	1	
16	26	D6号土坑	11	ウマ	橈骨	近位端	R	1	
16	27	D6号土坑	11	ウマ	上脛骨	遠位端	R	1	
16	28	D6号土坑	12	ウマ	橈骨	遠位端	R	1	No.16-26と同一個体
16	29	D6号土坑	12	ウマ	手根骨/足根骨	-	-	1	
16	30	D6号土坑	13	ウマ	中手骨	遠位端	R	1	No.16-24と接合
16	31	D6号土坑	13	ウマ	基節骨	-	-	1	
16	32	D6号土坑	14	ウマ	中手骨	完存	L	1	Bp:45.5mm, SD:30.8mm
16	33	D6号土坑	21	ウマ	中足骨	近位端	L	1	Bp:42.7mm, SD:29.5mm
16	34	D6号土坑	不明	ウマ	頸椎	破片	-	多数	
16	35	D6号土坑	17	ウマ	仙骨	-	-	1	
16	36	D6号土坑	17	ウマ	寛骨	坐骨破片	R	1	
16	37	D6号土坑	17	ウマ	大腿骨	近位端	L	1	
16	38	D6号土坑	17	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	39	D6号土坑	18	ウマ	寛骨	恥骨破片	R	1	No.16-36と接合
16	40	D6号土坑	18	ウマ	大腿骨	骨幹	R	1	
16	41	D6号土坑	18	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	42	D6号土坑	19	ウマ	寛骨	腸骨・坐骨破片	L	1	
16	43	D6号土坑	19	ウマ	寛骨	腸骨破片	R	1	No.16-36と接合
16	44	D6号土坑	19	ウマ?	不明	破片	-	2	
16	45	D6号土坑	20	ウマ	腰椎	椎体	-	1	
16	46	D6号土坑	不明	ウマ	椎骨	椎体	-	1	
16	47	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	48	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	-	-	2	
16	49	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	椎体破片	-	2	
16	50	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	棘突起破片	-	2	
16	51	D6号土坑	22	ウマ	椎骨	破片	-	2	
16	52	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
17	53	M5号溝状遺構	-	ウマ	下顎臼歯(P3～M2のいづれか)	-	L	1	
17	54	M5号溝状遺構	-	ウマ	下顎M3	-	R	1	
17	55	M5号溝状遺構	-	ウマ	足根骨	-	-	1	
17	56	M5号溝状遺構	-	ウシまたはウマ	椎骨	椎体	-	1	
17	57	M5号溝状遺構	-	哺乳類-同定不可	不明	破片	-	3	1点は歯の破片
18	58	M5号溝状遺構	No.1	ウマ	下顎M3	-	L	1	



H4号住居址



D3号土坑



D6号土坑



D6号土坑



M5号沟状遺構



M5号沟状遺構



西近津遺跡Ⅲ (平成18年度調査)



西近津遺跡Ⅲ (平成18年度調査)



西近津遺跡Ⅳ平成20年度調査地点東に近接して中部横断自動車道

図版 2



西近津遺跡Ⅳ (平成19年度調査)



西近津遺跡Ⅳ (平成20年度調査)

西近津遺跡Ⅲ



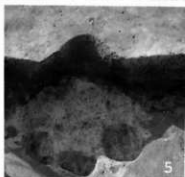
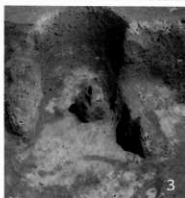
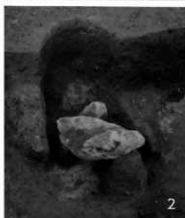
1 H1号住居址

2 H1号住居址

3 H1号住居址
カマド

4 H1号住居址
カマド煙道部

5 H1号住居址
カマド掘方



H2号住居址遺物出土状況(南方より)

1 H2号住居址カマド付近遺物出土状態

2 H2号住居址カマド

3 H2号住居址カマド

4 H2号住居址カマド掘方

5 H2号住居址カマド掘方

6 H2号住居址遺物出土状態

7 H2号住居址掘方

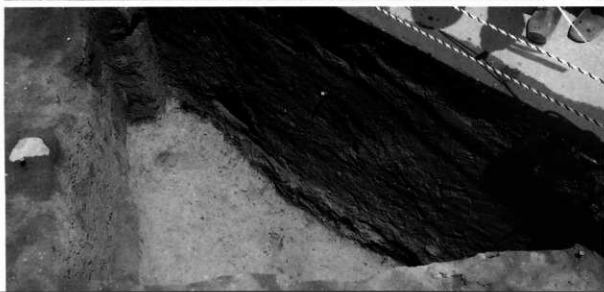
H3号住居址全景



H3号住居址掘方



H3号住居址掘方





H4号住居址全景



H4号住居址



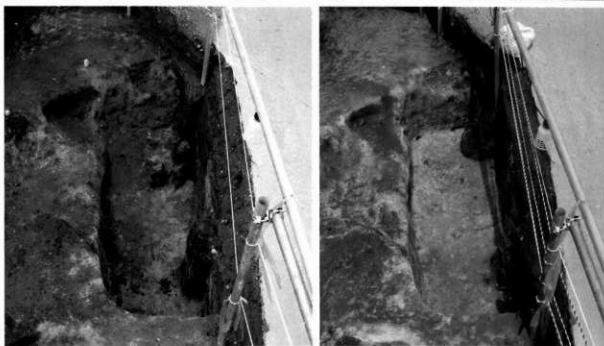
H4号住居址掘方

H4号住居址掘方



H5号住居址全景

H5号住居址掘方

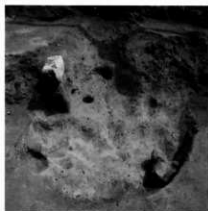


H6号住居址全景





H6号住居址掘方



H6号住居址遺物
出土状態

H6号住居址
カマド掘方

H6号住居址
カマド



H7号住居址
南側部分全景

H7号住居址
南侧部分掘方



H7号住居址
北侧部分全景



H7号住居址
北侧部分掘方



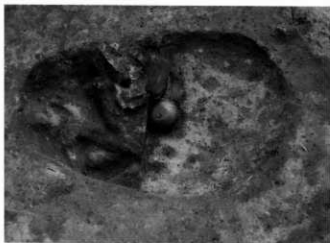
图版10



H7号住居址
紡錘車出土狀態



H7号住居址
紡錘車出土狀態



H7号住居址
P3内遺物
出土狀態



H7号住居址
鉄鎌出土狀態



H8号住居址掘方



H8号住居址全景

H9号住居址
北侧部分

H9号住居址掘方

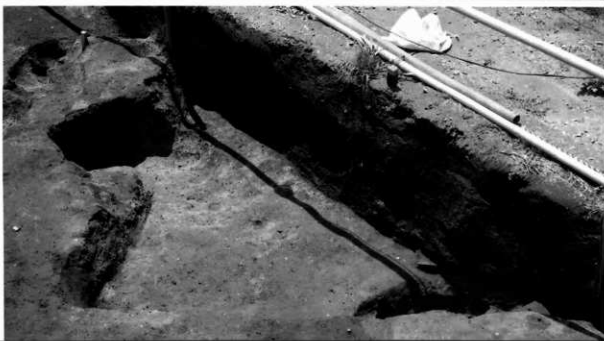


H9号住居址
南侧部分

F1号掘立柱建物址
P3



H11号住居址全景



図版12



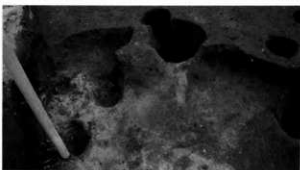
H11号住居址
掘方



H12号住居址
掘方



D13号土坑
出土獣骨



H12号住居址
カマド



D13号土坑
出土獣骨

H13号住居址
全景



H13号住居址
掘方



H13号住居址
カマド

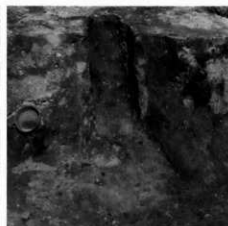
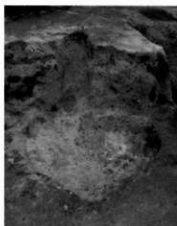


H14号住居址
遺物出土状態





H14号住居址
掘方



H14号住居址
遺物出土状態

H14号住居址
カマド掘方

H14号住居址
カマド



H16号住居址
掘方

H17号住居址
全景



H17号住居址
掘方



H17号住居址
遺物出土状態



H17号住居址
砥石出土状態



H17号住居址
鉄鎌出土状態



H17号住居址
刀子出土状態



図版16



H18号住居址
掘方



H18号住居址
全景



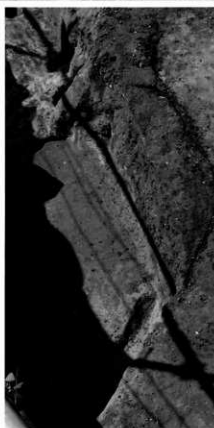
H18号住居址
カマド掘方



H18号住居址
カマド



H19号住居址
掘方



H19号住居址
全景

H20号住居址
全景

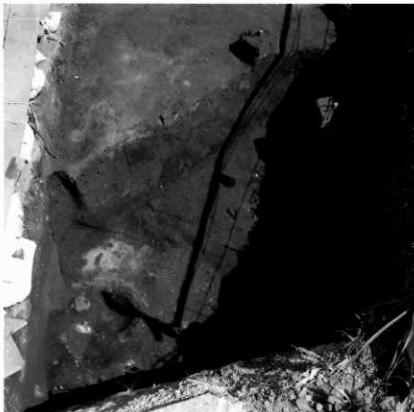
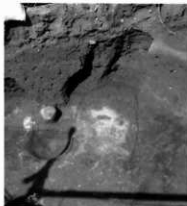


H20号住居址
掘方



H21号住居址
掘方





H22号住居址
カマド

H22号住居址
カマド掘方

H22号住居址
全景



H23号住居址
カマド

H23号住居址
全景

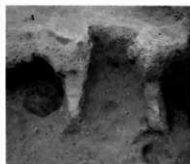


H24号住居址
全景

H24号住居址
掘方



H24号住居址
カマド



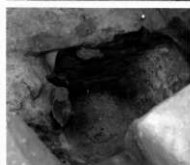
H24号住居址
カマド掘方



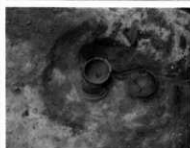
H25号住居址
全景



H25号住居址
P3



H25号住居址
P1内出土状態



H25号住居址
遺物出土状態



H26号住居址
全景





H27号住居址
掘方



H27号住居址
全景



H27号住居址
鉄鎌出土状態



H27号住居址
カマド掘方



H27号住居址
カマド



H15号住居址
掘方



H10号住居址
全景

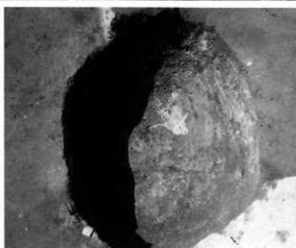
お12Gr
ピット群

西近津遺跡Ⅲ
H6号住居址
付近近景



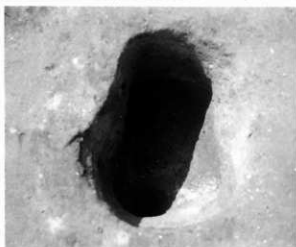
D1号土坑

D2号土坑



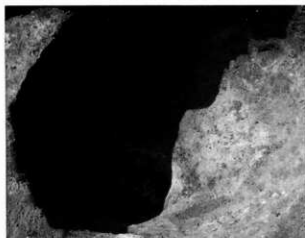
D3号土坑

P6



D5号土坑

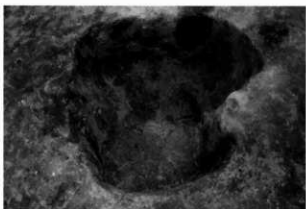
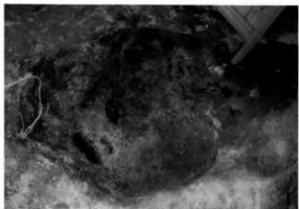
D6号土坑





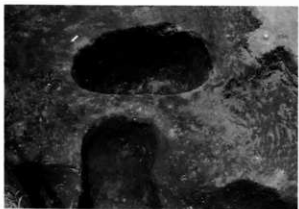
P20

D7号土坑



F1号掘立柱建物址
建物址P2

F1号掘立柱建物址
建物址P1



D9号土坑

F1号掘立柱建物址
建物址P4



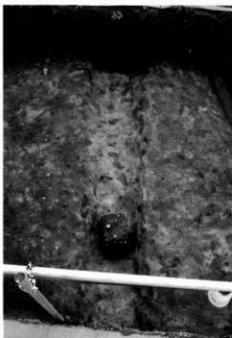
D10号土坑

D11号土坑

D13号土坑



M1号
溝状遺構



M2号
溝状遺構



M2号
溝状遺構付近
ピット群



西近津遺跡Ⅳ



H1号住居址
全景

H1号住居址
掘方



H2号住居址
全景

H3号住居址
全景



H3号住居址
掘方



H3号住居址
遺物出土状態



H3号住居址
遺物出土状態



H4号住居址
全景



H4号住居址
掘方



H4号住居址
遺物出土状態

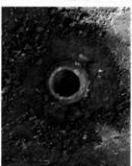
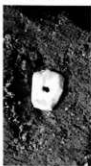




H5号住居址
掘方



H5号住居址
全景



H5号住居址
遗物出土状态



H6号住居址掘方



H6号住居址
遗物出土状态



H6号住居址
全景

H7号住居址
全景



H7号住居址
全景



H8号住居址
全景



H9号住居址
全景

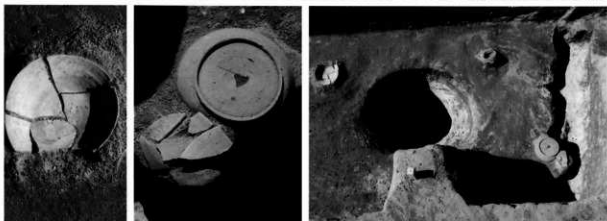


H9号住居址
遺物出土狀態





H9号住居址
掘方



H9号住居址
遺物出土状態



H10号住居址
全景

H10号住居址
カマド



H10号住居址
カマド掘方

H10号住居址
遺物出土状態

H11号住居址
全景

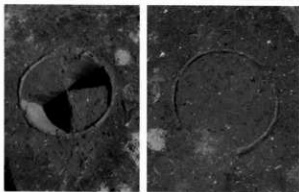


H11号住居址
全景





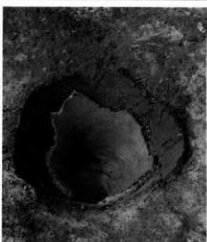
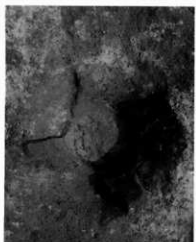
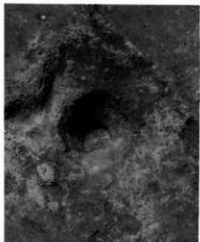
H11号住居址
全景



H11住居址
炉址

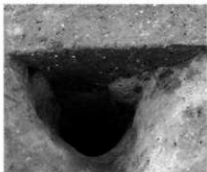


H11住居址
炉址



H11住居址
炉址

H11号住居址
P1

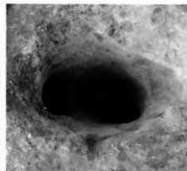
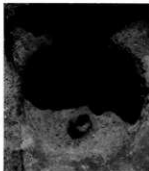
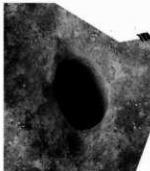


H11号住居址
P2



H11号住居址
P3

H11号住居址
P4



H11号住居址
P7

H11号住居址
P5

H12号住居址
全景



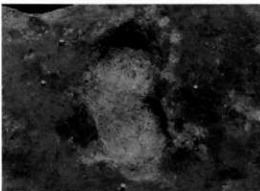
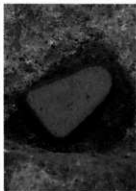
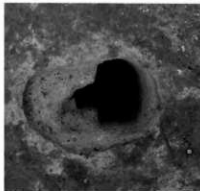
H12号住居址
掘方





H12住居址
炉址

H12住居址
入口施設
P2～P4



H12住居址
ビット

H12住居址
遺物出土状態

H12住居址
炉址掘方



H14号住居址
全景

H13号住居址
全景



H14号住居址
カマド

H14号住居址
遺物出土状態

H14号住居址
掘方



H15号住居址
全景



H15号住居址
掘方

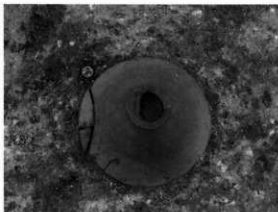


H16号住居址
全景





H17号住居址
全景



H16号住居址
遺物出土状態



H17号住居址
遺物出土状態



H18号住居址
全景



H20号住居址
付近



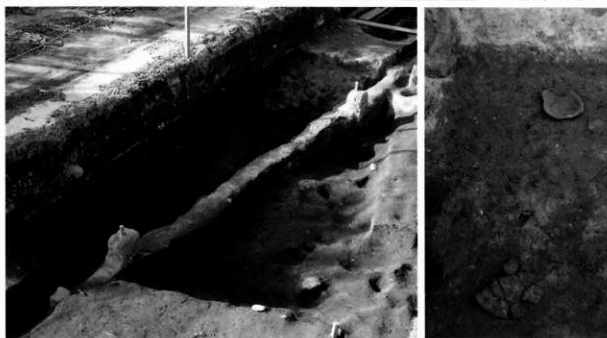
H18号住居址
掘方

H19号住居址
全景



H19号住居址
掘方

H19号住居址
遺物出土状態

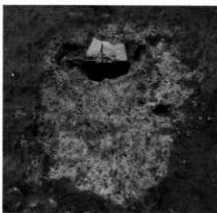


H20号住居址
全景





H20号住居址
P3



H20号住居址
炉址



H20号住居址
遺物出土状態



H22号住居址
全景



H21号住居址
全景



H22号住居址
炉址1·P1



H21号住居址
遺物出土状態

H22号住居址
掘方

H22号住居址
P1内
遺物出土状態

H22号住居址
遺物出土状態



H22号住居址
炉址1

H22号住居址
炉址1

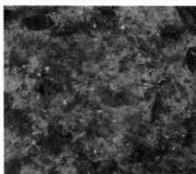
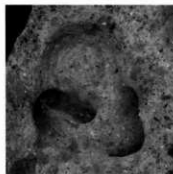
H22号住居址
炉址1



H22号住居址
炉址2

H22号住居址
炉址2

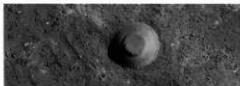
H22号住居址
炉址2

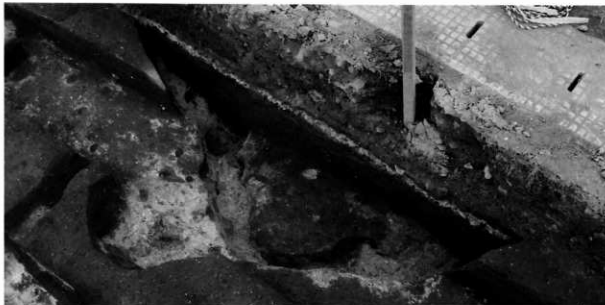


H23号住居址
全景

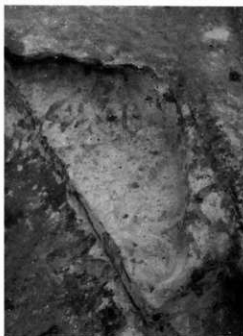
H23号住居址
カマド

H23号住居址
遺物出土状態





H24号住居址
全景



H26号住居址
全景



H24号住居址
掘方

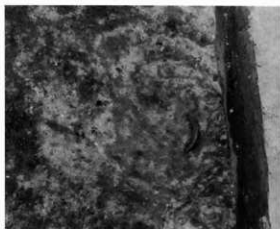


H25号住居址
全景

H27号住居址
全景



H27号住居址
炉址



H27号住居址
炉址

H27号住居址
炭化材
出土状态





H28号住居址
全景



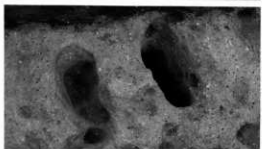
H29号住居址
全景



H29号住居址
掘方

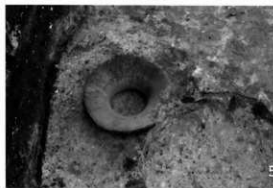


H29号住居址
P3・P4



H28号住居址
遺物出土状態
H30号住居址
全景

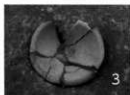
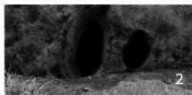




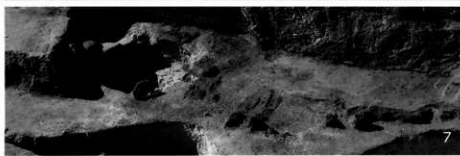
1 H31号住居址
全景

2 H31号住居址
P1·P2

3 H31号住居址
遗物出土状态

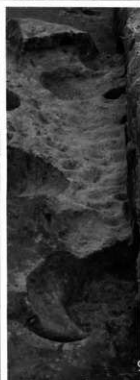


4 H31号住居址
掘方



5 H31号住居址
炉址

6 H31号住居址
炉址掘方



7 H32号住居址
全景

8 H32号住居址
炭化材
出土状态



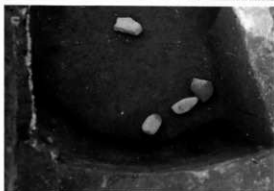
9 H32号住居址
掘方



H34号住居址
全景



H33号住居址
全景



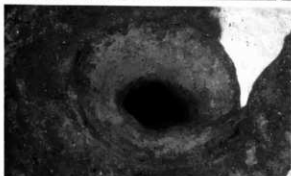
H34号住居址
遺物出土状態



H34号住居址
カマド



H35号住居址
全景



H35号住居址
P4



H35号住居址
P5・P6

H36号住居址
全景



H37号住居址
全景



H37号住居址
掘方



H37号住居址
カマド内
遺物出土状態



H37号住居址
遺物出土状態



H37号住居址
カマド





H39号住居址
全景



H38号住居址
全景



H39号住居址
炉址



H39号住居址
炉址



H39号住居址
炉址



H41号住居址
全景

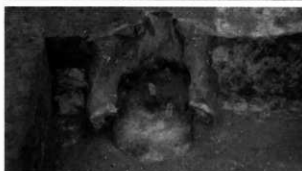


H40号住居址
全景

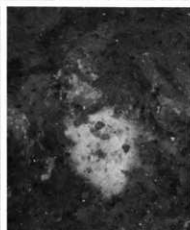
H42号住居址
全景



H42号住居址
カマド



H43号住居址
カマド



H43号住居址
全景

H44号住居址
カマド



H44号住居址
全景

西近津遺跡IV
平成20年1月
調査地点



H45号住居址
掘方



H45号住居址
全景



H45号住居址
填砂
遺物出土狀態



H45号住居址
填砂
遺物出土狀態



H45号住居址
填砂



H45号住居址
填砂

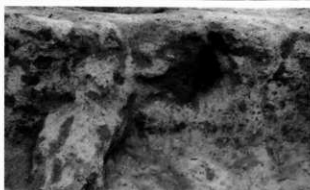
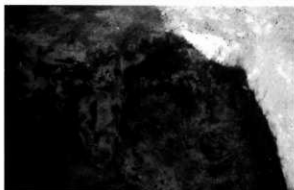


H45号住居址
填砂

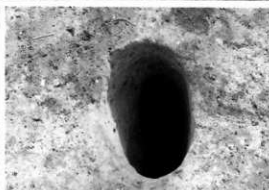
H46号住居址
全景



H46号住居址
カマド



H46号住居址
カマド煙道部



H46号住居址
カマド煙道部

H46号住居址
P1



H47号住居址
全景



H48号住居址
全景



H49号住居址
全景



H49号住居址
遺物出土状態



H49号住居址
カマド

H50号住居址
全景



H50号住居址
カマド



H50号住居址
カマド



H51号住居址
全景



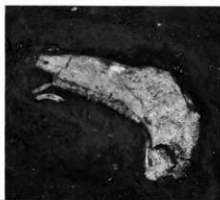
H52号住居址
全景



M15号
溝状遺構
全景



M15号
溝状遺構
獣骨出土状態





F1号
掘立柱建物址

Ta1号
竪穴状遺構



F3号
掘立柱建物址

F2号
掘立柱建物址

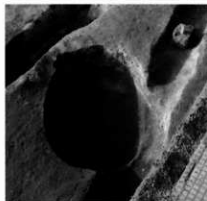


西近津遺跡Ⅳ
から
南東を望む

F4号
掘立柱建物址



F4号
掘立柱建物址
P1



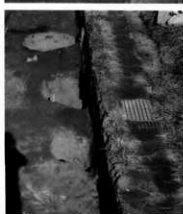
F4号
掘立柱建物址
P9



F4号
掘立柱建物址
P2



F4号
掘立柱建物址
P10



F4号
掘立柱建物址
P11

F4号
掘立柱建物址
P11·P12
·P13

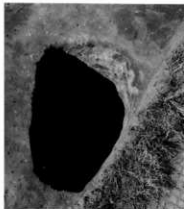


F4号
掘立柱建物址
P12



F4号
掘立柱建物址
P4·P5

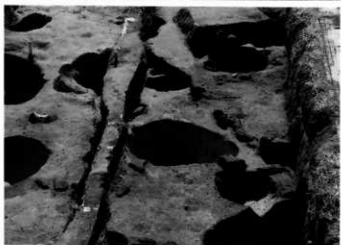




F4号
掘立柱建物址
P8

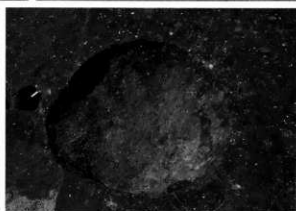
F4号
掘立柱建物址
P6

F4号
掘立柱建物址
P3



F4号
掘立柱建物址
P11·P12·P4
P5·P3·P13

F4号
掘立柱建物址
P8·P13
·P7·P6



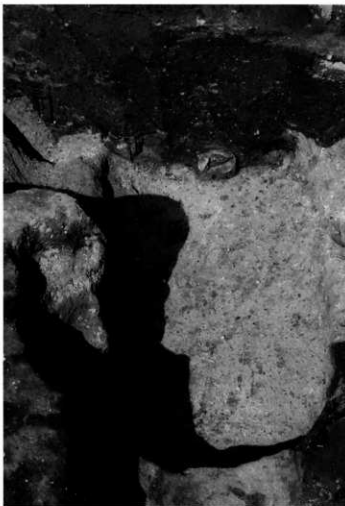
D2号土坑

D1号土坑



D4号土坑

D5号土坑



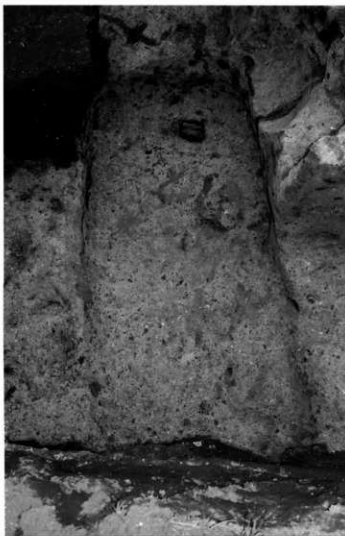
D5号土坑
小児頭蓋骨



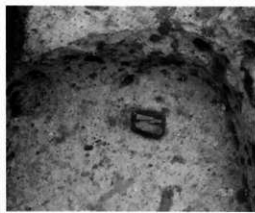
D5号土坑
小児頭蓋骨下
刀子出土状態



D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態

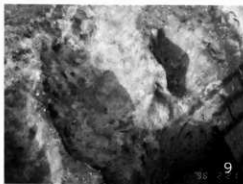
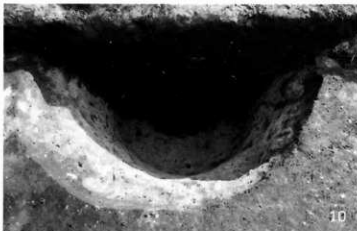
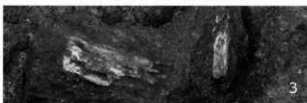


D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態



D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態





- 1 D7号土坑
- 2 D6号土坑
- 3 D7号土坑
獸骨出土狀態
- 4 D9号土坑
- 5 D8号土坑
- 6 D10号土坑
遺物出土狀態
- 7 D10号土坑
遺物出土狀態
- 8 D10号土坑
遺物出土狀態
- 9 D11号土坑
- 10 D10号土坑
- 11 D13号土坑
- 12 D12号土坑

D14号土坑



D15号土坑



D16号土坑



D17号土坑



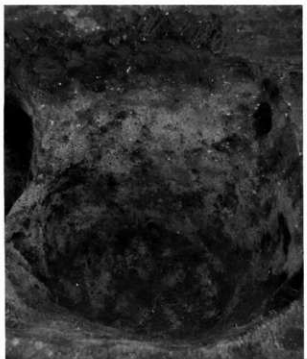
D17号土坑



D18号土坑



D20号土坑



西近津遺跡Ⅳ
平成20年1月
調査地点





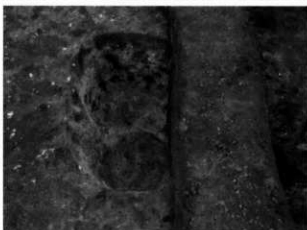
D21号土坑
遗物出土状态



D21号土坑



D23号土坑



D22号土坑



D25号土坑



D24号土坑



D26号土坑



D28号土坑



D27号土坑

D29号土坑



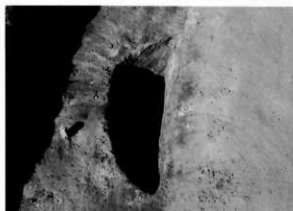
D30号土坑



D31号土坑



D32号土坑



D33号土坑



D34号土坑



D35号土坑



D36号土坑



D37号土坑



西近津遺跡IV
平成20年1月
調査地点

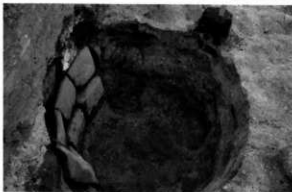




D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



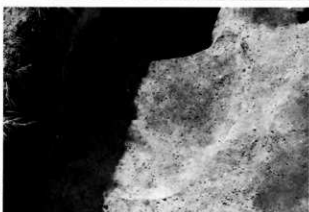
D38号土坑
五輪塔火輪
撤去後



D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D54号土坑



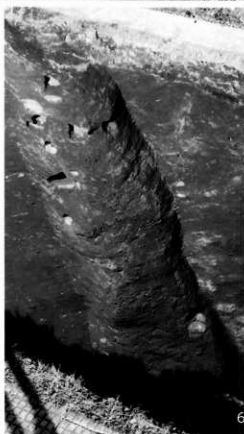
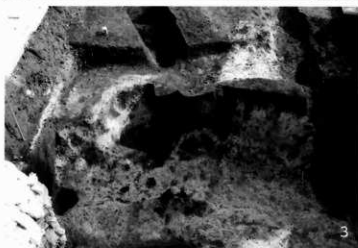
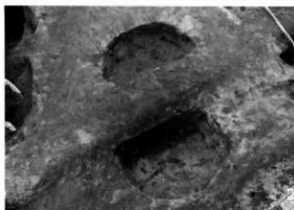
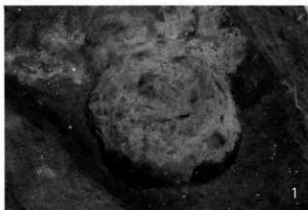
D43号土坑



D56号土坑



D55号土坑



1 D57号土坑

2 D57号土坑
·D58号土坑

3 M1号沟状遗構
M3号沟状遗構

4 M2号沟状遗構

5 M4号沟状遗構

6 M5号沟状遗構

7 M5号沟状遗構
遺物出土状態

8 M4号沟状遗構
獸骨出土状態



M7号沟状遗構



M6号沟状遗構



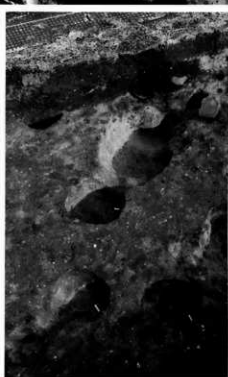
M9号沟状遗構



M8号沟状遗構



M11号沟状遗構



M10号沟状遗構

M12号沟状遗構



M13号沟状遗構



M13号沟状遗構



M14号沟状遗構



M14号沟状遗構
遺物出土狀態



P172号
遺物出土狀態



P172号
遺物出土狀態





P172号ピット

P172号ピット
遺物出土状態



西近津遺跡IV
つ18～な20
グリッド
ピット群



H46号住居址
付近
ピット群

西近津遺跡IV
ふ52～ほ48Gr
平成20年11月
調査地点

西近津遺跡IV
つ18～な20
グリッド
ピット群



西近津遺跡 V

西近津遺跡 V
調査区全景



H1号住居址

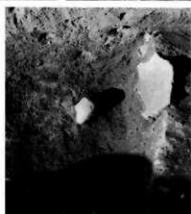
H1号住居址
遺物出土状態



H2号住居址

H2号住居址
カマド

H2号住居址
遺物出土状態



H3号住居址

H3号住居址
掘方





H4号住居址
掘方

H4号住居址
全景



H5号住居址
掘方

H5号住居址
全景

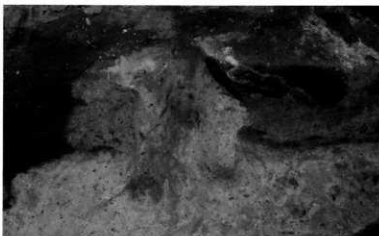
H5号住居址
遺物出土状態



H6号住居址
全景

H5号住居址
カマド

H5号住居址
カマド掘方



H6号住居址
炉址



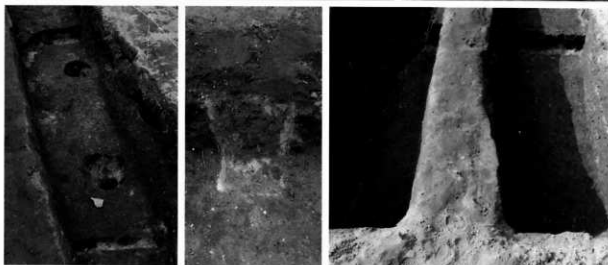
H6号住居址
全景

H6号住居址
掘方

H8号住居址
全景

H8号住居址
カマド

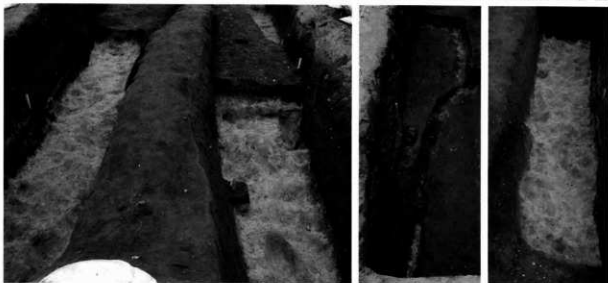
H9号住居址
全景



H9号住居址
掘方

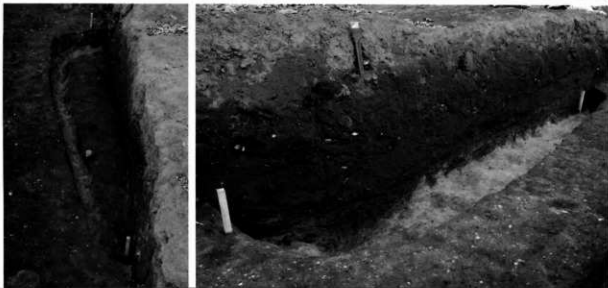
H10号住居址
全景

H10号住居址
掘方



H11号住居址
全景

H11号住居址
掘方





H12号住居址
掘方

H12号住居址
全景



H13号住居址
全景

H13号住居址
カマド



H13号住居址
掘方

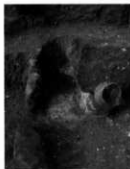
H13号住居址
カマド



H15号住居址
掘方

H15号住居址
全景

H15号住居址
カマド



H16号住居址
全景

H16号住居址
掘方

H17号住居址
全景

H17号住居址
掘方

H18号住居址
全景

H18号住居址
掘方

H19号住居址
全景

H19号住居址
掘方

OT1号古墳





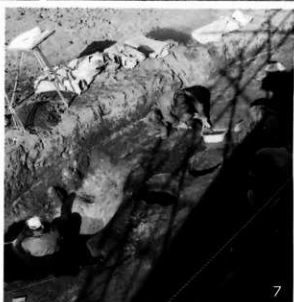
1 F2号
掘立柱建物址

2 F3号
掘立柱建物址

3 F1号
掘立柱建物址

4 F4号
掘立柱建物址

5 F5号
掘立柱建物址



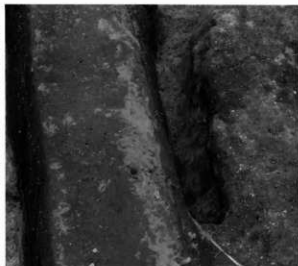
6 西近津遺跡V
調査風景

7 西近津遺跡V
調査風景

D1号土坑



D2号土坑



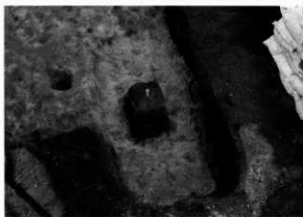
D3号土坑



D4号土坑



D5号土坑



D7号土坑



D6土坑

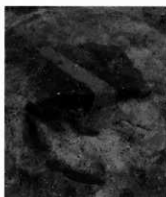


ウマ
出土状態

D6号土坑



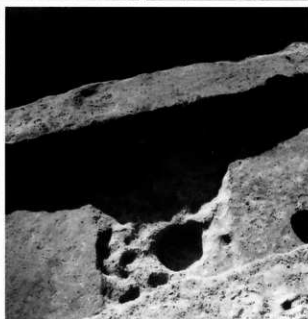
图版70



D10号土坑

D9号土坑

D8号土坑



M2号
沟状遗构

M1号
沟状遗构



M5号
沟状遗构

M4号
沟状遗构



M7号
沟状遗构

M6号
沟状遗构



5-9 (H1)



5-10 (H1)



5-8 (H1)



4-1 (H1)



5-14 (H1) 1:2



5-13 (H1) 1:3



7-14 (H2)



4-6 (H1)



5-15 (H1) 1:6



8-11 (H3)



8-5 (H3) 1:2



8-2 (H3) 1:2



10-32 (H3)



10-31 (H3) 1:2



10-30 (H3) 1:1



10-29 (H3) 1:1



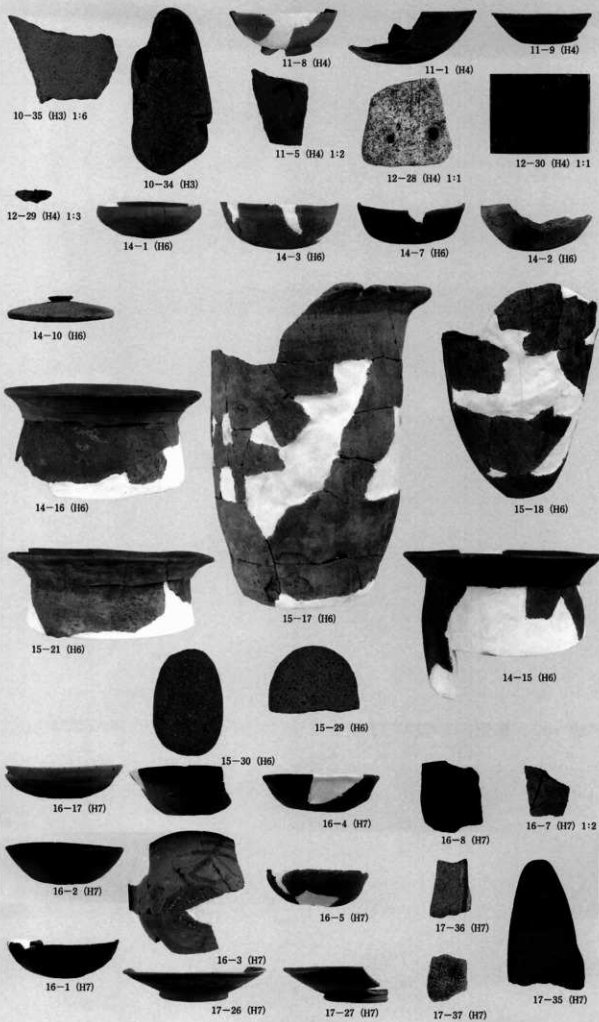
10-37 (H3) 1:3

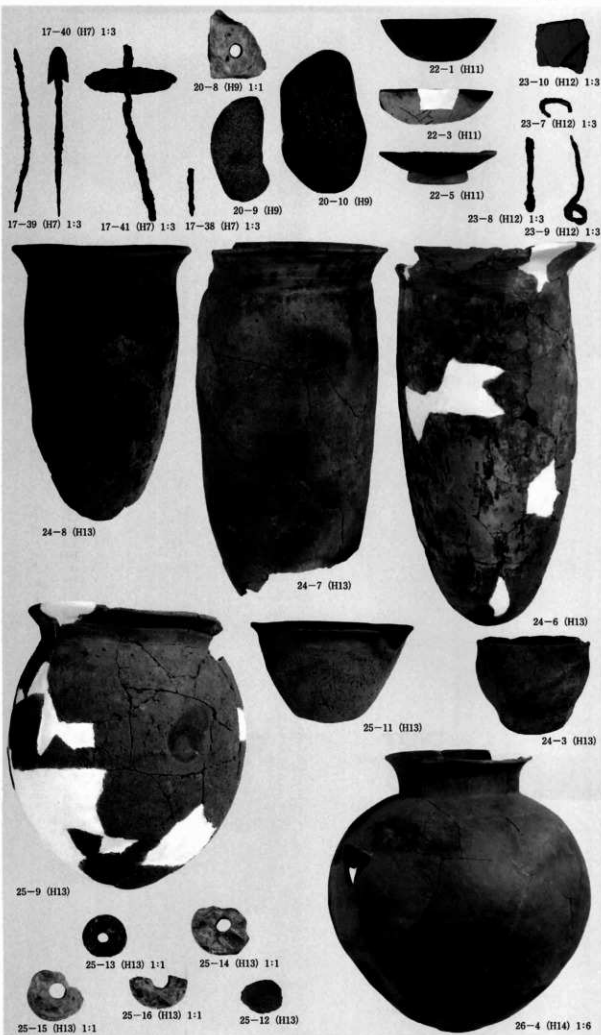


10-36 (H3) 1:3



10-33 (H3)







26-3 (H14)



26-1 (H14)



27-9 (H14)



27-10 (H14) 1:6



28-1 (H15) 1:1



29-1 (H16)



29-7 (H16)



30-12 (H17)



30-11 (H17)



30-13 (H17) 1:3



30-14 (H17) 1:3



32-8 (H18)



31-2 (H18)



32-15 (H18)



32-17 (H18)



32-14 (H18)



32-16 (H18)



31-3 (H18)



32-26 (H18) 1:6



32-25 (H18)



36-3 (H22)



34-1 (H20) 1:3



36-16 (H22) 1:3



36-17 (H22) 1:3



37-1 (H23)



41-7 (H25)



41-3 (H25)



41-6 (H25)



37-8 (H23)



41-4 (H25)



41-5 (H25)



41-9 (H25)



40-1 (H25)



41-10 (H25)



41-8 (H25) 1:1



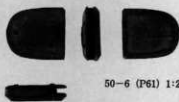
43-4 (H27) 1:3



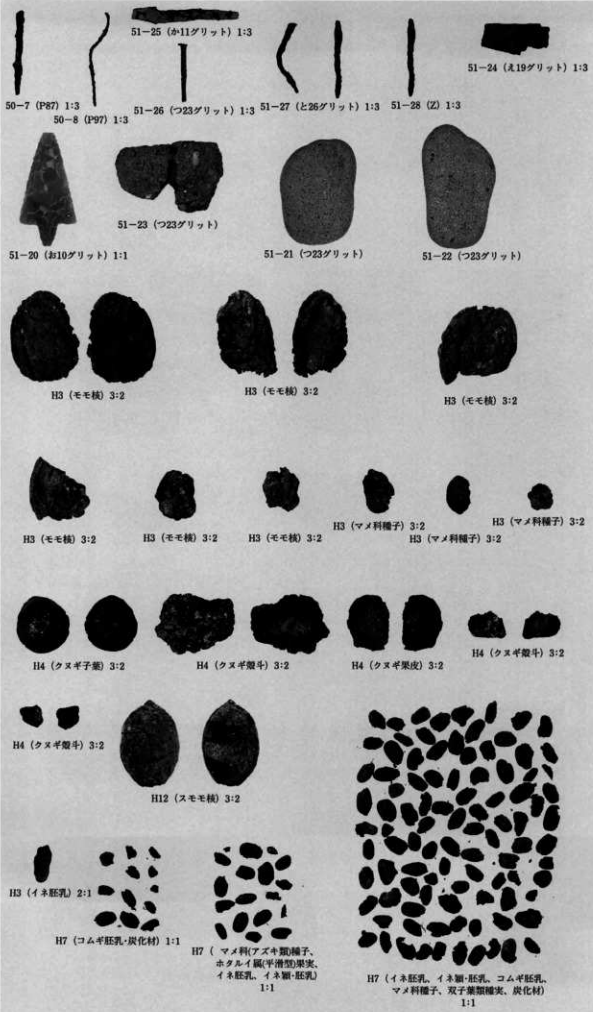
47-4 (M2)



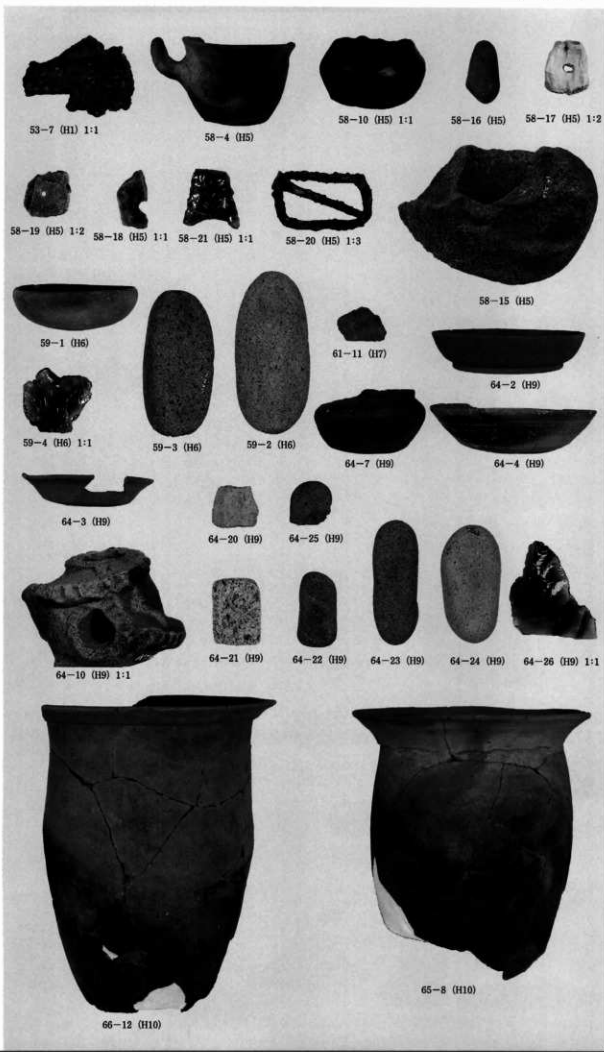
50-5 (P36)

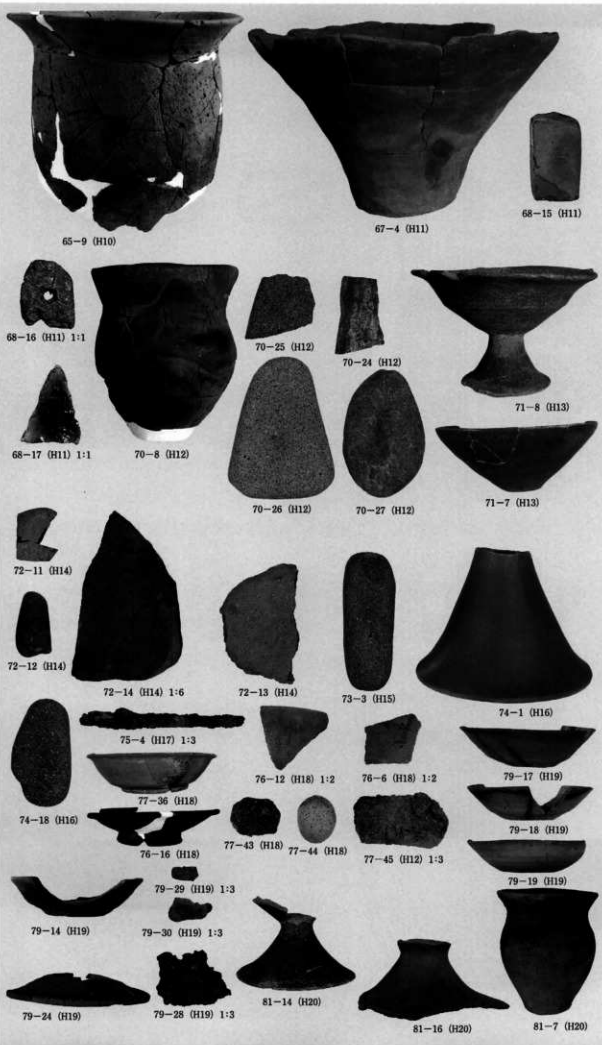


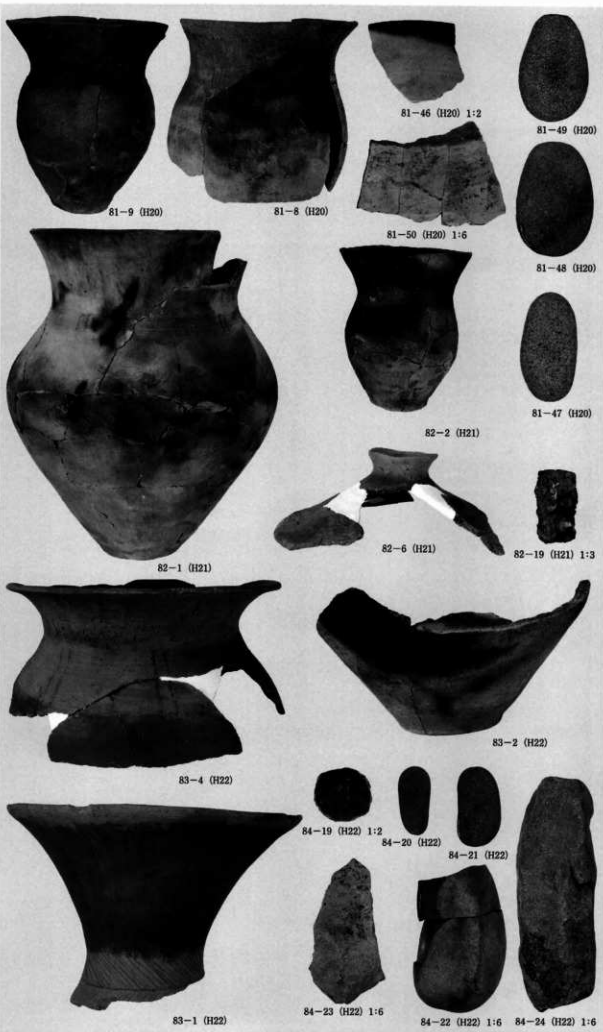
50-6 (P61) 1:2

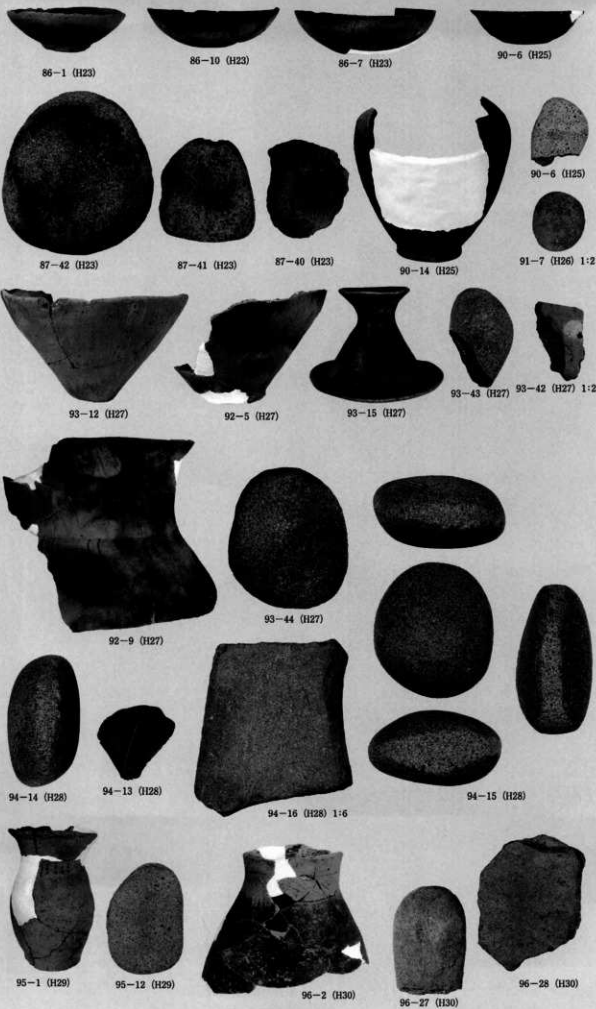


西近津IV出土遺物











97-1 (H31)



98-3 (H31)



98-6 (H31)



99-26 (H31)



100-1 (H32)



100-2 (H32)



100-4 (H32) 1:6



102-19 (H34)



102-1 (H34)



103-33 (H34) 1:2



103-34 (H34)



103-35 (H34)



103-36 (H34)



104-18 (H35) 1:1



104-23 (H35) 1:2



104-24 (H35) 1:2



104-22 (H35) 1:2



104-26 (H35) 1:2



104-25 (H35)



105-9 (H36)



105-8 (H36)



105-10 (H36)



106-6 (H37)



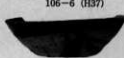
106-7 (H37)



106-1 (H37)



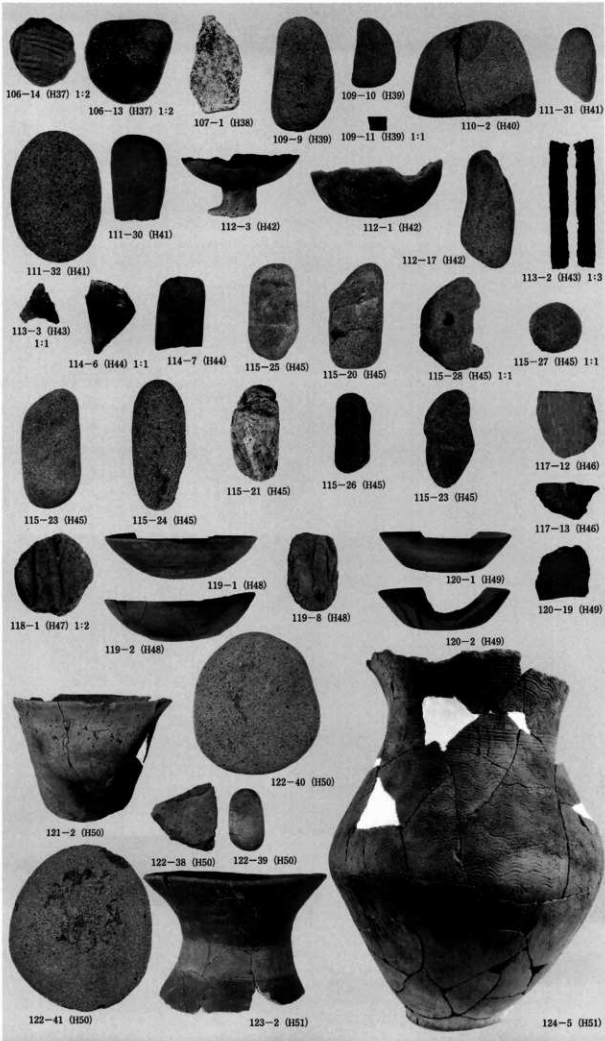
106-2 (H37)

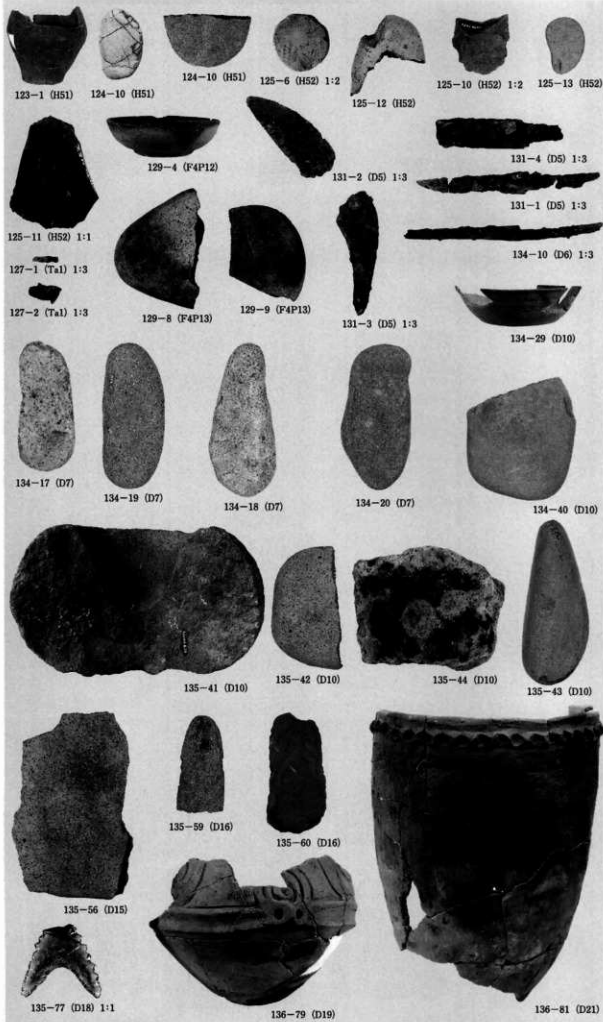


106-3 (H37)



106-5 (H37)







136-97 (D21)



136-98 (D21)



137-120 (D23)



136-119 (D23)



137-121 (D23)



137-122 (D23)



136-118 (D23)



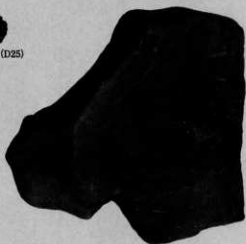
137-126 (D25)



137-133 (D25) 1:6



137-132 (D25)



138-153 (D26) 1:8



137-152 (D26)



138-154 (D26) 1:6



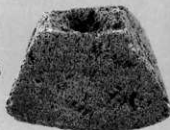
138-165 (D29)



139-177 (D36)



138-182 (D38) 1:8



139-185 (D38) 1:8



139-186 (D38) 1:8



139-190 (D38) 1:8



140-193 (D38) 1:8



139-188 (D38) 1:8



139-187 (D38) 1:8



138-181 (D38) 1:8



139-189 (D38) 1:8



140-192 (D38) 1:8



140-194 (D38) 1:8



139-191 (D38) 1:8



138-183 (D38) 1:6



138-184 (D38) 1:6



140-219 (D58)



141-234 (D58) 1:2



141-233 (D58) 1:1



141-232 (D58)



144-1 (M3)



145-17 (M4)



146-38 (M4)



146-32 (M4) 1:1



146-33 (M4)



146-35 (M4)



146-37 (M4)



146-36 (M4)



146-39 (M4)



146-34 (M4) 1:2



146-41 (M4)



146-43 (M4)



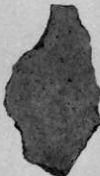
146-44 (M4)



146-40 (M4)



146-45 (M4)



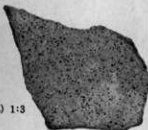
146-42 (M4)



146-46 (M4)



146-47 (M4) 1:3



147-7 (M5) 1:6



149-12 (M8)



151-3 (M10)



151-2 (M10)



152-40 (M11) 1:3



153-1 (M13) 1:1



153-11 (M13)



153-12 (M13)



153-10 (M13)



153-13 (M13)



153-14 (M13) 1:3



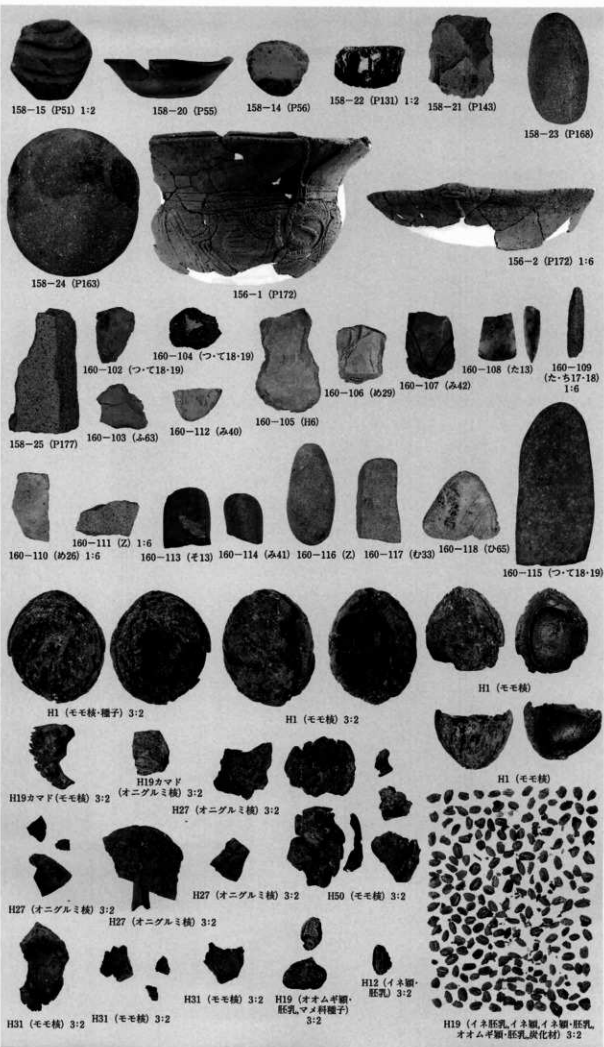
154-15 (M14)



155-11 (M15)



155-10 (M15)



158-15 (P51) 1:2

158-20 (P55)

158-14 (P56)

158-22 (P131) 1:2

158-21 (P143)

158-23 (P168)

158-24 (P163)

156-1 (P172)

156-2 (P172) 1:6

160-102 (つて18-19)

160-104 (つて18-19)

160-106 (め29)

160-107 (み42)

160-108 (み13)

160-109 (み517-18) 1:6

158-25 (P177)

160-103 (み63)

160-112 (み40)

160-105 (H6)

160-110 (め26) 1:6

160-111 (Z) 1:6

160-113 (モ13)

160-114 (み41)

160-116 (Z)

160-117 (む33)

160-118 (み65)

160-115 (つて18-19)

H1 (モモ核・種子) 3:2

H1 (モモ核) 3:2

H1 (モモ核)

H19カマド(モモ核) 3:2

H19カマド (オニグルミ核) 3:2

H27 (オニグルミ核) 3:2

H1 (モモ核)

H27 (オニグルミ核) 3:2

H27 (オニグルミ核) 3:2

H50 (モモ核) 3:2

H27 (オニグルミ核) 3:2

H31 (モモ核) 3:2

H31 (モモ核) 3:2

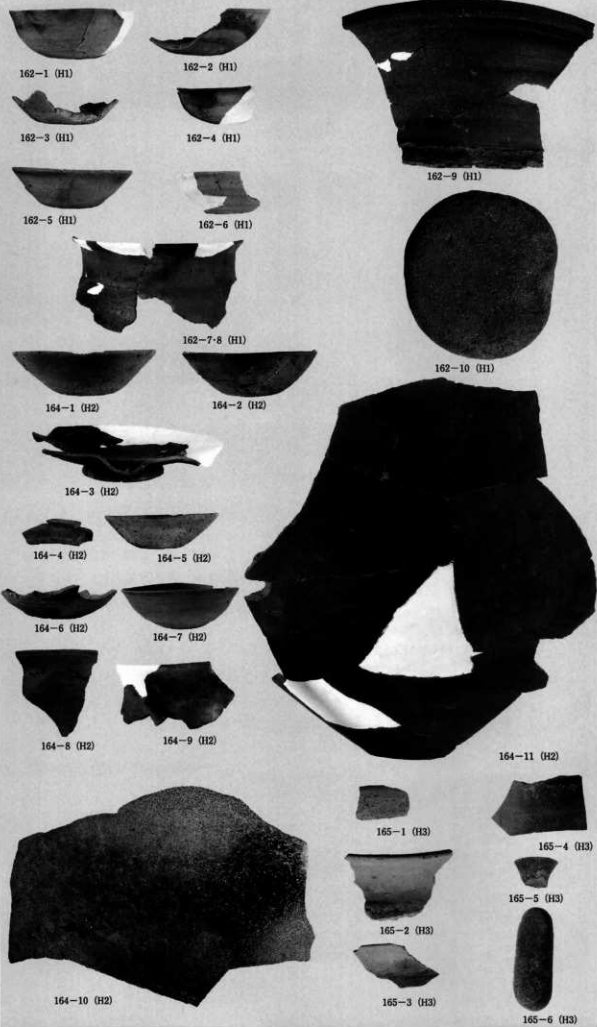
H31 (モモ核) 3:2

H19 (オオム平頭・胚乳・マメ科種子) 3:2

H12 (イネ類・胚乳) 3:2

H19 (イネ胚乳・イネ類・イネ類・胚乳・オオム平頭・胚乳・炭化材) 3:2

西近津V出土遺物





166-1 (H4)



166-2 (H4)



166-6 (H4)



166-3 (H4)



166-7 (H4)



166-8 (H4)



166-9 (H4)



166-4 (H4)



166-11 (H4)



166-5 (H4)



166-10 (H4)



167-1 (H5)



167-2 (H5)



167-3 (H5)



168-7 (H6)



168-1 (H6)



168-3 (H6)



168-6 (H6)



168-2 (H6)



168-4 (H6)



168-5 (H6)



168-8 (H6) 1:3



169-1 (H7)



169-3 (H7)



170-1 (H8)



170-3 (H8)



169-2 (H7)



169-4 (H7)



170-2 (H8)



170-6 (H8)



170-4 (H8)



170-5 (H8)



170-7 (H8)



171-1 (H9)



171-2 (H9)



171-5 (H9)



171-6 (H9) 1:3



171-3 (H9)



171-4 (H9)



171-7 (H9) 1:3



170-8 (H8)



172-1 (H10)



172-2 (H10)



173-1 (H11)



173-2 (H11)



174-4 (H12)



172-3 (H10)



174-1 (H12)



174-2 (H12)



174-3 (H12)



174-6 (H12)

174-7 (H12)



175-1 (H13)



175-2 (H13)



175-3 (H13) 1:2



177-1 (H15)



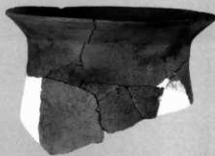
177-2 (H15)



177-5 (H15)



177-3 (H15)



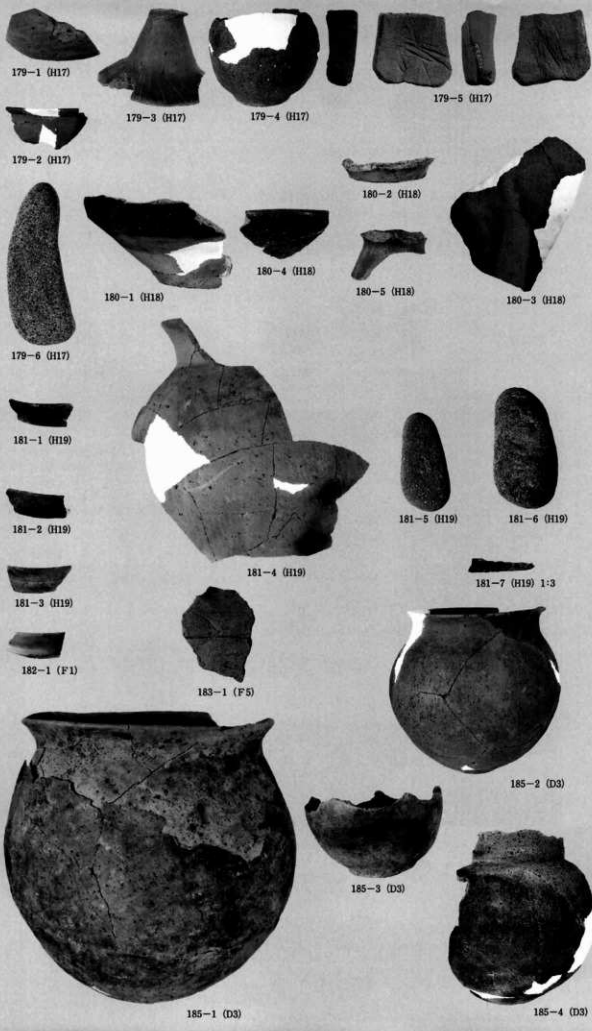
177-4 (H15)



177-6 (H15)



177-7 (H15) 1:3





184-1 (D6) 1:3



186-1 (M1)



187-1 (OT1)



187-3 (OT1)



184-1 (D7)



186-1 (M5) 1:1



187-2 (OT1)



187-4 (OT1)



188-1 (P38)



188-1 (P45)



188-1 (遺構外)



188-2 (遺構外)



188-3 (遺構外)



188-4 (遺構外)



188-5 (遺構外)



188-6 (遺構外)



188-8 (遺構外)



188-11 (遺構外)



188-10 (遺構外)



188-12 (遺構外)



188-14 (遺構外)



188-15 (遺構外)



188-9 (遺構外)



188-13 (遺構外)



188-7 (遺構外)



188-16 (一筋)



188-17 (遺構外)



188-18 (遺構外) 1:2

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきさんよんご		
書 名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ		
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集		
編著者名	林 幸彦		
編集機関	佐久市教育委員会		
発行機関	佐久市教育委員会		
発行年月日	20140331		
郵便番号	385-0006		
住 所	長野県佐久市志賀5953		
所在地	〒385-0006 長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323		
ふりがな 遺 跡 名	にしちかついせきぐん にしちかついせきさん 西近津遺跡群西近津遺跡Ⅲ	にしちかついせきぐん にしちかついせきよん 西近津遺跡群西近津遺跡Ⅳ	にしちかついせきぐん にしちかついせきご 西近津遺跡群西近津遺跡Ⅴ
ふりがな 遺跡所在地	ながのけんさくしながとろ 長野県佐久市長土呂		
遺跡番号	29		
北 緯	36°16'51"	36°17'04"	36°17'08"
東 経	138°27'40"	138°27'23"	138°27'30"
発掘期間	20060612～20060920	20071011～20081219	20071112～20080108
発掘面積㎡	680	1,510	580
発掘原因	市道S1-94号線改良工事	市道S1-101号線舗装工事	市道S-103号線改良工事
種 別	集 落 跡	集 落 跡	集 落 跡
主な時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代中期-後期、奈良時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居址27、土坑13、溝状遺構2、ピット113	竪穴住居址52、竪穴状遺構1、竪穴柱建物址5、土坑46、溝状遺構15、ピット187	竪穴住居址19、土坑10、溝状遺構7、古墳址1、ピット88
主な遺物	弥生土器(後期)、土師器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、鉄製品、獣骨、炭化種実	縄文土器(中期-後期)、弥生土器(後期)、土師器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鉄製品、人骨、獣骨、炭化種実	縄文土器(草創期-後期)、弥生土器(後期)、土師器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鉄製品、獣骨、炭化種実
特記事項	ウマの埋葬土坑が検出された。	縄文時代後期の土坑群、弥生時代後期の溝、平安時代の大型掘立柱建物址、16世紀の五輪塔が壁面に積まれた土坑が検出された。	古墳時代前期の古墳周溝が検出された。
要 約	西近津遺跡群の東域を南北に縦断する「中部横断自動車道路」の調査で検出された弥生時代後期-古墳時代後期-奈良-平安時代の大規模な集落が、今回の3次にわたる調査地点まで東西におよんでいることが確認された		

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

2014年3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

長野県佐久市中込3056

文化財課

長野県佐久市志賀5953

電話 0267-68-7321

FAX 0267-68-7323

印刷所 株式会社 佐久印刷所

